

Oracle® Fusion Cloud EPM Planning モジュールの管理



F28965-21



Oracle Fusion Cloud EPM Planning モジュールの管理、

F28965-21

Copyright © 2016, 2024, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

For information about Oracle's commitment to accessibility, visit the Oracle Accessibility Program website at <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

2 ようこそ

概要	2-1
財務について	2-2
要員について	2-3
プロジェクトについて	2-4
資本について	2-4
戦略モデリングについて	2-5
さらに学ぶ	2-6

3 アプリケーションの設定

スタート・チェックリスト	3-1
アプリケーションの作成	3-3
カレンダーについて	3-6
標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションの Enterprise アプリケーション への変換	3-11
変換の考慮事項	3-12
統合のシナリオおよびワークフロー	3-13
ユーザー変数の設定	3-17
13 期間カレンダーについて	3-18

4 Planning モジュールの理解

ナビゲート	4-1
変更済アーティファクトの確認	4-2
事前定義済アーティファクトの説明の取得	4-3

5 財務の構成

財務の機能の有効化	5-1
財務の勘定体系について	5-3
「収益」と「総マージン」の有効化	5-4
費用の有効化	5-4
損益計算書の有効化	5-4
貸借対照表の有効化	5-5
キャッシュ・フローの有効化	5-5
ローリング予測の有効化	5-5
週次プランニングの有効化	5-6
53 週プランニングの有効化	5-8
「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化	5-9
カスタム・ディメンションと財務機能の関連付け	5-9
内部集約ルールについて	5-10
「勘定科目」およびプラン要素ディメンションについて	5-10
財務の構成	5-11
財務プランニングと予測の準備	5-12
週次構成	5-15
グローバル仮定の設定: 為替レート	5-16
為替レートおよび週次プランニングについて	5-16
アカウントとドライバの追加および変更について	5-16
勘定科目とドライバの追加および管理	5-17
KPI の追加	5-18
プロジェクトと統合するための勘定科目の追加	5-18
カスタム費用ドライバ・カテゴリの追加	5-18
予算改訂および予算管理との統合の設定	5-19
予算改訂および予算管理との統合について	5-19
統合の考慮事項	5-20
統合のワークフロー	5-21
EPM Planning 財務と予算管理の統合の設定	5-22
予算管理での既存の EPM Planning アプリケーションの使用	5-25
「予算の改訂」の有効化	5-26

EPM Planning 財務で「予算の改訂」を有効化した場合に起こる内容	5-27
予算改訂の記述的情報の構成	5-28
財務のディメンション・メンバーのインポート	5-29
予算改訂のカスタム・スマート・リスト・エントリの作成	5-29
接続の設定	5-29
財務の予算改訂のルール	5-30
構成後のタスク	5-32
ドライバ・ベースの貸借対照表の期間中の日数の指定	5-32
別のレポート方法の勘定科目符号の変更	5-32
財務のルール	5-32

6 要員の構成

要員の機能の有効化	6-1
取得する要員詳細レベルの指定	6-5
費用プランニングの有効化	6-7
フレキシブル勘定科目マッピングの有効化	6-9
要員管理の有効化	6-10
「ディメンションのマッピング/名前変更」の有効化	6-11
レポート・キューブへのカスタム・ディメンションの追加	6-11
要員の構成	6-12
要員プランニングと予測の準備	6-17
アカウントとドライバの追加および変更について	6-18
勘定科目とドライバの追加および管理	6-19
グローバル仮定の設定: 為替レート	6-20
「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成	6-21
福利厚生と税金ウィザードを使用する前に	6-21
福利厚生と税金ウィザードについて	6-21
コンポーネントの共通プロパティ	6-22
ウィザードでのコンポーネントのタイプ	6-23
一括支払いオプションについて	6-23
「値のタイプ」について	6-24
「最大値タイプ」について	6-24
「所得タイプ」について	6-26
「課税対象コンポーネント」について	6-26
レートの入力について	6-26
レートおよびしきい値の範囲について	6-27
階層別のレートの適用	6-27
13 期間カレンダーの計算	6-28

コンポーネントでのカスタム計算ロジックの作成	6-29
ウィザードを使用して構成した後で	6-33
例 - 付加給付の追加	6-33
構成後のタスク	6-36
仮定の設定	6-37
デフォルトの設定	6-38
従業員マスター・データの入力	6-40
要員と財務の統合のマッピングのカスタマイズ	6-41
デフォルトの同期	6-43
カスタム要員テンプレートを使用した要員カスタマイズのサポート	6-44
更新後のタスク	6-45
要員のルール	6-48
報酬計算のチェックリスト	6-50
要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項	6-52

7 プロジェクトの構成

プロジェクトの機能の有効化	7-1
プロジェクト・タイプの有効化	7-4
プロジェクト収益の有効化	7-4
プロジェクト・ベネフィットの有効化	7-5
プロジェクト費用の有効化	7-5
ローリング予測の有効化	7-6
「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化	7-7
プロジェクトの構成	7-7
プロジェクト・プランニングと予測の準備	7-10
アカウントとドライバの追加および変更について	7-12
勘定科目とドライバの追加および管理	7-12
グローバル仮定の設定: 為替レート	7-13
グローバル・プロジェクト・レートの入力	7-14
EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合	7-14
EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合について	7-15
実装シナリオ	7-15
統合の考慮事項	7-16
統合のワークフロー	7-17
EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合の設定(1 回かぎりの設定)	7-18
「プロジェクト管理クラウド統合」の有効化	7-21
「プロジェクト管理クラウド統合」を有効化した場合に起こる内容	7-21

EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合用のカスタム・スマート・リスト・エントリの作成	7-22
レポート・キューブへの接続の設定	7-22
ジョブを使用した EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の間のデータのインポートおよびエクスポート	7-23
プロジェクトと予算のエクスポート(進行中のタスク)	7-24
プロジェクト実績のインポート(進行中のタスク)	7-25
既存の実装の移行(1 回かぎりの設定)	7-26
プロジェクト管理への既存の EPM Planning プロジェクト実装の移行(1 回かぎりの設定)	7-26
EPM Planning プロジェクトへの既存のプロジェクト管理実装の移行(1 回かぎりの設定)	7-28
プロジェクト管理との統合のための EPM Planning プロジェクト・ルール	7-31
構成後のタスク	7-34
プロジェクトとプログラムのマッピング	7-34
プロジェクトのルール	7-34

8 資本の構成

資本の機能の有効化	8-1
「新規設備投資」の有効化	8-2
「既存資産の管理」の有効化	8-5
「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化	8-5
資本の構成	8-5
資本プランニングと予測の準備	8-8
アカウントとドライバの追加および変更について	8-9
勘定科目とドライバの追加および管理	8-10
グローバル仮定の設定: 為替レート	8-11
構成後のタスク	8-11
資本のルール	8-12
カスタム減価償却または償却方法の作成	8-14

9 後続の管理タスク

データ・マップを使用するデータのプッシュ	9-1
Groovy ビジネス・ルールについて	9-2
要員の Groovy ルール	9-3
ビジネス・プロセスを統合するためのデータのプッシュ	9-4
要員でのレポート用のデータのマッピング	9-6
仮定の入力	9-7

アプリケーションのメンテナンス	9-7
ディメンションの順序の最適化のベスト・プラクティス	9-7
別名表の管理	9-8
Planning モジュールの更新	9-9
事前定義済アーティファクトのカスタマイズ	9-9
変更済アーティファクトの確認	9-10
カスタマイズを元に戻す	9-11
事前定義済アーティファクトのヘルプのカスタマイズ	9-11
ナビゲーション・フローのカスタマイズ	9-12

A ビジネス・シナリオ

財務を使用したヘルスケア・プランニング	A-1
EPM Cloud による IT 財務管理	A-5
IT プランニングのための Planning モジュールの構成	A-12

B データのインポート

データのインポートについて	B-2
財務データのインポート	B-2
要員データのインポート	B-4
増分の要員データのロードおよび計算	B-7
ソース・データ・ファイルの準備	B-8
データ管理での増分ファイル・アダプタの構成	B-9
追加する要員ルールの決定	B-14
増分の要員データ・ロードの実行	B-14
プロジェクト・データのインポート	B-15
資本データのインポート	B-35

C アーティファクトの更新

すべての Planning モジュールのアーティファクトの更新	C-1
財務アーティファクトの更新	C-7
プロジェクト・アーティファクトの更新	C-9
要員アーティファクトの更新	C-10
資本アーティファクトの更新	C-44

D Planning モジュールのベスト・プラクティス

E EPM Cloud に関するよくある質問(FAQ)

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- **EPM** 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに **EPM** を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が **EPM CoE** からメリットを得られます。

使用を開始する方法

クリックして、**EPM CoE** のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: **EPM センター・オブ・エクセレンスの概要**。

さらに学習

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- **EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行**の **EPM CoE** のビジネス上のメリットおよび価値提案の確認。



2

ようこそ

次も参照:

- [概要](#)
- [さらに学ぶ](#)

概要

Planning は、財務、要員、資本、プロジェクトおよび戦略モデリング用に、5 つの完全にそろったプランニングおよび予算作成ソリューションを提供します。これには、フォーム、計算、ダッシュボード、ドライバ、キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)などの組み込みのベスト・プラクティスの事前定義されたコンテンツが含まれます。必要な機能のみを有効にしてすぐに実行し、後から、追加の機能を有効にしてアプリケーションを拡張することができます。統合して必要な詳細レベルでプランニングできます。構成可能なヘルプによってフォームとメンバーのデフォルトの説明が提供されますが、これらはビジネス・ニーズに応じてカスタマイズできます。

- 財務— ドライバ・ベースまたはトレンド・ベースの損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー・プランニングを使用して、すべてのビジネス・レベルで財務の管理および分析機能を強化します。あるいは、単純に収益と費用のプランニングを行います。ベスト・プラクティス、即時利用可能なキー・パフォーマンス・インジケータ、ドライバおよび勘定科目を備えた財務により、プランニング・プロセスが短縮されます。[財務について](#)を参照してください。
- プロジェクト— プロジェクト・プランニング・システムと財務プランニング・プロセスを結び付けます。組織的なプロジェクトやイニシアチブが企業のリソース全体に及ぼす影響を調査して、短期的および長期的な財務目標と一致することを確認します。[プロジェクトについて](#)を参照してください。
- 要員— 財務プランと要員プランを結び付ける人数および報酬のプランニング。将来の人数と関連する人事費用(給与、福利厚生、税金など)の予算を作成します。[要員について](#)を参照してください。
- 資本— 財務プランに対する資本資産の長期的影響に関するプランニング。資本費用の管理、優先付けおよびプランを行います。[資本について](#)を参照してください。
- 戦略モデリング— 長期的な戦略プランニングのために、豊富な財務予測およびモデリング機能と、ビルトインされたオンザフライのシナリオ分析およびモデリング機能を組み合わせたソリューションです。[戦略モデリングについて](#)を参照してください。



機能を有効化すると、次のような事前定義済アーティファクトが作成されます。

- ディメンション(勘定科目を含む)
- フォーム
- ルール(計算)
- メンバーの式
- ダッシュボード

フォームは、データ、プランおよび予測を動的に反映するダッシュボードやレポートと統合しています。

オラクル社は、提供するコンテンツのエクスポートおよびインポートを将来的に制限する権利を有しています。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
Oracle Enterprise Performance Management Cloud でのプランニングの使用について学習します。	 概要: EPM Standard Cloud の Planning のツアー
アプリケーションの有効化、構成および保守を行う方法について学習します。	 概要: Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud の管理

財務について

財務のツールを使用すると、プランや予測を迅速に作成でき、内部で分析するために、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書、損益計算書などの主要な財務諸表を生成できます。財務では、ビジネス・ニーズを着実に満たすことができる次のコンポーネントが用意されています:

- 収益/総マージン
- 費用
- 貸借対照表
- キャッシュ・フロー
- 損益計算書
- 分析

財務は、資本、要員およびプロジェクトと統合されるため、プランナは、様々なタイプのデータを含む、非常にきめ細かいプラン、予測、財務レポートを作成できます。

財務についてさらに学習するには、このビデオをご覧ください。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
財務について学習します。	 財務プランニングへようこそ

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的

財務でドライバ・ベースのデータを使用して計画する方法について学習します。組織の主要な要因または基準に焦点を当て、パフォーマンスを高めるための影響を及ぼす、ビジネス・プランおよびモデルを作成する方法について確認します。

財務でトレンド・ベースのプランニングを実行する方法について学習します。トレンド・ベースの仮定を入力し、トレンドに基づいてプランニングおよび予測する方法について確認します。

デフォルトの KPI (キー・パフォーマンス・インジケータ) を使用するか、独自の KPI を追加して、財務で KPI を利用する方法について学習します。

KPI を使用すると、客観的で定量化可能なデータ、またはパフォーマンスまたは戦略目標の進行状況を示すデータを収集できます。KPI を使用して、組織の主要な領域の健全性を反映します。

実績を計算して、プランおよび予測を準備する方法について学習します。財務を有効化したら、プランニングおよび予測サイクルの開始点を構成および設定します。デフォルトの計算を利用して、実績データ、プラン・データおよび予測データを集約して準備する方法について確認します。

方法の学習



財務のドライバ・ベースのプランニング



財務のトレンド・ベースのプランニング



財務での KPI の利用



財務での実績の計算およびプランと予測の準備

要員について

要員を使用すると、プランナが企業のクリティカルなリソース(人材と資金)を、競争優位性を最もよく引き出す戦略に合わせるすることができます。各部門が要員を使用して、人数および関連する費用(給与、医療費、ボーナス、税金など)のプランニングを共同で行います。プランナは、費用とトレンドを示す最新のグラフィックを見ることができます。

有効化した機能によって異なりますが、プランナは次のようにして、人数に関連する費用を管理および追跡できます:

- 人数、給与、ボーナス、税金および医療費の費用を分析、計算および報告します
- 採用、異動、昇進、雇用終了などをプランニングします
- 国に適した税金と福利厚生を定義します

要員はスタンドアロンで有効化するか、または財務とプロジェクトに統合できます。[統合のシナリオおよびワークフロー](#)を参照してください。

データ統合を使用してデータをロードし、Oracle Human Capital Management Cloud のデータを調整およびプルすることもできます。データ統合は、Oracle HCM Cloud モデルの事前定義済マッピングを要員のターゲット・ディメンションに適用できる、即時利用可能なソリューションを提供します。(Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の Oracle HCM Cloud メタデータの統合を参照してください。)また、ビジネス・ニーズに合わせて別のマッピングを適用するなど、この統合をカスタマイズおよび拡張できます。

要員では、要員プランニング・ニーズを着実に満たすことができる次のコンポーネントが用意されています:

- 報酬プランニング
- その他費用

- デモグラフィクス
- 分析

ビデオ

目的	視聴するビデオ
要員について学習します。	 概要: 要員へようこそ

プロジェクトについて

プロジェクトを使用して、企業のイニシアチブに関連する資産やリソースの配賦方法を評価し、推定される投資利益率を分析します。プロジェクトは、企業財務プランニング・プロセスとプロジェクト財務プランニング・プロセスの間に意思決定プロセスを統一します。プロジェクトの承認プロセスは財務のプランおよび予測の承認と結び付いているため、プロジェクトを使用して、プロジェクトのスポンサ、主要な出資者および財務の意思決定者間での合意を得ることができます。これにより、プロジェクト・プランおよび財務プランが、財務目標および企業の長期財務プランと一致するように調整されます。

プロジェクトでは次のタイプのプロジェクトがサポートされます:

- 間接プロジェクトまたは内部プロジェクト - 企業内部で実行されるプロジェクト (IT、RD、マーケティング・プロジェクトなど)。
- 契約プロジェクト—収益が生成するプロジェクト。契約プロジェクトによって金銭を得るエンジニアリング企業などで使用されます。
- 資本プロジェクト—資本投資を管理するプロジェクト(資本資産に投資する会社用)。たとえば、新しい施設を建設する会社は、コスト、労務、設備などを管理して、資産計上を管理できます。

プロジェクトでは、プロジェクト・プランニング・ニーズを着実に満たすことができる次のコンポーネントが用意されています:

- プロジェクト・サマリー
- 費用
- 収益
- 分析

ビデオ

目的	視聴するビデオ
プロジェクトについて学習します。	 概要: プロジェクトへようこそ

資本について

資本を使用して、資本費用の管理、優先付けおよびプランを行います。資本は、リクエスト、理由、レビューおよび承認のプロセスすべてで、意思決定担当者と最前線の

マネージャがコミュニケーションを取るために役立ちます。資本では次のようなタスクを実行できます:

- ドライバ・ベースの計算を行い、利益の変化および追加における影響、キャッシュ・フローおよび資金調達を評価します。
- 資本費用プランのリクエストおよび承認を行います
- 指定された譲渡、減損、除・売却および再取得による、財務諸表への影響を予測します

資本では、資本プランニング・ニーズを着実に満たすことができる次のコンポーネントが用意されています:

- 投資
- 既存資産
- 無形資産
- 分析

ビデオ

目的	視聴するビデオ
資本について学習します。	 概要: Oracle Enterprise Planning Cloud の資本

戦略モデリングについて


戦略モデリングは、豊富な財務予測およびモデリング機能と、ビルトインされたオンザフライのシナリオ分析およびモデリング機能を組み合わせたソリューションです。これは、ユーザーが財務シナリオを迅速にモデル化し評価するのに役立ち、洗練された債務と資本構成管理のための財務機能を標準装備しています。目標値の設定、迅速な財務影響分析の実行、情報に基づく意思決定のための集中的な財務情報の提示に使用できる強力なソリューションを提供します。

戦略モデリングは、次の機能を提供します。

- 迅速に使用し実行できる組込み階層勘定体系。
- シナリオ・ロールアップ
- 予測モデリング
- ターゲット設定
- What-If 分析
- 財務、資本、プロジェクトおよび要員との統合。ジョブ・コンソールからシナリオ・ロールアップのステータスを確認する機能、およびナビゲーション・フローをカスタマイズする機能が含まれます。

戦略モデリング機能は、次に提供されています a) Oracle Planning and Budgeting Cloud Service の Oracle Financial Statement Planning オプションのライセンスされたユーザーまたは b) Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud Service の一部として提供されている Oracle Financial Statement Planning。



ビデオ

目的	視聴するビデオ
戦略モデリングについて学習します。	 概要: Planning の戦略モデリングおよび長期予測

さらに学ぶ

詳細情報やヘルプを入手するには:



- ホームページの「[アカデミ](#)」 をクリックして、ベスト・プラクティスを確認し、チュートリアルや概要のビデオを視聴します。
- 「有効化」および「構成」で「[ヘルプ](#)」 をクリックして、コンテキスト依存ヘルプにアクセスします。
- ヘルプを表示するには、画面右上隅のユーザー・アイコンの横の矢印を使用して、「[ヘルプ](#)」をクリックします。
- Help Center ([ヘルプ・センター](#))にある次の関連マニュアルを使用します:

スタート・ガイド

- [管理者向けのスタート・ガイド](#)
- [ユーザー向けのスタート・ガイド](#)
- [Oracle Smart View for Office \(Mac and Browser\)のデプロイと管理](#)
- [EPM センター・オブ・エクセレンスの設置と運営](#)
- [Oracle Cloud Enterprise Performance Management デジタル・アシスタント・スタート・ガイド](#)
- [Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド](#)

設計

- [Calculation Manager での設計](#)(Groovy ルールの設計に関連する情報)
- [Oracle Enterprise Performance Management Cloud Financial Reporting Studio での設計](#)
- [Oracle Enterprise Performance Management Cloud レポートでの設計](#)

ユーザー

- [Planning モジュールの操作](#)
- [Planning の操作](#)
- [Smart View の操作](#)
- [Oracle Smart View for Office \(Mac and Browser\)の使用](#)

- [Smart View](#) での予測プランニングの操作
- [Oracle Enterprise Performance Management Cloud Financial Reporting](#) の操作
- [Oracle Enterprise Performance Management Cloud](#) レポートの操作
- [アクセシビリティ・ガイド](#)

管理

- [Planning](#) の管理
- [データ統合の管理](#)
- [データ管理の管理](#)
- [アクセス制御の管理](#)
- [移行の管理](#)
- [EPM 自動化の操作](#)
- [サードパーティの承認](#)

開発

- [Enterprise Performance Management Cloud Groovy](#) ルール [Java API](#) リファレンス
- [REST API](#)
- [Smart View for Office](#) 開発者ガイド

3

アプリケーションの設定

次も参照:

- [スタート・チェックリスト](#)
このチェックリストのタスクを実行して、資本、財務、プロジェクトおよび要員を設定します。
- [アプリケーションの作成](#)
次のステップに従ってアプリケーションを作成します。
- [標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションの Enterprise アプリケーションへの変換](#)
このトピックではアプリケーションの変換について学習します。
- [統合のシナリオおよびワークフロー](#)
Planning では、データ・マップおよびスマート・プッシュを使用して、財務、要員、資本、プロジェクトおよび戦略モデリングとの即時利用可能な統合を提供します。この項では、統合シナリオと統合のプロセス全体を説明します。
- [ユーザー変数の設定](#)
- [13 期間カレンダーについて](#)
12 か月のかわりに 13 期間を使用するアプリケーションのカレンダーの設定について学習します。

スタート・チェックリスト

このチェックリストのタスクを実行して、資本、財務、プロジェクトおよび要員を設定します。

戦略モデリングを設定するには、*Planning* の管理の戦略モデリングの開始チェックリストを参照してください。

1. アプリケーションを作成します。[アプリケーションの作成](#)を参照してください。
2. アプリケーションが複数通貨の場合は、ディメンション・エディタを使用して各通貨のディメンション・メンバーを追加します。*Planning* の管理を参照してください。
3. 統合でサポートされているシナリオを確認し、有効化するオプションや必要なシーケンスを決定します。[統合のシナリオおよびワークフロー](#)を参照してください。
4. 機能を有効化します。

各モジュールに最大 3 個のカスタム・ディメンションを追加できます。

参照:

- [資本の機能の有効化](#)
- [財務の機能の有効化](#)
- [プロジェクトの機能の有効化](#)
- [要員の機能の有効化](#)

機能を有効化している間は、アプリケーションはメンテナンス・モードとなり、管理者しかアプリケーションを使用できません。メタデータの変更が検出された場合、データベースがリフレッシュされてから機能は有効になります。検証エラーが検出された場合、それらが表示されます。機能を有効にするには、このエラーを解決する必要があります。



5. 必要なルールを構成および実行します。参照:

- [資本の構成](#)
- [財務の構成](#)
- [プロジェクトの構成](#)
- [要員の構成](#)

 **ノート:**

エンティティはすべてのモジュールに 共通のため、すべてのエンティティ・メンバーを同時にインポートできます。

6. 構成の後では、構成の変更やメタデータのインポートを行うときに必ずデータベース

スをリフレッシュします。「アプリケーション」、「構成」の順にクリックして、「アクション」メニューから「データベースのリフレッシュ」、「作成」、「データベースのリフレッシュ」の順に選択します。

7. 必要なユーザー変数を設定します。[ユーザー変数の設定](#)を参照してください。
8. データをインポートします。[データのインポート](#)を参照してください。
9. 必要なユーザーおよびグループ・アカウントを作成し、権限を付与します。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*を参照してください。
10. ルールおよび Groovy テンプレートのセキュリティを設定します。

- a. 「ホーム」 ページで、「ルール」、「フィルタ」の順にクリックし、キューブおよびアーティファクト・タイプを選択します。
- b. ルールまたはテンプレートの横の「権限」をクリックし、「権限の割当」をクリックします。
- c. 「権限の割当」で、「権限」をクリックし、権限を割り当てます。詳細は、ルール・セキュリティの管理を参照してください。

たとえば、プロジェクトおよび要員について、Groovy テンプレートのセキュリティを設定します。Groovy テンプレートは、その他のテンプレートとともに、プロジェクトの「プロジェクトの追加」と「プロジェクトの削除」、および要員の「要請の追加」と「要請の変更」で使用されます。要員で使用される Groovy テンプレートのリストは、[要員のルール](#)を参照してください。

Groovy ルールの操作の詳細は、Groovy ルールの使用を参照してください。

11. レポートを設計して操作します。参照:

- [Oracle Enterprise Performance Management Cloud Financial Reporting Studio](#) での設計
 - [Oracle Enterprise Performance Management Cloud レポートでの設計](#)
12. プランナがアプリケーションを使用できるようにします。ホームページで「**アプリケーション**

 をクリックし、「**設定**」 をクリックします。「**システム設定**」で、「**アプリケーションを使用可能にする対象**」を「**すべてのユーザー**」に変更します。

13. 承認プロセスを定義するには、組織でプランを承認するための承認ユニットと移動パスを定義します。承認の管理を参照してください。
14. 必要に応じて、統合に必要なデータ・マッピングを実行します。[ビジネス・プロセスを統合するためのデータのプッシュ](#)を参照してください。

必要に応じて、後続のタスクを実行します。[後続の管理タスク](#)を参照してください。

ビデオ

目的

アプリケーションの有効化、構成および保守を行う方法について学習します。

視聴するビデオ



概要: [Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud](#) の管理

アプリケーションの作成

次のステップに従ってアプリケーションを作成します。

1. EPM Cloud を 2019 年 6 月 4 日より前に購入した場合、ログインして「**財務**」で「**開始**」をクリックし、「**Planning and Budgeting**」をクリックして「**Enterprise**」を選択します。

2019 年 6 月 4 日より後に EPM Standard Cloud Service または EPM Enterprise Cloud Service を購入した場合、ログインして「**Planning**」の下の「**選択**」をクリックし、「**開始**」をクリックして Planning ビジネス・プロセスを作成します。詳細は、[Planning の管理の EPM Cloud Service アプリケーションの作成](#)を参照してください。
2. アプリケーション名および説明を入力し、「**アプリケーション・タイプ**」の「**モジュール**」を選択し、「**次**」をクリックします。
3. この情報を指定します(月次プランニングしかサポートされないことに注意します)。
 - **期間**—12 か月または 13 期間のいずれのプランニング用カレンダーを設定するのかわを選択します。13 期間でのプランニングの詳細は、[13 期間カレンダーについて](#)を参照してください。
 - **開始年と終了年**—アプリケーションに含める年。プランニングと分析に必要な履歴実績を含む年を指定してください。たとえば、2020 年に開始するアプリケーションでは開始年として 2019 を選択し、トレンド分析とレポートで最新実績が使用できるようにします。
 - 12 か月カレンダーの場合は、次のオプションを選択します:
 - **会計年度の最初の月**—会計年度が開始する月

1月以外を最初の月にしてアプリケーションを作成する場合、「**会計年の開始日**」(「**同じカレンダー年**」または「**前のカレンダー年**」)も選択する必要があります。このパラメータの選択は、年ディメンションを正しく作成し、基礎となる期間の計算を行うために重要です。詳細は、[カレンダーについて](#)を参照してください。

- **週次配分**—月の会計週数に基づいて月次配分パターンを設定します。
- **13 期間カレンダー**の場合は、次のオプションを選択します:
 - **配分**—四半期の期間の配分を定義して、どの四半期に 4 つの期間があるかを示します。(13 期間カレンダーでは、3 つの四半期に 3 つの期間があり、1 つの四半期に 4 つの期間があります。)

たとえば、3-3-3-4 を選択すると、第 4 四半期に追加の期間が追加されます。
 - **会計年度末**—会計年度末を定義するには、「**曜日**」を選択し、会計年度末が、選択した月の「**会計年の最終発生日**」か、「**会計年の最終日に最も近い**」かを選択します。
 - **余剰週を追加する会計期間**—5 週間を設定する期間を選択します。13 期間のプランニングでは、各期間の長さは正確に 4 週間になります(ただし、5、6 年ごとに 1 期間が 5 週間になります。)
 - **会計年の開始日**—会計年が「**同じカレンダー年**」または「**前のカレンダー年**」のどちらで開始するかを選択します。このパラメータの選択は、年ディメンションを正しく作成し、基礎となる期間の計算を行うために重要です。詳細は、[カレンダーについて](#)を参照してください。

これらのオプションによって、53 週目が発生する年と、システム・メンバー式の計算方法が決まります。

たとえば、会計年度末を「**金曜日**」、「**会計年の最終発生日**」、「**12 月**」と定義し、「**余剰週を追加する会計期間**」に 13 を選択すると、2019 年 12 月 27 日(2019 年 12 月の最終金曜日)が会計年度の最終日としてカレンダーが作成されます。この日付を基に、後続年のカレンダーが 13 期間カレンダーに基づいて設定され、数年ごとに発生する余剰週が 13 番目の期間に追加されます。

Create Application: Details

Back Cancel 1 2 **3** 4 5 Next

General Dimensions Mapping **Details** Customize Review

Time Period

12 Months

13 Periods

Start and End year 2019 to 2029

Distribution 3-3-3-4

Fiscal Year Ends On Day of the Week Friday

Last Occurring in the Fiscal Year Closest to the Last Day of the Fiscal Year

December

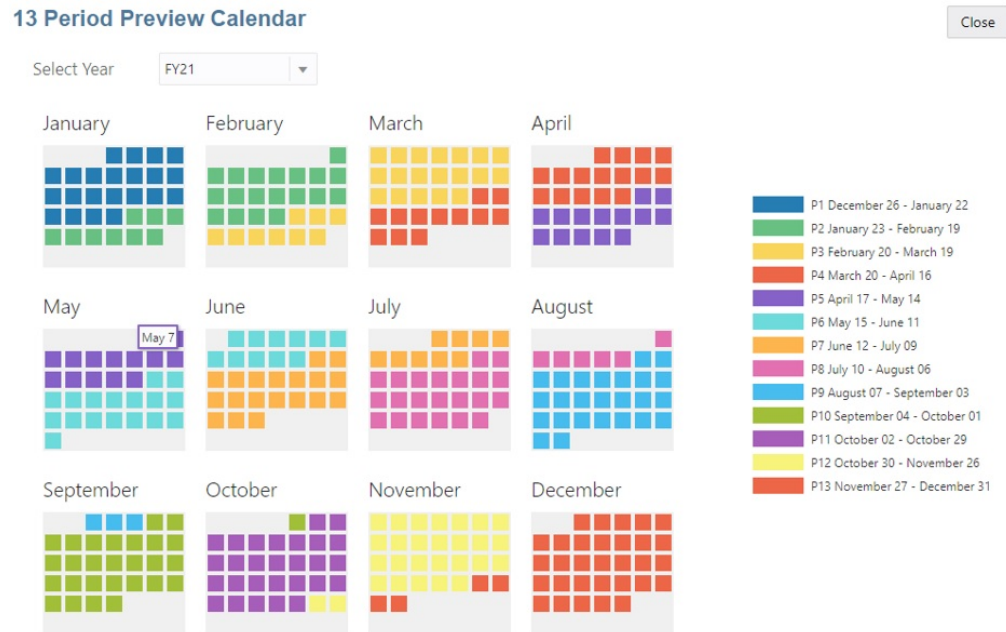
Add Extra Week to Fiscal Period 13

Fiscal Year Start Date Same Calendar Year

この例の選択に基づくと、FY19 は 52 週間(それぞれが 4 週間の期間が 13 個)あります。FY20 も 52 週間(それぞれが 4 週間の期間が 13 個)あります。FY21 は 53 週間あります。余剰週を期間 13 に追加するように選択したため、最後の期間(11 月 27 日から 12 月 31 日)に第 5 週があります。

アプリケーションを作成した後は、カレンダーをプレビューして各期間の日付を表示できます。そのためには、ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**概**

要、「アクション」、13 期間プレビュー・カレンダーの順にクリックします。最上部で、プレビューする年のカレンダーを選択できます。説明した例の FY21 のカレンダーを次に示します。P13 には第 5 週(11 月 27 日から 12 月 31 日)があることに注意してください:



- **タスク・フロー・タイプ**—アプリケーションの「**タスク・フロー・タイプ**」を選択します:
 - **タスク・リスト**—タスク・リストは、タスク、手順および終了日を一覧表示することで、ユーザーにプランニング・プロセスの手順を示す従来の機能です。
タスク・リストの詳細は、*Planning* の管理のタスク・リストの管理を参照してください。
 - **EPM Task Manager**—これは、新しいアプリケーションに対するデフォルト・オプションです。EPM Task Manager は、すべてのタスクを集中モニタリングし、アプリケーションの実行を記録するための目に見える自動化された繰返し可能なシステムを提供します。
EPM Task Manager の詳細は、*Planning* の管理のタスク・マネージャを使用したタスクの管理を参照してください。

ノート:

既存のタスク・リストから EPM Task Manager への移行はありません。従来のタスク・リストを引き続き使用する場合は、アプリケーションの作成時に「**タスク・リスト**」オプションを選択します。

- **主要通貨**—複数通貨アプリケーションでは、これがデフォルトのレポート通貨で、為替レートのロード対象の通貨です。

- 複数通貨**—複数通貨のサポートは「通貨」ディメンションで提供されます。これにより、様々な通貨を使用したプランニングを行えるようになります。
「複数通貨」を選択した場合、「<メンバー>なし」という名前のメンバー(「エンティティなし」、「期間なし」、「バージョンなし」など)が、通貨情報を格納するすべてのディメンションに追加されます。このメンバーを編集または削除することはできません。
 詳細は、簡易複数通貨についてを参照してください。
- 接頭辞**—13 期間アプリケーションの場合は、期間の接頭辞を定義します。デフォルトは **TP** です。デフォルトのままにすると、期間の名前は **TP1**、**TP2** などになります。
- 入力キューブの名前**—データ・エントリ(ブロック・ストレージ)キューブの名前。キューブ名は後から変更することはできません。
- レポート・キューブの名前**—レポート(集約ストレージ)キューブの名前。キューブ名は後から変更することはできません。
- サンドボックス** - アプリケーションの作成時に、「**サンドボックス**」オプションを選択することでサンドボックスに対して有効にできるブロック・ストレージ・キューブが作成されます。
 アプリケーションにカスタム・ブロック・ストレージ・キューブを作成する場合、そのキューブでサンドボックスを使用できます。カスタム・キューブを作成する場合、「**サンドボックスの有効化**」を選択します。(モジュールでデフォルトで作成されたキューブではサンドボックスはサポートされません。)サンドボックスの設定と使用についてさらに学習するには、*Planning の管理* および *Planning の操作* を参照してください。

4. **戦略モデリング**—戦略モデリングを有効にします。

5. 「**次へ**」をクリックし、「**作成**」をクリックします。

アプリケーションの作成の詳細は、*Planning の管理* を参照してください。

表 3-1 ビデオ

目的	視聴するビデオ
複数通貨の設定について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud での複数通貨の設定.

カレンダーについて

「**会計年の最初の月**」で1月以外を選択する12か月カレンダーでは、「**会計年の開始日**」も選択する必要があります。このパラメータの選択は、年ディメンションを正しく作成し、基礎となる期間の計算を行うために重要です。

「**会計年の開始日**」オプションは、Planning モジュールの13 期間カレンダーにも必要です。

「**会計年の開始日**」オプション:

- 「同じカレンダー年」**。会計年(FY)が現在のカレンダー年(CY)で始まるように設定します。

たとえば、12 か月カレンダーでは、開始期間が 6 月の 2024 年を選択すると、開始年が FY24 として作成され、Jun-CY24 から May-CY25 と定義されます。

- 「前のカレンダー年」。会計年(FY)が前のカレンダー年(CY)で始まるように設定します。

たとえば、12 か月カレンダーでは、開始期間が 6 月の 2024 年を選択すると、開始年が FY24 として作成され、Jun-CY23 から May-CY24 と定義されます。

次の表は、「会計開始年」を 2022 と仮定して、「会計年の最初の月」および「会計開始年」オプションがアプリケーションのカレンダーに与える影響の例を示しています。

Table 3-2 12 か月カレンダーの「会計年の最初の月」と「会計年の開始日」のカレンダー・オプションの例

会計年度の最初の月	会計年開始日	期間 - 年	年ディメンション
1 月	該当なし。このオプションは、会計年の最初の月として 1 月が選択されている場合は使用できません。	Jan-CY22 から Dec-CY22	FY22
7 月	同じカレンダー年	Jul-CY22 から Jun-CY23	FY22
7 月	前のカレンダー年	Jul-CY21 から Jun-CY22	FY22
2 月	同じカレンダー年	Feb-CY22 から Jan-CY23	FY22
2 月	前のカレンダー年	Feb-CY21 から Jan-CY22	FY22
12 月	同じカレンダー年	Dec-CY22 から Nov-CY23	FY22
12 月	前のカレンダー年	Dec-CY21 から Nov-CY22	FY22

「同じカレンダー年」が選択された 13 期間カレンダーの「会計年の開始日」の例

次の図は、開始年が 2022 で、会計年が会計年の 3 月の最終土曜日に終了すると仮定して、「会計開始年」のオプションがアプリケーションのカレンダーに与える影響の例を示しています。

次のオプションが選択された場合(「同じカレンダー年」が選択されていることに注意してください):

Create Application: Details

Back Cancel 1 2 3 4 5 Next

General Dimensions Mapping **Details** Customize Review

Time Period

12 Months

13 Periods

Start and End year 2022 to 2031

Distribution 3-3-3-4

Fiscal Year Ends On Day of the Week Saturday

Last Occurring in the Fiscal Year Closest to the Last Day of the Fiscal Year

March

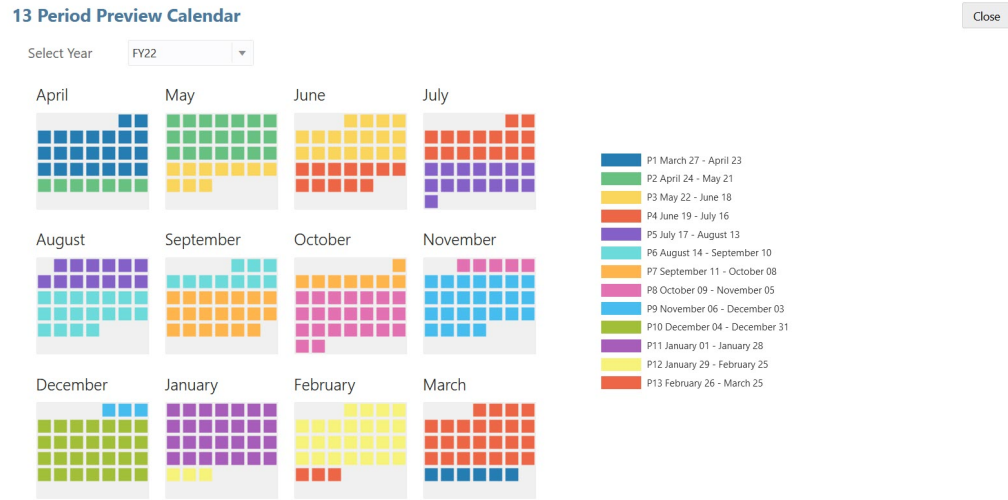
Add Extra Week to Fiscal Period 13

Fiscal Year Start Date Same Calendar Year

様々な会計年のプレビュー・カレンダーを示します:

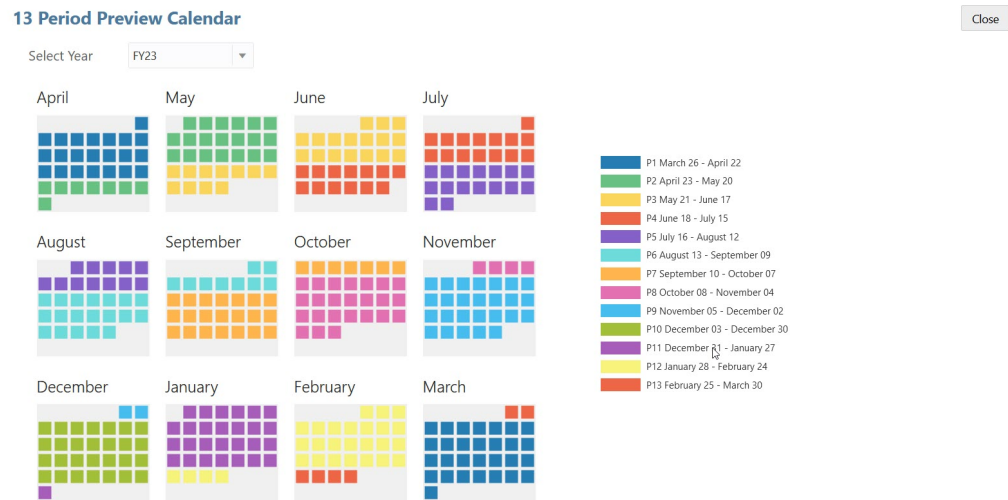
「同じカレンダー年」が選択された場合の FY22 の 13 期間プレビュー・カレンダー。

FY22 (「同じカレンダー年」): 2022 年 3 月 27 日から 2023 年 3 月 25 日:



「同じカレンダー年」が選択された場合の FY23 の 13 期間プレビュー・カレンダー。

FY23 (「同じカレンダー年」): 2023 年 3 月 26 日から 2024 年 3 月 30 日:

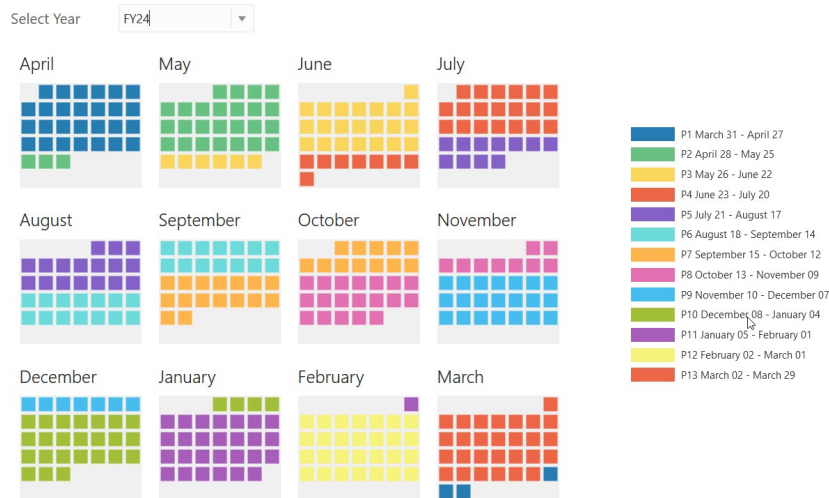


「同じカレンダー年」が選択された場合の FY24 の 13 期間プレビュー・カレンダー。

FY24 (「同じカレンダー年」): 2024 年 3 月 31 日から 2025 年 3 月 29 日:

13 Period Preview Calendar

Close



「前のカレンダー年」が選択された 13 期間カレンダーの「会計年の開始日」の例

次の図は、開始年が 2022 で、会計年が会計年の 3 月の最終土曜日に終了すると仮定して、「会計開始年」のオプションがアプリケーションのカレンダーに与える影響の例を示しています。

次のオプションが選択された場合(「前のカレンダー年」が選択されていることに注意してください):

Create Application: Details

Back Cancel

1 General 2 Dimensions Mapping 3 Details 4 Customize 5 Review Next

Time Period

12 Months 13 Periods

Start and End year: 2022 to 2031

Distribution: 3-3-3-4

Fiscal Year Ends On Day of the Week: Saturday

Last Occurring in the Fiscal Year Closest to the Last Day of the Fiscal Year

March

Add Extra Week to Fiscal Period: 13

Fiscal Year Start Date: Previous Calendar Year

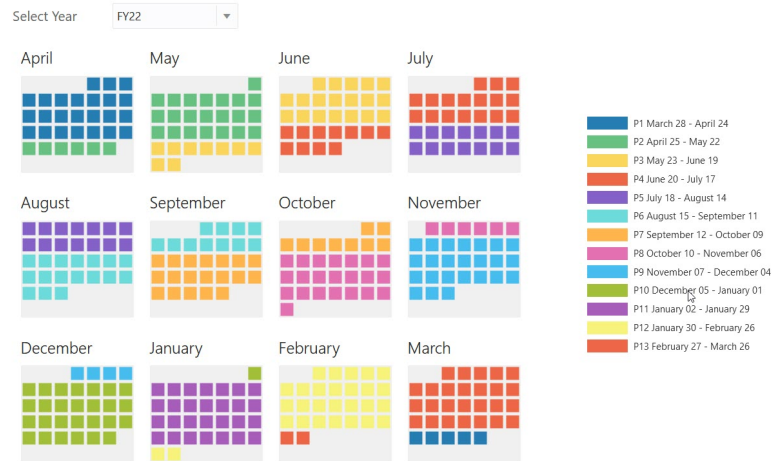
様々な会計年のプレビュー・カレンダーを示します:

「前のカレンダー年」が選択された場合の FY22 の 13 期間プレビュー・カレンダー。

FY22 (「前のカレンダー年」): 2021 年 3 月 28 日から 2022 年 3 月 26 日:

13 Period Preview Calendar

Close

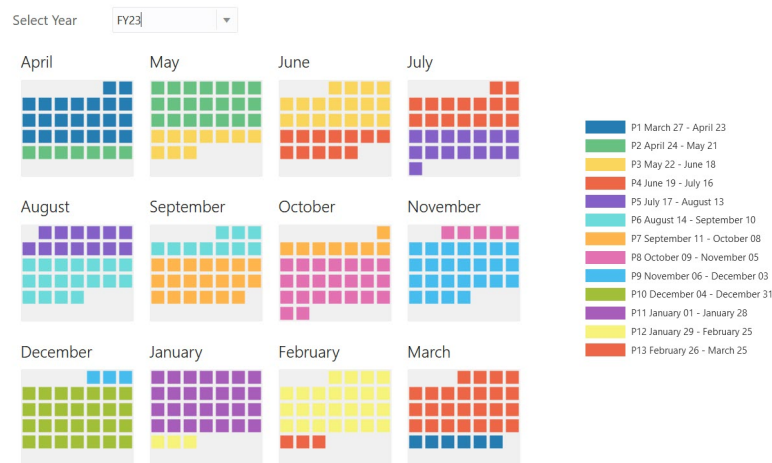


「前のカレンダー年」が選択された場合の FY23 の 13 期間プレビュー・カレンダー。

FY23 (「前のカレンダー年」): 2022 年 3 月 27 日から 2023 年 3 月 25 日:

13 Period Preview Calendar

Close

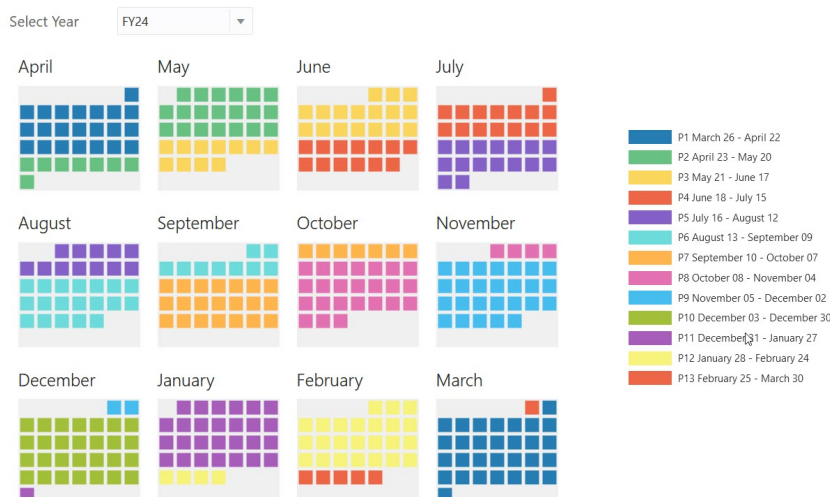


「前のカレンダー年」が選択された場合の FY24 の 13 期間プレビュー・カレンダー。

FY24 (「前のカレンダー年」): 2023 年 3 月 26 日から 2024 年 3 月 30 日:

13 Period Preview Calendar

Close





標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションの Enterprise アプリケーションへの変換

このトピックではアプリケーションの変換について学習します。

- 2019年6月4日より後に EPM Cloud を購入した場合は、アプリケーションを新しいサービスに移行する方法について学習するには、**Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド**の新しい EPM Cloud サービスを参照してください。
- EPM Cloud を 2019年6月4日より前に購入した場合、標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションを Enterprise アプリケーションへと変換できます。

標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションを変換するには:

- 変換の考慮事項を確認します。[変換の考慮事項](#)を参照してください。
- 標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションをバックアップします。

- アプリケーションを開き、「**アプリケーション**」、「**概要**」の順にクリックします。

- 「**アクション**」、「**Enterprise に変換**」、「**続行**」を順にクリックして次に進みます。アプリケーションが Enterprise に変換されたかどうかメッセージで通知されます。成功した場合はログオフします。
アプリケーション・タイプが「Enterprise」に変更されます。これには、Planning モジュールを有効にして構成するオプションが含まれ、Groovy スクリプトが有効になります。メタデータとデータは、変換中に変更されません。

- ログオンして必要な機能を有効化します。

これらの検証は、次の機能を有効にしているときに実行されます:

- すでに存在するカスタム・ディメンションや基本ディメンションと同じ名前のメンバーを「**ディメンションのマップ/名前変更**」に指定することはできません。たとえば、「**市場**」という名前のカスタム・ディメンションを財務に作成する場合、他のディメンションに「**市場**」というメンバーが存在することはできません。
 - 実際のディメンション名として<<Dimension>>を指定した場合、名前が NO_<<customDimension>>、Total_<Dimension>>、All_<<Dimension>>のメンバーは存在できません。たとえば、財務の「プラン要素」をカスタム・ディメンションとして「Element」という名前に変更した場合、「No Element」や「Total Element」が存在することはできません。これは、接頭辞なしのメンバーに依存するモジュールに固有です。
 - 「期間」および「勘定科目」ディメンションのデータ・ストレージを「**共有しない**」に設定する必要があります。
 - 「年」ディメンション名は「**年**」にする必要があります。
 - 18個の別名表が事前定義されています。サポートされる最大数は32です(1個は内部で使用されます)。変換プロセスが、事前定義済別名表を既存アプリケーション内の別名表にマージしようとします。数が30を超えると検証エラーになります。
 - 変換プロセスは、アプリケーション内の既存ディメンションの数と、モジュールが初期化された場合に作成される新しいディメンションの数を計算します。両方の合計が32(最大数)を超えると、検証エラーが表示されます。
 - プロジェクトでは、「**プログラム**」に指定する名前(カスタム・ディメンション・オプション)が、非属性ディメンションとしてすでに存在してはなりません。
 - 要員では、バージョン・メンバーを「**ラベルのみ**」にすることはできません。
6. ユーザー定義のナビゲーション・フローを再作成します。

「移行」を使用してオンプレミス Oracle Hyperion Planning R11.1.2.1 (サポート対象バージョン)のアプリケーションを Planning に変換するときは、前述と同じルールが適用されます。

変換の考慮事項

次の場合に、標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションを Enterprise アプリケーションに変換できます:

- 「Enterprise」タイプのアプリケーションを実装する商用の許可を受けています。
- 週次期間、四半期期間またはカスタム期間が使用されていません。
- 変換の前に、年ディメンションの名前を年(複数)に変更します。
- 複数通貨アプリケーションである場合、簡易複数通貨を使用しています(つまり、標準通貨アプリケーションではありません)。
- アーティファクト名で次の接頭辞が使用されていません:
 - oep_: 共通アーティファクトの接頭辞
 - ofs_: 財務アーティファクトの接頭辞
 - owp_: 要員アーティファクトの接頭辞

- opf_: プロジェクト・アーティファクトの接頭辞
- ocx_: 資本アーティファクトの接頭辞

カスタム・ナビゲーション・フローは変換されません。アプリケーションの変換後に再度作成する必要があります。

統合のシナリオおよびワークフロー

Planning では、データ・マップおよびスマート・プッシュを使用して、財務、要員、資本、プロジェクトおよび戦略モデリングとの即時利用可能な統合を提供します。この項では、統合シナリオと統合のプロセス全体を説明します。

統合シナリオ

次のシナリオを活用するためにモジュールを統合します:

- 財務で、要員の従業員詳細のロールアップを参照し、要員の費用(給与や福利厚生など)を財務のレポートに統合します。
- 財務で、プロジェクトの詳細のロールアップを参照し、プロジェクトの費用と収益を財務のレポートに統合します。財務とプロジェクトの統合は、プロジェクトから集約レベルのデータを移動するように設計されています。プロジェクト・レベルのデータを表示する場合は、ルール(OFS_Rollup Project Integration Data)をカスタマイズできます。
- 財務では、資本資産詳細のロールアップを表示し、資本資産値(固定資産値、減価償却、その他資産関連費用、キャッシュ・フローなど)を財務レポートに統合します。
- 要員で、プロジェクト全体または各プロジェクトの従業員稼働率を参照します。
- プロジェクトでは、プロジェクト費用を部分的または完全に配賦して、1つ以上の資本資産を作成します。
- プロジェクトでは、労務費用プランニングのために要員のジョブ、従業員名および他の仮定を使用します。
- プロジェクトで、資本からの設備レートを使用します。
- 資本で、プロジェクトの資産の使用状況を表示します。
- 戦略モデリングのモデルと財務の損益計算書の間でデータを統合します。

統合のタスク・フロー

統合を実装するには、次のプロセス全体を順序どおりに実行します:

ノート:

戦略モデリングのモデルと財務の損益計算書の間でデータをプッシュするには、**Planning** の管理の戦略モデリングおよび財務の間のデータの統合を参照してください。

1. 財務を有効化して構成します。

 ノート:

エンティティはすべてのモジュールで 共通です。理想としては、すべてのエンティティを一度にインポートしてください。

財務とプロジェクトを統合する場合は、プロジェクト全体の集約データが財務にプッシュされることに注意してください。**プロジェクト・ディメンション**を財務に追加する必要はありません。

2. 要員を有効化して構成します。
 - 財務との統合の場合、要員の福利厚生と税金ウィザードでコンポーネントを財務勘定科目(たとえば、財務の「給与計算税」、「給与合計」など)にマップします。
 - プロジェクトとの統合: 稼働率機能は、プロジェクトとの統合に加えて、要員での「従業員」モデルまたは**ジョブと従業員**モデルに対する依存関係を持ちます。稼働率を有効にするには、「有効化」ページの「粒度」で、「従業員」または「従業員とジョブ」のいずれかを選択します。また、**プロジェクトへの要員の統合**も選択します。
 - 「**ディメンションのマップ/名前変更**」で、「**プロジェクト**」という名前(プロジェクトでのデフォルト・ディメンション名)のカスタム・ディメンションを追加します。名前を変更して、プロジェクトの「プロジェクト」ディメンションで別の名前を使用する予定がある場合は、そのディメンション名をここで使用します。
3. 資本を有効化します。
 - プロジェクトとの統合では、「有効化」ページの「**ディメンションのマップ/名前変更**」で、「**プロジェクト**」という名前(プロジェクトでのデフォルト・ディメンション名)のカスタム・ディメンションを追加します。名前を変更して、プロジェクトの「プロジェクト」ディメンションで別の名前を使用する予定がある場合は、そのディメンション名をここで使用します。
 - 「**構成**」ページで、タスク「**財務諸表への資本勘定科目のマップ**」を選択します。各資本勘定科目で、それぞれを財務の対応する勘定科目にマッピングします。水平タブを選択して、「有形資産」、「無形資産」および「リース資産」の資産をマップします。
 - 「**アクション**」メニューで「**同期**」を選択します。このルールは次のシナリオで実行します:
 - 新しい資産が追加されるとき。
 - 資本と財務の統合マッピングが更新されるとき。
 - **planningyearRange** が増分されるとき(たとえば、FY14:FY15 から FY15:FY24 へ)。
 - 資産を移動した後(たとえば、部署から部署へ)。
4. プロジェクトを有効化します。
 - 資本との統合では、「有効化」ページで、タイプが「**資本**」のプロジェクトを有効化します。
 - 「**費用**」では、「**要員からの統合**」および「**従業員**」(要員統合のため)を有効にします。設備では、「**資本からの統合**」を有効にします(資本統合のため)。

- プロジェクトを要員に統合している場合、リソース・クラスをプロジェクトにインポートする必要はありません。かわりに、要員のジョブ構成インポート・タスクを使用して、要員のジョブを使用します。
- 「**ディメンションのマッピング/名前変更**」に、「**プロジェクト**」と「**プロジェクト**」のマッピングが表示されます。



 **ヒント:**

カスタム・ディメンションを要員または資本で作成したときに、誤って名前を「Project」ではなく「Projects」とした場合は、ここで名前を変更できません。

- 「**構成**」ページで、タスク「**プロジェクト財務マッピング**」を選択します。各プロジェクト勘定科目で、それぞれを財務の対応する勘定科目にマッピングします。
5. 必要な場合には、作成されたデータ・マップを確認します。ホームページで「**アプリケーション**」

、「**データ交換**」、「**データ・マップ**」の順にクリックします。

6. 「**スタート・チェックリスト**」の残りのステップを実行します。[スタート・チェックリスト](#)を参照してください。
7. ユーザーがプランと予測を準備する際に、データをモジュール間で移動しようとするとき、管理者は事前定義済データ・マップを使用してデータをプッシュする必要があります。

ホームページで「**アプリケーション**」、「**データ交換**」、「**データ・マップ**」の順にクリックします。データ・マップを選択し、「**アクション**」メニューから「**データのプッシュ**」を選択し、さらに「**はい**」をクリックして、データをクリアするオプションを確認します。詳細は、[ビジネス・プロセスを統合するためのデータのプッシュ](#)を参照してください。

一部のフォームには、データをプッシュするためのメニュー・オプションがあります。これらのフォームの場合、ユーザーはデータ・マップを使用したデータのプッシュを管理者にリクエストする必要がありません。

詳しい統合シナリオ

財務と要員

- 詳しい要員データを財務サマリー・データにフィードできます。財務から、要員の勘定科目の詳細にドリルできます。
- 財務の費用のラインを要員に格納されている詳しい値で上書きできます。

財務とプロジェクト

- プロジェクトの財務情報を、勘定科目レベル・データについて財務に移動します
- プロジェクトでプランニングされた収益が、財務で契約プロジェクトについてロールアップされます
- プロジェクト・レベルの財務データについて財務からプロジェクトにドリルできるようになります

- 収益またはコストの影響が増加した場合に、間接プロジェクトのプロジェクト・ベネフィットを、財務上の影響に割り当てます

財務と資本

- 資本の詳細な費用プランニングが、財務のサマリー・レベルにロールアップされます
- 費用に関連する資産(減価償却、償却、保険など)が移動されます
- 資本のキャッシュ・フローが財務のキャッシュ・フローにプッシュされます

要員とプロジェクト

- ジョブ・レベル FTE がプロジェクトから要員に入力されます
- 割当てに基づくプロジェクト間での従業員稼働率および従業員のプロジェクトへの必要に応じた再割当て
- プロジェクトに配賦された FTE、労務時間および費用を確認します

資本とプロジェクト

- プロジェクトから 1 つまたは複数の資産を作成します
- プロジェクトでモデル化された詳細コストと、資産コストが、資本にプッシュされます
- 資本資産からプロジェクトへの設備の割当て
- プロジェクトの「資本的支出仮勘定」の値を確認します
- 資本で、資産の使用状況サマリーと、プロジェクト全体における資産の使用状況を確認します。

ビデオ

目的

財務と要員の統合について学習します。


視聴するビデオ



[Oracle Enterprise Planning Cloud の要員データと財務の統合.](#)

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的	方法の学習
<p>このチュートリアルでは、資本と財務間でデータを統合する方法を示します。資本の資産データが、各エンティティごとに資産クラス別に要約されます。資本の資産クラスを、財務の勘定科目にマップします。複数の資産クラスを財務の同じ勘定科目にマップできます。この場合、値は集約されます。たとえば、「備品および設備」資産クラスと「オフィスの備品および設備」資産クラスの両方を、財務の「オフィスの備品および設備」勘定科目にマップできます。資本の新規資産、既存資産またはリース資産に対してデータが変更された場合、更新されたデータを財務にプッシュできます。</p>	 <p>資本データの財務との統合</p>
<p>このチュートリアルでは、プロジェクトと財務間でデータを統合する方法を示します。プロジェクトを構成するときに、プロジェクトの勘定科目を財務の勘定科目にマップします。プロジェクトの複数の勘定科目を、財務の同じ勘定科目にマップできます。すべてのエンティティに適用されるグローバル・マッピングを作成するか、エンティティに固有のマッピングを作成できます。プロジェクト・データの入力と計算後は、プロジェクトのロールアップ・ビジネス・ルールを実行して、財務に要約済データをプッシュできます。</p>	 <p>プロジェクト・データの財務との統合</p>
<p>このチュートリアルでは、要員の勘定科目を財務の勘定科目にマップして、要員のデータを財務にプッシュする方法を示します。財務で提供された勘定体系を使用している場合は、要員の給与と功績の両方の勘定科目が財務の給与勘定科目に自動的にマップされます。その他の報酬データについては、福利厚生と税金ウィザードを使用して要員の報酬項目を構成するときに、各項目を財務の勘定科目にマップします。その後、報酬データのデータ・マップを使用して、財務にデータをプッシュします。</p>	 <p>要員データの財務との統合</p>
<p>このチュートリアルでは、プロジェクトのデータを資本と統合する方法を示します。資産計上可能なプロジェクトをプロジェクトで作成するときに、ドライバ・ベースのプロジェクト費用と、直接入力するプロジェクト費用の両方を、部分的にまたは全部資本の費用勘定科目および資産クラスにマップし、データを資本にプッシュできます。プロジェクト費用を複数の勘定科目および資産クラスにわたって配賦できます。また、減価償却の計算も行えます。</p>	 <p>プロジェクト・データの資本との統合</p>
<p>このチュートリアルでは、プロジェクトと要員間でデータを統合する方法を示します。プロジェクト・データを要員にプッシュするために、プロジェクトと要員の両方で必要な設定を学びます。</p>	 <p>プロジェクト・データの要員との統合</p>

ユーザー変数の設定

各プランナは、次に説明する変数を設定する必要があります。

1. ホームページで「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」、「ユーザー変数」の順にクリックします。
2. 次のユーザー変数を設定します:
 - エンティティ
 - シナリオ
 - バージョン
 - レポート通貨
 - 年

財務の場合は、「勘定科目」ディメンションのために次のユーザー変数を設定します:

- 「費用勘定科目」変数では、**OFS_Total Expenses** などの、フォームに表示する勘定科目を含む親勘定科目を選択します。
- 「費用ドライバ」変数では「**OFS_Expense Drivers for Forms**」を選択します。
- 「予算の改訂」が有効になっている場合は、「勘定科目グループ」変数を設定します。
「勘定科目グループ」ユーザー変数は、「現在の承認済予算」や「現在の純予算」などの「予算の改訂」のフォームに表示される一連の勘定科目をフィルタします。たとえば、ニーズに応じて、費用、収益、負債、資産勘定科目またはすべての勘定科目タイプの合計を選択できます。

財務では、「予算の改訂」を使用している場合は、「表示」の「日付フォーマット」を「yyyy-MM-dd」に設定する必要があります。ホームページで「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」をクリックして、「表示」をクリックします。

要員では、次の追加のユーザー変数を設定します。

- **従業員の親**—新規採用や既存の従業員など、選択した「従業員の親」メンバーに基づいてフォームに表示する従業員を含めるか除外することができるようにすることで、フォームを管理しやすくします。
- **期間** - 新規採用に対するコメントを、すべての従業員/ジョブに対する「報酬合計」と同様に、「一括更新」フォームに表示できます。

資本、要員およびプロジェクトには独自の動的な変数(「**コンテキストの使用**」オプションで定義)があり、ユーザー変数は「視点」で使用できます。動的変数では、ユーザー変数の値はフォームのコンテキストにより動的に変更されます。ユーザーはデフォルト値を設定する必要がありません。

13 期間カレンダーについて

12 か月のかわりに 13 期間を使用するアプリケーションのカレンダーの設定について学習します。

アプリケーションを作成する場合は、12 か月(例: 1月から12月)または13 期間に基づいてプランニング・カレンダーを設定できます。13 期間のプランニングでは、各期間の長さは正確に 4 週間になります(ただし、5、6 年ごとに 1 つの期間が 5 週間になります。)

ノート:

13 期間を使用して新規アプリケーションを作成できます。13 期間を使用して新規アプリケーションを作成するには、ハイブリッド・ブロック・ストレージを有効にする必要があります。

- **レガシー・クラウド・サービス**の顧客は、13 期間アプリケーションを作成する前に、ハイブリッド・ブロック・ストレージ(BSO)キューブを使用するためにアプリケーションを変換する必要があります。環境でハイブリッドが有効になった後は、新規アプリケーションを 13 期間で作成できます。ハイブリッド BSO キューブを使用するためのアプリケーションの変換の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド*の EPM Cloud の Essbase についてを参照してください。
- **EPM Enterprise Cloud Service** および **EPM Standard Cloud Service** の Planning ビジネス・プロセスは、デフォルトでハイブリッド・ブロック・ストレージ(BSO)キューブを使用してデプロイされます。これらのお客様の場合は、13 期間アプリケーションを作成可能にするための追加ステップは必要ありません。

既存のアプリケーションに対して 13 期間カレンダーを有効にすることはできません。

13 期間でのプランニングにはいくつかの利点があります。次に例を示します:

- 一連の休日が、毎年同じ期間の同じ週に発生します。これは、年をまたがると休日が異なる週に発生する可能性がある 12 か月アプリケーションとは対照的です。同様に、各期間末が同じ曜日に発生します。この一貫性により、多くの場合にプランニングが簡素化されます。
- 年をまたがって重要なデータをより簡単に比較できます。たとえば、各損益計算書は、28 日分の実績売上と 28 日分の実績支払を反映します。
- すべての期間に同じ数の平日と週末があるため、トレンドを容易に把握できます。特に、小売ビジネスでは、年をまたがってこの一貫性を享受できます。

ヒント:


13 期間でのプランを選択すると、期間 TP1 から TP13 が作成されます。ただし、アプリケーションの作成時に接頭辞 TP を名前変更できます。P1 から P13 のように、1 から 13 の数字が接頭辞に追加されます。また、期間メンバーの名前をさらに見分けやすくする場合は、別名を作成できます。

13 期間アプリケーションでは、13 個の子メンバーが期間ディメンションの「年合計」に追加されます。デフォルトでは、最初の 3 四半期に 3 つの期間があり、最後の四半期に 4 つの期間があります(3-3-3-4)。ただし、どの四半期に 4 つの期間を追加するかは、「**アプリケーションの作成: 詳細**」ページで「**配分**」を設定する際に選択できます。各期間には開始日と終了日があります。4-4-5、4-5-4 および 5-4-4 カレンダー(52 週 x 7 日 = 364 日)の週次レイアウト、毎年余る 1 日、およびうるう年の発生に基づいて、53 週目が年に追加されます。これは、5、6 年ごとに発生します。

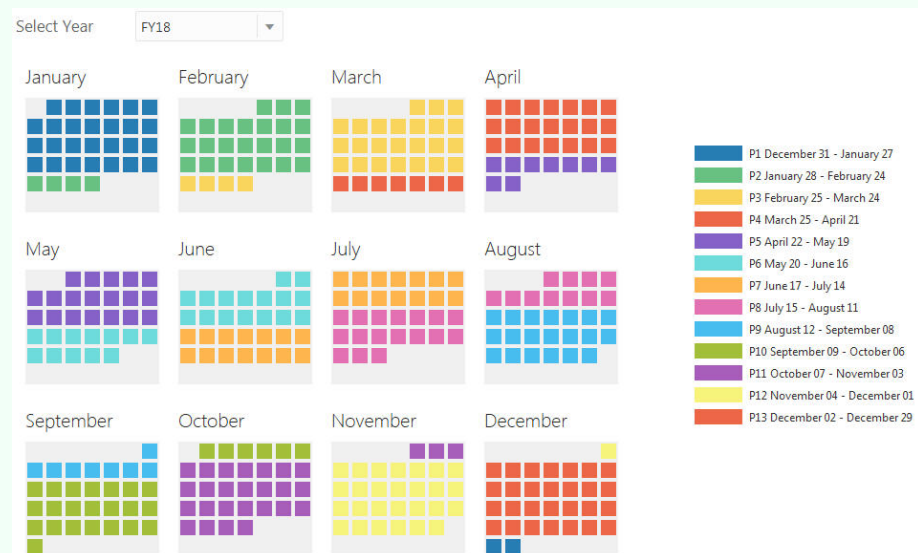
 **ノート:**

アプリケーションの作成者は、53 週目を追加する期間を「**余剰週を追加する会計期間**」で設定します。(この設定は後で変更できません)。うるう年の5 週目は、アプリケーションの作成時に定義した期間に自動的に適用されます。

アプリケーション作成時のカレンダー設定の詳細は、[アプリケーションの作成](#)を参照してください。

 **ヒント:**

13 期間カレンダーを選択する場合は、各期間の日付を表示できます。そのためには、ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**概要**」、「**アクション**」、**13 期間プレビュー・カレンダー**の順にクリックします。最上部で、プレビューする年のカレンダーを選択できます。例:



財務で、13 期間アプリケーションの週次レベルでプランニングする場合、アプリケーションには 53 週が追加されます。53 週目が使用可能になるのは、うるう年のみで、これはアプリケーションの作成時に(「**余剰週を追加する会計期間**」で)指定する期間に追加されます。有効な交差は自動的に作成されます。たとえば、月を週に変換する場合は、うるう年にのみ週 53 が計算されます。

要員での 13 期間カレンダーの使用の詳細は、[13 期間カレンダーの計算](#)を参照してください。

ビデオ

目的

13 期間カレンダーの操作について学習します。

視聴するビデオ



概要: [EPM Cloud](#) での 13 期間カレンダーを使用したプランニング

4




Planning モジュールの理解

次も参照:

- [ナビゲート](#)
- [変更済アーティファクトの確認](#)
フォームやメニューなどのオリジナルのアプリケーション・アーティファクトのうちどれが変更されたかを確認できます。
- [事前定義済アーティファクトの説明の取得](#)

ナビゲート

有用なナビゲーション・ヒント:

- ホームページ以外にナビゲートした後でホームページに戻るには、左上隅の **Oracle** ロゴ (またはカスタム・ロゴ)か、ホーム・アイコン  をクリックします。
- ナビゲータで追加の管理者タスクを表示するには、**Oracle** ロゴ(またはカスタム・ロゴ)の横の水平バー  をクリックします。
- ダッシュボードの上部にある「表示/非表示」バーをクリックするとダッシュボードが全画面に拡大され、再度クリックすると標準ビューに戻ります。
- カーソルをフォームまたはダッシュボードの右上隅に置くと、コンテキストに適したオプションのメニュー(「アクション」、「保存」、「リフレッシュ」、「設定」、「最大化」など)  が表示されます。
- サブコンポーネントでは、水平タブおよび垂直タブを使用してタスクおよびカテゴリを切り替えます。
たとえば、概要ダッシュボードの確認と費用のプランニングを切り替えるには、水平タブを使用します。垂直タブは、有効化した機能によって異なります。



タスク内のカテゴリを切り替えるには、水平タブを使用します。たとえば、費用プランニングで、費用ドライバを入力するか、トレンド・ベースのプランニング費用を確認するかを選択します。






財務および資本の場合、アイコン  はデータ入力用でなくデータ確認用のレポート・フォームを示しています。アイコン  は、フォームがプランニング詳細を入力するためのデータ入力フォームであることを示しています。

変更済アーティファクトの確認

フォームやメニューなどのオリジナルのアプリケーション・アーティファクトのうちどれが変更されたかを確認できます。




アプリケーションのアーティファクトを確認するには:

1. 「アプリケーション」  をクリックして「構成」  をクリックし、「財務」、「要員」、「プロジェクト」または「資本」を選択します。
2. 「アクション」メニューで「変更されたアーティファクトの確認」を選択します。
3. 「フィルタ」  をクリックしてアーティファクト・タイプを選択し、「適用」をクリックします。
変更されたアーティファクトがリストされます。

事前定義済アーティファクトの説明の取得

機能を有効化した後で、機能や関連するアーティファクトの仕組みを理解するために、事前定義済アーティファクト(メンバー、フォーム、ダッシュボードなど)の説明を確認できます。

事前定義済コンテンツの説明を表示するには:

1. 「ツール」  をクリックし、「アーティファクト・ラベル」  をクリックします。
2. 「フィルタ」  をクリックします。
3. 「アーティファクト」 から「メンバー」または「フォーム」を選択します。
4. 「メンバー」を選択した場合は、「ディメンション」リストから「勘定科目」を選択します。
5. 「プロパティ」では、メンバー式の場合は「式の説明」を選択するか、フォームの説明の場合は「説明」を選択して、「適用」をクリックします。
6. 言語を「言語の追加」リストから選択します。

有効化した機能のアーティファクトは、次のいずれかの接頭辞が付いて表示されます:

- OFS — 財務
- OWP — 要員
- OPF — プロジェクト
- OCX — 資本

ノート:

「<言語>」列が表示されるまで右にスクロールします。

説明の変更、言語の変更、またはプランナ向け指示の追加の詳細は、[事前定義済アーティファクトのヘルプのカスタマイズ](#)を参照してください。

5

財務の構成

次も参照:

- [財務の機能の有効化](#)
- [財務の構成](#)
財務の機能を有効化した後で次の構成タスクを実行します。
- [予算改訂および予算管理との統合の設定](#)
- [構成後のタスク](#)
- [財務のルール](#)

財務の機能の有効化


プランニングを開始する前に、財務の機能を有効化する必要があります。選択内容に基づいて、ディメンション、ドライバ、フォームおよび勘定科目が作成されます。

ノート:

- 初めて機能を有効化するときに、すべてのカスタム・ディメンションを定義する必要があります。後からこれらを定義することはできません。
- 機能は後で追加して有効化できるため、プランナが現在必要とする機能のみを有効化することをお勧めします。
- 機能を後から無効化することはできません。

提供されたドライバによる勘定科目の計算方法の詳細は、[内部集約ルールについて](#) および「[勘定科目](#)」および[プラン要素ディメンションについて](#)を参照してください。

表 5-1 ビデオ

目的	視聴するビデオ
財務の有効化および構成について学習します。	 Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud の財務の構成

1. ホームページで「アプリケーション」 をクリックし、「構成」 をクリックします。
2. 「構成」リストから「財務」を選択し、「機能を使用可能にする」をクリックします。

3. 有効化する機能を選択します。

表 5-2 財務の機能の有効化

有効化	説明
収益/総マージン	<p>収益プランニングを有効化します。独自の勘定科目を使用するか、提供された勘定科目およびドライバを選択します。</p> <p>「収益」と「総マージン」の有効化を参照してください。</p>
費用	<p>費用プランニングを有効化します。独自の勘定科目を使用するか、提供された勘定科目およびドライバを選択します。</p> <p>費用の有効化を参照してください。</p>
損益計算書	<p>損益計算書プランニングを有効化します。独自のフォーマットか、事前定義済の損益計算書フォーマットを使用します。</p> <p>損益計算書の有効化を参照してください。</p>
貸借対照表	<p>貸借対照表プランニングを有効化します。独自の勘定科目を使用するか、提供された勘定科目およびドライバを選択します。</p> <p>貸借対照表の有効化を参照してください。</p>
キャッシュ・フロー計算書	<p>キャッシュ・フロー・プランニングを有効化し、方法を選択します。独自の勘定体系を使用するか、提供された勘定科目を選択します。</p> <p>キャッシュ・フローの有効化を参照してください。</p>
ローリング予測	<p>(有効にした項目に応じて)収益、費用、貸借対照表およびキャッシュ・フローのローリング予測を有効にして、1年の時間枠を超える継続的な予測を可能にします。</p> <p>ローリング予測の有効化を参照してください。</p>
予算の改訂	<p>承認済予算に予算改訂を作成する機能を有効にする場合に選択します</p> <p>また、予算管理との統合を有効にします。現在の消費の表示、提案された予算変更がすでに消費済の予算を下回らないことの確認、および予算変更を更新して使用可能資金に影響を与えることができます。予算変更が引き当てられて承認されると、現在の承認済予算残高をドリルダウンして、予算管理で予算改訂詳細を表示できます。</p> <p>「予算の改訂」の有効化を参照してください。</p>
週次プランニング	<p>プランナは、週次レベルでプランニングおよび予測できます。週次プランニングはいつでも有効化できます。</p> <p>週次プランニングの有効化を参照してください。</p>
ディメンションのマップ/名前変更	<ul style="list-style-type: none"> 最大5つのカスタム・ディメンションをアプリケーションに追加します。 カスタム・ディメンションごとに、適用先の機能(「収益」、「費用」、「貸借対照表」、「キャッシュ・フロー」または「予算の改訂」)を指定します。カスタム・ディメンションと財務の機能の関連付けを参照してください。 「予算の改訂」を有効にしている場合は、ディメンションの1つをエンティティ・ディメンションとともに「改訂の管理」フォームの表示のプライマリ・ディメンションにすることもできます。 カスタム・ディメンションを既存のディメンションにマップします。 基本ディメンションの名前を変更します。 <p>このステップは、最初に財務を有効化するときに実行する必要があります。これを後で行うことはできません。</p> <p>「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化を参照してください。</p>

ディメンション、フォーム、勘定科目など、財務のアーティファクトが移入されます。

財務の勘定体系について

財務には、すぐに使用できる堅牢で完全な勘定体系が含まれています。また、財務では独自の勘定体系を使用でき、その場合も統合された財務フレームワークのメリットを活用できるという柔軟性を備えています。

機能を有効化するときに、提供された勘定体系と独自の勘定体系のどちらを使用するかを選択します。「機能を使用可能にする」で、次のようにします:

- 独自の勘定体系を使用する場合は、機能名の横のチェック・ボックスをクリックします。独自の勘定体系を作成する場合、機能を有効化すると、キー・メンバーを含む勘定科目構造が作成され、それに独自の勘定体系を追加できます。有効化した機能ごとに独自の勘定科目をインポートします。このオプションを選択すると、直接入力およびトレンド・ベースのプランニングが有効になります。

最初に独自の勘定体系を作成した場合、提供された標準の勘定体系を追加で有効化できません。

- 提供された勘定体系を使用する場合は、各機能名の下の勘定科目およびドライバを選択します。標準の勘定体系を使用するか、ドライバ・ベースのプランニングを使用する場合、有効化する勘定科目およびドライバを選択します。このオプションを選択すると、選択した機能の完全な勘定体系が有効になり、ドライバ・ベースのプランニングが有効になります。

独自の勘定体系を作成するか、提供された勘定科目を使用するかに関係なく、次のことができます:

- 既存のフォームおよびダッシュボードの使用
- 既存の統合財務諸表の使用
- 既存の計算(トレンド・ベースのプランニングなど)の使用
- 財務を資本、プロジェクトおよび要員と統合します。

独自の勘定体系を使用する場合は、次のことに注意してください:

- 勘定科目のインポートの詳細は、メタデータのインポートを参照してください。ディメンション・エディタを使用すると、提供された主要勘定科目を表示できます。
- 合計の結果をグラフィカルに示すダッシュボードを使用する場合は、勘定科目を適切な親の下に共有メンバーとして追加する必要があります: **OFS_Total Revenue**、**OFS_Total Cost of Sales**、**OFS_Total Operating Expenses**、**OFS_Cash**。ビジネスに必要な詳細のレベルで共有を設定できます。

その他の表およびダッシュボードでは、提供されたキー・メンバーを使用してください。

ビデオ

目的

独自の勘定体系を使用する財務の有効化および構成について学習します。

独自の勘定体系を使用する財務でのベスト・プラクティス・プランニングの利用について学習します。

視聴するビデオ



[Enterprise Planning Cloud に独自の勘定体系を導入するための財務の構成](#)



[独自の勘定体系を使用する財務でのベスト・プラクティス・プランニングの利用](#)

「収益」と「総マージン」の有効化

「**収益/総マージン**」を選択して、収益/総マージン・プランニングを有効化します。「**収益/総マージン**」のみを選択すると、キー・メンバーを含む勘定科目構造が作成され、それに収益プランニング用の独自の勘定体系を追加できます。このオプションを選択すると、直接入力およびトレンド・ベースのプランニングが有効になります。

標準の勘定体系またはドライバ・ベースのプランニングを有効化するには、「**勘定科目**」または「**ドライバ**」を選択し、有効化するドライバを選択します。

費用の有効化

「**費用**」を選択して、費用プランニングを有効化します。「**費用**」のみを選択すると、キー・メンバーを含む勘定科目構造が作成され、それに費用プランニング用の独自の勘定体系を追加できます。このオプションを選択すると、直接入力およびトレンド・ベースのプランニングが有効になります。

標準の勘定体系またはドライバ・ベースのプランニングを有効化するには、「**勘定科目**」または「**ドライバ**」を選択し、費用ドライバ・カテゴリを選択します。たとえば、「**報酬**」を有効化すると、「**人数**」と「**平均給与**」を使用して「**給与費用**」が導出されます。

損益計算書の有効化

「**損益計算書**」を選択して、損益計算書プランニングを有効化します。「**損益計算書**」のみを選択すると、基本的な損益計算書フォーマットが作成されます。

事前定義済みの損益計算書フォーマットを使用するには、「**総利益**」または「**貢献利益**」および関連するオプションを選択します。提供された「**総利益**」勘定科目または「**貢献利益**」勘定科目を使用するには、提供された「**収益**」勘定科目および「**費用**」勘定科目も選択する必要があります。損益計算書を有効にする際に選択したオプションは、損益計算書のロールアップに影響します。

「**追加オプション**」によって、損益計算書階層にロールアップが追加されます。

▲ OFS_Income Statement
▲ OFS_Net Income
▲ OFS_Operating Income
OFS_Gross Profit(Shared)
▲ OFS_Total Operating Expenses
▷ OFS_Operating Expenses(Shared)
▷ OFS_Depreciation and Amortization(Shared)
▷ OFS_Non Operating Income/Expense
▷ OFS_Total Taxes(Shared)
▲ OFS_Net Income Basic
▷ OFS_Total Revenue(Shared)
▷ OFS_Total Expense - All
▲ OFS_Net Income v2
▷ OFS_Gross Profit(Shared)
OFS_Total Expenses(Shared)
▲ OFS_Net Income EBITDA
▷ OFS_Earnings before Interest Taxes and Depreciation (EBITDA)
▷ OFS_Depreciation and Amortization(Shared)
▷ OFS_Other (Income)/Expense(Shared)
▷ OFS_Total Taxes(Shared)

貸借対照表の有効化

「**貸借対照表**」を選択して、貸借対照表プランニングを有効化します。「**貸借対照表**」のみを選択すると、キー・メンバーを含む勘定科目構造が作成され、それに貸借対照表プランニング用の独自の勘定体系を追加できます。このオプションを選択すると、直接入力およびトレンド・ベースのプランニングが有効になります。

標準の勘定体系またはドライバ・ベースのプランニングを有効化するには、「**勘定科目**」と「**資産**」および/または「**負債と資本**」または「**ドライバと関連勘定科目**」を選択します。キャッシュ・フロー・プランニングおよびドライバ・ベースの貸借対照表プランニングを行う場合は、**間接法キャッシュ・フロー**を有効化し、構成後にアプリケーションで期間の日数を定義する必要があります。

キャッシュ・フローの有効化

「**キャッシュ・フロー計算書**」およびキャッシュ・フローの方法(「**直接**」または「**間接**」)を選択します。

- 「**直接**」方法では、ソースを使用してキャッシュ・フローが計算され、現金が使用されます。この方法を使用できるのは、「**収益**」または「**費用**」(あるいは両方)のプランニングを有効化した場合です。
- 「**間接**」方法では、営業活動、投資活動および融資活動からキャッシュ・フローが導出されます。この方法を使用するには、「**損益計算書**」と「**貸借対照表**」も有効化する必要があります。

「**キャッシュ・フロー計算書**」と方法のみを選択すると、キー・メンバーを含む勘定科目構造が作成され、それにキャッシュ・フロー・プランニング用の独自の勘定体系を追加できます。

勘定科目カテゴリを選択して、キャッシュ・フロー・レポートをサポートするための勘定科目グループを追加します。

ローリング予測の有効化

ローリング予測を有効にすると、プランナは1年の時間枠を超える継続的なプランニングを実行できます。ローリング予測を有効にした後、「**プランニングと予測の準備**」構成タスクを使用してローリング予測を構成することにより、週次レベル(13週、26週または52週)、月次レベル(12か月、18か月または24か月、および財務の場合は30か月、36か月、48か月、または60か月)あるいは四半期レベル(4四半期、6四半期または8四半期)で継続的なプランニングを行います。13期間カレンダーを使用した財務のアプリケーションでは、期間レベル(13期間または26期間)で継続的にプランニングできます。

「**プランニングと予測の準備**」構成タスクを使用して、ローリング予測範囲を定義します。提供されたフォームを使用すると、ローリング予測を簡単に実装できます。ローリング予測は、財務では主にデータの入力および分析で使用しますが、プロジェクトでローリング予測を有効にした場合、定義したローリング予測時間範囲にわたってプロジェクトを分析できます。

ローリング予測を有効化および構成すると:

- ローリング予測のプランニングおよび分析用のルール、フォームおよびダッシュボードが作成されます。
- ローリング予測範囲全体が表示されるようにフォームおよびダッシュボードが設計されます。有効な交差を使用して表示内容が制御されます。

- 現在の期間を更新すると、フォームおよびダッシュボードが自動的に更新されます。必要に応じて新しい期間が追加または削除され、更新されたローリング予測範囲を反映します。新しく追加された期間にトレンドおよびドライバが移入されます。有効な交差を使用してフォームが動的になります。
- 財務の場合、新規メンバー(**OEP_Rolling Forecast**)がシナリオ・ディメンションに追加されます。標準予測メンバー(**OEP_Forecast**)もまだ使用可能なので、1年の時間枠の予測を可能にする標準予測手法およびローリング予測手法を使用できます。
- プロジェクトでは **OEP_Rolling Forecast** メンバーを使用して、対応する機関の予測シナリオ(**OEP_Forecast**)を参照することにより、ローリング予測範囲のデータを動的に表示します。**OEP_Rolling Forecast** メンバーのデータ入力は許可されません。
- レポートのために、KPI に 2 つのシナリオが追加されました:
 - OEP_TTM** (12 か月の証跡)。このシナリオは、前の 12 か月のフローに基づいた勘定科目のアクティビティをレポートします。
 - 「予測済 12」**。フロー・タイプ勘定科目に対して、このシナリオは、(現在の期間 + 11 個の将来の期間)の合計についてレポートします。残高タイプ勘定科目に対して、このシナリオは将来のメンバー値 12 期間についてレポートします。

EPM Cloud を 2019 年 6 月 4 日より前に購入した場合、標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションを Enterprise アプリケーションへと変換できます。アプリケーションを変換した場合、プランナは変換されたアプリケーションのローリング予測手法を使用する既存のフォームを引き続き使用できます。ローリング予測を作成するフォーム・プロパティがカスタム・キューブで引き続き使用可能であるためです。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
ローリング予測を使用したプランニングについて学習します。	 概要: Planning におけるローリング予測.
ローリング予測の設定について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud でのローリング予測の設定.

週次プランニングの有効化

財務で、「**週次プランニング**」を選択して、プランナが週次レベルでプランニングおよび予測できるようにします。フォームは、プランナが週次レベルのプランおよび予測データを表示できるように設計されています。プランナは、週次の粒度でのローリング予測範囲を使用したり、13、26 または 52 週の週次レベルで継続的にプランニングすることもできます。

12 期間アプリケーションの場合は、月の会計週数(4-4-5、4-5-4 または 5-4-4)に基づいて、週を月にマップする方法も指定します。アプリケーションは、四半期の値をそれぞれが 13 週に分割されているかのように処理し、選択したパターンに従って週を分散します。たとえば、**5-4-4** を選択すると、四半期の最初の月は 5 週、最後の 2 か月は 4 週あることになります。分散方法を後で変更することはできません。13 期間アプリケーションの場合は、アプリケーションの作成時にこれらの分散オプションを指定します。

財務で、12か月カレンダー・アプリケーションの週次レベルでプランニングしている場合は、53週カレンダーをサポートするオプションを追加で有効化できます。53週を有効化する際に指定するオプションによって、53週目に当たる月と年が決まります。通常、53週目は、4または5カレンダー年ごとに発生します。一旦有効にすると、この機能を無効にすることはできません。53週プランニングの有効化を参照してください。

週次予測を有効化した後、「**プランニングと予測の準備**」構成タスクを使用して、計画、予測、あるいは週次、月次または年次プランニングのローリング予測を構成します。

デフォルトでは、週次プランニングを有効化すると、エンティティと勘定科目のすべての組合せが週次プランニングに設定されます。一部のエンティティ/勘定科目の組合せで月次プランニングを使用するように指定できます。これは、大部分のエンティティで週次プランニングを使用するが、特定のエンティティでは月次プランニングを使用する場合や、1つのエンティティで特定の勘定科目以外には月次レベルで計画する場合に便利です。これらのシナリオで週次プランニングを構成するには、**週次構成**を参照してください。

週次プランニングを有効化または構成する場合:

- 月から週および週から月に変換する、週次プランニングおよび分析のルールが作成されます。
- フォームは、各期間の適切な粒度を表示できるように設計されています。たとえば、週次データを表示できる年もあれば、月次または年次データを表示する年もあります。有効な交差を使用して表示内容が制御されます。
- 現在の期間を更新すると、フォームが自動的に更新されます。必要に応じて新しい期間が追加または削除され、更新された期間を反映します。新しく追加された期間にトレンドおよびドライバが移入されます。有効な交差を使用してフォームが動的になります。
- 新規メンバー(**OEP_Weekly Plan**)が期間ディメンションに追加されます。
- 「**グローバル仮定**」構成タスクにおいて月次レベルで為替レートを入力した場合、フォームを保存すると、週から月へのマッピング方法(4-4-5、4-5-4または5-4-4)に基づいて、月次為替レートが週次レベルにコピーされます(財務キューブ(**OEP_FS**)のみ)。週次期間が財務で有効になっていても、それ以外のキューブでは自動的に有効にはなりません。他のキューブで週次期間を有効化した場合、週次期間で通貨換算を行うには、そのキューブに対して週次期間の為替レートを入力する必要があります。週次通貨換算は、**BSO** キューブでのみサポートされます。(ASO キューブで週次期間が有効になっていても、ASO キューブではサポートされません。)
- 資本やプロジェクト、要員と統合する場合、その統合に関連するレポートを表示するにはそれぞれのデータの粒度が一致している必要があります。

週を月にまたは月を週に変換するために、次のバッチ・ルールを、週次レベルのプランニングの後に実行する必要があります。実績データが月次の粒度の場合、トレンドを求める式を実行する前にこれを実行する必要があります。プランナにこれらのルールへのアクセス権を付与し、週次プランニングの実行後にルールを実行するように指示します:

- 週次データの月次データへの変換。プランナがダッシュボードで月次データを表示できるようにするには、このルールを実行する必要があります。
- 月次データの週次データへの変換。

ルール「**計画の準備**」、「**予測の準備**」または「**ローリング予測の準備**」を実行する前に、必ず月から週または週から月の必要な変換を実行してください。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
週次プランニングについて学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud での複数の期間の設定.

53 週プランニングの有効化

財務で、12 か月カレンダー・アプリケーションの週次レベルでプランニングしている場合は、53 週カレンダーをサポートするオプションを追加で有効化できます。

一旦有効にすると、この機能を無効にすることはできません。

「財務 - 機能を使用可能にする」で 53 週プランニングを有効化するには:

1. 「週次」を選択してから(まだ有効化していない場合)、「53 週」を選択します。
2. 53 週目に当たる月と年を決定するオプションを指定します。通常、53 週目は、4 または 5 カレンダー年ごとに発生します。
 - **週から月へのマッピング**。以前に週次プランニングを設定していない場合は、月の会計週数(4-4-5、4-5-4 または 5-4-4)に基づいて、週を月にマップする方法を指定します。アプリケーションは、四半期の値をそれらが 13 週に分割されているかのように処理し、選択したパターンに従って週を分散します。たとえば、5-4-4 を選択すると、四半期の最初の月は 5 週、最後の 2 か月は 4 週あることとなります。分散方法を後で変更することはできません。
 - **モデルの会計年度末**—会計年度末を定義するには、「曜日」を選択し、会計年度末が「会計年の最終発生日」か、「会計年の最終日に最も近い」かを選択します。
 - **余剰週を追加する会計期間**—53 週目を設定する月を選択します。

週次プランニングと 53 週プランニングを有効化した後、「プランニングと予測の準備」構成タスクを使用して、計画、予測、あるいは週次、月次または年次プランニングのローリング予測を構成します。

53 週プランニングを有効化する場合:

- 「プランニングと予測の準備」の「プラン」および「予測」タブでは、53 週を有効化した際の選択によって決定した年および期間の「現在の週」リストに 53 週目が追加されます。
- 「プランニングと予測の準備」の「ローリング予測」タブでは(ローリング予測を使用している場合)、「ローリング予測範囲」が、対象の範囲に週 53 が含まれるように更新されます。
- 期間ディメンションの週次階層に 53 週目(OEP_W53)が追加されます。
- 53 週目が対象となる年でのみ有効になるように有効な組合せが更新されます。
- 週次範囲の代替変数が、「プランニングと予測の準備」での選択に基づいて 53 週目に含まれるように更新されます。(OEP_WeeklyFCSTRange、OEP_WeeklyPlanRange、OEP_WeeklyRange、OEP_WeeklyRFRRange、OEP_WeeklyYr2Range)
- 次のルールが、53 週目を考慮するように更新されます:

- 週次データへの変換
 - 週次データからの変換
 - フォームでの週次データへの変換
 - フォームでの週次データからの変換
- フォームが、53 週目が表示される年に週 53 が含まれるように更新されます。

「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化

この構成タスクは、最初に機能を有効化するときに行う必要があります。「ディメンションのマップ/名前変更」を次のように使用します：

- カスタム・ディメンションを追加します。
たとえば、チャンネルと市場についてプランニングすることができます。このケースでは、これら 2 つのディメンションを追加し、チャンネルおよび市場メンバーをインポートします。計算、フォームおよび他のアーティファクトには、指定する追加のディメンションが含まれます。
- 既存のディメンションの名前と有効化するモジュール内のディメンションの名前が同じで、両方のディメンションを保持する場合は、ディメンションの名前を変更します。
- 複数のモジュールで既存のディメンションを使用します。たとえば、財務を設定し、あとからプロジェクトを有効にした場合、両者に共通の既存のディメンションを利用できます。この機能を使用すると、新しいモジュールを有効化するとき共通ディメンションを再構築する必要がありません。
- 変換済の Planning アプリケーションでディメンションを再利用します。

カスタム・ディメンションと財務機能の関連付け

財務機能を初めて有効化するとき、カスタム・ディメンション(製品、サービス、および最大その他 3 つのカスタム・ディメンション)を追加できます。カスタム・ディメンションを追加するときには、ディメンションを適用する機能(「収益」、「費用」、「貸借対照表」、「キャッシュ・フロー」または「予算の改訂」)も指定します。たとえば、カスタム・ディメンションに費用のみを適用したり、貸借対照表のみを適用したりできます。

カスタム・ディメンションは、適用する機能に対応するフォームのページに追加されます。たとえば、費用のみに適用するカスタム・ディメンションは、費用フォームのページに表示されます。それ以外の機能(収益など)のフォームでは、ディメンションの NoMember が POV に表示されます。

最初に財務を有効化した後は、カスタム・ディメンションに関連付ける追加の機能を増やすことができます。

 ノート:

「予算の改訂」を有効にしている場合:

- カスタム・ディメンションを財務の機能に関連付ける必要があります。カスタム・ディメンションの横にある編集ボタンを選択し、「**予算の改訂**」を選択します。
- いずれかのカスタム・ディメンションで「**予算改訂プライマリ・ディメンション**」を選択して、エンティティ・ディメンションとともにフォームの表示のプライマリ・ディメンションにします。
 - プライマリ・ディメンションとして選択できるのは、1つのディメンションのみです。
 - 選択したディメンションは、フォーム上のページではなく行に表示されます。
 - プライマリ・ディメンションを選択しない場合は、すべてのディメンションがフォーム上のページに表示されます。
 - プライマリ・ディメンションを選択した後に別のプライマリ・ディメンションを選択すると、最初の選択は解除されます。
- プラン要素ディメンションの名前は変更しないでください。

ビデオ

目的

カスタム・ディメンションと財務の機能の関連付けについて学習します。

視聴するビデオ



[Oracle Enterprise Planning Cloud の機能へのカスタム・ディメンションの追加.](#)

内部集約ルールについて

財務では次のルールが使用されます:

実績 - 「実績の計算」 ルールによってドライバが計算され、データが集計されます。

「**プラン**」および「**予測**」の場合 - 「**ロールアップ**」ルールはプランと予測を集計し、ビジネス階層の様々なレベルでのレポートの実行またはデータの分析に必要です。収益ディメンションを有効化した場合は、「**収益合計**」データを表示するためにこのルールを実行する必要があります。

費用合計は、すべての親勘定科目グループのロールアップと集計によって判別します。たとえば、「**費用**」では、「**営業費用**」および「**減価償却および償却**」が「**費用合計**」で集計されます。

「勘定科目」およびプラン要素ディメンションについて

「**勘定科目**」ディメンションには、有効化した機能に基づいて値が移入されます。勘定科目およびドライバを有効化した場合、各自のプランニングのタイプに対応して、勘定科目グループ・メンバー、計算のドライバ・メンバー、KPI、およびフォームを含む完全な勘定体系が生成されます。提供されたメンバーのうち接頭辞 **OFS** が付いたも

のはすべてロックされています。提供されたメンバーを削除または変更することはできませんが、自分のビジネス勘定科目のためにメンバーを追加し、カスタム・ドライバおよび KPI を定義することはできます。独自の勘定体系を使用するように選択した場合、機能を有効化すると、関連するフォームとともにキー・メンバーを含む簡略的な勘定科目構造が作成され、それに独自の勘定体系を追加できます。

プラン要素ディメンションは、アプリケーションで使用される様々な種類やソースのデータを説明します。例:

- 合計: 計算済 - すべてのドライバ導出計算の値を集計します。
- 修正合計 - トレンドまたはドライバ・ベースの計算によって計算された勘定科目値に対して、プランナが上書きや調整を行うことができます。
- ロード - インポートされる勘定科目の実績を含みます。
- キャッシュ・フローの影響 - 融資と投資の詳細から導出した現金を含みます。
- キャッシュ・フローの計算 - 顧客による代金の送金期限を指定する支払期間(30 日以内に 50%、60 日以内に 40%、90 日以内に残りの 10%など)をプランナが定義できるようにします。
- 直接入力 - プランまたは予測を入力します。
- キャッシュ・フロー・レポート - メンバーはキャッシュ・フロー直接方法が有効な場合のみシードされます。キャッシュ・フロー直接入力は、「キャッシュ・フローの影響」の定義に対応します。キャッシュ・フローの計算は、プランナがキャッシュ計算で 사용되는支払期間を定義する「キャッシュ・フロー直接プランニング」の結果です。

財務の構成

財務の機能を有効化した後で次の構成タスクを実行します。





1. ホームページで「**アプリケーション**」 をクリックし、「**構成**」 をクリックします。
2. 「**構成**」リストで「**財務**」を選択します。「**フィルタ**」を使用して、構成アクションのステータスを確認します。「**アクション**」 を使用して、タスクのステータスを更新します。
3. 必須のタスクをすべて実行します。ビジネスで必要なオプションのタスクを実行します。
4. ビジネス・データをインポートしてアプリケーションに移入します。[データのインポート](#)を参照してください。データをインポートした後、「**実績の計算**」と「**ロールアップ**」を実行してから、アプリケーションをリフレッシュします。
5. 「**ドライバ・ベースの貸借対照表**」を有効化した場合は、[ドライバ・ベースの貸借対照表の期間中の日数の指定](#)を参照してください。
6. 構成した後、および構成の変更やメタデータのインポートを行ったときは常に、データベースをリフレッシュします。「**構成**」ページで、「**アクション**」メニューから「**データベースのリフレッシュ**」を選択します。「**作成**」をクリックしてから「**データベースのリフレッシュ**」をクリックします。

表 5-3 財務の構成

構成	説明
プランニングと予測の準備	<p>プランの時間枠および粒度を設定します。</p> <p>プランニングおよび予測の時間枠、開始期間および粒度のレベルを構成します。年ごとに異なる基準でプランニングおよび予測できます。ローリング予測を有効にした場合、ローリング予測の期間を構成します。</p> <p>財務プランニングと予測の準備を参照してください。</p>
週次構成	<p>週次プランニングを有効化して、エンティティと勘定科目の組合せに対するプランニングの粒度をカスタマイズした後は、この構成タスクを使用できます。</p> <p>週次構成を参照してください。</p>
「収益勘定科目」、「費用勘定科目」、「貸借対照表勘定科目」、「キャッシュ・フロー勘定科目」	<p>有効化した機能に基づいて、勘定科目、ドライバおよび KPI を設定します。これらのアーティファクトの追加、変更、インポートおよびエクスポートを行うことができます。必要な場合には、カスタムの勘定科目やドライバに関連する論理または計算を追加する必要があります。また、カスタム費用ドライバ・カテゴリを追加することもできます。</p> <p>勘定科目とドライバの追加および管理、KPI の追加およびカスタム費用ドライバ・カテゴリの追加を参照してください。</p>
エンティティ	<p>エンティティをインポートします。</p> <p>部署、コスト・センター、事業部門など、ビジネス階層を反映する「エンティティ」ディメンション・メンバーをインポートします。</p> <p>メンバーを含むファイルの場所(「ローカル」または「プランニング受信ボックス」)を選択し、「参照」をクリックしてファイルを探し、ファイルの種類を指定して「インポート」をクリックします。</p>
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2e6;"> <p> ヒント:</p> <p>エンティティはモジュール間で共通のため、すべてのエンティティをまとめてインポートします。</p> </div>	
グローバル仮定	<p>複数通貨アプリケーションの外国為替レートを入力します。グローバル仮定の設定: 為替レートを参照してください。</p>
製品	<p>ビジネスの製品オフリングを表す製品ディメンション・メンバーをインポートします。データのインポートを参照してください。</p>
サービス	<p>ビジネスのサービス・オフリングを表すサービス・ディメンション・メンバーをインポートします。データのインポートを参照してください。</p>
<カスタム・ディメンション>	<p>カスタム・ディメンションを有効化した場合は、そのディメンションに移入するメンバーをインポートします。</p> <p>データのインポートを参照してください。</p>

財務プランニングと予測の準備

各モジュールについてプランの時間枠および粒度を構成できます。モジュールや年ごとに異なる時間枠と粒度を設定できます。

プランの時間枠および粒度を構成するには:

1. 「現在の会計年度」で現在の会計年度を選択します。
2. 「期間」から、現在の実績月を選択します。13 期間アプリケーションの場合は、現在の期間を選択します。この値は毎月更新する必要があります。
3. 「プラン開始年」には、プランナが現在の会計年度と次の計年度のどちらでプランニングを行うかを指定します
4. 「プラン」、「年」列を順にクリックして、構成する年数を選択します。たとえば、10 年のアプリケーションの最初の 5 年間を構成するには、5 年間を選択します。
5. 構成する各年のプランニングの基準を選択します。毎年同じ間隔でプランを準備する場合は、「すべて」をクリックしてから間隔(たとえば「月次」)を選択します。年によって異なる間隔でプランを準備する場合は、各年の行で間隔を選択します。たとえば、FY20 では月ごと、FY21 では四半期ごとにプランニングする場合、FY20 の行では「月次」、FY21 の行では「四半期ごと」を選択します。13 期間アプリケーションの場合は、「月次」のかわりに「13 期間」を選択します。

6. 「予測」をクリックし、これまでの手順を繰り返して予測の基準を指定します。最初の年の「予測」に対するプランニング基準として「四半期ごと」を選択すると、該当期間でのみ予測データの入力が可能されるように、指定された有効な交差が設定されます。現在の月より前の四半期予測期間は更新できません。四半期ごとのプランニングを有効にした場合は常に、代替変数 OEP_CurQtr が提供されます。

最初の年の「予測」に対するプランニング基準として「四半期ごと」を選択すると、現在の月が四半期の最後の月の場合に財務で現在の四半期をどのように判別するかを選択できます。

現在の月が四半期の最後の月の場合は、財務で現在の四半期をどのように定義するかについて、「プランニングと予測の準備」でオプションを選択します:

- 「予測で現在の期間をロック」を選択した場合、財務では次の四半期が使用されます。たとえば、現在の月が 3 月で、このオプションを選択した場合、財務では現在の四半期を Q2 として定義します。
- 「予測で現在の期間をロック」をクリアした場合、財務では現在の四半期が使用されます。たとえば、現在の月が 3 月で、このオプションをクリア(選択を解除)した場合、財務では現在の四半期を Q1 として定義します。

ノート:

- 「予測で現在の期間をロック」は、最初の年の予測に対するプランニングの基準として四半期を選択している場合にのみ使用可能になります。
- モジュールごとに「予測で現在の期間をロック」のオプションを選択できます。

財務について、週次プランニングを有効化した場合、オプションで「過去の期間(読取り専用)」を選択できます。このオプションを選択した場合、週次レベルの過去の期間は予測シナリオに対して読取り専用になります。たとえば、「現在の年」が FY21 で、「今月」が「3 月」、「現在の週」が Week10 の場合、「過去の期間(読取り専用)」を選択すると、FY21 の Week1 から 10 が編集できなくなります。

財務で週次プランニングが有効化されている場合、このチェックボックスは「予測」タブにのみ表示されます。

7. 財務について、ローリング予測を有効にした場合、「ローリング予測」をクリックして、継続的なプランニングのための基準を選択します。プランニング頻度(「月次」または「四半期ごと」)、期間数、および実績期間数を選択します。

財務の場合、週次プランニング頻度を選択し、13、26 または 52 週のどの週次レベルでプランニングするかを選択することもできます。

実績期間数では、フォームおよびダッシュボードにローリング予測期間と組み合わせて表示する実績データの期間数を定義します。

「ローリング予測範囲」は、選択した値に基づいて更新されます。

53 週の 12 期間カレンダーを使用している場合、「ローリング予測範囲」は、対象の範囲に週 53 が含まれるように更新されます。

ローリング予測を構成するとき、プランニング頻度と期間数に基づいてフォームおよびダッシュボードが設定されます。現在のプランニング期間を変更すると、ローリング予測のフォームおよびダッシュボードが更新されます。期間が追加または削除されて、新しいローリング予測範囲を反映して実績期間が更新されます。

標準予測とローリング予測を組み合わせて使用してプランニングできます。

8. 財務の週次プランニングを有効化した場合、現在の週を指定します。この値は毎週更新する必要があります。
 - 13 期間アプリケーションでは、「アプリケーションの作成」で選択したオプションに基づいて 5、6 年ごとに 53 週目があります。
 - 12 期間アプリケーションの「プラン」および「予測」タブでは、53 週を有効化した際の選択によって決定した年および期間の「現在の週」リストに 53 週目が追加されます。
9. 「予算の改訂」を有効にした場合、「採用済予算」タブをクリックして、採用済予算の各年のプランニング基準を指定します。これにより、予算改訂に許可される時間枠が決まります。これは、予算サイクルに許可される時間枠と異なる場合があります。

この構成タスクによって、必須代替変数がすべて設定されます。

ヒント:

ルールを作成または編集してプランニングおよび予測タスクをカスタマイズする場合、

```
[[PlanningFunctions.getModuleStartPeriod("ModuleName", "ScenarioName")]]および
```

```
[[PlanningFunctions.isPlanStartYearSameAsCurrentFiscalYear("ModuleName")]]のようにルールで Planning 数式を使用して、構成済の時間範囲情報を呼び出すことができます。
```

モジュール名は大小文字を区別せず、二重引用符で囲む必要があります。

- 資本
- 財務
- プロジェクト
- 要員

Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager での設計のシナリオを参照してください。

週次構成

週次プランニングを有効化して、エンティティと勘定科目の組合せに対するプランニングの粒度をカスタマイズした後は、この構成タスクを使用できます。

週次プランニングを有効化すると、デフォルトで、エンティティと勘定科目のすべての組合せが週次プランニングに設定されます。一部のエンティティ/勘定科目の組合せで月次プランニングを使用するように指定できます。これは、大部分のエンティティで週次プランニングを使用するが、特定のエンティティでは月次プランニングを使用する場合や、1つのエンティティで特定の勘定科目以外には月次レベルで計画する場合に便利です。たとえば、運用を週次レベルで計画し、ITを月次レベルで計画する場合です。あるいは、営業(US)で、収益プランニングを週次レベルで行い、費用プランニングを月次レベルで行うことができます。

週次構成を設定する前に、「**プランニングと予測の準備**」を実行して、プランの時間枠および粒度を設定します。[プランニングと予測の準備](#)を参照してください。

エンティティおよび勘定科目のプランニング粒度にカスタム構成を設定するには:

1. 「**構成**」から「**週次構成**」をクリックします。
2. 「**エンティティ**」列で、変更するエンティティが表示されるまで「エンティティ」リストを展開します。
有効化した機能のエンティティおよび勘定科目のみが表示されます。
3. エンティティまたはエンティティ/勘定科目の組合せに対するプランニング粒度を変更します。
 - エンティティおよびエンティティのすべての勘定科目を月次プランニングに切り替えるには、そのエンティティの「**週次プランニング**」チェック・ボックスをクリアします。すべてのエンティティ、または選択したエンティティのすべての勘定科目を週次プランニングに戻すには、「**アクション**」メニューから「**すべてのエンティティを週次として設定**」または「**すべての勘定科目を週次として設定**」を選択します。
 - エンティティの一部の勘定科目のみを月次プランニングに切り替えるには、変更するエンティティの「**勘定科目**」列でリンクをクリックし、変更する勘定科目が表示されるまで展開して、その勘定科目の「**週次プランニング**」チェック・ボックスをクリアします。エンティティのすべての勘定科目を週次プランニングに戻すには、「**アクション**」メニューから「**すべての勘定科目を週次として設定**」を選択します。
4. 「**保存**」をクリックします。

週次構成の考慮事項:

- フォームが更新され、エンティティ/勘定科目の組合せに対して指定した粒度で表示されます。
- エンティティおよび勘定科目の週次構成は、計画と予測のシナリオでのみサポートされます。ローリング予測シナリオではサポートされません。
- 計算に使用されるすべてのドライバの粒度は同じにする必要があります。
- 関連するすべてのドライバ勘定科目の粒度を同じにすることをお勧めします。たとえば、ある特定のエンティティについて、すべての収益ドライバを週次に、すべての費用ドライバを月次にできます。ただし、すべての収益ドライバの粒度を同じにし、すべての費用ドライバの粒度を同じにする必要があります。
- 親エンティティに子の週次エンティティと月次エンティティが混在している場合は、結合したデータをフォームやダッシュボードで確認する前に、エンティティごとに「**週次デー**

夕の月次データへの変換または**「月次データの週次データへの変換」**ルールを起動する必要があります。

- 1つのフォームに月次データと週次データの両方が含まれる場合、無効な交差セルは編集不可になります。

グローバル仮定の設定: 為替レート

複数通貨アプリケーションを作成した後で為替レートを設定します。為替レートはここで説明するように手動で入力することもインポートすることもできます。為替レートのインポートの詳細は、*Planning* の**管理の簡易複数通貨アプリケーション**の**為替レート・タイプのインポート**を参照してください。

為替レートを手動で設定するには:

1. 通貨ディメンションに各通貨のためのメンバーを追加します。
2. **「グローバル仮定」**をクリックして、**<基本通貨>に対する為替レート**タスクを開きます。ここで、プランナが使用する通貨の為替レートを入力します。
3. **「視点」**からメンバーを選択します。
4. 各期間および各通貨について平均為替レートと終了為替レートを入力して、フォームを保存します。

フォームの名前が**<基本通貨>に対する為替レート**に変更されます。**<基本通貨>**は、アプリケーションを作成したときに選択したレポート通貨です。たとえば、アプリケーションの基本通貨が「円」の場合、フォームは**円に対する為替レート**になります。これは、データの変換に使用される為替レートが対応する通貨をプランナに示し、プランナがシナリオ、年およびバージョンに固有のレートを入力できるようにします。

ノート:

新しいバージョン・メンバーを追加した場合は、そのバージョンに為替レートを入力する必要があります。

為替レートおよび週次プランニングについて

財務で週次レベルでプランニングを行うときに、「**グローバル仮定**」構成タスクで月次レベルで為替レートを入力した場合、フォームを保存すると、週から月へのマッピング方法(4-4-5、4-5-4 または 5-4-4)に基づいて、月次為替レートが週次レベルにコピーされます(財務キューブ(OEP_FS)のみ)。それ以外のキューブでは、月次為替レートは自動的に週次レベルにコピーされません。週次レベルで為替レートを入力するためのカスタム・フォームを作成できます。

アカウントとドライバの追加および変更について

追加または変更する必要があるカスタム・ドライバ・メンバー、勘定科目メンバーおよび他のアーティファクトの数に応じて、次のいずれかのタスクを実行します:

- 少数—構成ページで直接追加または編集を行います
- 多数—次によってインポートします:
 - 既存のセットをエクスポートします。

- エクスポートされたスプレッドシートを変更して、カスタム・アーティファクトのための行やデータを追加します。
- スプレッドシートをインポートします。

このエクスポートとインポートのプロセスにより、アプリケーションの設計とメンテナンスにかかる時間が短縮されます。要件が変更されたときは、このプロセスを必要に応じて何回でも繰り返すことができます。たとえば、実行をプランニングしている新しいソーシャル・メディア・キャンペーン用のドライバと似ている、事前定義済マーケティング・ドライバを表示することができます。容易に、ドライバをエクスポートし、マーケティング・ドライバのコピーを作成し、必要に応じてソーシャル・メディア・キャンペーン用に変更してから再インポートできます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
カスタムの勘定科目およびドライバのインポートについて学習します。	 Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud の財務へのカスタムの勘定科目およびドライバのインポート

詳細は、[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

勘定科目とドライバの追加および管理

勘定科目とドライバを追加または変更するには:


1. アカウントまたはドライバを設定する構成タスクを選択します。
2. リストからコンポーネントまたはカテゴリを選択します(ある場合)。
3. 次のタスクを実行します:
 - アーティファクトを追加するには、「**アクション**」メニューから「**追加**」を選択して、新しい行に詳細を入力します。
 - 一連のアーティファクトの変更または多数のアーティファクトの新規追加を行うには、事前定義済アーティファクトのセットをエクスポートして(「**アクション**」メニューの「**エクスポート**」を選択)、エクスポート・ファイルを Microsoft Excel で変更します。事前定義済アーティファクトの編集や、アーティファクトのコピー作成と変更を行って、新しいアーティファクトを作成したり、新しいアーティファクトを追加したりします。その後、変更したファイルをインポートします(「**アクション**」メニューから「**インポート**」を選択します)。可能な場合には、カテゴリやサブカテゴリを使用して、関連する機能のアーティファクトをまとめます。
 - カテゴリまたはグループに関係なく、すべてのドライバをエクスポートまたはインポートするには、「**バッチ・エクスポート**」または「**バッチ・インポート**」を使用します。
 - 特定の種類のドライバのみをエクスポートまたはインポートするには、「**カテゴリ**」または「**コンポーネント**」を指定してから「**インポート**」または「**エクスポート**」を使用します。

ノート:

- カスタム・メンバーについて一意のメンバー名と別名を指定して、提供されているメンバーと競合しないようにします。

- ドライバを削除する必要がある場合は、グループ内の他の勘定科目ドライバの式を調べて、削除しようとするドライバを参照するものがあるかどうか確認します。参照している場合は、削除に対応するようにロジックを更新します。



ビデオ

目的	視聴するビデオ
要員データを分析するための従業員デモグラフィックスの設定および使用について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud での要員デモグラフィックスの設定

KPI の追加

KPI の追加と編集は、勘定科目やドライバの追加または編集と同じ方法で行います。

KPI を追加または編集するには:

1. KPI メンバーの別名と名前が、提供されている KPI と競合しないことを確認します。
2. 「構成」 ページで <Subcomponent> 勘定科目 を選択し、「カテゴリ」 リストから 「KPI」 を選択します。
3. 次のタスクを実行します:
 - 少数の KPI を追加するには、「アクション」 メニューから 「追加」 を選択して、
 新しい行に詳細を入力します。「式の編集」  をクリックして、メトリックの式を入力します。
 - 一連の KPI を追加するには、事前定義済の KPI のセットをエクスポート(「アクション」 から 「エクスポート」 を選択)して、エクスポート・ファイル を Excel で変更します。事前定義済 KPI の編集や、KPI のコピー作成と変更を行って、新しい KPI を作成したり、新しい KPI を追加したりできます。その後、変更したファイル をインポート します(「アクション」 メニューから 「インポート」 を選択します)。
4. データベースをリフレッシュします。

プロジェクトと統合するための勘定科目の追加

財務とプロジェクトを統合するときに、財務に別の勘定科目を追加する場合、**OFS_Financials Integration** の下に共有メンバーを追加します。これにより、統合に使用される 「財務諸表勘定科目」 スマート・リストに勘定科目が表示されるようになります。

カスタム費用ドライバ・カテゴリの追加

財務で、ドライバ・ベースのプランニングを有効化した場合、提供された費用ドライバ・カテゴリ以外の追加の費用ドライバ・カテゴリが必要であれば、「構成」 ページでカスタム・カテゴリおよびドライバを追加できます。メンバーは、適切な階層の下および費用ドライバ・フォームに自動的に追加されます。

カスタム費用ドライバ・カテゴリを追加するには:

1. 財務の「構成」ページで、「費用勘定科目」をクリックします。
2. 「アクション」メニューから、「カテゴリの追加」を選択します。
3. カテゴリ名を入力し、「OK」をクリックします。
入力した *CategoryName* が「カテゴリ」リストに追加されます。*CategoryName* および *Total <CategoryName>* が「コンポーネント」リストに追加されます。
4. ドライバを新しいカテゴリに追加するには、カテゴリを選択し、追加先のコンポーネント (*CategoryName* または *Total <CategoryName>*) を選択します。
キューブが正常にリフレッシュされるように、ドライバを新しいカテゴリの下に追加してください。ドライバを新しいカテゴリの下に追加することが、キューブを正常にリフレッシュするために必要です。
5. 「アクション」メニューから「追加」を選択し、新しい費用ドライバの詳細を入力して、「保存」をクリックします。
また、新しいカテゴリの費用ドライバを多数追加する場合は、「エクスポート」および「インポート」を使用することもできます。
6. データベースをリフレッシュします。

予算改訂および予算管理との統合の設定

関連リンク:

- [予算改訂および予算管理との統合について](#)
- [EPM Planning 財務と予算管理の統合の設定](#)
- [「予算の改訂」の有効化](#)
- [予算改訂の記述的情報の構成](#)
- [財務のディメンション・メンバーのインポート](#)
- [予算改訂のカスタム・スマート・リスト・エントリの作成](#)
- [接続の設定](#)
- [財務の予算改訂のルール](#)

予算改訂および予算管理との統合について

予算改訂により、プランナは EPM Planning 財務で承認済予算を改訂できます。Oracle ERP Cloud の予算管理モジュールと統合すると、現在の消費の表示、提案された予算変更がすでに消費済の予算を下回らないことの確認、および予算変更を更新して使用可能資金に影響を与えることができます。予算変更が引き当てられて承認されると、プランナは現在の承認済予算残高をドリルダウンして、予算管理で予算改訂詳細を表示できます。

予算管理がない場合でも、予算改訂を使用して予算改訂を作成および移入し、機能を拡張して他の ERP ソリューションと統合することで改訂を共有できます。

データ統合を使用して、EPM Planning 財務と予算管理の間で予算改訂の統合を推進します。データ統合で提供されるソリューションによって、EPM Planning 財務のお客様は、予算管理データ・モデルからターゲット・ディメンションにマップできるようになります。また、他のマッピングを必要に応じてビジネス要件に合うように適用するなどして、これらの統合を構成および拡張することもできます。

この統合により、完全なプランニングおよび改訂サイクルが、EPM Planning 財務と予算管理の間で統合されます:

- プランニングおよび予測プロセスを使用して EPM Planning 財務で当初予算を作成し、この当初予算を予算管理にプッシュします。
- 予算改訂を作成し、EPM Planning 財務内から採用済予算の残余予算をチェックして、提案している予算改訂が予算管理で設定された管理を満たしていることを確認します。
- EPM Planning 財務内から予算管理の残余予算を引き当てて、予算管理の予算残高を更新します。
- EPM Planning 財務の「現在の承認済予算」フォームの承認済予算から予算管理までセル・レベルでドリル・スルーして、残高を構成する予算改訂トランザクションを確認します。

予算管理の詳細は、[公共部門での財務の使用の Enterprise Performance Management](#) を参照してください。

統合の考慮事項

EPM Planning 財務と予算管理の統合の考慮事項:

- この機能を使用できるのは、Planning の財務モジュールが有効化されている次の Oracle Enterprise Performance Management Cloud のお客様です:
 - 財務が有効化されている従来の Enterprise Planning and Budgeting Cloud Services のお客様および Planning and Budgeting Cloud Service Plus One (PBCS +1) のお客様で、Essbase バージョンがハイブリッド Essbase をサポートするバージョンにアップグレードされ、ハイブリッド Essbase が有効化されている場合。
 - アプリケーション・タイプが「**モジュール**」の EPM Standard Cloud および EPM Enterprise Cloud のお客様で、ハイブリッド Essbase が有効化されている場合。
- 「**予算の改訂**」は、EPM Planning 財務モジュールで使用できます。

他の EPM Planning モジュール(要員、プロジェクトまたは資本)に詳細データがある場合は、データを予算管理と統合する前に、このデータを EPM Planning の財務にプルする必要があります。

- メンバーは、EPM Planning の財務と予算管理の間で一致する必要があります(ただし、データ統合で接頭辞および接尾辞を指定できます)。データ統合では、EPM Planning 財務と予算管理の間でディメンションをマップできます。
- 提供されている勘定体系を使用するのではなく、EPM Planning 財務で独自の勘定体系を使用する必要があります。[財務の勘定体系について](#)を参照してください。これにより、ディメンションが一致するように、予算管理から既存の勘定科目構造を取り込むことができます。
- 月次、四半期および年次のプランニングのみがサポートされています。12 か月と 13 期間の両方のカレンダーがサポートされています。週次プランニングはサポートされていません。
- 開始する前に、Oracle ERP Cloud の予算管理モジュールを有効にする必要があります。

- EPM Planning 財務の通貨が予算管理の通貨と一致する必要があります。単一通貨のアプリケーションのみがサポートされています。
- 予算管理では、この統合に、ソース予算タイプが「EPM Financials モジュール」(「Hyperion Planning」ではない)の新しい管理予算が必要です。通貨、カレンダーおよび予算のセグメントは、元帳と一致している必要があります。将来のリリースでは、ソース予算タイプが「その他」または「Hyperion Planning」の既存の管理予算を「EPM Financials モジュール」ソース予算タイプに変更できます。
- 予算の同期エラーを回避するために、EPM Planning 財務で予算管理の管理予算と同じ名前の予算シナリオを作成します。
- EPM Planning 財務の予算を、最下位レベルの詳細勘定科目およびカレンダーを使用して管理予算にロードします。要約管理予算を使用して、要約勘定および期間で管理します。

統合のワークフロー

EPM Planning 財務と予算管理の統合では次のワークフローを使用します:

1. 統合を設定します(1回かぎりの管理者タスク)。EPM Planning 財務と予算管理の統合の設定を参照してください。
2. プランナはプランニングおよび予測サイクルを開始します。プランニングおよび予測が完了したら、データ管理を使用して予算データを予算管理にプッシュします。EPM Cloud の予算残高を予算管理にライトバックするプロセスの説明を参照してください。
これが**当初予算**になります。
3. 予算改訂プロセスを開始する準備ができたなら、「改訂の準備」ルールを実行します。このルールを実行すると、**当初予算**のデータが EPM Planning 財務の**採用済予算**にコピーされます。
通常、このルールは予算プロセスで毎年実行されます。
採用済予算が改訂プロセスの出発点になります。
4. 予算改訂を作成して移入します。改訂は、バージョン・シナリオの改訂 *N* の「OEP_Net Current Budget」に保存されます。
5. 直接入力またはトレンド・ベースの改訂を使用して、予算改訂を入力します。
6. 予算改訂を分析します。
7. 残余予算をチェックします。このアクションは、予算管理を呼び出して残余予算をチェックし、提案している予算改訂の変更が予算管理で設定された管理を満たしていることを検証します。
8. 別のプランナが予算改訂プロセスに寄与する必要がある場合は、改訂を共有します。
9. 必要に応じて、Planning の承認プロセスを実行します。
10. 残余予算を引き当てます。これにより、予算管理の管理予算に残余予算が引き当てられます。また、このアクションにより、改訂が承認されてクリアされます。

EPM Planning 財務では、改訂のデータの差分が採用済予算シナリオの作業バージョンにプッシュされ、現在の純予算に反映されます。

データは、親メンバー「OFS_Total Expenses」、「OFS_Total Revenue」および「OFS_Balance Sheet」のレベル・ゼロ・メンバーから予算管理に送信されます。

EPM Planning 財務と予算管理の統合の設定

前提条件:

- 予算管理が Oracle ERP Cloud で有効です。公共部門での財務の使用の[予算管理](#)を参照してください。
- Planning モジュール・タイプのアプリケーションをすでに作成しています。[アプリケーションの作成](#)を参照してください。
既存の Planning モジュール・タイプのアプリケーションがある場合は、追加で「**予算の改訂**」を有効にできます。「**予算の改訂**」では、アプリケーションが単一通貨であり、「ハイブリッド」が有効になっている必要があることに注意してください。
[予算管理での既存の EPM Planning アプリケーションの使用](#)を参照してください。

次のタスクを実行して、「**予算の改訂**」を有効にし、EPM Planning 財務と予算管理の統合を設定します。

1. EPM Planning 財務および「**予算の改訂**」オプションを有効にします。ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。「**構成**」リストから「**財務**」を選択し、「**機能を使用可能にする**」をクリックします。「**予算の改訂**」の[有効化](#)を参照してください。


既存の EPM Planning 財務アプリケーションがある場合は、追加で「**予算の改訂**」を有効にできます。[予算管理での既存の EPM Planning アプリケーションの使用](#)を参照してください。

2. EPM Planning 財務および「**予算の改訂**」を構成します。ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。「**構成**」リストで「**財務**」を選択します。

次のタスクを実行します:

- **予算改訂の記述的情報**。[予算改訂の記述的情報の構成](#)を参照してください。
 - プラン(予算サイクル)、予測および採用済予算(改訂サイクル)の時間枠および粒度を設定する「**プランニングと予測の準備**」。それぞれのサイクルは異なる場合があります。[財務プランニングと予測の準備](#)を参照してください。
 - 他の財務の構成オプションの詳細は、[財務の構成](#)を参照してください。
3. 財務のディメンション・メンバーをインポートして、予算改訂関連メタデータを設定します。[財務のディメンション・メンバーのインポート](#)を参照してください。
 4. 必要に応じて、実績データをインポートし、EPM Planning 財務モジュールで予算策定プロセスを開始します。
 5. 必要に応じて、「**予算管理から残高をインポート**」を有効にした場合は、予算管理からシナリオ・ディメンションの「**OEP_Consumed**」に予算引当データをロードします。このメンバーを使用して、予算管理から EPM Planning 財務に予算引当残高、債務負担残高または取引約定残高をインポートできます。データ管理を使用して、これらすべての残高を合計し、この単一メンバーに取り込みます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* **データ管理の管理**の予算管理の予算消費残高を EPM Cloud にロードするプロセスの説明を参照してください。
 6. 提供されたスマート・リストを更新して、管理予算名を追加します。プランナは、改訂を作成するときにスマート・リストから管理予算を選択します。[予算改訂のカスタム・スマート・リスト・エントリの作成](#)を参照してください。

7. **(オプション)**承認プロセスを設定します。既存の承認階層がある場合は、それを使用できます。2つのディメンション(エンティティや製品など)で承認できます。*Planning* の管理の承認の管理を参照してください。各改訂の承認ユニット階層のシナリオとバージョンの組合せを設定します。承認ユニット階層のシナリオとバージョンの組合せの割当てを参照してください。
8. EPM Planning 財務のルールおよび他のアーティファクトへのアクセス権を割り当てます。

 **ヒント:**

ほとんどのアーティファクトの場合、ナビゲータからアクセスできます。Groovy テンプレートの場合、「**ルール**」からのアクセス権を割り当てます。ルールの詳細は、[財務の予算改訂のルール](#)を参照してください。

9. 予算管理で次のタスクを実行します。
 - a. ソース予算タイプが「**EPM Financials モジュール**」(「**Hyperion Planning**」ではない)の1つ以上の管理予算を作成します。

 **ノート:**

タイプが「**Hyperion Planning**」の既存の管理予算は、「**予算の改訂**」機能では動作しません。

- b. **(オプション)**追加の予算明細属性を追加します。
 - c. **(オプション)**ヘッダー行にフィールドを追加する場合は、付加フレックスフィールドを構成します。

 **ヒント:**

「**付加フレックスフィールドの管理**」の「**フレックスフィールド・コード**」ボックスに **XCC** と入力して、付加フレックスフィールド定義を検索します。

[財務およびプロジェクト・ポートフォリオ管理の共通機能の実装の付加フレックスフィールドの概要](#)を参照してください。

10. データ統合で、追加に必要な設定タスクを実行します。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* データ統合の管理の[予算改訂と予算管理の統合](#)を参照してください。

 **ノート:**

追加の管理予算を作成する場合は、データ統合でソースを再初期化し、追加のターゲットを作成して、接続を更新する必要があります。

11. 環境を接続するための接続を設定します。[接続の設定](#)を参照してください。

12. オプションで、Oracle EPM Cloud 環境と Oracle Fusion Cloud 環境間のシングル・サインオンを構成して、プランナが EPM Planning 財務から予算管理にドリル・スルーできるようにします。Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドのシングル・サインオンの構成を参照してください。シングル・サインオンを有効にしない場合、プランナは作業にドリル・スルーするために予算管理にログインする必要があります。
13. プランナはプランニングおよび予測サイクルを開始します。プランニングおよび予測が完了したら、データ管理を使用して予算データを予算管理にプッシュします。Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理の EPM Cloud の予算残高を予算管理にライトバックするプロセスの説明を参照してください。
これが**当初予算**になります。

この EPM との統合には、ソース予算タイプが「EPM Financials モジュール」(「Hyperion Planning」ではない)の新しい予算管理の管理予算が必要です。予算管理では、当初予算と予算改訂に同じ管理予算タイプを使用してください。

ノート:

プランナは、プランニングおよび予測サイクルを開始する前に、ユーザー変数を設定する必要があります。また、「表示」の「日付フォーマット」を「yyyy-MM-dd」に設定する必要があります。ユーザー・プリファレンスの設定の詳細は、[ユーザー変数の設定](#)を参照してください。

14. プランニングおよび予測が完了し、予算が予算管理にプッシュされた後、「改訂の準備」ルールを実行してデータを EPM Planning 財務の採用済予算にコピーします。[財務の予算改訂のルール](#)を参照してください。
 - このルールは、現在の年の改訂を開始する前に 1 回のみ実行します。
 - このルールは、選択したシナリオおよびバージョンを使用して、当初予算からデータをコピーします。通常、プラン・シナリオ(OEP_Plan)および作業バージョン(OEP_Working)を、選択した期間および年の採用済予算シナリオ(OEP_Adopted Budget)、当初バージョン(OEP_Original)および作業バージョン(OEP_Working)にコピーします。
 - このルールを実行すると、EPM Planning 財務から予算管理の管理予算へのドリル・スルーも可能になります。

ヒント:


接続 URL が変更されたか、新規管理予算を追加するためにパラメータを変更した場合は、「改訂の準備」を再実行して、ドリル領域を更新してください。

ヒント:




「改訂の管理」フォームの場合は、改訂する必要があるよりも多くのメンバーがフォームに表示される場合があります。有効な交差を作成して、フォームの表示を制限できます。

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的	方法の学習
このチュートリアルでは、Oracle Enterprise Performance Management (EPM) Planning 財務で予算改訂を設定し、それを Oracle Enterprise Resource Planning (ERP) Cloud 予算管理と統合する方法を示します。	 EPM Planning 財務の予算改訂と Oracle ERP Cloud 予算管理の設定

ビデオ

目的	視聴
元帳またはプロジェクトに対して予算管理を有効にし、EPM Planning 財務統合の管理予算を定義する方法を学習します。	 EPM 統合に対する Oracle ERP Cloud 予算管理の設定
Oracle ERP Cloud 予算管理統合の予算改訂の設定方法について学習します。タスクには、予算の改訂での財務の有効化、財務の構成タスクの実行、メタデータのインポート、管理予算名スマート・リストへのエントリの追加、およびルールへのアクセス権限の割当てが含まれます。	 Oracle ERP Cloud 予算管理統合の予算改訂の設定
Oracle EPM Planning 財務の予算改訂と Oracle ERP Cloud 予算管理統合の間のデータ統合要件の設定方法について学習します。タスクには、接続、データ・ソースおよびアプリケーションの登録が含まれます。	 予算改訂と予算管理の統合 PART 1
Oracle EPM Planning 財務の予算改訂と Oracle ERP Cloud 予算管理統合の間のデータ統合要件の設定方法について学習します。タスクには、統合の作成、ディメンションのマッピングとそのオプションの定義、および EPM 接続の作成が含まれます。	 予算改訂と予算管理の統合 PART 2

予算管理での既存の EPM Planning アプリケーションの使用

既存の EPM Planning モジュール・タイプのアプリケーションがある場合

財務が有効になっている既存の EPM Planning モジュール・タイプのアプリケーションがある場合は、追加で「**予算の改訂**」を有効にできます。

「**予算の改訂**」では、アプリケーションが単一通貨であり、「ハイブリッド」が有効になっている必要があることに注意してください。アプリケーションで「ハイブリッド」が有効になっていない場合は、「**予算の改訂**」を有効にする前に「ハイブリッド」を有効にする必要があります。

「**予算の改訂**」を追加で有効にする場合、および「**トレンド・ベースの計算**」ルールをカスタマイズした場合は、[財務アーティファクトの更新](#)を参照してください。

「予算の改訂」の有効化

「予算の改訂」を有効にする手順

1. ホームページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストから「財務」を選択し、「機能を使用可能にする」をクリックします。
3. 「予算の改訂」を選択し、EPM Planning 財務で承認済予算の予算改訂を作成する機能を有効にします。また、予算管理を有効にした場合は、追加オプションを使用できます。

ノート:

「予算の改訂」を有効にするには、「費用」も有効にする必要があります。有効化できる他の財務の機能の詳細は、[財務の機能の有効化](#)を参照してください。

提供されている勘定体系を使用するのではなく、EPM Planning 財務で独自の勘定体系を使用する必要があります。独自の勘定体系を使用するには、機能名の横のチェック・ボックスをクリックします(「勘定科目」または「ドライバと関連勘定科目」はクリックしないでください)。詳細は、[財務の勘定体系について](#)を参照してください。

「予算の改訂」のみを選択した場合、EPM Planning 財務は、予算改訂の実行に必要なメタデータを提供します。このオプションを使用すると、プランナは改訂を作成、移入および共有できます。

4. 追加オプションを選択して、予算管理との統合を有効にします。現在の消費の表示、提案された予算変更がすでに消費済の予算を下回らないことの確認、および予算変更を更新して使用可能資金に影響を与えることができます。予算変更が引き当てられて承認されると、現在の承認済予算残高をドリルダウンして、予算管理で予算改訂詳細を表示できます。

予算管理を有効にした場合は、必要に応じて追加オプションを選択します:

- **予算管理から残高をインポート**—予算引当会計の統合を有効にし、予算引当残高を追跡できるようにします。シナリオ・ディメンションの「OEP_Consumed」というシナリオ・メンバー、および予算を改訂するための関連トレンドを作成します。このオプションを使用して、予算管理からEPM Planning 財務に予算引当残高、債務負担残高または取引約定残高をインポートできます。
 - **予算管理の予算変更の更新**—予算管理に対する「残余予算引当」を有効にして、EPM Planning 財務内から予算管理で使用可能な予算残高および残余予算を更新します。
 - **予算変更を承認する前に予算管理の影響をレビュー**—予算が承認される前に、EPM Planning 財務内から予算管理に対する「残余予算チェック」を有効にします。
5. また、次のオプションを指定します。これは、予算管理との統合は必要ありません:

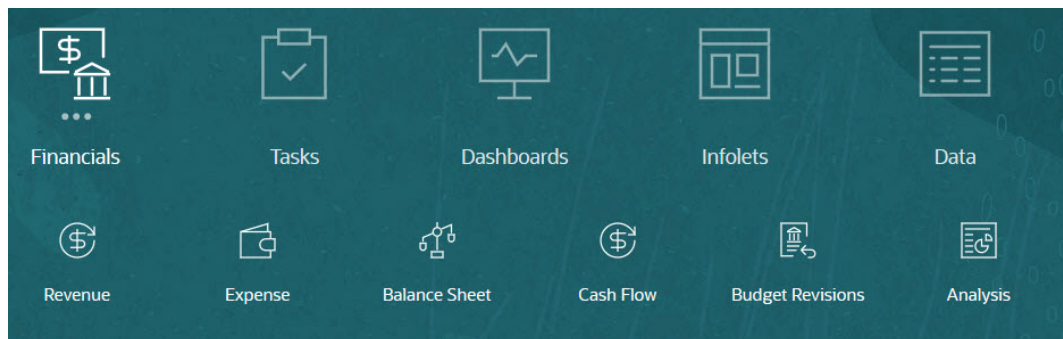
- **アクティブな改訂の数**—保持できるアクティブな予算改訂の数を指定します(最大 30 個のアクティブな改訂)。(この数は、バージョン・ディメンションの合計メンバー数によっても制限されます。)残余予算を引き当てると、EPM Planning 財務でこれを再利用できるように、改訂がクリアされることに注意してください。この数を増減する必要がある場合は、後で変更できます。
- **改訂番号の接頭辞**—システム生成の改訂番号に追加する接頭辞を指定しますこの改訂番号は、予算管理における改訂の一意の識別子です。

「予算の改訂」を有効にする際は、「**ディメンションのマッピング/名前変更**」で、カスタム・ディメンションを機能に関連付けて、そのディメンションの 1 つをエンティティ・ディメンションとともにフォームの表示のプライマリ・ディメンションにするかどうかを指定できます。[カスタム・ディメンションと財務の機能の関連付け](#)を参照してください。また、「**ディメンションのマッピング/名前変更**」を使用して、予算管理との統合に必要なディメンションの名前を変更します。

EPM Planning 財務で「予算の改訂」を有効化した場合に起こる内容

「予算の改訂」を有効化すると、次の変更が発生します:

- EPM Planning 財務に、予算改訂を作成するための新しいナビゲーション・フローが追加されます。



- 新しいフォームが追加されます。
- トレンド・ベースのプランニングに、現在の予算を調整するための新しいトレンドが追加されます。
 - 当期の実績
 - 今年の予算引当
 - 現在の純予算
 - 今年の承認済予算
 - 今年の当初予算
- 既存のフォームが更新され、予算の改訂メンバー、適切な承認済予算データ、実績データおよび予算引当データが含まれます。
- 有効な交差が追加され、フォームに表示される情報が適切な組合せになるように制限されます。
- メタデータがアプリケーションに追加されます。

- 勘定科目ディメンションが更新され、新しい階層「OFS_Revision Detail for Forms」が含まれます。
 - バージョン・ディメンションが更新され、「OEP_Revision Versions」、「OEP_Net Current Budget」および有効にした各バージョンに関連付けられているメンバーが含まれます。
 - シナリオ・ディメンションが更新され、「OEP_Adopted Budget」が含まれます。また、「予算管理から残高をインポート」を有効にした場合は、「OEP_Consumed」が含まれます。
- スマート・リスト(管理予算名)が作成されます。
 - 「接続」に、新しい接続タイプ「Fusion Budgetary Control」が追加されます。
 - ルールが追加されます。[財務の予算改訂のルール](#)を参照してください。

予算改訂の記述的情報の構成

「予算改訂の記述的情報」を使用して、「予算の改訂」のカスタム・フィールドを作成します。これらのフィールドは「予算の改訂」フォームに追加されるため、ユーザーは改訂の詳細を追加できます。この構成タスクを使用してメタデータを追加すると、メンバーが勘定科目ディメンション階層の正しい場所に追加されます。

1. ホームページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストで「財務」を選択します。
3. 「予算改訂の記述的情報」をクリックします。
4. コンポーネントを選択し、「アクション」メニューから「インポート」または「バッチ・インポート」を選択して、ファイルからメタデータをインポートします。
 - ヘッダーの記述的な詳細—デフォルトでは、「ヘッダー・ノート」および「ヘッダー添付 URL」が含まれています
 - 行の記述的な詳細—デフォルトでは、「行ノート」および「行添付 URL」が含まれています
5. 摘要情報に別のメンバーを追加するには、「アクション」メニューから「追加」を選択し、新しい行に詳細を入力します。

ノート:

- カスタム・フィールドを追加する場合は、データベースをリフレッシュする必要があります。
- 「理由」および「ヘッダー摘要」はヘッダーの一部であり、必須フィールドです。
- これらのフィールドを有効にする場合は、データ統合で設定を完了した後、これらのフィールドをデータ統合の予算管理フィールドにマップする必要があります。[カスタム予算改訂属性のマッピング](#)を参照してください。

財務のディメンション・メンバーのインポート



必要に応じて、財務ディメンションのディメンション・メンバーをインポートします。予算管理と統合している場合は、データ管理を使用してディメンション・メンバーを財務にマップできます。

ノート:

「予算の改訂」を追加で有効化する場合、データ管理を使用して財務の既存のディメンションと予算管理のディメンションをマップする必要があります。

予算改訂のカスタム・スマート・リスト・エントリの作成

「予算の改訂」を有効化すると、スマート・リスト(管理予算名)が作成されます。スマート・リストのエントリを追加して、統合する各管理予算を定義します。これにより、ユーザーが特定の管理予算の予算改訂を作成できるオプションがユーザー・インターフェースに表示されます。

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「作成および管理」で、「スマート・リスト」をクリックします。
2. 「管理予算名」をクリックして、 をクリックします。
3. 「エントリ」タブをクリックし、各管理予算のエントリを追加して、「保存」をクリックします。
「ラベル」の値は、管理予算名と一致する必要があります。

詳細は、スマート・リストの管理を参照してください。

接続の設定

EPM Planning 財務とデータ管理の間の接続、および EPM Planning 財務と予算管理の間の接続を作成します

1. ホーム・ページで、「ツール」、「接続」の順にクリックします。
2. 「作成」をクリックして、「Fusion Budgetary Control」をクリックします。
3. 接続ごとに URL、ユーザー名およびパスワードを入力して、次の接続を作成します。
 - **EPMXCCDMINTEGRATION**。データ管理への接続を作成し、データ管理ジョブを呼び出します。各管理予算のパラメータを追加します。
 - URL の形式: `https://EPM Service connection Name/aif/rest`。これは、「予算の改訂」を有効にしたローカル・ホストです
 - 「ユーザー」と「パスワード」: EPM サービス管理者のユーザー名 (`domain.userName` の形式)およびパスワード。Oracle Cloud Infrastructure 環境では、`domain` を省略できます。
 - 詳細設定オプション: データ統合および管理予算で使用される統合名の各組合せをリンクさせるパラメータを追加します。「名前」には、管理予算名を入力します。「値」には、統合名を入力します。

- **EPMXCCFUNDS**。ERP システムで予算改訂を検証する資金チェックのため、および残余予算引当のために、予算管理への接続を設定します。
 - URL の形式: `https://ERP Service Connection Name/fscmRestApi/resources/11.13.18.05/budgetaryControlBudgetTransactions`
 - 「ユーザー」および「パスワード」: 予算管理のためのユーザー名およびパスワード。
「ユーザー」には、予算管理者として割り当てられており、統合する予算管理予算へのアクセス権を持っているユーザーの名前を入力します。
- **EPMXCCVFR**。ERP システムの予算管理の結果を表示するために、予算管理への接続を設定します。
 - URL の形式: `https://ERP Service Connection/fscmRestApi/resources/11.13.18.05/budgetaryControlResultsBudgetTransactions`
 - 「ユーザー」および「パスワード」: 予算管理のためのユーザー名およびパスワード。
「ユーザー」には、予算管理者として割り当てられており、統合する予算管理予算へのアクセス権を持っているユーザーの名前を入力します。

 ヒント:

接続 URL が変更されたか、新規管理予算を追加するためにパラメータを変更した場合は、「改訂の準備」を再実行して、ドリル領域を更新してください。

詳細は、EPM Cloud の環境の接続を参照してください。

財務の予算改訂のルール

財務には、予算改訂のデータを計算してプッシュするルールが含まれています。

財務の他のルールの詳細は、[財務のルール](#)を参照してください。

ルールおよび Groovy テンプレートのセキュリティを設定して、ユーザーに必要なルールへのアクセス権を付与します。

1. 「ホーム」 ページで、「ルール」、「フィルタ」の順にクリックし、キューブおよびアーティファクト・タイプを選択します。
2. ルールまたはテンプレートの横の「権限」をクリックし、「権限の割当」をクリックします。
3. 「権限の割当」で、「権限」をクリックし、権限を割り当てます。
詳細は、ルール・セキュリティの管理を参照してください。

表 5-4 財務の予算改訂のルール

ルール	説明
改訂の準備	<p>プランニングおよび予測が完了し、予算が予算管理にプッシュされた後、このルールを実行して当初予算のデータを EPM Planning 財務の採用済予算にコピーします。</p> <p>このルールは、現在の年の改訂を開始する前に 1 回のみ実行します。</p> <p>このルールは、選択したシナリオおよびバージョンを使用して、当初予算からデータをコピーします。通常、プラン・シナリオ(OEP_Plan)および作業バージョン(OEP_Working)を、選択した期間および年の採用済予算シナリオ(OEP_Adopted Budget)、当初バージョン(OEP_Original)および作業バージョン(OEP_Working)にコピーします。</p> <p>このルールを実行すると、EPM Planning 財務から予算管理の管理予算へのドリル・スルーも可能になります。</p>
改訂の作成および移入	<p>「改訂の準備」を実行した後、改訂ヘッダーを作成し、必要に応じて現在の承認済金額の割合を移入します。</p>
改訂の共有	<p>改訂を他のプランナと共有して、改訂サイクルに寄与します。</p>
資金チェック	<p>予算管理を呼び出して残余予算をチェックし、予算改訂が予算管理で設定された管理を満たしていることを検証します。</p>
予算引当	<p>予算改訂の準備ができると残余予算チェックに成功し、承認プロセスを使用している場合は必要に応じて予算改訂が承認され、改訂に関連付けられた予算管理の管理予算に残余予算を引き当てます。</p> <p>予算改訂は予算管理にプッシュされ、予算管理の残余予算引当プロセスが呼び出され、更新されたセル値に残余予算が引き当てられます。</p> <p>改訂もクリアします。</p>
改訂のクリア	<p>残余予算の引当を続行しない場合は、手動で改訂をクリアします。</p>
資金の結果の取得	<p>「残余予算チェック」ルールを実行するときに、チェック対象のセルが多数あり、すぐに結果が表示されない場合は、「資金の取得結果」を実行して、バッチ・ジョブがいつ完了したかを確認して結果をレビューします。</p>

構成後のタスク

ドライバ・ベースの貸借対照表の期間中の日数の指定

「貸借対照表」、「ドライバ・ベース」、「期間中の日数」の順にクリックし、各収集期間の日数を入力します。

別のレポート方法の勘定科目符号の変更

収益/資産を正のデータとして、費用/負債を負の値としてレポートする場合、ディメンション・エディタを使用して、メンバーを次のように変更します:

- 「勘定科目」ディメンションのメンバーの「勘定科目タイプ」および「差異レポート」オプションを編集します。
- 財務キューブ(OEP_FS)のディメンションのメンバーの集計演算子を編集します。

財務のルール

ルールを実行して、アプリケーションの値を計算します。ホームページで「ルール」をクリックします。

ヒント:

財務ルールのみを表示するには、「フィルタ」の横の「すべてのキューブ」をクリックし、「キューブ」リストで「OEP_FS」を選択します。

財務のルール:

- **バッチ・トレンド・ベースの計算** - 特定の年の複数のエンティティにわたる複数の勘定科目のトレンドおよび増加率または減少率を計算します。
 - 任意のトレンド・タイプに対して、一度に1年についてのみ「バッチ・トレンド・ベースの計算」ルールを実行します。一度に複数の年について実行しないでください。
 - 「バッチ・トレンド・ベースの計算」ルールでは、その年のプランニング/予測範囲に基づいて計算されます。特定の年のプランニング基準が週次であり、特定のエンティティが週次プランニングから除外されている場合、ルールを実行すると、トレンドおよびオプションの増加率または減少率はそれらのエンティティに対して計算されません。
- **実績の計算** - ドライバが計算され、データが集計されます。このルールを実行すると、確実に最新の数字および計算を操作できます。
- **キャッシュ・フローの計算** - 「直接法キャッシュ・フロー」のみで使用されます。ソースに基づいて現金が計算され、現金が使用されます。

- 予測の準備** - 選択された実績結果の月が予測シナリオにコピーされ、実績結果の新しい期間に基づいてドライバおよびトレンドが再計算されます。また、このルールは、新しい年にロールオーバーするときに予測の開始点として使用できます。

実績を予測にコピーする前に、ルールはまず、前の予測バージョンをクリアしてデータをコピーし、予測シナリオ作業バージョンをクリアし、実績を予測にコピーして再計算します。
- 計画の準備** - アプリケーションで設定されたトレンドとドライバに基づいて、プランが計算されます。これは、プランを作成または更新する場合にも使用できますし、新しい年にロールオーバーする際の開始点としても使用できます。
- ローリング予測の準備** - 「予測の準備」と同様に、「ローリング予測」機能が有効になっているときに使用します。
- トレンド・ベースの計算/トレンド・ベースのローリング計算** - ルールは、選択したトレンドに基づいて勘定科目を計算するドライバおよびトレンド・フォームに対して保存時に実行されます。**トレンド・ベースのローリング計算**は、「ローリング予測」が有効になっているときのみ使用可能です。
- ロールアップ** - 任意のシナリオ(実績、計画、予測またはローリング予測)で、値をロールアップします。このルールは、値をディメンション階層の一番上に表示する場合に実行します。
- プロジェクト統合データのロールアップ/プロジェクト統合データのクリア** - 財務をプロジェクトと統合するときに使用します。財務とプロジェクトの統合は、プロジェクトから集約レベルのデータを移動するように設計されています。プロジェクト・レベルのデータを表示する場合は、ルールをカスタマイズできます。

「**予算の改訂**」を有効にすると追加される追加ルールについては、[財務の予算改訂のルール](#)を参照してください。

 **ノート:**

一部のルールは財務向けにカスタマイズされていて変更できないため、これらのルールは **Calculation Manager** に表示されません。

6

要員の構成

次も参照:

- [要員の機能の有効化](#)
ユーザーが要員のプランニングを開始するためには、使用する要員機能を前もって有効化します。
- [要員の構成](#)
要員の機能を有効化した後で次の構成タスクを実行します。
- [構成後のタスク](#)
- [要員のルール](#)
要員のビジネス・ルールは、ここに記載されている状況で実行します。

要員の機能の有効化

ユーザーが要員のプランニングを開始するためには、使用する要員機能を前もって有効化します。

選択内容に基づいて、ディメンション、ドライバ、フォームおよび勘定科目が移入されます。ほとんどの場合、後から戻って、他の機能を有効化することができます。ただし、次の例外に注意してください:


- 「**従業員デモグラフィクス**」を使用する場合は、初めて機能を有効にするときに選択する必要があります。
- アプリケーションに含めるディメンションは、「**ディメンションのマップ/名前変更**」を使用して最初に有効化するときすべてを有効化し、名前を変更する必要があります。

ヒント:

会社が組合コードを使用しない場合は、「組合コード」ディメンションの名前を、ビジネスにとって意味のある名前に変更できます。これは、初めて機能を有効にするときに行う必要があります。

一度有効化した機能を後から無効化することはできません。

表 6-1 ビデオ

目的	視聴するビデオ
要員の有効化および構成について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud での要員プランニングの構成



1. ホームページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストで「要員」を選択してから「機能を使用可能にする」をクリックします。
有効化する機能を選択します。特記しないかぎり、後から戻って追加の機能を有効化することができます。現在使用する必要がある機能のみを有効化してください。

表 6-2 要員の機能の有効化

機能	説明
粒度	<p>管理する要員の詳細レベルを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 従業員 - 従業員レベルのみで要員費用を管理します。 • ジョブ - ジョブ・レベルのみでジョブ要員費用を管理します。 • 従業員とジョブ - 従業員とジョブの両方で要員費用を管理します。 <p>粒度のレベルは選択する必要があります。</p>

 **ノート:**

プロジェクトとの統合: 稼働率機能は、プロジェクトとの統合に加えて、要員での「従業員」モデルまたは**ジョブと従業員**モデルに対する依存関係を持ちます。稼働率を有効にするには、「有効化」ページの「粒度」で、「従業員」または「従業員とジョブ」のいずれかを選択します。また、**プロジェクトへの要員の統合**も選択します。

費用プランニング

さらに学習するには、次を参照してください [取得する要員詳細レベルの指定](#)

管理する要員関連の費用を選択します

さらに学習するには、次を参照してください [費用プランニングの有効化](#)

表 6-2 (続き) 要員の機能の有効化

機能	説明
フレキシブル勘定科目マッピング	要員および財務勘定科目のマッピングをより柔軟に行うため、「 フレキシブル勘定科目マッピング 」を有効にします。 さらに学習するには、次を参照してください フレキシブル勘定科目マッピングの有効化

表 6-2 (続き) 要員の機能の有効化

機能	説明
人数プランニング	<p>管理する人数関連の詳細を選択します。「人数プランニング」のオプション:</p> <p>従業員デモグラフィクス - 退役軍人ステータス、性別、年齢層などの従業員属性を分析する場合に選択します。「従業員デモグラフィクス」を使用する場合は、初めて機能を有効にするときに選択する必要があります。</p>

 **ノート:**

2022 年 10 月更新から、**「Strategic Workforce Planning」** オプションが**「機能を**
使用可能にする」から削除されました。2022 年 10 月更新より前に**「Strategic Workforce Planning」**を有効にしている場合、選択したオプションは引き続き表示されます。Strategic Workforce Planning の機能は Strategic Workforce Planning 製品で提供され、これには既存の Planning の「要員」モジュール機能では使用できない堅牢な戦略要員機能が含まれています。Strategic Workforce Planning は、EPM テクノロジーで構築された Oracle Human Capital Management (HCM) 製品です。Strategic Workforce

表 6-2 (続き) 要員の機能の有効化

機能	説明
<p>要員管理</p> <p>ディメンションのマップ/名前変更</p>	<div data-bbox="1084 373 1383 632" style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; background-color: #E6F2FF;"> <p>Planning の詳細は、https://www.oracle.com で Strategic Workforce Planning の情報を参照してください。</p> </div> <p>従業員またはジョブの採用、雇用終了および別の部署への異動に基づいて費用をプランニングする場合や、複数のディメンションで FTE を分割する場合に選択します。</p> <p>さらに学習するには、次を参照してください 要員管理の有効化</p> <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションで最大 3 個のカスタム・ディメンションを使用できます。 カスタム・ディメンションを既存のディメンションにマップします。 基本ディメンションの名前を変更します。 <p>このステップは、最初に要員を有効化するときに行う必要があります。</p> <p>たとえば、最初のパスで、最上位レベルの「人数プランニング」チェック・ボックスを選択し、その下のオプション(「従業員デモグラフィクス」など)は選択しません。後から、「従業員デモグラフィクス」を有効にします。それに関連するディメンション「年齢層」、「性別」および最終学歴を名前変更することはできません。</p> <p>要員をプロジェクトと統合する場合、「プロジェクト」という名前(プロジェクトでのデフォルト・ディメンション名)のカスタム・ディメンションを追加します。他の名前を付ける場合は、すべてのモジュールで同じディメンション名になるようにしてください。</p> <p>一部のディメンションでは、それらをレポート・キューブ(OEP_REP)に追加するかどうかを選択できます。レポート・キューブへのカスタム・ディメンションの追加を参照してください。</p>

取得する要員詳細レベルの指定

組織のプランニング・ニーズを反映するように要員を強化できます。

必要な粒度を判断するには:

表 6-3 粒度レベルの概要

オプション	説明
従業員	<p>「従業員」を選択すると、組織の従業員が格納される「従業員」ディメンションが追加されます。給与や関連する報酬の計算は、既存の従業員に対して実行することも、新規採用をプランニングする際に実行することもできます。既存の従業員は、PeopleSoftなどの人事システムからインポートされていると予想されます。このオプションを選択した場合は、「支払タイプ」(「控除」または「非控除」など)と「従業員タイプ」(「常勤」、「契約社員」および「臨時」)のデフォルトを設定する必要があります。または、この情報を使用しない場合は、null (No <member name>)に設定します。デフォルトの設定を参照してください。</p>
ジョブ	<p>「ジョブ」を選択すると、従業員に割り当てられた役割を格納する「ジョブ」ディメンションが追加されます。ジョブの例: エンジニア、ソフトウェア開発者、整備士。このオプションを選択した場合は、「支払タイプ」と「スキル・セット」にデフォルトを設定する必要があります。または、この情報を使用しない場合は、null (No <member name>)に設定します。デフォルトの設定を参照してください。</p>

表 6-3 (続き) 粒度レベルの概要

オプション	説明
従業員とジョブ	<p>このオプションでは、「ジョブ」ディメンションは、組織内の役割の分析を容易にする、また、新規採用要求を追跡し、役割別に従業員を識別するために、「従業員」ディメンションとともに使用されます。</p> <p>このオプションを選択した場合は、「ジョブ」と「組合コード」にデフォルトを割り当てる必要があります。デフォルトの設定を参照してください。</p> <p>「組合コード」を追跡しない場合は、要員を有効にすると、「ディメンションのマップ/名前変更」を使用して、「組合コード」をビジネスに役立つ名前に変更することができます。要員を有効にするときに組合コードの名前を変更する場合でも、名前変更したディメンションのデフォルトを割り当てる必要があります。</p>

 **ノート:**

要員を有効にするときに組合コードの名前を変更する場合でも、名前変更したディメンションのデフォルトを割り当てる必要があります。

「**ディメンションのマップ/名前変更**」で、「**従業員**」、「**ジョブ**」または「**従業員とジョブ**」の名前を変更できます。

費用プランニングの有効化

「**費用プランニング**」を選択し、管理する要員関連の費用を選択します。

報酬費用

「**費用プランニング**」を選択すると、デフォルトで「**報酬費用**」(給与プランニングを含む)も選択されます。また、選択した粒度レベルごとに、「**追加所得**」、「**福利厚生**」、「**税金**」および「**非報酬費用**」を有効化することもできます。

「**追加所得**」、「**福利厚生**」および「**税金**」に対しては、オプションを選択して有効化し、作成するメンバーの数を選択します。(デフォルトでは、有効化した各オプションに対して最小1つのメンバーが選択されます。)「**追加所得**」、「**福利厚生**」および「**税金**」の全体で、最大30のメンバーを構成できます。

従業員またはジョブが受け取れる最大のコンポーネント数に基づいて、「追加所得」、「福利厚生」および「税金」を構成します。「追加所得」、「福利厚生」および「税金」の数を、将来ではなく現在のニーズに基づいて設定します。これらの値は後からでも変更できます。

たとえば、従業員 1 が 3 つの追加所得、3 つの福利厚生および 2 つの税金を受け取り、従業員 2 が 5 つの追加所得、2 つの福利厚生および 4 つの税金を受け取る場合、追加所得、福利厚生および税金の数の構成として、5 つの追加所得、3 つの福利厚生および 4 つの税金を設定する必要があります。

報酬費用 について:

- オラクルでは、「追加所得」、「福利厚生」および「税金」メンバーの別名を指定しないことをお薦めしています。これらのメンバーはプレースホルダであり、デフォルトをエンティティに割り当てるときに使用されます。
- 「追加所得」、「福利厚生」または「税金」の数を減らした場合、対応するメンバーが「勘定科目」ディメンションから削除されます。コンポーネントおよびそれに割り当てられている費用を削除する前に、スナップショットを作成してバックアップしてください。また、フォーム、メンバー式またはビジネス・ルール(メンバーが参照されているもの)上の削除されたメンバーについて、関連するカスタマイズがある場合は、それらをレビューして必要に応じて修正します。要員では、カスタマイズされたアーティファクト(フォームやメンバー式など)内で参照されているメンバーは削除されません。
- 「追加所得」、「福利厚生」または「税金」の数を増やすと、メンバーが追加され、デフォルトが新しいメンバーに割り当てられ、「**デフォルトの同期**」が実行されて報酬費用が再計算されます。
- 「追加所得」、「福利厚生」または「税金」の数を減らすと、メンバーが削除され、「**定義の同期**」が実行されて報酬費用が再計算されます。
- 「追加所得」、「福利厚生」または「税金」の数を減らした場合、階層の最下位からライン・アイテムが削除されます。たとえば、「追加所得」に 10 のメンバーがある状況で数を 5 に減らすと、「所得 6」から「所得 10」が削除されます。

その他のオプション

「**功績ベースのプランニング**」を使用すると、従業員の功績レートを指定できます。「従業員」または「従業員とジョブ」のいずれかに粒度を有効にした場合のみ、「功績ベースのプランニング」を選択できます。

功績ベースのプランニング について:

- 「功績ベースのプランニング」のみを選択した場合(「功績仮定」を選択しなかった場合)、功績レートはエンティティ・レベルで設定されます。「功績ベースのプランニング」を使用するには、「功績月」および「パフォーマンス評点」を入力する必要があります。
- 18.04 から、「デフォルト・レート」が提供されるようになり、ビジネス・ニーズに応じた「パフォーマンス評点」を入力する必要がなくなりました。各従業員の「功績月」のみを入力する必要があります。
- 新規採用の功績は、デフォルトの功績レートに基づいて計算されます。
- ユーザー入力のパフォーマンス評点を使用する「功績ベースのプランニング」は、既存の従業員にのみ使用できます。
- 必要に応じて、「功績仮定」を有効にする場合、プランニングするレベルを指定できます: 「グローバル」または「エンティティ 当たり」。「功績仮定」を選択すると、

既存の従業員の「功績レート」、「功績月」および「カットオフ日」の功績仮定を設定する追加オプションも有効になります。[仮定の設定](#)を参照してください。

- 「功績仮定」を選択した場合、「グローバル」または「エンティティ当たり」の選択は、功績レート、功績月およびカットオフ日を含むすべての功績ベースの仮定に適用されます。選択したレベルに功績レートをロードしたことを確認します。
- 「功績仮定」を追加で有効にできます。

 **Note:**

新規採用の功績をプランニングするには、「功績ベースのプランニング」を選択します。「功績仮定」も選択し、グローバルまたはエンティティ 当たりレベルでプランニングすることをお勧めします。さらに、「要員管理」、「新規採用」および「新規採用の功績ベースのプランニング」を選択します。詳細は、[要員管理の有効化](#)を参照してください。

フレキシブル勘定科目マッピングの有効化

要員勘定科目対財務勘定科目のマッピングをより柔軟に行うため、「フレキシブル勘定科目マッピング」を有効にします。

要員では、デフォルトで、「定義の同期」または「デフォルトの同期」ルール of the いくつかを実行すると、基本給与と功績の両方が財務の **OFS_Salaries** にマップされます。

このデフォルトの統合に使用するデータ・マップの詳細は、[ビジネス・プロセスを統合するためのデータのプッシュ](#)を参照してください。

「フレキシブル勘定科目マッピング」を有効にすると、要員の給与および功績データを財務の任意の勘定科目にマップできます。給与および功績を同じ勘定科目にマップしたり、異なる勘定科目にマップできます。通常、提供された勘定体系を使用するのではなく、財務で独自の勘定体系を使用する場合、「フレキシブル勘定科目マッピング」を有効にしますが、これは必須ではありません。独自の勘定体系の使用の詳細は、[財務の勘定体系について](#)を参照してください。

「フレキシブル勘定科目マッピング」を追加で有効にできます。

この機能を有効にするために、財務および財務の「費用」プランニング・オプションを有効にする必要があります。

マッピング・レベル - 「グローバル」レベル(すべてのエンティティに同じマッピング)または「エンティティ」レベルのどちらでマッピングを実行する必要があるかを指定します。

マッピング・ドライバ - マッピング・ドライバがアプリケーションの「等級」または「デフォルト」のどちらに基づく必要があるかを指定します。「デフォルト」を選択した場合、デフォルト・ドライバ間でマッピングを変化させることができます。たとえば、「粒度」が「従業員とジョブ」の場合、「ジョブ」および「組合コード」間でマッピングを変化させることができます。

デフォルトの場合:

- 粒度が「従業員とジョブ」の場合、デフォルトは「ジョブ」または「組合コード」です。
- 粒度が「従業員」の場合、デフォルトは「従業員タイプ」または「支払タイプ」です。
- 粒度が「ジョブ」の場合、デフォルトは「支払タイプ」または「スキル・セット」です。

機能を有効にした後、要員の給与および功績勘定科目を財務の勘定科目にマップします。要員と財務の統合のマッピングのカスタマイズを参照してください。

提供されたデータ・マップを使用して要員から財務にデータをプッシュします。ビジネス・プロセスを統合するためのデータのプッシュを参照してください。

要員管理の有効化

「**要員管理**」を選択し、必要なオプションを選択して、従業員またはジョブの採用、雇用終了および別の部署への異動に基づいて費用をプランニングしたり、複数のディメンションで FTE を分割します。

「**要員管理**」のオプション:

- **新規採用** - 新規採用および費用への影響をプランニングできます。
- **新規採用の功績ベースのプランニング** - 新規採用の功績をプランニングできます。このオプションを有効にするには、「**費用プランニング追加オプション**」の「**功績ベースのプランニング**」も選択する必要があります。「**功績仮定**」も選択し、グローバルまたはエンティティ 当たりレベルでプランニングすることをお勧めします。
- **雇用終了** - 従業員の退職および費用への影響をプランニングできます。
- **異動** - 部署(エンティティ)間での従業員の異動を行うことができます。従業員の異動を行うと、報酬費用が計算される対象の部署が変更されます。
- **分割資金調達 FTE** - コスト・センター、エンティティ、プロジェクトなどの複数の疎ディメンションで分割資金調達する FTE をプランニングできます。

「**要員管理**」のオプションは、追加で有効にできます。

新規採用の功績ベースのプランニングについて

新規採用の功績をプランニングするには、「**新規採用の功績ベースのプランニング**」を選択します。このオプションを有効にするには、「**費用プランニング追加オプション**」の「**功績ベースのプランニング**」も選択する必要があります。「**功績仮定**」も選択し、「**グローバル**」または「**エンティティ 当たり**」レベルでプランニングすることをお勧めします。

「**功績ベースのプランニング**」を有効にするには、「**粒度**」が「**従業員**」または「**従業員とジョブ**」である必要があります。

ユーザー入力のパフォーマンス評点を使用する「**功績ベースのプランニング**」は、既存の従業員にのみ使用できます。

功績ベースのプランニングの詳細は、[費用プランニングの有効化](#)および *Planning* モジュールの**操作の功績レートのプランニング**を参照してください。

分割資金調達 FTE について

「**分割資金調達 FTE**」オプションを使用すると、コスト・センター、エンティティ、プロジェクトなどの複数の疎ディメンションで FTE を分割資金調達できます。

「**分割資金調達 FTE**」が有効になっている場合、「**値のタイプ**」に「**均等金額 FTE 比率**」が選択され、「**福利厚生**」、「**税金**」および「**追加所得**」に「**最大値タイプ**」が選択されて「**福利厚生と税金**」ウィザードが更新されます。さらに、「**税金**」では、「**最大値タイプ**」に「**しきい値金額 FTE 比率**」を選択できるようになります。「**福利厚生と税金**」ウィザードの各コンポーネントに対して、管理者は、福利厚生、税金および追加所得の計算に「**均等金額**」計算または「**均等金額 FTE 比率**」計算のどちらを使用する

かを選択できます。たとえば、医療給付の料金は、FTE が 1.0 でも.5 でも同じ金額になることがあるため、「均等金額 FTE 比率」を選択します。しかし、税金は FTE のパーセンテージに基づくことがあるため、「均等金額」を選択します。

「分割資金調達 FTE」を有効にするとき、「従業員マスター・データ」フォームで各従業員のマスター FTE 値も入力する必要があります。既存の従業員のマスター FTE が欠落している場合、誤った比率のコンポーネント費用が計算されます。詳細は、[従業員マスター・データの入力](#)を参照してください。

ノート:

- 「分割資金調達 FTE」は追加で有効にできます。
- 「分割資金調達 FTE」を有効にするには、「粒度」が「従業員」または「従業員とジョブ」である必要があります。
- FTE 比率を使用する場合、「値のタイプ」と「最大値タイプ」が一致する必要があります。FTE 比率または FTE 値が一貫して適用されるように、「福利厚生と税金」ウィザードでは FTE 比率のメソドロジの不一致は許可されません。
- 税金層が新規マスター FTE に基づいて変更される場合、税金層は「報酬の計算」で計算されません。「デフォルトの同期」または「定義の同期」を実行して、税金層を計算します。
- マスター FTE が変更された場合、「定義の同期」ルールを実行します。

「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化

この構成タスクは、最初に機能を有効化するときに行う必要があります。「ディメンションのマップ/名前変更」を次のように使用します:

- カスタム・ディメンションを追加します。
たとえば、チャンネルと市場についてプランニングすることができます。このケースでは、これら 2 つのディメンションを追加し、チャンネルおよび市場メンバーをインポートします。計算、フォームおよび他のアーティファクトには、指定する追加のディメンションが含まれます。
- 既存のディメンションの名前と有効化するモジュール内のディメンションの名前が同じで、両方のディメンションを保持する場合は、ディメンションの名前を変更します。
- 複数のモジュールで既存のディメンションを使用します。たとえば、財務を設定し、あとからプロジェクトを有効にした場合、両者に共通の既存のディメンションを利用できます。この機能を使用すると、新しいモジュールを有効化するとき共通ディメンションを再構築する必要がありません。
- 変換済の Planning アプリケーションでディメンションを再利用します。

レポート・キューブへのカスタム・ディメンションの追加



デフォルトで、多くの要員ディメンションがレポート・キューブ(OEP_REP)に追加されます。カスタム・ディメンションをレポート・キューブに追加するかどうかを選択できます。

新規アプリケーションの場合、初めて機能を有効化するときこのタスクを 1 回のみ実行できます。

新規アプリケーションの場合、従業員デモグラフィクス・ディメンション(「最終学歴」、「スキル・セット」、「性別」および「年齢層」)がレポート・キューブに追加されないようにするかどうかを選択できます。(このオプションは、既存のアプリケーションには使用できません。)

既存のアプリケーションの場合、次回「**機能を使用可能にする**」で変更を加えるときにこのタスクを実行する1回かぎりのオプションがあります。**機能を有効にする前に**、OEP_REP キューブ内のデータをクリアする必要があります。

ディメンションをレポート・キューブに追加するかどうかを選択するには:

1. 要員の「**機能を使用可能にする**」の「**ディメンションのマップ/名前変更**」セクションで、ディメンション名の横にある  をクリックします。
2. 「**有効**」セクションで、「**要員レポート・キューブ**」をクリックし、「**OK**」をクリックします。
「**選択された機能**」列のラベルが **WorkforceReportingCube** に更新されます。
3. 新規アプリケーションの場合、従業員デモグラフィクス・ディメンションがレポート・キューブに追加されないようにするには、従業員デモグラフィクス・ディメンション名の横にある  をクリックし、「**有効**」セクションで「**要員レポート・キューブ**」の選択をクリアし、「**OK**」をクリックします。
「**選択された機能**」列のラベルが更新されて、**WorkforceReportingCube** が削除されます。

さらに、データをレポート・キューブにプッシュすると、功績データもプッシュされてレポート・キューブの「功績昇給」にマップされます。

要員の構成

要員の機能を有効化した後で次の構成タスクを実行します。




1. ホームページで「**アプリケーション**」  をクリックし、「**構成**」  をクリックします。
2. 「**構成**」リストで「**要員**」を選択します。
3. 必須のタスクをすべて実行します。ビジネスで必要なオプションのタスクを実行します。「**フィルタ**」を使用して、構成アクションのステータスを確認します。「**アクション**」  を使用して、タスクのステータスを更新します。
4. 構成した後、および構成の変更やメタデータのインポートを行ったときは常に、データベースをリフレッシュします。「**構成**」ページで、「**アクション**」メニューから「**データベースのリフレッシュ**」を選択します。「**作成**」をクリックしてから「**データベースのリフレッシュ**」をクリックします。

表 6-4 要員の構成オプション


構成	説明
コンポーネント	<p>オプション</p> <p>選択した「等級」、「税金」、「福利厚生」および「追加所得」をインポートします。これらが要員のコンポーネントとみなされます。コンポーネントをインポートしたら、適切な「構成」オプションを使用して構成します。</p>
	<div style="border: 1px solid green; padding: 10px;"> <p> ヒント:</p> <p>バッチ・ファイルでメタデータとデータをコンポーネントにインポートできます。データをインポートするためにテンプレートを使用することもできます。データのインポートを参照してください。</p> </div>
エンティティ	<p>必須</p> <p>部署、コスト・センター、事業部門など、ビジネス階層を反映する「エンティティ」ディメンション・メンバーをインポートします。</p>
給与等級	<p>必須</p> <p>インポートした「給与等級」の給与基準(「年次」や「1時間ごと」など)と支給レートを定義します。</p>
オプションおよび層	<p>オプション</p> <p>「追加所得」のオプション(残業またはボーナスなど)および「福利厚生」のオプション(医療給付率など)を設定します。「税金」の層(雇用主負担税など)を設定します。オプションと層を設定したら、福利厚生と税金ウィザードを使用して「追加所得」、「福利厚生」および「税金」を構成します。</p> <p>勘定科目とドライバの追加および管理および「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成を参照してください。</p>
プランニングと予測の準備	<p>必須</p> <p>プランニングおよび予測の時間枠、開始期間および粒度のレベルを設定します。年ごとに異なる基準でプランニングおよび予測できます。</p> <p>要員プランニングと予測の準備を参照してください。</p>

表 6-4 (続き) 要員の構成オプション

構成	説明
福利厚生と税金	<p>必須</p> <p>「福利厚生」、「税金」および「追加所得」を設定します。コンポーネントは、税金、福利厚生または追加所得です。ウィザードでは、ビジネスに基づく質問に答えることでコンポーネントを設定できます。「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成を参照してください。</p>
要員仮定	<p>必須</p> <p>日、週および年当たりの作業時間数のデフォルトの仮定を設定します。また、部分的な支払係数も設定し、産休ステータスに適用する支払パーセンテージを設定します。これらの仮定は、シナリオ、バージョン、エンティティおよび通貨別に設定できます。詳細は、仮定の設定を参照してください。</p>
従業員タイプ	<p>オプション</p> <p>組織の従業員タイプをメンバーとして「従業員タイプ」ディメンションにインポートします。提供されている従業員タイプ・メンバーは、「常勤」、「契約社員」および「臨時」です。このオプションは、従業員のみレベルの粒度で使用可能です。</p>
支払タイプ	<p>オプション</p> <p>組織の支払タイプをメンバーとして「支払タイプ」ディメンションにインポートします。提供されている支払タイプは、「控除」と「非控除」です。このオプションは、従業員のみレベルの粒度で使用可能です。</p>
従業員デモグラフィクス	<p>オプション</p> <p>従業員デモグラフィクス(最終学歴など)を設定します。デモグラフィクスを使用すると、個々の従業員特性に基づいてデータを分析できます。エスニック・グループなどのデモグラフィクスを選択、追加、インポートまたはエクスポートできます。</p> <p>「従業員デモグラフィクス」を有効化すると、要員によって「性別」、「年齢層」および「最終学歴」属性が提供されます。退役軍人ステータスなどの従業員デモグラフィクスを追加できます。通常は既存の従業員のデモグラフィクス属性をインポートし、新しい従業員が採用されるとプランナがデモグラフィクスを割り当てます。</p> <p>要員では、デモグラフィクスなどの情報のレポート用にデータ・マップが提供されます。</p> <p>勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>

表 6-4 (続き) 要員の構成オプション

構成	説明
従業員プロパティ	<p>オプション</p> <p>従業員プロパティ(従業員タイプなど)を設定します。プロパティ(スキル・セット、FT/PT、開始月、功績月、採用ステータスなど)を追加、インポートまたはエクスポートします。その後、従業員プロパティを表示および編集するには、「報酬プランニング」、次に「従業員の詳細の管理」タブを使用します。</p> <p>勤定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
非報酬費用	<p>オプション</p> <p>非報酬費用(研修や出張費用など)を設定します。非報酬費用を追加、インポートまたはエクスポートします。非報酬費用を追加したら、フォームにデータを入力します(「その他費用」→「非報酬費用」)。</p> <p>勤定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
パフォーマンス・メトリック	<p>オプション</p> <p>コンポーネントのパフォーマンス・メトリックを追加、インポート、エクスポートまたは削除します。たとえば、パフォーマンス評価(「期待を満たす」や「期待を超える」など)を追加します。</p> <p>勤定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
功績レート	<p>必須</p> <p>年ごとの功績レートを定義します。功績レートを適用するシナリオ、バージョンおよび通貨を選択します。</p>
従業員	<p>オプション</p> <p>組織の従業員名および従業員番号をメンバーとして「従業員」ディメンションにインポートします。</p>
ジョブ	<p>オプション</p> <p>組織のジョブをメンバーとして「ジョブ」ディメンションにインポートします。</p>
スキル・セット	<p>ジョブの粒度には必須</p> <p>メンバーのインポートによって、組織で使用されるスキル・セットを「スキル・セット」ディメンションにインポートします。</p>
組合コード	<p>従業員およびジョブの粒度には必須</p> <p>メンバーのインポートによって、組織で使用される組合コードを「組合コード」ディメンションにインポートします。「組合コード」を追跡しない場合は、ディメンションをビジネスに役立つ名前に変更できます。ただし、名前を変更したディメンションには、これまでどおりデフォルトを割り当てる必要があります。</p>

表 6-4 (続き) 要員の構成オプション

構成	説明
性別	オプション メンバーを「性別」ディメンションにインポートします
最終学歴	オプション メンバーのインポートによって、組織で使用される最終学歴を「最終学歴」ディメンションにインポートします。
年齢層	オプション メンバーを「年齢層」ディメンションにインポートします。従業員の年齢は、経時的な変化に伴って計算され、年齢層に割り当てられます。

 ノート:

独自の年齢層をロードするのではなく、デフォルトの年齢層を使用することをお勧めします。

 ノート:

既存の顧客は、引き続き既存の年齢層およびメンバーを使用してください。

<カスタム・ディメンション名、「Projects」など>	オプション メンバーをディメンションにインポートすることによって、追加したディメンション(プロジェクトなど)をアプリケーションに移入します。
グローバル仮定	必須 複数通貨アプリケーションの外国為替レートを設定します。

インポート・データの詳細は、[データのインポート](#)を参照してください。ディメンション・エディタを使用してメンバーを追加することもできます。

ディメンションとメンバーをインポートしたら、ディメンション・エディタで階層構造を確認できます。

次の点に注意してください。

- 指定されたメンバーの順序を変更しないようにします。メンバーの順序を維持することは、指定された計算とロジックをサポートするために重要です。

- 「プロパティ」ディメンションにメンバーを割り当てることはできません。

要員プランニングと予測の準備

要員モジュールについて、プランの時間枠および粒度を構成できます。計画および予測シナリオに対して、異なる時間枠および粒度を構成できます。

プランの時間枠および粒度を構成するには:

1. 「現在の会計年度」で現在の会計年度を選択します。
2. 「期間」から、現在の実績月を選択します。13 期間アプリケーションの場合は、現在の期間を選択します。この値は毎月更新する必要があります。
3. 「プラン開始年」には、プランナが現在の会計年度と次の計年度のどちらでプランニングを行うかを指定します
4. 「プラン」、「年」列を順にクリックして、構成する年数を選択します。たとえば、10 年のアプリケーションの最初の 5 年間を構成するには、5 年間を選択します。
5. 構成する各年のプランニングの基準を選択します。毎年同じ間隔でプランを準備する場合は、「すべて」をクリックしてから間隔(たとえば「月次」)を選択します。年によって異なる間隔でプランを準備する場合は、各年の行で間隔を選択します。たとえば、FY20 では月ごと、FY21 では四半期ごとにプランニングする場合、FY20 の行では「月次」、FY21 の行では「四半期ごと」を選択します。13 期間アプリケーションの場合は、「月次」のかわりに「13 期間」を選択します。
6. 「予測」をクリックし、これまでの手順を繰り返して予測の基準を指定します。最初の年の「予測」に対するプランニング基準として「四半期ごと」を選択すると、該当期間でのみ予測データの入力に許可されるように、指定された有効な交差が設定されます。現在の月より前の四半期予測期間は更新できません。四半期ごとのプランニングを有効にした場合は常に、代替変数 OEP_CurQtr が提供されます。

最初の年の「予測」に対するプランニング基準として「四半期ごと」を選択すると、現在の月が四半期の最後の月の場合に、現在の四半期がどのように判別されるかを選択できます。

現在の月が四半期の最後の月の場合は、現在の四半期をどのように定義するかについて、「プランニングと予測の準備」でオプションを選択します。

- 「予測で現在の期間をロック」を選択した場合、要員では次の四半期が使用されます。たとえば、現在の月が 3 月で、このオプションを選択した場合、要員では現在の四半期を Q2 として定義します。
- 「予測で現在の期間をロック」をクリアした場合、要員では現在の四半期が使用されます。たとえば、現在の月が 3 月で、このオプションをクリア(選択を解除)した場合、要員では現在の四半期を Q1 として定義します。

ノート:

- 「予測で現在の期間をロック」は、最初の年の予測に対するプランニングの基準として四半期を選択している場合にのみ使用可能になります。
- モジュールごとに「予測で現在の期間をロック」のオプションを選択できます。

この構成タスクによって、必須代替変数がすべて設定されます。

要員のルール、テンプレートおよびフォームでは、計画および予測シナリオに対して異なるプランニング年を使用できます。

要員ビジネス・ルールおよびテンプレートでは、各モジュールの計画および予測シナリオに対して、「**プランニングと予測の準備**」構成タスクから個別に開始年と終了年を読み取る方法を使用します。

要員のカスタム・ルールまたはテンプレートを作成するには、**&OEP_YearRange** 代替変数ではなく次の関数を使用します。

- `[[PlanningFunctions.getModuleStartYear("Workforce","ScenarioName")]]`
- `[[PlanningFunctions.getModuleEndYear("Workforce","ScenarioName")]]`

ノート:

モジュール名およびシナリオ名は二重引用符で囲む必要があります。

ヒント:

ルールを作成または編集してプランニングおよび予測タスクをカスタマイズする場合、

`[[PlanningFunctions.getModuleStartPeriod("ModuleName","ScenarioName")]]` および

`[[PlanningFunctions.isPlanStartYearSameAsCurrentFiscalYear("ModuleName")]]` のようにルールで **Planning** 数式を使用して、構成済の時間範囲情報呼び出すことができます。

モジュール名は大小文字を区別せず、二重引用符で囲む必要があります。

- 資本
- 財務
- プロジェクト
- 要員

Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager での設計のシナリオを参照してください。

アカウントとドライバの追加および変更について

追加または変更する必要があるカスタム・ドライバ・メンバー、勘定科目メンバーおよび他のアーティファクトの数に応じて、次のいずれかのタスクを実行します:

- 少数—構成ページで直接追加または編集を行います
- 多数—次によってインポートします:
 - 既存のセットをエクスポートします。
 - エクスポートされたスプレッドシートを変更して、カスタム・アーティファクトのための行やデータを追加します。
 - スプレッドシートをインポートします。

このエクスポートとインポートのプロセスにより、アプリケーションの設計とメンテナンスにかかる時間が短縮されます。要件が変更されたときは、このプロセスを必要に応じて何回でも繰り返すことができます。たとえば、実行をプランニングしている新しいソーシャル・メディア・キャンペーン用のドライバと似ている、事前定義済マーケティング・ドライバを表示することができます。容易に、ドライバをエクスポートし、マーケティング・ドライバのコピーを作成し、必要に応じてソーシャル・メディア・キャンペーン用に変更してから再インポートできます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
カスタムの勘定科目およびドライバのインポートについて学習します。	 Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud の財務へのカスタムの勘定科目およびドライバのインポート

詳細は、[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

勘定科目とドライバの追加および管理


勘定科目とドライバを追加または変更するには:

1. アカウントまたはドライバを設定する構成タスクを選択します。
2. リストからコンポーネントまたはカテゴリを選択します(ある場合)。
3. 次のタスクを実行します:
 - アーティファクトを追加するには、「**アクション**」メニューから「**追加**」を選択して、新しい行に詳細を入力します。
 - 一連のアーティファクトの変更または多数のアーティファクトの新規追加を行うには、事前定義済アーティファクトのセットをエクスポートして(「**アクション**」メニューの「**エクスポート**」を選択)、エクスポート・ファイルを Microsoft Excel で変更します。事前定義済アーティファクトの編集や、アーティファクトのコピー作成と変更を行って、新しいアーティファクトを作成したり、新しいアーティファクトを追加したりします。その後、変更したファイルをインポートします(「**アクション**」メニューから「**インポート**」を選択します)。可能な場合には、カテゴリやサブカテゴリを使用して、関連する機能のアーティファクトをまとめます。
 - カテゴリまたはグループに関係なく、すべてのドライバをエクスポートまたはインポートするには、「**バッチ・エクスポート**」または「**バッチ・インポート**」を使用します。
 - 特定の種類のドライバのみをエクスポートまたはインポートするには、「**カテゴリ**」または「**コンポーネント**」を指定してから「**インポート**」または「**エクスポート**」を使用します。

ノート:


- カスタム・メンバーについて一意のメンバー名と別名を指定して、提供されているメンバーと競合しないようにします。
- ドライバを削除する必要がある場合は、グループ内の他の勘定科目ドライバの式を調べて、削除しようとするドライバを参照するものがあるかどうか確認します。参照している場合は、削除に対応するようにロジックを更新します。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
要員データを分析するための従業員デモグラフィックスの設定および使用について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud での要員デモグラフィックスの設定

従業員デモグラフィックスの設定について

ビデオ

目的	視聴するビデオ
要員データを分析するための従業員デモグラフィックスの設定および使用について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud での要員デモグラフィックスの設定

詳細は、[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

従業員プロパティの追加について

「**従業員プロパティ**」の「**構成**」タスクまたはディメンション・エディタを使用して、「**勘定科目**」ディメンションにカスタムの従業員プロパティを追加できます。

新しいカスタム・プロパティを追加した後、プロパティを親の **OWP_Workforce Planning Accounts for Forms** の下位に共有メンバーとして追加し、フォームに表示されるようにします。変更を行った後にデータベースをリフレッシュします。

従業員のジョブを変更したり従業員を異動するときに、カスタム・プロパティが転送されるようにするには、カスタム・テンプレートの **OWP_Custom Template** を使用して、ルールおよびテンプレートをカスタマイズします。詳細は、[カスタム要員テンプレートを使用した要員カスタマイズのサポート](#)を参照してください。

グローバル仮定の設定: 為替レート

複数通貨アプリケーションを作成した後で為替レートを設定します。為替レートはここで説明するように手動で入力することもインポートすることもできます。為替レートのインポートの詳細は、*Planning* の**管理**の簡易複数通貨アプリケーションの**為替レート・タイプのインポート**を参照してください。

為替レートを手動で設定するには:

1. 通貨ディメンションに各通貨のためのメンバーを追加します。
2. 「**グローバル仮定**」をクリックして、**<基本通貨>に対する為替レート**タスクを開きます。ここで、プランナが使用する通貨の為替レートを入力します。
3. 「視点」からメンバーを選択します。
4. 各期間および各通貨について平均為替レートと終了為替レートを入力して、フォームを保存します。

フォームの名前が**<基本通貨>に対する為替レート**に変更されます。**<基本通貨>**は、アプリケーションを作成したときに選択したレポート通貨です。たとえば、アプリケー

ションの基本通貨が「円」の場合、フォームは円に対する為替レートになります。これは、データの変換に使用される為替レートが対応する通貨をプランナに示し、プランナがシナリオ、年およびバージョンに固有のレートを入力できるようにします。

 **ノート:**

新しいバージョン・メンバーを追加した場合は、そのバージョンに為替レートを入力する必要があります。

「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成

次の項では、福利厚生と税金ウィザードを使用して福利厚生、税金および追加所得を構成する方法を説明します。最大 30 のメンバーを追加所得、福利厚生および税金の任意の組合せで構成できます。

 **ヒント:**

「オプションおよび層」の有効な交差を、「コンポーネント」ディメンションのそれぞれの親に対して設定できます。有効な交差の設定の詳細は、*Planning* の管理の有効な交差の定義を参照してください。


チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的

この 90 分のチュートリアルでは、要員で追加所得、福利厚生および税金を構成する方法を示します。

方法の学習

 [新しい追加所得の定義および福利厚生と税金の構成](#)

福利厚生と税金ウィザードを使用する前に

ウィザードを起動する前に、次のタスクを実行したことを確認します:

- 要員の「構成」ページの「コンポーネント」を使用して、「福利厚生」、「税金」および「追加所得」をインポートしました。コンポーネントをインポートすると、そのコンポーネントがウィザードで使用できるようになります。
- 「構成」ページで「オプションおよび層」を構成して、「福利厚生」、「税金」(オプション)および「追加所得」(層)を設定しました。これによってオプションと層が作成されます。

これで、福利厚生と税金ウィザードを起動して、「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の各オプションを定義する準備が整いました。

福利厚生と税金ウィザードについて

ウィザードは、ビジネスに基づく質問を使用して、「福利厚生」や「追加所得」のオプションを定義し、税金(雇用主負担)の層を定義するステップを進めます。

例:

- 追加所得: 「残業手当」、「功績昇給」
- 福利厚生: 「健康保険」、「住宅ローン」、「車両手当」
- 雇用主負担税: US FICA、Canada Pension Plan (CPP)

ウィザードでは、税率が均等金額か給与の割合か、発生するのが月、四半期、年かなど、ロジックを指定します。また、ウィザードを使用して税金、福利厚生、追加所得を管理することもできます。各コンポーネントはシナリオやバージョンによって変わります。

ノート:

アプリケーションが 13 期間カレンダーに基づいている場合は、「支払期間」を「月次」に設定します。[13 期間カレンダーの計算](#)を参照してください。

ウィザードを起動するには、「構成」で「福利厚生と税金」リンクをクリックします。「フィルタ」を使用して、構成するコンポーネントを選択します。3 つのステップ、「詳細」、「レート」、「確認」が順に表示されます。

ノート:

- すべてのエンティティがレートおよびしきい値を持っていることを確認してください(コンポーネントでしきい値を使用する場合)。同じレートおよびしきい値をグローバルに適用する場合、ソース・エンティティから「すべてのエンティティでレートをコピー」ルールを実行します。[階層別のレートの適用](#)を参照してください。
- 福利厚生、税金または追加所得のエンティティ・デフォルトを更新するたびに、「デフォルトの同期」ルールを実行して、従業員/ジョブ・レベルでエンティティ・デフォルトを適用する必要があります。ウィザードで既存のコンポーネント(福利厚生、税金または追加所得)を更新した場合、「報酬の定義の同期」ルールを実行して、更新済の定義を従業員およびジョブにプッシュする必要があります。

コンポーネントの共通プロパティ

「追加所得」、「福利厚生」および「税金」では特定のプロパティが共通です。

各コンポーネントは次のプロパティを共有します。

- 「支払期間」(「月次」、「四半期ごと」、「年次」など)。

ノート:

アプリケーションが 13 期間カレンダーに対して設定されている場合は、「月次」を選択します。これにより、期間 1 から 13 が支払期間になります。[13 期間カレンダーの操作の詳細は、13 期間カレンダーの計算](#)を参照してください。

- 「支払い頻度」(「一括支払い」または「期間最後に支払い」など)。「支払い頻度」は「支払期間」に結び付けられます。
- コンポーネント・タイプ: 「標準」、「レート表」、しきい値を含むレート表および「カスタム」。

ウィザードでのコンポーネントのタイプ

「詳細」画面で、福利厚生、税金または追加所得のコンポーネント・タイプ(計算レート・タイプ)を選択します。

コンポーネント・タイプ:

- **標準** - しきい値を含む年ごとの単純レート・オプション。次に、必要なオプションをデフォルトとして適切なドライバに割り当てます。「標準」コンポーネント・タイプは、すべてのデフォルトについてしきい値を含む単一レートのオプションまたは層であるため、1行しかありません。「追加所得」と「福利厚生」では「オプションなし」、「税金」では「層なし」です。
- **レート表** - しきい値のない異なるレート・オプションが提供されます。このコンポーネント・タイプでは、必要なオプションまたは層をデフォルトとして適切なドライバに割り当てます。レート表には、オプションと層の行が表示され(これらのオプションと層の行は「構成」ページの「オプションおよび層」で定義したもの)、しきい値は割り当てられていません。
- **レート表およびしきい値** - しきい値を含む様々なレート・オプションが提供されます。このコンポーネント・タイプでは、必要なオプションまたは層をデフォルトとして適切なドライバに割り当てます。しきい値を含むレート表には、前に構成されたしきい値を含むオプションまたは層の行が表示されます。「追加所得」と「税金」では、「しきい値金額」の「最大値タイプ」がサポートされます。デフォルトで割り当てられるオプションまたは層に関係なくすべての層が対象になります。
- **カスタム** - コンポーネントの追加所得、福利厚生または税金に対してカスタム計算ロジックを作成できます。[コンポーネントでのカスタム計算ロジックの作成](#)を参照してください。

ヒント:

しきい値は、結果の費用値に対する上限または最大値です。たとえば、「車両手当」は、しきい値の\$4,000 までは給与の割合です。これを超えると、「車両手当」福利厚生は停止されます。上限に達するとレートが変わります。たとえば、最初の層(しきい値\$50,000 まで)の税率は 4.5%、2 番目の層(\$100,000 まで)は 12.6%です。しきい値が層構造に適用されるだけでなく、最大値を「追加所得」、「福利厚生」、「税金」の計算に設定することもできます。

一括支払いオプションについて

一括支払いオプションを使用すると、追加所得、福利厚生または税金の支払月を指定できます。これらのオプションは、コンポーネントに選択した「支払期間」に応じて変化します。

たとえば、2月と8月の6か月ごとに1回、福利厚生を支払う必要がある場合、「半期ごと(カレンダー)」として「支払期間」を、「支払頻度」として「一括支払い」を、**一括支払いオプション**で2番目の月を選択します。

別の例: 「支払期間」が「年次(会計年度)」である場合、「支払頻度」として「一括支払い」を選択すると、会計年度で 1 回、一括支払いが発生します。一括支払いオプションでは、費用を計算するための会計年度の月(1 番目から 12 番目まで)を選択できます。会計年度が 7 月に開始する場合、11 番目の月を選択すると、費用は 5 月に追加されます。

福利厚生と税金ウィザードのこれらのオプションには、コンポーネントの「詳細」ページでアクセスできます。

「値のタイプ」について

Table 6-5 「値のタイプ」のオプション

値のタイプ	説明
均等金額	使用可能: <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生 追加所得 税金
給与の割合	使用可能: <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生 追加所得 税金
総所得の割合	使用可能: <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生 税金
課税所得の割合	使用可能: 税金
均等金額 FTE 比率	分割資金調達 FTE で使用。使用可能: <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生 追加所得 税金

「最大値タイプ」について

「最大値タイプ」で使用可能なオプションは、コンポーネントが「追加所得」、「福利厚生」、または「税金」のどれであるかに基づいています。

FTE 比率を使用する場合、「値のタイプ」と「最大値タイプ」が一致する必要があります。FTE 比率または FTE 値が一貫して適用されるように、「福利厚生と税金」ウィザードでは FTE 比率のメソドロジの不一致は許可されません。

「最大値タイプ」を「しきい値金額」に設定できるのは、「税金」の場合のみです(「追加所得」または「福利厚生」では設定できません)。「最大値タイプ」を「しきい値金額」に設定した場合、各層のしきい値によって層の計算が導出されます。アプリケーションは、デフォルトで割り当てられている層には関係なく、必要に応じてすべての層をデフォルト割当てに適用します。複数の層レートを持つ層型税金を適用する必要がある場合は、「コンポーネント・タイプ」として「レート表およびしきい値」を、「最大値タイプ」として「しきい値金額」を選択します。

「コンポーネント・タイプ」として「標準」を選択する場合、「層なし」でレートを指定します。この場合、「最大値タイプ」が「しきい値金額」である場合でも、層の計算ロジックは適用されません。

「最大値タイプ」はウィザードの「詳細」ページで設定します。

「最大値タイプ」が「しきい値金額」に設定されない場合は、各オプションまたは層の行の割当てが関連するため、適切に割り当てる必要があります。

たとえば、「最大値タイプ」を「しきい値金額」に設定する例として、US FICA 税を使用します。すべての行が該当するため、デフォルトとして割り当てられる行はありません。税率は、給与\$118,500 までは 7.65%、\$118,500 を超えて \$200,000 までは 1.45%です。\$200,000 を超える分には税率 2.35%が適用されます。(デフォルトを割り当てるときもオプションまたは層を選択する必要がありますが、計算で無視されます。)

例:

Entity	Scenario View	Version View	Currency	Component	FY16		FY17		FY18	
No Entity	Plan	Working	USD	FICA	Rate	Threshold	Rate	Threshold	Rate	Threshold
					7.65	118,500	7.65	119,000	7.65	120,000
					1.45	200,000	1.45	200,000	1.45	200,000
					2.35	99,999,999	2.35	99,999,999	2.35	99,999,999

表 6-6 「最大値タイプ」のオプション

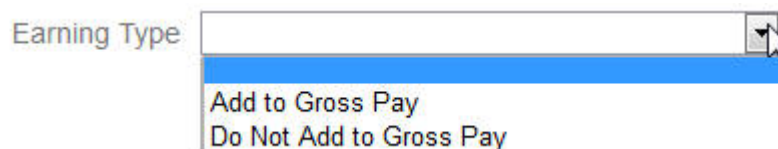
値のタイプ	説明
均等金額	使用可能: <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生 追加所得 税金
給与の割合	使用可能: <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生 追加所得 税金
課税所得の割合	使用可能: 税金
総所得の割合	使用可能: <ul style="list-style-type: none"> 福利厚生 税金

表 6-6 (続き) 「最大値タイプ」のオプション

値のタイプ	説明
しきい値金額	使用可能: 税金
均等金額 FTE 比率	分割資金調達 FTE で使用。現在のデータの交差に対する FTE が取得され、マスター FTE で除算され、均等金額が乗算されます。使用可能: <ul style="list-style-type: none"> • 福利厚生 • 追加所得 • 税金
しきい値金額 FTE 比率	分割資金調達 FTE で使用。現在のデータの交差に対する FTE が取得され、マスター FTE で除算され、しきい値金額が乗算されます。使用可能: 税金

「所得タイプ」について

「所得タイプ」は「追加所得」のみで有効です。



所得タイプ「総支払に追加」および「総支払に追加しない」は、総所得から福利厚生と税金の「値のタイプ」と「最大値タイプ」を導き出します。したがって、「所得タイプ」が「総支払に追加」に設定されると、それらの追加所得は「総所得の割合」に基づいて福利厚生と税金に組み込まれます。

「所得タイプ」が「総支払に追加しない」に設定されると、「所得タイプ」と「最大値タイプ」に「総所得の割合」を使用する福利厚生または税金は、「総所得の割合」に基づく福利厚生または税金からそれらの追加所得を除外します

「課税対象コンポーネント」について

「課税対象コンポーネント」は、「追加所得」または「福利厚生」が「はい」に設定されている「所得タイプ」と同様に動作します。「課税対象コンポーネント」はすべての税金計算に含まれるためです。この場合、「値のタイプ」または「最大値タイプ」は「課税所得の割合」に設定されています。

レートの入力について

福利厚生と税金ウィザードで、期間別およびエンティティ別にコンポーネントのレートとロジックを入力できます。年間に変動するレートを考慮して、報酬費用に対するその影響をアセスメントできます。たとえば、7月中に変動する税率を考慮できます。

福利厚生と税金ウィザードの「レート」ページが、「残高」に設定された「勘定科目」の「タイム・バランス」プロパティで縮小された「年合計」メンバーとともに開かれます。「年合計」に値を入力することができ、その値は自動的にその子の最後の期間に自動的に分散されます。既存の配分が存在しない場合(つまり、すべての子の値がゼロ

であるかまたは欠落している場合)、その値はすべての子に分散されます。または、「年合計」を展開して、レベル0のメンバーのレートを手動で入力または変更できます。

レートおよびしきい値のスコープについて

コンポーネントの「しきい値のスコープ」オプション(「YTD」または「月次」)では、月または年ごとに独立して計算される追加所得、福利厚生または税金のレート層を設定できます。

たとえば、保険プログラムでは、月ごとにゼロから開始するレート層を適用できます。

ノート:

アプリケーションが13期間カレンダーに対して設定されている場合は、「月次」を選択すると、計算ロジックが期間1から13に適用されます。

この例では、財務の従業員の所得が\$4,000であり、税金が**給与の割合**として定義され、「しきい値のスコープ」が「月次」で3つのレート層があるとします。

Scenario Plan	Version Working	Currency USD	Entity Finance US
FY18			
	Rate	Threshold	
	Year Total	Year Total	Y
Tier1	12	1000	
Tier2	20	3000	
Tier3	30	5000	

その税率は、最初の1,000の月次報酬に対しては12%、1,000から3,000までの所得に対しては20%、3,000から5,000までに対しては30%です。

階層別のレートの適用

「すべてのエンティティでレートをコピー」ルールを使用して、エンティティ階層のセクション内のメンバーに、同じレートおよびしきい値を適用できます。このルールを使用すると、レート・データを手動で入力またはインポートする必要がなくなります。

「すべてのエンティティでレートをコピー」ルールは、エンティティのメンバーが追加所得、福利厚生または税金に同じレートおよびしきい値を使用する場合、特に便利です。「レート」ページで、「アクション」メニューからこのルールを実行することで、コンポーネントのレートおよびしきい値を、あるエンティティから階層の別のセクションにコピーできます。「メンバー・セレクタ」で、レートをコピーするソース・レベル0のエンティティ・メンバーと、レートのコピー先となるターゲットの親またはレベル0のメンバーを選択します。

たとえば、フランスの福利厚生のレート・データを入力し、「すべてのエンティティでレートをコピー」を使用して、関係関数を通じて福利厚生レートをヨーロッパ合計のすべてのレベル0の子孫と、北ヨーロッパ合計のレベル0の子孫にコピーできます。

13 期間カレンダーの計算

13 期間カレンダー(12 か月カレンダーではなく)に対して要員が設定されている場合は、コンポーネント計算が 13 期間とどのように相互作用するかについて学習します。

カレンダー年支払条件および 13 期間について:

- カレンダー日付は会計年と期間をまたがります。
- 「支払期間」(「月次」、「四半期ごと」、「年次」など)が「月次」に設定されている場合は、各カレンダー月の最終日が発生する期間が支払期間になります。このため、通常、少なくとも 1 つの期間に支払がありません。
- 計算ロジックでは、コンポーネントの費用は該当期間の月の最終日に発生すると想定します。

例:

- 「支払期間」が「年次(カレンダー年)」で、「支払頻度」が「期間最初に支払い」の場合、費用は該当期間の 1 月 31 日に発生します。
- 「支払期間」が「年次(カレンダー年)」で、「支払頻度」が「一括支払い」で、一括支払いオプションが「最初の月」の場合、費用は該当期間の 1 月 31 日に支払われます。
- 「支払期間」が「年次(会計年)」で、「支払頻度」が「一括支払い」で、一括支払いオプションが「最初の月」の場合、費用は第 1 期間(TP1)に支払われます。

関連項目:

- [53 週の年について](#)
- [サマリー期間と 13 期間](#)

53 週の年について

要員が 13 期間カレンダーで 53 週を処理する方法を学習します。

デフォルトでは、最初の 3 四半期に 3 つの期間があり、最後の四半期に 4 つの期間があります(3-3-3-4)。ただし、管理者は、アプリケーションの作成時に 4 つの期間を追加する四半期を選択できます。4-4-5、4-5-4 および 5-4-4 カレンダー(52 週 x 7 日 = 364 日)の週次レイアウト、毎年余る 1 日、およびうるう年の発生に基づいて、53 番目の期間はおおよそ 5、6 年ごとに発生します。うるう年の 5 番目の期間は、アプリケーションの作成時に定義した余剰期間に自動的に適用されます。

給与基準のレートは、52 週に基づいた週次レートによって計算された後、その期間の週数が乗算されます。53 週ある年では、13 番目の期間での週次レートは 5 で乗算されます。53 番目の週には、アプリケーションの作成時に指定した期間の追加の週次金額が支払われます。年合計金額は、53 週の年が 52 週の年より 1 週間分の値だけ多くなります。指定した給与基準レートは、52 週または 53 週の年のいずれに対しても同じです。

サマリー期間と 13 期間

13 期間カレンダーが要員のサマリー期間にどのように表示されるかを学習します。


給与基準のレートは、四半期ごとおよび半期ごとのサマリー期間(STP)には表示されません。かわりに、給与基準レートは(52 週の年に基づいたレートを想定して)週次レートに変換された後、期間内の週数が乗算されます。うるう年では、構成済の余剰期間でのレートは 5 で乗算されます。

コンポーネントでのカスタム計算ロジックの作成

カスタム・コンポーネントで独自の要員計算を定義すると、非常に柔軟に条件ロジックを適用して、追加所得、福利厚生または税金の計算に値ドライバを指定できます。

たとえば、カレンダー年の最初の 6 か月に開始する新規採用には適用されるが、採用の初年におけるカレンダー年の最後の 6 か月に開始する新規採用には適用されないボーナス計算を作成できます。「均等金額」や「給与の割合」など、事前定義されたもの以外の値ドライバを選択することもできます。たとえば、コミッションなどの追加所得を、収益などの作成したカスタム・メンバーに基づかせることができます。値タイプ・ドライバとしてメンバーを指定するには、カスタム・コンポーネントのメンバー式にそれを含めます。

カスタム・コンポーネントのロジックをカスタマイズするには:

1. 福利厚生と税金ウィザードの「詳細」ページで既存のコンポーネントを編集し、「**コンポーネント・タイプ**」で「**カスタム**」を選択します。
2. コンポーネントの設定を続けます(カスタム・ロジックで使用するレートをオプションで入力します)。メンバー式に任意のしきい値を含めます。
3. 「プロパティ」ディメンションの **OWP_Custom Expense** メンバーに対してメンバー式を作成します。
 - a. ホームページで「**アプリケーション**」、「**概要**」、「**ディメンション**」の順に選択します。
 - b. 「**キューブ**」の右側の下矢印をクリックし、**OEP_WFP** を選択します。
 - c. 「**プロパティ**」をクリックし、「**メンバー名**」列ヘッダーを右クリックして、「**デフォルト・モード**」をクリアします。
 - d. **OWP_Custom Expense** メンバーを選択し、**OEP_WFP Formula** 列まで右にスクロールして、交差セルをクリックします。
 - e. グリッドの左上で、「**メンバー式**」アイコン  をクリックします。
 - f. メンバー式を入力します。

ノート:

- カスタム計算ロジックを作成する前に、最初に事前定義済計算の使用を詳細に調査することをお勧めします。
- アプリケーションを本番環境に移行する前に、カスタム式のパフォーマンスを評価してください。
- 複数のカスタム・コンポーネントを作成して使用するには、各コンポーネントのカスタム・ロジックを受け入れるように **OWP_Custom Expense** メンバー式を変更します。たとえば、各カスタム・コンポーネント・タイプに対してネストされた IF 条件を使用します。

 ヒント:

計算ロジックのカスタマイズの詳細といくつかのサンプル式については、次のトピックを参照してください。

OWP_Custom Expense のカスタム式の作成

次に示すヒントやサンプル式を使用すると、**OWP_Custom Expense** のカスタム式を作成する際に役立ちます。これらのヒントでは、アプリケーション粒度が「従業員とジョブ」であると仮定します。

- 「支払期間」、「支払頻度」、「値のタイプ」などのプロパティのデータは、従業員とジョブの組合せで、対応する「プロパティ」メンバー→通貨なし→「BegBalance」→「勘定科目」(福利厚生 1:10/所得 1:10/税 1:税 10)に格納されます。
- レートは、従業員とジョブの組合せで、OWP_Value→「通貨」→「勘定科目」(福利厚生 1:10/所得 1:10/税 1:税 10)に格納されます。
- しきい値は、従業員とジョブの組合せで、OWP_Maximum Value→「通貨」→「勘定科目」(福利厚生 1:10/所得 1:10/税 1:税 10)に格納されます。
- 期間を評価して、異なる「支払期間」オプションに応じて月の「暦期間-インデックス」に基づき費用を計算するために、付属の式を参照できます。
- 複数のカスタム式を追加するには、OWP_Custom Expense のメンバー式でそれらをネストします。

福利厚生と税金の計算のカスタマイズ

次の例を確認することで、福利厚生と税金の計算をカスタマイズする際に役立ちます。

使用例 1

コミッション基準勘定科目(要員に付属していないカスタムの勘定科目)のパーセンテージとしてコミッションを計算するとします。コミッションは、福利厚生と税金ウィザードで入力されたレートと、カスタムのコミッション基準勘定科目を掛けて計算します。

サンプル式

```
IF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_EarningList.Commission])
  IF(@ISMBR(@RELATIVE("OWP_Existing Employees",0)))
    "Commission Basis"->"No Property" * ("OWP_Value"/100);
  ELSE
    #Missing;
  ENDIF
ENDIF
```

使用例 2

前述の例を基盤として、「功績」勘定科目のパーセンテージとして計算される「保険」という福利厚生を、福利厚生と税金ウィザードで選択した次の値とともに追加とします。

- **コンポーネント・タイプ** - カスタム
- **支払期間** - 四半期ごと(カレンダー年)
- **支払頻度** - 期間最初に支払い
- **最大値タイプ** - 均等金額
- **しきい値のスコープ** - YTD
- **課税対象コンポーネント** - はい
- **すべての月のレート** - 10
- **しきい値** - 400
- **値のタイプ** - 福利厚生はカスタム・ロジックで「功績」のパーセンテージとして計算するため、「値のタイプ」には任意の値を選択できます。

サンプル式

```

IF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_EarningList.Commission])
  IF(@ISMBR(@RELATIVE("OWP_Existing Employees",0)))
    "Commission Basis"->"No Property" * ("OWP_Value"/100);
  ELSE
    #Missing;
  ENDIF
ELSEIF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_BenefitList.Insurance])
  IF("Cal TP-Index"==1 OR "Cal TP-Index"==4 OR "Cal TP-Index"==7 OR "Cal
TP-Index"==10)
    "OWP_Expense amount"="OWP_Merit"->"OWP_Expense amount"*("OWP_Value"/
100);
  ENDIF;
  IF("OWP_Expense amount"!=#MISSING)
    IF("OWP_Calculated Max Value"!=#MISSING)
      IF("OWP_CYTD(Prior)"+"OWP_Expense amount">"OWP_Calculated Max
Value")
        IF("OWP_CYTD(Prior)"<="OWP_Calculated Max Value")
          "OWP_Expense amount"="OWP_Calculated Max
Value"- "OWP_CYTD(Prior)";
        ELSE
          "OWP_Expense amount"=#MISSING;
        ENDIF;
      ENDIF;
    ENDIF;
  ENDIF;
  "Custom Expense"="OWP_Expense amount";
ENDIF;

```

使用例 3

前述の例を基盤として、「福利厚生 1」、「福利厚生 2」、「福利厚生 3」および「福利厚生 4」のパーセンテージとして計算される SUTA という税金(層型税金)を、福利厚生と税金ウィザードで選択した次の値とともに追加するとします。

- **コンポーネント・タイプ** - カスタム
- **支払期間** - 月次

- **最大値タイプ** - しきい値
- **しきい値のスコープ** - 月次
- 「レート」 ページではレートを指定しません。
- カスタムの層型税金では、レートをカスタム式の一部として指定する必要があります。

サンプル式

```

IF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_EarningList.Commission])
  IF(@ISMBR(@RELATIVE("OWP_Existing Employees",0)))
    "Commission Basis"->"No Property" * ("OWP_Value"/100);
  ELSE
    #Missing;
  ENDIF
ELSEIF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_BenefitList.Insurance])
  IF("Cal TP-Index"==1 OR "Cal TP-Index"==4 OR "Cal TP-Index"==7 OR
"Cal TP-Index"==10)
    "OWP_Expense amount"="OWP_Merit"->"OWP_Expense
amount"*("OWP_Value"/100);
  ENDIF;
  IF("OWP_Expense amount"!=#MISSING)
    IF("OWP_Calculated Max Value"!=#MISSING)
      IF("OWP_CYTD(Prior)"+"OWP_Expense amount">"OWP_Calculated
Max Value")
        IF("OWP_CYTD(Prior)"<="OWP_Calculated Max Value")
          "OWP_Expense amount"="OWP_Calculated Max
Value"- "OWP_CYTD(Prior)";
        ELSE
          "OWP_Expense amount"=#MISSING;
        ENDIF;
      ENDIF;
    ENDIF
  ENDIF
  "Custom Expense"="OWP_Expense amount";
ELSEIF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_TaxList.SUTA])
  IF("OWP_Benefit1"->"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit2"-
>"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit3"->"OWP_Expense
amount"+"OWP_Benefit4"->"OWP_Expense amount"<=1000)
    ("OWP_Benefit1"->"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit2"-
>"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit3"->"OWP_Expense
amount"+"OWP_Benefit4"->"OWP_Expense amount")*(10/100);
  ELSEIF("OWP_Benefit1"->"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit2"-
>"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit3"->"OWP_Expense
amount"+"OWP_Benefit4"->"OWP_Expense amount"<=1200)
    (("OWP_Benefit1"->"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit2"-
>"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit3"->"OWP_Expense
amount"+"OWP_Benefit4"->"OWP_Expense amount")-1000)*(20/100) +
1000*(10/100);
  ELSEIF("OWP_Benefit1"->"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit2"-
>"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit3"->"OWP_Expense
amount"+"OWP_Benefit4"->"OWP_Expense amount"<=1300)
    (("OWP_Benefit1"->"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit2"-
>"OWP_Expense amount"+"OWP_Benefit3"->"OWP_Expense
amount"+"OWP_Benefit4"->"OWP_Expense amount")-1200)*(30/100) +

```

```
(1200-1000)*(20/100) + 1000*(10/100);
ELSE
    (1300-1200)*(30/100) + (1200-1000)*(20/100) + 1000*(10/100);
ENDIF
ENDIF
```

ノート:

OWP_Expense Amount に値を割り当てないでください。計算値にさらにロジックを適用する使用例がある場合、**OWP_Expense Amount** を **OWP_Custom Expense** に割り当てます。類似した前述の使用例 2 を参照してください。

ウィザードを使用して構成した後で

ウィザードを使用して「追加所得」、「福利厚生」および「税金」を構成した後で、次のタスクを実行します:

- 給与、追加所得、福利厚生および税金のデフォルトを割り当てます。[デフォルトの設定](#)を参照してください。
- 「新規採用」の「給与等級」のデフォルト値を割り当てます。
- デフォルトを従業員(「従業員」のみまたは「従業員とジョブ」の粒度)およびジョブ(「ジョブ」のみの粒度)に割り当てするには、「**デフォルトの同期**」ルールを実行します。このルールは、新規採用者と既存の従業員またはジョブの両方に適用されます。

単一の従業員またはジョブに対して、または従業員とジョブの組合せに対してルールを実行するには、フォームでその行を選択し、「**アクション**」、「**デフォルトの同期**」の順にクリックします。「**報酬プランニング**」、「**従業員の管理**」、「**既存の従業員**」の順にクリックします。親レベルの従業員/ジョブに対してルールを実行するには、「**アクション**」、「**ビジネス・ルール**」、「**デフォルトの同期**」の順にクリックします。

例 - 付加給付の追加

この例では、新しい付加給付を作成するステップを説明します。たとえば、福利厚生を従業員の給与のパーセンテージに設定するとします。北米、EMEA および APAC の従業員に、33% から 35% の範囲で別々のパーセンテージを指定します。

開始前の前提条件は次のとおりです:

- 少なくとも「**費用プランニング**」、「**報酬費用**」および「**福利厚生**」に対して要員を有効にしておきます。(3つの粒度レベルすべてで福利厚生がサポートされます。)
- アプリケーション・メタデータをインポートして、付加給付率コンポーネント・メンバーを追加しておきます。
- ユーザー変数を設定しました。

付加給付をコンポーネントとして追加

まず、福利厚生と税金ウィザードを使用して、新しい福利厚生を作成します。

1. ホームページで「**アプリケーション**」、「**構成**」の順にクリックします。
2. 「**構成**」リストで、▼、「**要員**」の順にクリックします。

3. 構成: 要員で、「オプションおよび層」をクリックします。

Configure: Workforce

Filter: All Types All Statuses

Actions Enable Features

Name	Type	Status	Executed	Action
Component Import Grades, Taxes, Benefits & Additional Earnings	Metadata Optional	Not Configured		
Entities Import Entities	Metadata Mandatory	Not Configured		
Salary Grades Define salary basis and rates for Salary Grades	Maintenance Mandatory	Not Configured	demoadmin 11/7/16 4:16 PM	
Options and Tiers Set options for Additional Earnings/Benefits & tiers for Taxes	Metadata Optional	Not Configured		
Planning and Forecast Preparation Set the timeframe and granularity for plans	Maintenance Mandatory	Not Configured	demoadmin 3/13/17 5:23 PM	
Benefits and Taxes Set up Benefits, Taxes, and Additional Earnings	Metadata Mandatory	Not Configured		

4. 「オプションおよび層」の「コンポーネント」で、「オプション」を選択します。
5. 「アクション」から「追加」を選択し、テキスト・ボックスに「Fringe Rate – North America」と入力します。繰り返して、EMEA および APAC のオプションを追加します:

Fringe Rate - North America	
Fringe Rate - EMEA	
Fringe Rate - APAC	

6. 「保存」、「次」、「閉じる」の順にクリックします。

付加給付の定義

次に、福利厚生と税金ウィザードを使用して、付加給付オプションのレートを設定します。

1. 構成: 要員で、「福利厚生と税金」をクリックします。
2. 「フィルタ」 をクリックします。
3. 「コンポーネント」から、付加給付のシナリオおよびバージョンを選択し、「福利厚生」、「適用」の順にクリックします:

Filter

Apply

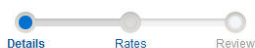
Cancel

Scenario

Version

Components

4. 「詳細」で、付加給付パラメータを設定します:



Name

Component Type

Financial Account

Description

Payment Terms

Payment Frequency

Value Type

Maximum Value Type

Taxable Component

5. 「保存」、「次」の順にクリックします。
6. 「レート」で、各年の給付レート・オプションごとに付加給付レートを入力します。

Entity	Scenario	Version	Currency			
Company Assumptions	Plan	Working	USD			
				FY17	FY18	FY19
				Rate	Rate	Rate
Car Allowance - US						
Medical - US						
Fringe Rate - North America				34	34	35
Fringe Rate - EMEA				33	33	34
Fringe Rate - APAC				34	34	34

7. 「保存」、「次」の順にクリックします。
8. 新しい福利厚生オプションを確認します。

Select Year:	FY17									
	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct
Car Allowance - US										
Medical - US										
Fringe Rate - North...	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary
Fringe Rate - EMEA	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary	33% of Basic Salary
Fringe Rate - APAC	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary	34% of Basic Salary

9. 「保存」、「閉じる」の順にクリックします。

福利厚生デフォルトの設定

次に、各親エンティティ (North America、EMEA および APAC) の子メンバーの福利厚生デフォルトを設定します。

1. ホームページで「要員」をクリックします。
2. 「報酬プランニング」、「デフォルト」、「福利厚生」の順にクリックします。
3. 「POV」からエンティティ・メンバーを選択します。
この例では、「Sales Italy」の福利厚生デフォルトを設定します。
4. 「アクション」、「福利厚生デフォルトの追加」の順にクリックします。
5. 「福利厚生デフォルトの追加」の「福利厚生」で、「付加給付レート」を選択し、「オプション」で「付加レート - EMEA」を選択します。

Add Benefit Defaults Launch Cancel

* Benefit:

* Job:

* Union Code:

* Option:

6. 「起動」をクリックします。

これで、「雇用予定者の追加」ビジネス・ルールを使用して Sales Italy に採用要請を追加するたびに、EMEA に設定した新しい付加給付レート (例: 2017 年の 34%) が適用されます。付加給付を含む報酬が自動的に計算されます。(付加給付レートは、「デフォルトの同期」ビジネス・ルールを実行したときにも適用されます。) 福利厚生と税金ウィザードを使用して付加給付レートを更新した場合、更新したレートを適用するために、「報酬の定義の同期」ビジネス・ルールを実行します。

構成後のタスク

次も参照:

- [仮定の設定](#)
仮定(とデフォルト)によって、要員関連の費用の計算が導き出されます。
- [デフォルトの設定](#)
デフォルト(と仮定)によって、要員関連の費用の計算が導き出されます。
- [従業員マスター・データの入力](#)
- [要員と財務の統合のマッピングのカスタマイズ](#)

- [デフォルトの同期](#)
- [カスタム要員テンプレートを使用した要員カスタマイズのサポート](#)
要員は、カスタム・テンプレートである **OWP_Custom Template** を提供します。このテンプレートには、サポートされているルールごとに 2 つの空白のスクリプト・ブロックがあり、サポートされているルールをカスタマイズできます。たとえば、従業員を異動したり従業員のジョブを変更するときに、スクリプト・ブロックを使用してカスタムの従業員プロパティを含めます。
- [更新後のタスク](#)
月次更新から要員のコンテンツを更新した後、次の情報に注意してください。

仮定の設定

仮定(とデフォルト)によって、要員関連の費用の計算が導き出されます。



仮定を設定するには、「報酬プランニング」、「**仮定**」タブの順にクリックします。次に、「**一般**」、「**給与等級**」または「**功績レート**」のタブをクリックします。管理者は、構成の一環としてこれらの要員仮定を設定します。権限を付与されている場合、プランナは必要に応じてそれらを更新できます。

仮定には次のようなものがあります。

- 日および週当たりの作業時間数、月当たり労働日数を含む「**一般**」仮定。時給従業員の給与費用および一部支払係数(つまり、産休ステータスに適用する支払パーセンテージ)を導き出します。

功績以外の仮定については、エンティティ別に、または「エンティティなし」レベル(デフォルト仮定の場合)で、仮定を設定できます。仮定がエンティティに対して設定されている場合、それが計算に使用されます。設定されていない場合、エンティティなし(組織レベル)に設定されている仮定が使用されます。

「**功績仮定**」を有効にした場合、既存の従業員の「**功績月**」および「**カットオフ日**」の功績仮定も設定できます。

- 「**功績月**」は、年ごとに功績昇給を付与する月を指定します。
- 既存の従業員の場合、「**カットオフ日**」は、功績昇給に合格になるためにそれまでに従業員を採用する必要がある年ごとの日付を示します。

功績仮定は、どのように有効化されたかによって、グローバル・レベルまたはエンティティ・レベルのいずれかで設定されます。功績仮定の設定にグローバル・レベルまたはエンティティ・レベルのどちらが使用されるかの詳細は、[費用プランニングの有効化](#)を参照してください。

ノート:

既存の従業員の場合、「**ロードされたデータの処理**」を実行して、「**功績月**」および「**カットオフ日**」の影響を確認する必要があります。「**功績月**」または「**カットオフ日**」を更新するときは必ず、「**ロードされたデータの処理**」を実行して従業員レベルで同期する必要があります。

- 給与基準(たとえば、年次)および給与等級のレートを含む「**給与等級**」仮定。

エンティティ別に、または「エンティティなし」レベル(デフォルト仮定の場合)で、仮定を設定できます。仮定がエンティティに対して設定されている場合、それが計算に使用されます。設定されていない場合、エンティティなし(組織レベル)に設定されている仮定が使用されます。

- 給与計算に追加される「**功績レート**」。

功績レートは、功績仮定がどのように有効化されたかによって、グローバル・レベルまたはエンティティ・レベルで設定されます。功績仮定の設定にグローバル・レベルまたはエンティティ・レベルのどちらが使用されるかの詳細は、[費用プランニングの有効化](#)を参照してください。

「**財務勘定科目マッピング**」の詳細は、[要員と財務の統合のマッピングのカスタマイズ](#)を参照してください。

仮定を設定した後で、「**デフォルトの同期**」ルールを実行します([デフォルトの同期](#)を参照してください)。「給与」、「追加所得」、「福利厚生」および「税金」のデフォルトを設定するには、[デフォルトの設定](#)を参照してください。

デフォルトの設定

デフォルト(と仮定)によって、要員関連の費用の計算が導き出されます。

特定ジョブの全従業員に給与、追加所得、福利厚生または税金のデフォルトを使用する場合は、デフォルトの追加時にそのジョブを選択します。たとえば、ジョブのデフォルトの追加時に会計士を選択した場合、会計士であるすべての従業員にそのデフォルトが割り当てられます。

従業員とジョブの粒度が有効になっている場合、ジョブと組合コードに基づいてデフォルトを設定する必要があります。この設定により、特定ジョブの新規採用の報酬要素がデフォルト設定されます。たとえば、組合コードがトラック運転手である倉庫作業員に対して、デフォルトの給与等級を等級 3 に設定するとします。

報酬要素のデフォルトをすべてのジョブの全従業員に適用するには、給与、追加所得、福利厚生および税金のデフォルトを設定する場合などに、OWP_All の<メンバー>を選択します。たとえば、すべてのジョブおよび組合の全従業員に対してデフォルトの報酬要素を使用する場合は、OWP_All Union Code メンバーおよび OWP_All Jobs メンバーを選択します。したがって、たとえば、OWP_All Union Code メンバーと OWP_All Job メンバーを選択した場合、会計の Sue Doe (組合コードがデフォルト(組合コードなし))と倉庫の Tom Blue (組合コードがトラック運転手)の報酬要素のデフォルトは同じになります。

 ノート:

要員では、「組合コードなし」という名前のレベル 0 のメンバーが、「組合コード合計」の兄弟にシードされます。ただし、給与、追加所得、福利厚生および税金のデフォルトを追加する場合、実行時プロンプトで「組合コードなし」を選択することはできません。このニーズを満たすため、要員では、少なくとも 1 つの兄弟の null メタデータ・メンバー(OWP_Unspecified Union Code など)を OWP_All Union Code に追加することが求められます。

会社が「組合コード」を使用しない場合は、要員を有効にするときに、ディメンションの名前をビジネスにとって意味のある名前に変更できます。要員を有効にしたときに「組合コード」の名前を変更しなかった場合は、「組合コード」ディメンションに含めるメンバーを作成し、ディメンションの別名を好きな名前に変更できます。

「報酬プランニング」、「デフォルト」

タブの順にクリックまたはタップし、要員のデフォルトを設定します。次に:

- 「給与」のデフォルトを設定するには、「給与」をクリックします。これらのデフォルト

は、新規採用またはジョブ給与のデフォルトに使用されます。「仮定」、「給与等級」の順に使用して、プランナは、インポートした「給与等級」の給与基準(「年次」や「1 時間ごと」など)および給与レートを設定できます。

給与基準と給与レートを OEP_No Entity メンバーにインポートすると、それらがすべてのエンティティで使用されます。または、「OEP_No Entity」を選択します(「報酬プランニング」、「仮定」、「給与等級」)。

- 「追加所得」のデフォルトを設定するには、「追加所得」をクリックします。
- 「福利厚生」のデフォルトを設定するには、「福利厚生」をクリックします。
- 「税金」のデフォルトを設定するには、「税金」をクリックします。

 ノート:

デフォルトを追加するとき、親ドライバ・ディメンション・メンバーまたはレベル・ゼロ・メンバーを選択できます。

「給与マッピング」および「功績マッピング」の詳細は、[要員と財務の統合のマッピングのカスタマイズ](#)を参照してください。

 ヒント:

「給与」、「追加所得」、「福利厚生」および「税金」のデフォルト、またはエンティティ間の「基本給与」あるいは「功績」のマッピングをコピーするには、メンバーを右クリックし、「すべてのエンティティでデータをコピー」を選択し、「OK」をクリックします。元および先エンティティを選択し、「起動」をクリックします。このアクションにより、メンバーをコピーする前にターゲットがクリアされます。

「すべてのエンティティで等級のデータをコピー」を使用して、等級、レート情報および等級の財務マッピングをコピーします。

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的

方法の学習

この45分のチュートリアルでは、「給与のデフォルト」を無効にするために、即時利用可能なテンプレートを変更する方法を示します。最初に新規の給与オプション・スマート・リストを作成し、要員で使用される Groovy テンプレートを変更し(「要請の追加」、「要請の変更」および「既存の詳細の変更」、スマート・リストで指定された給与オプション:「給与等級」および「給与基準とレート」を使用します。



給与のデフォルトの無効化

従業員マスター・データの入力

「分割資金調達 FTE」を有効にするとき、「従業員マスター・データ」フォームで各従業員のマスター FTE 値も入力する必要があります。

ホームページで「要員」、「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「従業員マスター・データ」の順にクリックします。

各会計年について、定義した周期性でマスター FTE を入力します。マスター FTE は「分割資金調達 FTE」を使用する場合に必須です。

 Tip:

「従業員マスター・データ」フォームに有効なすべての年の列が表示されます。複数の期間の FTE の入力しやすくするには、YearTotal のデータを入力します。値が期間に分散されます。期間を拡張して、特定の月または四半期のデータを変更できます。

「エンティティ」ディメンションの新規メンバー OEP_Home Entity に、マスター FTE 値が格納されます。OEP_Home Entity は、「要員」キューブおよび「要員」レポート・キューブで有効です。管理者以外の誰かがマスター FTE 値を入力または編集する場合、OEP_Home Entity への書込みアクセス権を確実に付与してください。

 **Tip:**

データ・インポート・テンプレートを使用して、マスター FTE 値を従業員にすばやくロードできます。[要員データのインポート](#)を参照してください。

ノート: 従業員の合計割当済 FTE 値が様々なプロジェクト(または他のカスタム・ディメンション)で変更される場合、合計割当済 FTE と一致するようにマスター FTE 値を更新して、計算が正しいことを確認してください。

マスター FTE が変更された場合、「**定義の同期**」ルールを実行します。

マスター FTE が合計割当済 FTE と一致することの確認に役立つように、管理者は「**FTE 割当分析**」フォームを確認して、マスター FTE と比較して FTE が割当不足であるか割当過剰であるかを確認できます。(ホームページで「**要員**」、「**報酬プランニング**」、「**検証**」、「**FTE 割当分析**」の順にクリックします。)このフォームからデータを取得するには、データ・マップ「**レポート用の人数および FTE データ**」を実行します。正の値は FTE が割当不足であることを意味し、負の値は FTE が割当過剰であることを意味します。マスター FTE または割当済 FTE を更新して、割当不足または割当過剰を解決できます。

新規採用のノート:

- 新規採用には FTE 比率が適用されます。
- 新規採用に対して、**OEP_Home Entity** にマスター FTE 値を入力する必要はありません。「要員」の計算で、新規採用の FTE はマスター FTE であると仮定されます。

要員と財務の統合のマッピングのカスタマイズ

 **Note:**

この機能は、「**フレキシブル勘定科目マッピング**」を有効にした場合のみ使用可能です。詳細は、[フレキシブル勘定科目マッピングの有効化](#)を参照してください。

デフォルトでは、要員と財務の統合に提供されているデータ・マップは、提供された財務勘定体系を使用するように設定されています。

財務で独自の勘定体系を使用している場合、データ・マップがデータを正しい勘定科目にプッシュするようにマッピングを変更できます。これにより、必要に応じて、給与と功績を別々にマップすることもできます。

財務に勘定科目を追加した後、**OFS_Cross Module Integration**→**OFS_Workforce FinStmt Integration**→**OFS_Total Compensation** の下の共有メンバーとして勘定科目を必ず追加します。このステップにより、マッピングの変更時に独自の勘定科目を選択できるようになります。

基本給与および功績勘定科目の要員と財務のメンバー・マッピングをカスタマイズするには:

1. ホームページで「**要員**」をクリックし、「**報酬プランニング**」をクリックします。
2. • 「**等級**」でフレキシブル勘定科目マッピング・ドライバを有効にした場合、「**仮定**」をクリックし、「**財務勘定科目マッピング**」タブをクリックします。

- 「**デフォルト**」でフレキシブル勘定科目マッピングを有効にした場合、「**デフォルト**」をクリックし、「**給与マッピング**」タブまたは「**功績マッピング**」タブをクリックします。

POVは、要員の「**フレキシブル勘定科目マッピング**」を有効にするときに「**マッピング・レベル**」および「**マッピング・ドライバ**」に対して選択した内容によって決まります。

3.
 - 「**等級**」でフレキシブル勘定科目マッピング・ドライバを有効にした場合、マップする財務勘定科目を選択し、「**保存**」をクリックします。
 - 「**デフォルト**」でフレキシブル勘定科目マッピングを有効にした場合、フォーム上の行を右クリックし、「**給与マッピングの追加**」または「**功績マッピングの追加**」を選択します。財務マッピングを適用する必要があるデフォルト・ドライバ・ディメンションごとに1つ以上のメンバーを選択し、マップ先にする財務勘定科目を選択し、「**起動**」をクリックします。

 **Note:**

給与および功績メンバー・リストは、**OFS_Total Compensation**の財務共有メンバーから移入されます。

4. マッピングが完了したら、ルール **OWP_Synchronize Mappings For Financial Accounts** または「**デフォルトの同期**」を実行します。

等級によって給与をマップすることを選択し、ロードしたデータに給与基準とレートのみがあり、等級情報がない場合、これらの従業員のデータを正常に移動するには、コンポーネント・ディメンションの **OWP_No Grade** へのマッピングを定義します。

「**マッピング・ドライバ**」が「**デフォルト**」に設定されているときにマッピングを削除するには、メンバーを右クリックして「**財務マッピングの除去**」を選択します。親メンバー勘定科目を選択すると、親の下のすべてのマッピングが削除されます。

 **Tip:**

「**給与**」、「**追加所得**」、「**福利厚生**」および「**税金**」のデフォルト、またはエンティティ間の「**基本給与**」あるいは「**功績**」のマッピングをコピーするには、メンバーを右クリックし、「**すべてのエンティティでデータをコピー**」を選択し、「**OK**」をクリックします。元および先エンティティを選択し、「**起動**」をクリックします。このアクションにより、メンバーをコピーする前にターゲットがクリアされます。

「**すべてのエンティティで等級のデータをコピー**」を使用して、等級、レート情報および等級の財務マッピングをコピーします。

要員と財務の間でデータをプッシュするために使用するデータ・マップの詳細は、ビジネス・プロセスを統合するためのデータのプッシュを参照してください。財務統合サマリーも確認できます: ホームページで「**財務**」、「**分析**」、「**財務統合サマリー**」の順にクリックします。

 **Tip:**

要員と財務の間で勘定科目を統合用にマッピングするときに、「無効な財務マッピングの識別」フォームを使用して、欠落または無効なマッピングを特定できます。このフォームを使用すると、必要なマッピングがコンポーネントで欠落している場合や値が無効なときに発生するエラーを特定でき、要員から財務にデータをプッシュするデータ・マップの実行が成功します。

フォームを使用するには:

1. ホームページで「**要員**」をクリックし、「**報酬プランニング**」をクリックします。
2. 「**検証**」タブをクリックし、「**無効な財務マッピングの識別**」をクリックします。
3. エラーを確認した後に、「**財務勘定科目のマッピングの同期**」ルールまたは「**定義の同期**」ルールを従業員レベルで実行し、マッピングを修正します。

このフォームは要員とともに財務が有効な場合にのみロードされます。

デフォルトの同期

「**構成**」ページで**福利厚生と税金**ウィザードを使用して、福利厚生、税金または追加所得のエンティティ・デフォルトを更新するたびに、「**デフォルトの同期**」ビジネス・ルールを実行して、更新したデータを入力フォームにプッシュする必要があります。

1. 「**報酬プランニング**」、「**従業員の管理**」、「**既存の従業員**」の順にクリックします。
2. 個人を含む行または空の行をハイライト表示します:
対象にあわせて次のようにビジネス・ルールを実行します:
 - 1名の場合、その人物の名前を含む行をハイライト表示してからルールを実行します
 - 複数の人物の場合、または実行時プロンプトを使用してディメンションを選択する場合は、空の行をハイライト表示してからルールを実行します
3. 「**アクション**」、「**ビジネス・ルール**」、「**デフォルトの同期**」の順にクリックします。

ビジネス・ルールによって、フォームのデータが再計算されて更新されます。

 **ノート:**

コンポーネント(給与等級、福利厚生、税金、追加所得など)のメタデータを更新した場合は、「**報酬の定義の同期**」ビジネス・ルールを実行して、更新した定義を割当て済の従業員およびジョブにプッシュします。このルールは、エンティティ・デフォルトを更新しません。

カスタム要員テンプレートを使用した要員カスタマイズのサポート

要員は、カスタム・テンプレートである **OWP_Custom Template** を提供します。このテンプレートには、サポートされているルールごとに2つの空白のスクリプト・ブロックがあり、サポートされているルールをカスタマイズできます。たとえば、従業員を異動したり従業員のジョブを変更するときに、スクリプト・ブロックを使用してカスタムの従業員プロパティを含めます。

OWP_Custom Template は更新の対象とは見なされないため、カスタムの柔軟なコードを1箇所で記述して保守できます。たとえば、カスタム・テンプレートを使用すると、「**ジョブの変更**」や2ステップの「**異動**」ルールを実行するときに、「**勘定科目**」ディメンションに追加したカスタムの**従業員プロパティ**がターゲット・ジョブにコピーされます。**OWP_Custom Template** でカスタマイズを実行するため、提供される他のルールやテンプレートを編集する必要がありません。これにより、実行したカスタマイズを再適用する必要がないため、提供される他のルールやテンプレートを更新時に容易に保守できます。

次のルールは **OWP_Custom Template** をサポートしており、カスタム・スクリプト・ブロックに対するすべての変更を読み取ります。

- **OWP_Change Job**
- **OWP_Transfer**
- **OWP_Transfer In**
- **OWP_Transfer Out**

次のテンプレートは、カスタム・プロパティをコピーするために変更する必要はありません。かわりに、**OWP_Custom Template** を使用してください。

- **OWP_Assign Target Defaults**
- **OWP_Change Job**
- **OWP_Transfer_T**
- **OWP_Transfer In_T**
- **OWP_Transfer Out_T**

Note:

新しいカスタム・プロパティを追加した後、プロパティが親の **OWP_Workforce Planning Accounts for Forms** の下位に共有メンバーとして追加され、フォームに表示されていることを確認します。変更を行った後にデータベースをリフレッシュします。詳細は、[従業員プロパティの追加について](#)を参照してください。

カスタム・テンプレートの **OWP_Custom Template** を使用するには:

1. ナビゲータから「**作成および管理**」の下にある「**ルール**」をクリックして、「**Calculation Manager**」を開きます。

2. **OWP_Custom Template** を開き、カスタマイズするルールに関連付けられたスクリプト・ブロックにカスタム変更を加えます。
スクリプト・ブロックの説明によって、スクリプト・ブロックの使用の詳細を参照できます。
3. カスタマイズするルールのカスタム・スクリプト・ブロックをクリックし、カスタム・コードを入力して、変更を保存します。
たとえば、カスタムの従業員プロパティ「採用日」をサポートするように **OWP_Change Job** ルールをカスタマイズするには、**ジョブの変更スクリプト 1** で次のように変更を行います:

```
FIX("No Property")
  "OWP_Action" (
    IF ( @ISMBR( {Year}))
      IF ( "Fiscal TP-Index" >= @MEMBER(@CONCATENATE("HSP_ID_",
@HspNumToString({StartMonth})))->"Fiscal TP-Index")
        "Hire Date"->{TargetJob} = "Hire Date";
      ENDIF
    ELSE
      "Hire Date"->{TargetJob} = "Hire Date";
    ENDIF
  )
ENDIFIX
```

4. 関連するルール(1 つまたは複数)を検証およびデプロイします。

更新後のタスク

月次更新から要員のコンテンツを更新した後、次の情報に注意してください。

特定のリリースで使用可能な機能拡張には、一部の付属アーティファクトの更新が含まれます。これらのアーティファクトを変更していない場合、アーティファクトおよび機能は、このリリースで自動的に使用可能になります。このリリース中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、これらのアーティファクトをカスタマイズ済で、新機能を利用する場合は、付録の[要員アーティファクトの更新](#)の情報を参照してください。

また、この付録を確認して新しいルールのリストを参照してください。新しいルールをユーザーが使用できるようにするには、ユーザーにルールへのアクセス権を付与する必要があります。これを行うには、ホームページで「ルール」、OEP_WFP キューブ、新しいルール、「権限」アイコンの順に選択します。

2022 年 10 月

要員の **2022 年 10 月** コンテンツを更新した直後、これらのタスクを実行してください。

- すべてのユーザーが、2 つの新規ユーザー変数の値を設定する必要があります。「一括更新」フォームを使用するには、次の変数が必須です:
 - **従業員の親** - 新規採用や既存の従業員など、選択した「従業員の親」メンバーに基づいてフォームに表示する従業員を含めるか除外することができるようにすることで、フォームを管理しやすくします。
 - **期間** - 新規採用に対するコメントを、すべての従業員に対する「報酬合計」と同様に、「一括更新」フォームに表示できます。

- データ・マップ「**レポート用の人数および FTE データ**」を実行して、新しい詳細な勘定科目データを使用して「要員」レポート・キューブにデータを再移入します。
- ルール **OWP_Calculate existing employee compensation** またはいずれかの「同期」ルールを実行して、パートタイム従業員の功績が正しく計算されることを確認してください。

2021 年 8 月

要員の **2021 年 8 月** コンテンツを更新した直後、これらのタスクを実行してください。

レポート・キューブへのカスタム・ディメンションの追加

この更新では、新規アプリケーションの場合、初めて機能を有効にするときにカスタム・ディメンションをレポート・キューブ(OEP_REP)に追加するかどうかを選択できます。

既存のアプリケーションの場合、次回機能を有効にするときにカスタム・ディメンションをレポート・キューブに追加する 1 回かぎりのオプションがあります。**機能を有効にする前に**、OEP_REP キューブ内のデータをクリアする必要があります。

レポート・キューブ(OEP_REP)にプッシュするディメンションを選択するには、[レポート・キューブへのカスタム・ディメンションの追加](#)を参照してください:

- 新規アプリケーションの場合、初めて機能を有効化するときこのタスクを 1 回のみ実行できます。
- 既存のアプリケーションの場合、次回「**機能を使用可能にする**」で変更を加えるときにこのタスクを実行する 1 回かぎりのオプションがあります。

功績仮定

- 新規ダッシュボード「**要員および功績仮定**」へのアクセス権をユーザーに付与します。
- 「**功績仮定**」を有効にしており、「**グローバル**」レベルでのプランニングを指定する場合、「**要員および功績仮定**」ダッシュボードで**会社仮定**が使用され、エンティティは非表示になります。「**エンティティ 当たり**」レベルでのプランニングを指定する場合、「**要員および功績仮定**」ダッシュボードでエンティティが使用され、**会社仮定**は非表示になります。
- 既存の顧客の場合、「**功績仮定**」を有効にして「**エンティティ**」または「**グローバル**」によるプランニングを選択する場合、「**エンティティ**」または「**グローバル**」レベルでの「**功績レート**」、「**功績月**」および「**カットオフ日**」のデータを入力する必要があります。データ管理またはデータ統合を使用して既存の従業員のデータをロードするとき、これらの仮定は**増分的なデータの処理と同期**ルールの一部として従業員にコピーされます。または、「**功績月**」あるいは「**カットオフ日**」を更新するときに必ず「**ロードされたデータの処理**」を実行できます。

更新された「従業員の詳細」フォーム

「**コンポーネント**」ディメンションには新規メンバーの「**功績昇給**」があり、これは功績勘定科目のスマート・リスト値として割り当てられます。既存の顧客の場合、2021 年 8 月のコンテンツを更新すると、「**従業員の詳細**」フォームの「**功績**」の行見出しに、新しいスマート・リスト値ではなく **1** が表示されます。「**従業員の詳細**」フォームを更新して新規メンバーの「**功績昇給**」を表示するには、「**報酬の計算**」または「**同期**」ルールを実行します。

2020年2月

要員の**2020年2月**コンテンツの更新直後に、新規ルール「**1回限り - 新規プロパティを移入**」を実行して、既存の「開始月」のデータを「開始日」勘定科目に変換する必要があります。このルールは、コンテンツを更新した直後に、データのあるシナリオおよびバージョンの各組合せに対して1度のみ実行してください。データを再計算するシナリオおよびバージョンの組合せのみを指定してください。たとえば、履歴データの再計算は必要ない場合があります。

最適なパフォーマンスのために、「**1回限り - 新規プロパティを移入**」の実行前に、ディメンションをFIX文からFIX Parallelに移動し、FIX Parallel文に移動するディメンションのかわりにエンティティ・メンバー選択をFIX文に移動することにより、プロセスの並列処理に適したディメンションを使用するようにFIX Parallelディメンションを変更します。この変更は、Calculation Managerの**OWP_Populate New Properties_T**テンプレートで実行する必要があります。変更内容を保存した後、**OWP_Populate New Properties**ルールをデプロイします。

ノート:

このルールを更新直後に実行しないと、どのルールを実行しても、結果として一部のデータが失われる可能性があります。「**1回限り - 新規プロパティを移入**」の実行前に誤ってルールを実行した場合は、「**1回限り - 新規プロパティを移入**」を実行した後で、以前に実行したルールを再実行してください。

2019年5月

要員の**2019年5月**のコンテンツを更新した直後、新しいルール「**1X BegBalance から期間への報酬の詳細のコピー**」を実行する必要があります。これにより、報酬の詳細がBegBalanceメンバーからすべての月にコピーされます。このルールは、コンテンツを更新した直後に、データのあるアクティブなシナリオおよびバージョンの各組合せに対して1度のみ実行してください。このルールを実行するには、ホームページで「**ルール**」をクリックし、「**すべてのキューブ**」をクリックして、「**キューブ**」ドロップダウン・リストから**OEP_WFSC**を選択します。次に、ルール「**BegBalance から期間への報酬の詳細のコピー**」の「**起動**」をクリックします。

2019年2月

要員には、既存の従業員に関するデータを迅速に更新および処理するために4つのフォームが用意されています。各フォームは、変更されたデータのみを処理するGroovyルールに関連付けられています。これらのフォームは、更新対象のデータの種別に応じて最適な処理を効率的に実行できるよう設計されています。これらのフォームには、「**一括更新**」タブからアクセスします。*Planning* モジュールの**操作**の従業員およびジョブの詳細の更新を参照してください。

これらのフォームでは基本的に、フレックス・ディメンションおよびエンティティ・ディメンションがページに含まれています。フォームのロードのパフォーマンスを分析してから、要件に応じて特定のディメンションをページから行に移動することにより、これらのフォームのレイアウトを変更することをお勧めします。ページ上には年および期間もあります。変更したデータをロードおよび処理するために選択した年および期間を使用することが想定されます。年および期間の選択内容は、「**ロードされたデータの処理**」ルールの実行時プロンプト値と同等です。

複数の同時ユーザーの効率的な処理を実現するために、Groovy ルールのデフォルトの並列度は 2 に設定されています。ただし、プランナがこれらのフォームにアクセスできないようにする場合、または低いレベルの同時性を想定している場合、設計時プロンプト(DTP)値を調整して並列度を 4 に上げることができます。これにより、データの大規模な変更の処理速度が上がります。

2018 年 7 月

- 要員の **2018 年 7 月** コンテンツを更新した直後に、新しいルールの「**1 回限り - レートを月にコピー**」を実行して、レートを「BegBalance」メンバーからすべての月にコピーする必要があります。このルールは、コンテンツを更新した直後に、データのあるアクティブなシナリオおよびバージョンの各組合せに対して 1 度のみ実行してください。このルールを実行するには、ホームページで「**ルール**」をクリックし、「**すべてのキューブ**」をクリックして、「**キューブ**」ドロップダウン・リストから OEP_WFSC を選択します。次に、「**1 回限り - レートを月にコピー**」ルールの「**起動**」をクリックします。
- 「**支払頻度**」の設定が「**一括支払い**」に構成されたコンポーネントの場合：**一括支払いオプション**を選択しないかぎり、コンポーネントの費用は、引き続き、選択した支払頻度の最初の月に発生します。

要員のルール

要員のビジネス・ルールは、ここに記載されている状況で実行します。

ヒント:

ルールの実行パフォーマンスを向上する方法の詳細は、[要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項](#)を参照してください。


ビジネス・ルールを起動するには、「**アクション**」、「**ビジネス・ルール**」、ルールの順にクリックします。

- **デフォルトの同期** - 福利厚生、税金または追加所得のエンティティ・デフォルトを更新した後、このルールを実行します。たとえば、新しい福利厚生を設定したり、既存の福利厚生をエンティティ・デフォルトから削除します。「**新規採用**」または「**既存の従業員の管理**」フォームからこのルールを実行すると、更新されたエンティティ・デフォルトが従業員/ジョブ・レベルでプッシュされます。右クリック・メニューを使用して「**デフォルトの同期**」を起動した場合は、選択されている従業員とジョブの組合せに対してこれを使用します。

対象にあわせて次のように「**デフォルトの同期**」ルールを実行します:

- 1 人のみの場合、その人の名前を含む行を強調表示してから、ルールを実行します。
- 複数の人の場合、または実行時プロンプトでディメンションを選択する場合、空白部分を右クリックしてから、ルールを実行します。
- **報酬の定義の同期** - 既存の福利厚生、税金または追加所得を更新した後、このルールを実行します。たとえば、レート表、支払い頻度、給与等級または最大値を更新したとします。「**報酬の定義の同期**」を実行すると、更新されたコンポーネント定義が従業員およびジョブにプッシュされます。このルールは、エンティティ・デフォルトを更新しません。

- **報酬の計算** - フォームでデータを更新した場合、費用を再計算するために、「**報酬の計算**」ルールを実行します。たとえば、従業員のステータスを変更した場合、その従業員の FTE を確認してから、**報酬の計算**を実行します。
このルールを実行して、個々の従業員またはジョブの報酬を計算します。
- 「**すべてのデータに関する従業員報酬の計算**」および「**すべてのデータに関するジョブ報酬の計算**」(ジョブのみのモデルの場合) - これらのルールを実行して、すべてのエンティティまたはエンティティ内のすべての従業員またはジョブのデータを計算します。
- **ロードされたデータの処理** - 新しい報酬データをインポートした後、「**ロードされたデータの処理**」ルールを実行して、データをプランニング年範囲の必要な期間にコピーします。このルール・セットを実行すると、処理月に異なる値をロードしていないかぎり、すべての従業員について人数が 1、一部支払係数が 100%に設定されます。

 **ヒント:**

4 つの要員の「**一括更新**」フォームで既存の従業員、エンティティおよびジョブに関してソース・データを迅速に変更できます。各フォームは、変更されたデータのみを処理する Groovy ルールに関連付けられています。*Planning モジュールの操作*の複数の従業員およびジョブの詳細の更新を参照してください。

 **ノート:**

「エンティティ合計」の下の親エンティティを選択することにより、ルール「**デフォルトの同期**」、「**報酬の定義の同期**」および「**ロードされたデータの処理**」を複数のエンティティに対して一度に実行できます。パフォーマンス上の理由から、1 回のパスですべてのエンティティのルールを実行するかわりに、「エンティティ合計」で別の子を選択してルールの複数インスタンスを実行することをお勧めします。

 **ノート:**

ビジネス・ルールの実行時に無効なデータに関するエラー・メッセージが表示された場合、ルールのエラー・メッセージのトラブルシューティングを参照してください。

要員で使用される Groovy テンプレート

要員で使用される Groovy テンプレートのセキュリティを設定してください:

- OWP_Add Requisition_GT—「**採用要請の追加**」メニュー・アイテム
- OWP_Change Existing Details_GT—「**既存の詳細の変更**」および**既存の従業員詳細の変更**メニュー・アイテム
- OWP_Change Requisition_GT—「**要請の変更**」メニュー・アイテム
- OWP_Enable Job_GT
—「**ジョブの追加**」メニュー・アイテム

- OWP_Change Salary_GT
— 「給与の変更」メニュー・アイテム
- OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT—フォームへの保存時に実行
- OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT—フォームへの保存時に実行
- OWP_Incremental Synchronize Defaults_GT—フォームへの保存時に実行
- OWP_Incremental Synchronize Definition_GT—フォームへの保存時に実行
- OWP_Copy Data across Entities_GT
- OWP_Copy Data Across Entities For Grades_GT

Groovy テンプレートのセキュリティを設定するには:

1. 「ホーム」 ページで、「ルール」、「フィルタ」の順にクリックし、キューブおよびアーティファクト・タイプを選択します。
2. ルールまたはテンプレートの横の「権限」をクリックし、「権限の割当」をクリックします。
3. 「権限の割当」で、「権限」をクリックし、権限を割り当てます。詳細は、アクセス権限の設定を参照してください。

FTE および人数の計算

人数および FTE は両方とも従業員をカウントするためのメトリックです。

- 人数は、実際の従業員数として計算されます。
- FTE (常勤換算)は、フルタイムの時間数として計算されます。フルタイムの従業員は FTE が 1.0 となります。パートタイムの従業員は FTE が 1.0 より小さくなります。FTE が 0 より大きい場合は、従業員の人数は常に 1.0 になります。

従業員の FTE が整数でない場合、FTE および人数が異なる結果となる場合があります。FTE は最も近い整数に丸められます。唯一の例外は、0 より大きく 1 より小さい場合であり、FTE は常に 1 に丸められます。たとえば、0.25 FTE は 1.0 に切り上げられます(0 が最も近い整数であっても、人数のために従業員をカウントする必要があります)。FTE が 1.25 であるジョブの場合は、人数は最も近い整数 1.0 に丸められます。

報酬計算のチェックリスト

報酬を計算する前に、このチェックリストを使用して、報酬計算を成功させるのに必要な最小要件を確認します。

Table 6-7 報酬計算のチェックリスト

勘定科目	チェックリスト
基本給与計算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「従業員とジョブ」モデルの必須データ・ロード・プロパティを確認します: <ul style="list-style-type: none"> • OWP_FTE • OWP_Start Date • OWP_Applicable Union Code • OWP_Employee Type 2. 「従業員」モデルの必須データ・ロード・プロパティを確認します: <ul style="list-style-type: none"> • OWP_FTE • OWP_Start Date • OWP_Employee Type • OWP_Pay Type 3. 「ジョブ」モデルの必須データ・ロード・プロパティを確認します: <ul style="list-style-type: none"> • OWP_Regular Headcount • OWP_Contractor Headcount • OWP_Temporary Headcount • OWP_Pay Type • OWP_Skill Set 4. 給与等級がロードされた場合は、等級に対して基本給与およびレートが使用可能であることを確認します。
共通チェック	<p>プランニング・シナリオと予測シナリオの範囲を変更した場合は、給与、所得、福利厚生および税金の対応するレートが新しい範囲に対して使用可能であることを確認します。</p>
功績計算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「功績レート」フォームで「功績レート」が使用可能で、従業員に「功績月」が割り当てられていることを確認します。 2. 「功績仮定」が有効な場合は、「功績仮定」フォームで「カットオフ日」および「功績月」が年レベルで使用可能であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> • 「功績仮定」が「グローバル」レベルで設定されている場合は、「功績月」、「功績レート」および「カットオフ日」がグローバル・エンティティ・レベルで使用可能であることを確認します。 • 「功績仮定」が「エンティティ」レベルで設定されている場合は、「功績月」、「功績レート」および「カットオフ日」がエンティティ・レベルで使用可能であることを確認します。

Table 6-7 (Cont.) 報酬計算のチェックリスト

勘定科目	チェックリスト
所得、福利厚生および税金の計算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 所得、福利厚生および税金が構成され、福利厚生と税金ウィザードにレートが入力されていることを確認します。 2. 所得、福利厚生および税金に対して、エンティティのデフォルトが設定されていることを確認します。 3. 「カスタム」の「コンポーネント・タイプ」の場合は、OWP_Custom Expense メンバーのカスタム式をレビューして、OWP_Expense Amount メンバーへの割当てがないことを確認します。 4. 「分割資金調達 FTE」を有効にした場合は、OEP_Home Entity に対してそのデータがロードされていることを確認します。
財務の柔軟なマッピング	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「等級」で「マッピング・ドライバ」が有効な場合は、等級に対して給与および功績マッピングが使用可能であることを確認します。 2. 「デフォルト」で「マッピング・ドライバ」が有効な場合は、「財務」フォームの給与および功績マッピングで、すべてのデフォルトに対する給与および功績マッピングを確認します。
異動関連のチェック	「ソース」および「ターゲット」の RTP は同一にできません。少なくとも 1 つのターゲット・ディメンションは異なる必要があります。

要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項

これらのベスト・プラクティスのヒントを考慮することで、要員のルールの実行パフォーマンスを向上できる可能性があります。

- 要員のルールでは、FIXPARALLEL 文が「エンティティ」ディメンションで実行されると仮定されますが、これは大量のデータを「エンティティ」ディメンションにロードする場合に理想的です。ただし、大量のデータを別のディメンション(たとえば、「プロジェクト」などのフレックス・ディメンション)にロードする場合、FIXPARALLEL 文を変更してかわりに「プロジェクト」ディメンションに適用することで、パフォーマンスを向上できます。要員には、いくつかのルールおよびテンプレートで使用される **OWP_Fix Parallel_T** という名前のテンプレートが用意されています。**OWP_Fix Parallel_T** に依存するルールおよびテンプレートの詳細なリストは、表表 1 を参照してください。最適なディメンションを反映するように FIXPARALLEL 文を変更すると、すべての依存ルールおよびテンプレートでパフォーマンス向上が実現します。

 ヒント:

FIXPARALLEL 文に含める最適なディメンションを決定するには、現実的で代表的なデータを使用してテストを実行してみることをお勧めします。

OWP_Fix Parallel_T テンプレートを変更するには:

1. たとえば、FIXPARALLEL 文で使用するディメンションとして、Entity ではなく Flex Dim1 を設定すると仮定します:
 - a. **OEP_WFP** キューブの Calculation Manager で **OWP_Fix Parallel_T** テンプレートを開きます。
 - b. 「**テンプレート・デザイナー**」で、「Flex Dimension 1」->「FlexDim1Fix=,@RELATIVE(..."設計時プロンプト割当てオブジェクトを選択します。等式の右側から先頭のカンマを削除して、「,@RELATIVE({FlexDim1},0) "から "@RELATIVE({FlexDim1},0) "のみにします。
 - c. 「**テンプレート・デザイナー**」で「Member selection of..."設計時プロンプト割当てオブジェクトを選択します。
 - i. "@RELATIVE({Department},0) "および "[FlexDim1Fix]", の FixParDimSel および FixStmtMbrSel 式の等式の右側をそれぞれ入れ替えます。

```
FixParDimSel = @RELATIVE({Department},0)
FixStmtMbrSel = {Scenario}, {Version} [FlexDim1Fix]
[FlexDim2Fix] [FlexDim3Fix] [CurrencyDTP]
```

変更後

```
FixParDimSel = [FlexDim1Fix]
FixStmtMbrSel = {Scenario},
{Version} ,@RELATIVE({Department},0) [FlexDim2Fix]
[FlexDim3Fix] [CurrencyDTP]
```

- ii. FixStmtMbrSel 式に含まれるようになった "@RELATIVE({Department},0) "の前に先頭のカンマがあることを確認してください。
 - d. テンプレートを保存します。
- ノート: **Fix Parallel** は複数のディメンションを持つことができます。"Template Designer"->"Member selection of..."の FixParDimSel の右側に 1 つ以上のディメンションを指定できます。エンティティ、従業員、ジョブまたは最適な結果のために有効化されたカスタム・ディメンションから、右側のディメンションを選択します。
2. **OWP_Fix Parallel_T** を変更した後に、次のルールおよびテンプレートを再デプロイします。

表 6-8 OWP_Fix Parallel_T 依存ルールおよびテンプレート

ルール/テンプレート	名前
ルール	OWP_Process Loaded Data
ルール	OWP_Synchronize Defaults
ルール	OWP_Synchronize Definition
テンプレート	OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT
テンプレート	OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT
テンプレート	OWP_Incremental Synchronize Defaults_GT
テンプレート	OWP_Incremental Synchronize Definition_GT

 ノート:

- 本番環境で変更を適用する前に、テスト・インスタンスで変更をテストしてください。
- テンプレートを変更する場合、設計時プロンプト(DTP)を確認して、構文(カンマの配置など)が有効でバランスがとれていることを確認します。

- 組織の通常のプラクティスで、「ロードされたデータの処理」を実行した直後に「デフォルトの同期」を実行する場合、同じ相対位置の「定義の同期」テンプレートかわりに「デフォルトの同期」テンプレートを使用するように「ロードされたデータの処理」ルールを変更することで、実行時間を短縮できます。これを行うことで、「ロードされたデータの処理」ルールに「デフォルトの同期」テンプレートを含める場合には不要となる「定義の同期」テンプレートの実行時間を排除できます(「デフォルトの同期」には「定義の同期」のロジックが含まれているため)。
- Oracle Fusion Human Capital Management などの人事または給与計算システムのソースから追加所得、福利厚生および税金の割当てを直接ロードする場合、「デフォルトの同期」や「報酬の計算」を実行する必要はありません。この使用例で、ロードされたすべてのデータに対して報酬を計算する場合、「ロードされたデータの処理」を実行するのみで十分です(これには「報酬の定義の同期」が含まれるため)。
- すべての要員データの一括ロードに対して、データ統合を使用して、増分データ・ロード・プロセスを使用することをお勧めします。このプロセスは、要員データをロードおよび計算するための最も効率的で最適なソリューションです。増分要員データのロードおよび計算を参照してください。

7

プロジェクトの構成

次も参照:

- [プロジェクトの機能の有効化](#)
- [プロジェクトの構成](#)
プロジェクトの機能を有効化した後で次の構成タスクを実行します。
- [EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合](#)
- [構成後のタスク](#)
- [プロジェクトのルール](#)

プロジェクトの機能の有効化

プロジェクトのプランニングを開始する前に、プロジェクトの機能を有効化する必要があります。使用する予定がある機能のみを有効化します。選択内容に基づいて、ディメンション、ドライバ、フォームおよび勘定科目が移入されます。後から戻って追加の機能を有効化することができますが、アプリケーションに含めるディメンションは最初に機能を有効化するときにすべてを有効化する必要があります。

ノート:

一度有効化した機能を後から無効化することはできません。

ビデオ

目的

プロジェクトの有効化および構成について学習します。

視聴するビデオ



[Oracle Enterprise Planning Cloud のプロジェクトの構成](#)

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的

この 90 分のチュートリアルでは、プロジェクトの機能を構成して有効にする方法を示します。

方法の学習



[プロジェクトの構成](#)

このチュートリアルでは、契約プロジェクトおよび収益プランニングの追加での有効化、費用の計画、収益の計画、および計画の分析の方法を示します。



[契約プロジェクトおよび収益の追加での有効化](#)



1. ホームページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストで「プロジェクト」を選択してから「機能を使用可能にする」をクリックします。
3. 有効化する機能を選択してから、「有効化」をクリックします。特記しないかぎり、後から戻って追加の機能を有効化することができます。現在使用する必要がある機能のみを有効化してください。

表 7-1 プロジェクトの機能の有効化

有効化	説明
プロジェクト・タイプ	<p>プランニングのためにプロジェクト・タイプを選択します。</p> <p>必要なプロジェクト・タイプのみを有効化します。必要であれば、後から追加してプロジェクト・タイプを有効化することができます。</p> <p>資本プロジェクトを有効化する前に、資本を有効化し、「プロジェクト」という名前(プロジェクトでのデフォルト・ディメンション名)のカスタム・ディメンションを資本に追加します。名前を変更して、プロジェクトの「プロジェクト」ディメンションで別の名前を使用する予定がある場合は、それと同じディメンション名を資本で使用します。</p> <p>プロジェクト・タイプの有効化を参照してください。</p>
収益	<p>収益を管理できるようになります。</p> <p>契約プロジェクトのみで選択できます。収益を追跡するには、直接入力するか(「直接入力」、収益ドライバを設定します(「ドライバ・ベース」)。収益プランニングに対応するアーティファクト(フォーム、計算およびレポート)を追加します。</p> <p>プロジェクト収益の有効化を参照してください。</p>
プロジェクト・ベネフィット	<p>定性的および定量的のプロジェクト・ベネフィットを追跡します。</p> <p>プロジェクト・ベネフィットの有効化を参照してください。</p>

表 7-1 (続き) プロジェクトの機能の有効化

有効化	説明
費用	<p>プランニングするプロジェクト関連の費用を選択します。</p> <p>費用を入力して(「直接入力」)、または費用ドライバを設定して(「ドライバ・ベース」)、費用を追跡します。費用プランニングに対応するフォーム、計算およびレポートを追加します。</p> <p>要員のジョブ・レートを使用するには最初に要員を有効化する必要があります。</p> <p>従業員の稼働率を追跡するには、要員をプロジェクトの前に有効化して、粒度に「従業員」または「従業員とジョブ」を選択する必要があります。</p> <p>資本の設備レートを使用するには、最初に資本を有効化する必要があります。</p> <p>プロジェクト費用の有効化を参照してください。</p>
ローリング予測	<p>ローリング予測が有効になり、ローリング予測期間範囲にわたるプロジェクトのレポートおよび分析が可能になります。</p> <p>ローリング予測の有効化を参照してください。</p>
プロジェクト・レポート	<p>プロジェクトに対してレポート・キューブを有効化します。</p> <p>「プロジェクト管理クラウド統合」を選択する場合、この選択は必須です。このオプションは、ハイブリッド Essbase が有効であるアプリケーションにのみ使用可能です。</p>
プロジェクト管理クラウド統合	<p>Oracle Project Management Cloud との統合を有効化します。統合をすべてサポートするには、「プロジェクト・レポート」も選択する必要があります。</p> <p>このオプションは、ハイブリッド Essbase が有効である 12 か月カレンダーを使用するアプリケーションにのみ使用可能であり、間接および資本プロジェクトに対してのみサポートされません。</p> <p>EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合および「プロジェクト管理クラウド統合」の有効化を参照してください。</p>
ディメンションのマップ/名前変更	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションで最大 3 個のカスタム・ディメンションを使用できます。プロジェクトでは、提案されるディメンション(「ベンダー」、「フェーズ」および「プログラム」)が提供されます。 カスタム・ディメンションを既存のディメンションにマップします。 基本ディメンションの名前を変更します。このステップは、最初にプロジェクトを有効化するときに行う必要があります。 <p>「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化を参照してください。</p>

ディメンション、フォーム、勘定科目など、プロジェクトのアーティファクトが移入されます。

プロジェクト・タイプの有効化

「プロジェクト・タイプ」を選択し、有効化するプロジェクトのタイプを指定します:

- **契約** - 契約プロジェクトは顧客に対して実行される作業で、顧客は企業に払戻しを行います。契約プロジェクトでは、基礎となる契約に基づいて収益が発生します。そのためにかかるコストをプランニングします。契約プロジェクトの費用、収益および請求を、クライアントが実行および払戻しを行うサービス用にすることができます。契約プロジェクトは、「実費清算」、「固定価格」、「コスト加算」および「その他」のいずれかにすることができます。
- **資本** - 資本プロジェクトは、長期間または短期間の投資プロジェクトで、資本資産の工事(建物、堤防、道路など)のために請け負われます。プロジェクトに資本の分類がある場合、プロジェクトの費用予算策定のみを行うことができます。ただし、プロジェクトの財務または非財務ベネフィットを取得できます。資本プロジェクトの費用は、資産の開発中に貸借対照表で建設仮勘定(CIP)として追跡されます。資本プロジェクトが開始され、資産の準備が整ったら、CIP 資産を既存の資産と照合する必要があります。資本プロジェクトを有効化する前に、資本を有効化し、「**プロジェクト**」という名前(プロジェクトでのデフォルト・ディメンション名)のカスタム・ディメンションを資本に追加します。名前を変更して、プロジェクトの「プロジェクト」ディメンションで別の名前を使用する予定がある場合は、それと同じディメンション名を資本で使用します。
- **間接** - 内部プロジェクトとも呼ばれるように、間接プロジェクトにはコスト影響がありますが、収益は発生しません。たとえば、人事チーム向けの、従業員の個人情報を追跡するためのポータルを作成する IT プロジェクトは、間接プロジェクトです。プロジェクトが間接として分類される場合、プロジェクトの費用予算策定のみを行うことができます。ただし、プロジェクトの財務または非財務ベネフィットをプランニングできます。

プロジェクト収益の有効化

プロジェクト収益をプランニングできるのは契約プロジェクトのみです。

契約プロジェクトに関連する収益をプランニングする場合は「**収益**」を選択し、収益プランニングのオプションを選択します。収益プランニング方法を選択します:

- **直接入力**—ユーザーがプランニング・フォームに値を直接入力できます。
直接入力を使用すると、事前定義済計算は使用されません。
- **ドライバ・ベース**—ユーザーが収益計算のレートとドライバを入力できます。
ドライバ・ベースの収益プランニングを行うときは、入力する標準レートや収益ドライバが使用され、事前定義済の式に基づいて収益が計算されます。たとえば、オンサイトおよびオフショアの請求可能リソースを使用して建設プロジェクトの収益ドライバを設定できます。オンサイトおよびオフショア・リソースの請求可能レートを指定します。労務収益は、リソース数、請求可能時間および請求可能レートに基づいて計算されます。

プロジェクト・ベネフィットの有効化

間接プロジェクトや資本プロジェクトでは、プロジェクト資産を分析するもう1つの方法としてプロジェクト・ベネフィットの追跡があります。プロジェクト・ベネフィットをプランニングすることで、財務ベネフィットを数値化することができ、プロジェクトのニーズの正当化に役立ちます。プロジェクトの非財務ベネフィットをプランニングすることもできます。これは、プロジェクトを正当化し、プロジェクトの成功を判断するために役立ちます。

「**プロジェクト・ベネフィット**」を選択し、有効化するプロジェクト・ベネフィットのタイプを指定します:

- **財務**—プロジェクトに関連付ける財務ベネフィットを定義します。ユーザーはプロジェクトのパフォーマンスを追跡できます。たとえば、新しい**Web**サイトを設定する場合、プロジェクトから得られる可能性がある財務ベネフィットを追跡できます。たとえば、**Web**サイトのリードから徐々に収益が上がる可能性があります。または、**Web**サイトで問合せを扱うと、コール・センターの費用を節約することができます。あるいは、新しいビデオ会議施設によって出張費用を節約できるようになる可能性があります。
- **財務以外**—非財務ベネフィットも定義できます。たとえば、新しい**Web**サイトによって顧客満足指数が改善することや、プロジェクトへの投資によってユーザー・ベースが次第に増加することがあります。ベネフィットを数値化して、様々なプロジェクト勘定科目にマッピングできます。

ベネフィットを定義したら、パフォーマンスを追跡できます。

ユーザーは、これらの他に質的プロジェクト・ベネフィットを取得することもできますが、これはプロジェクトの正当化に役立つ数値で追跡することはできません。たとえば、**Web**サイトのデザインの改善により顧客のユーザー・エクスペリエンスが向上することに気が付く場合があります。

プロジェクト費用の有効化

すべてのプロジェクト・タイプの費用をプランニングできます。

プロジェクトに関連する費用をプランニングする場合は、「**費用**」を選択してから、費用プランニング方法を選択します:

- **ドライバ・ベース**—ユーザーが費用計算のドライバを入力します。
ドライバ・ベース・プランニングを行うときは、入力する標準レートや費用ドライバが使用され、事前定義済の式に基づいて費用が計算されます。
いくつかの費用ドライバ・タイプを有効かできます:
 - **労務** - プランナが、様々な労務関連コストの計算、開始日付と終了日付の設定、FTEのプランニングなどを行うことができます。その他のオプションも選択できます:
 - * **要員からの統合**—要員から労務コードおよびコードのレートを取り込みます。
 - * **従業員** - ジョブ・レベルではなく指定した従業員レベルでのプランニングを実行できます。従業員稼働率の追跡に使用されます。
 - **設備**—プランナが、開始日付と終了日付やユニット数など、プロジェクトの設備費用をプランニングできます。「**資本からの統合**」を選択すると、資本資産を取り込んで、プロジェクトに配賦することもできます。
 - **材料**—プランナがプロジェクトの材料費用をプランニングできます。たとえば、建設プロジェクトでは製材、コンクリートおよび鉄筋が必要になります。

- **直接入力**—ユーザーがプランニング・フォームに値を直接入力できます。
直接入力を使用すると、事前定義済計算は使用されません。

ローリング予測の有効化

ローリング予測を有効にすると、プランナは1年の時間枠を超える継続的なプランニングを実行できます。ローリング予測を有効にした後、「プランニングと予測の準備」構成タスクを使用してローリング予測を構成することにより、週次レベル(13週、26週または52週)、月次レベル(12か月、18か月または24か月、および財務の場合は30か月、36か月、48か月、または60か月)あるいは四半期レベル(4四半期、6四半期または8四半期)で継続的なプランニングを行います。13期間カレンダーを使用した財務のアプリケーションでは、期間レベル(13期間または26期間)で継続的にプランニングできます。



「プランニングと予測の準備」構成タスクを使用して、ローリング予測範囲を定義します。提供されたフォームを使用すると、ローリング予測を簡単に実装できます。ローリング予測は、財務では主にデータの入力および分析で使用しますが、プロジェクトでローリング予測を有効にした場合、定義したローリング予測時間範囲にわたってプロジェクトを分析できます。

ローリング予測を有効化および構成すると:

- ローリング予測のプランニングおよび分析用のルール、フォームおよびダッシュボードが作成されます。
- ローリング予測範囲全体が表示されるようにフォームおよびダッシュボードが設計されます。有効な交差を使用して表示内容が制御されます。
- 現在の期間を更新すると、フォームおよびダッシュボードが自動的に更新されます。必要に応じて新しい期間が追加または削除され、更新されたローリング予測範囲を反映します。新しく追加された期間にトレンドおよびドライバが移入されます。有効な交差を使用してフォームが動的になります。
- 財務の場合、新規メンバー(**OEP_Rolling Forecast**)がシナリオ・ディメンションに追加されます。標準予測メンバー(**OEP_Forecast**)もまだ使用可能なので、1年の時間枠の予測を可能にする標準予測手法およびローリング予測手法を使用できます。
- プロジェクトでは **OEP_Rolling Forecast** メンバーを使用して、対応する機関の予測シナリオ(**OEP_Forecast**)を参照することにより、ローリング予測範囲のデータを動的に表示します。**OEP_Rolling Forecast** メンバーのデータ入力は許可されません。
- レポートのために、KPIに2つのシナリオが追加されました:
 - **OEP_TTM (12か月の証跡)**。このシナリオは、前の12か月のフローに基づいた勘定科目のアクティビティをレポートします。
 - **「予測済12」**。フロー・タイプ勘定科目に対して、このシナリオは、(現在の期間 + 11個の将来の期間)の合計についてレポートします。残高タイプ勘定科目に対して、このシナリオは将来のメンバー値12期間についてレポートします。

EPM Cloud を 2019 年 6 月 4 日より前に購入した場合、標準アプリケーションまたはレポート・アプリケーションを Enterprise アプリケーションへと変換できます。アプリケーションを変換した場合、プランナは変換されたアプリケーションのローリング予測手法を使用する既存のフォームを引き続き使用できます。ローリング予測を作成するフォーム・プロパティがカスタム・キューブで引き続き使用可能であるためです。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
ローリング予測を使用したプランニングについて学習します。	 概要: Planning におけるローリング予測.
ローリング予測の設定について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud でのローリング予測の設定.



「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化


この構成タスクは、最初に機能を有効化するときに行う必要があります。「**ディメンションのマップ/名前変更**」を次のように使用します:

- カスタム・ディメンションを追加します。
たとえば、チャンネルと市場についてプランニングすることができます。このケースでは、これら2つのディメンションを追加し、チャンネルおよび市場メンバーをインポートします。計算、フォームおよび他のアーティファクトには、指定する追加のディメンションが含まれます。
- 既存のディメンションの名前と有効化するモジュール内のディメンションの名前が同じで、両方のディメンションを保持する場合は、ディメンションの名前を変更します。
- 複数のモジュールで既存のディメンションを使用します。たとえば、財務を設定し、あとからプロジェクトを有効にした場合、両者に共通の既存のディメンションを利用できます。この機能を使用すると、新しいモジュールを有効化するとき共通ディメンションを再構築する必要がありません。
- 変換済の Planning アプリケーションでディメンションを再利用します。

プロジェクトの構成

プロジェクトの機能を有効化した後で次の構成タスクを実行します。

1. ホームページで「**アプリケーション**」 をクリックし、「**構成**」 をクリックします。
2. 「**構成**」リストで「**プロジェクト**」を選択します。
3. 必須のタスクをすべて実行します。ビジネスに必要なオプションのタスクを実行します。

「**フィルタ**」を使用して、構成アクションのステータスを確認します。「**アクション**」 を使用して、タスクのステータスを更新します。
ファイルのインポートやファイル・フォーマットの詳細は、[データのインポート](#)を参照してください。
4. 構成した後、および構成の変更やメタデータのインポートを行ったときは常に、データベースをリフレッシュします。「**構成**」ページで、「**アクション**」メニューから「**データベ**

スのリフレッシュ」を選択します。「作成」をクリックしてから「データベースのリフレッシュ」をクリックします。

表 7-2 プロジェクトの構成

構成	説明
プロジェクト	プロジェクトをインポートします。 メンバーを「プロジェクト」ディメンションにインポートすることにより、アプリケーションにプロジェクトを移入します。
リソース・クラス	リソース・クラスをインポートします。リソース・クラスは、労務、材料および設備コードで構成されます。 プロジェクト費用をプランニングするために使用する詳細ジョブをインポートします。メンバーをインポートするか、あるいは要員が有効化されている場合は、要員のジョブを使用できます。
エンティティ	エンティティをインポートします。 部署、コスト・センター、事業部門など、ビジネス階層を反映する「エンティティ」ディメンション・メンバーをインポートします。 メンバーを含むファイルの場所(「ローカル」または「プランニング受信ボックス」)を選択し、「参照」をクリックしてファイルを探し、ファイルの種類を指定して「インポート」をクリックします。

 ノート:

要員とプロジェクトを統合している場合、ジョブをインポートする必要はありません。ジョブは要員から自動的にインポートされます。

 ノート:

エンティティはモジュール間で共通のため、すべてのエンティティをまとめてインポートします。

表 7-2 (続き) プロジェクトの構成

構成	説明
費用勘定科目	<p>費用勘定科目を構成します。</p> <p>使用する定義済アーティファクトを選択します。ビジネス・ニーズに合わせてプロジェクト費用を管理するために、カスタム・ドライバまたは勘定科目を追加またはインポートします。必要な場合には、カスタムの勘定科目に関連する論理または計算を追加する必要があります。勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
収益勘定科目	<p>収益勘定科目を構成します。</p> <p>使用する定義済アーティファクトを選択します。ビジネス・ニーズに合わせてプロジェクト収益を管理するために、カスタム・ドライバまたは勘定科目を追加またはインポートします。必要な場合には、カスタムの勘定科目に関連する論理または計算を追加する必要があります。勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
プランニングと予測の準備	<p>プランの時間枠および粒度を設定します。</p> <p>プランニングおよび予測の時間枠、開始期間および粒度のレベルを構成します。年ごとに異なる基準でプランニングおよび予測できます。プロジェクト・プランニングと予測の準備を参照してください。</p>
プロジェクトのプロパティ	<p>プロジェクトのプロパティを構成します。</p> <p>使用する定義済アーティファクトを選択します。勘定科目やドライバの追加とインポートで使用したのと同じプロセスを使用して、カスタム・プロジェクト・プロパティを追加またはインポートします。勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
グローバル仮定	<p>為替レートを設定します。</p> <p>複数通貨アプリケーションの外国為替レートを入力します。</p> <p>さらに、標準労務レート、諸経費、労働日数および時間数、割引率など、プロジェクトのグローバル仮定を入力します。グローバル仮定の設定: 為替レートおよびグローバル・プロジェクト・レートの入力を参照してください。</p>

表 7-2 (続き) プロジェクトの構成

構成	説明
プロジェクト財務マッピング	プロジェクトと財務を統合している場合、各プロジェクト勘定科目について、対応する財務勘定科目を「スマート・リスト」で選択します。マッピングは「エンティティなし」レベル(デフォルト)で行うことができ、これはエンティティ・レベル・マッピングが設定されていない場合に使用されます。財務が有効化されている場合のみ使用できません。
<customName>ディメンション	<customName>ディメンションのメンバーをインポートします。 <customName>ディメンションを有効化した場合に、プロジェクトとドライバの関連付けなどのために使用します。

プロジェクト・プランニングと予測の準備

各モジュールについてプランの時間枠および粒度を構成できます。モジュールや年ごとに異なる時間枠と粒度を設定できます。

プランの時間枠および粒度を構成するには:

1. 「現在の会計年度」で現在の会計年度を選択します。
2. 「期間」から、現在の実績月を選択します。13 期間アプリケーションの場合は、現在の期間を選択します。この値は毎月更新する必要があります。
3. 「プラン開始年」には、プランナが現在の会計年度と次の計年度のどちらでプランニングを行うかを指定します
4. 「プラン」、「年」列を順にクリックして、構成する年数を選択します。たとえば、10 年のアプリケーションの最初の 5 年間を構成するには、5 年間を選択します。
5. 構成する各年のプランニングの基準を選択します。毎年同じ間隔でプランを準備する場合は、「すべて」をクリックしてから間隔(たとえば「月次」)を選択します。年によって異なる間隔でプランを準備する場合は、各年の行で間隔を選択します。たとえば、FY20 では月ごと、FY21 では四半期ごとにプランニングする場合、FY20 の行では「月次」、FY21 の行では「四半期ごと」を選択します。13 期間アプリケーションの場合は、「月次」のかわりに「13 期間」を選択します。
6. 「予測」をクリックし、これまでの手順を繰り返して予測の基準を指定します。最初の年の「予測」に対するプランニング基準として「四半期ごと」を選択すると、該当期間でのみ予測データの入力許可されるように、指定された有効な交差が設定されます。現在の月より前の四半期予測期間は更新できません。四半期ごとのプランニングを有効にした場合は常に、代替変数 OEP_CurQtr が提供されます。

最初の年の「予測」に対するプランニング基準として「四半期ごと」を選択すると、現在の月が四半期の最後の月の場合にプロジェクトで現在の四半期をどのように判別するかを選択できます。

現在の月が四半期の最後の月の場合は、プロジェクトで現在の四半期をどのように定義するかについて、「プランニングと予測の準備」でオプションを選択します:

- 「**予測で現在の期間をロック**」を選択した場合、プロジェクトでは次の四半期が使用されます。たとえば、現在の月が3月で、このオプションを選択した場合、プロジェクトでは現在の四半期を Q2 として定義します。
- 「**予測で現在の期間をロック**」をクリアした場合、プロジェクトでは現在の四半期が使用されます。たとえば、現在の月が3月で、このオプションをクリア(選択を解除)した場合、プロジェクトでは現在の四半期を Q1 として定義します。

ノート:

- 「**予測で現在の期間をロック**」は、最初の年の予測に対するプランニングの基準として四半期を選択している場合にのみ使用可能になります。
 - モジュールごとに「**予測で現在の期間をロック**」のオプションを選択できます。
7. プロジェクトについて、ローリング予測を有効にした場合、「**ローリング予測**」をクリックして、継続的なプランニングのための基準を選択します。プランニング頻度(「月次」または「四半期ごと」)、期間数、および実績期間数を選択します。

実績期間数では、フォームおよびダッシュボードにローリング予測期間と組み合わせて表示する実績データの期間数を定義します。

「**ローリング予測範囲**」は、選択した値に基づいて更新されます。

ローリング予測を構成するとき、プランニング頻度と期間数に基づいてフォームおよびダッシュボードが設定されます。現在のプランニング期間を変更すると、ローリング予測のフォームおよびダッシュボードが更新されます。期間が追加または削除されて、新しいローリング予測範囲を反映して実績期間が更新されます。

標準予測とローリング予測を組み合わせて使用してプランニングできます。

この構成タスクによって、必須代替変数がすべて設定されます。

ヒント:

ルールを作成または編集してプランニングおよび予測タスクをカスタマイズする場合、

```
[[PlanningFunctions.getModuleStartPeriod("ModuleName", "ScenarioName")]]
```

および

```
[[PlanningFunctions.isPlanStartYearSameAsCurrentFiscalYear("ModuleName")]]
```

のようにルールで **Planning** 数式を使用して、構成済の時間範囲情報を呼び出すことができます。

モジュール名は大小文字を区別せず、二重引用符で囲む必要があります。

- 資本
- 財務
- プロジェクト
- 要員

Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager での設計のシナリオを参照してください。


アカウントとドライバの追加および変更について

追加または変更する必要があるカスタム・ドライバ・メンバー、勘定科目メンバーおよび他のアーティファクトの数に応じて、次のいずれかのタスクを実行します:

- 少数—構成ページで直接追加または編集を行います
- 多数—次によってインポートします:
 - 既存のセットをエクスポートします。
 - エクスポートされたスプレッドシートを変更して、カスタム・アーティファクトのための行やデータを追加します。
 - スプレッドシートをインポートします。

このエクスポートとインポートのプロセスにより、アプリケーションの設計とメンテナンスにかかる時間が短縮されます。要件が変更されたときは、このプロセスを必要に応じて何回でも繰り返すことができます。たとえば、実行をプランニングしている新しいソーシャル・メディア・キャンペーン用のドライバと似ている、事前定義済マーケティング・ドライバを表示することができます。容易に、ドライバをエクスポートし、マーケティング・ドライバのコピーを作成し、必要に応じてソーシャル・メディア・キャンペーン用に変更してから再インポートできます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
カスタムの勘定科目およびドライバのインポートについて学習します。	 Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud の財務へのカスタムの勘定科目およびドライバのインポート

詳細は、[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

勘定科目とドライバの追加および管理

勘定科目とドライバを追加または変更するには:


1. アカウントまたはドライバを設定する構成タスクを選択します。
2. リストからコンポーネントまたはカテゴリを選択します(ある場合)。
3. 次のタスクを実行します:
 - アーティファクトを追加するには、「**アクション**」メニューから「**追加**」を選択して、新しい行に詳細を入力します。
 - 一連のアーティファクトの変更または多数のアーティファクトの新規追加を行うには、事前定義済アーティファクトのセットをエクスポートして(「**アクション**」メニューの「**エクスポート**」を選択)、エクスポート・ファイルを Microsoft Excel で変更します。事前定義済アーティファクトの編集や、アーティファクトのコピー作成と変更を行って、新しいアーティファクトを作成したり、新しいアーティファクトを追加したりします。その後、変更したファイルをインポートします(「**アクション**」メニューから「**インポート**」を選択します)。可能な場合には、カテゴリやサブカテゴリを使用して、関連する機能のアーティファクトをまとめます。

- カテゴリまたはグループに関係なく、すべてのドライバをエクスポートまたはインポートするには、「**バッチ・エクスポート**」または「**バッチ・インポート**」を使用します。
- 特定の種類のドライバのみをエクスポートまたはインポートするには、「**カテゴリ**」または「**コンポーネント**」を指定してから「**インポート**」または「**エクスポート**」を使用します。

ノート:

- カスタム・メンバーについて一意のメンバー名と別名を指定して、提供されているメンバーと競合しないようにします。
- ドライバを削除する必要がある場合は、グループ内の他の勘定科目ドライバの式を調べて、削除しようとするドライバを参照するものがあるかどうか確認します。参照している場合は、削除に対応するようにロジックを更新します。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
要員データを分析するための従業員デモグラフィックスの設定および使用について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud での要員デモグラフィックスの設定

グローバル仮定の設定: 為替レート

複数通貨アプリケーションを作成した後で為替レートを設定します。為替レートはここで説明するように手動で入力することもインポートすることもできます。為替レートのインポートの詳細は、*Planning の管理の簡易複数通貨アプリケーション*の**為替レート・タイプ**のインポートを参照してください。

為替レートを手動で設定するには:

1. 通貨ディメンションに各通貨のためのメンバーを追加します。
2. 「**グローバル仮定**」をクリックして、**<基本通貨>に対する為替レート**タスクを開きます。ここで、プランナが使用する通貨の**為替レート**を入力します。
3. 「**視点**」からメンバーを選択します。
4. 各期間および各通貨について平均為替レートと終了為替レートを入力して、フォームを保存します。

フォームの名前が**<基本通貨>に対する為替レート**に変更されます。**<基本通貨>**は、アプリケーションを作成したときに選択したレポート通貨です。たとえば、アプリケーションの基本通貨が「円」の場合、フォームは**円に対する為替レート**になります。これは、データの変換に使用される為替レートが対応する通貨をプランナに示し、プランナがシナリオ、年およびバージョンに固有のレートを入力できるようにします。

ノート:

新しいバージョン・メンバーを追加した場合は、そのバージョンに為替レートを入力する必要があります。

グローバル・プロジェクト・レートの入力

収益および費用の計算を促進する標準レートについて、諸経費、労働日数および時間数、労務レート、設備レートなど、グローバル・プロジェクト仮定を入力します。プロジェクトの設定で「標準労務レートの上書き」、「標準設備レートの上書き」または「標準材料レートの上書き」が「はい」になっている場合、プランナがプロジェクトのこれらの値を上書きできます。

グローバル・プロジェクト仮定を入力するには:

1. 「**グローバル仮定**」をクリックします。
2. 入力するグローバル仮定に対応する水平タブを選択し、仮定の詳細を入力します。
 - 標準レート—設備、労務および材料のレートを指定します。
 - 諸経費—様々な勘定科目の諸経費を指定します。たとえば、エンジニアリングまたは製造の諸経費レートのプランニングや、施設諸経費の配賦を行うことができます。
 - 割引率—NPV 計算で使用される年ごとの割引率を指定します。
 - 労務の標準レート - 様々なジョブのレートを指定します。
 - 労働日数および労働時間数—1 か月の労働日数および時間数を指定します(これはエンティティごとに変わる場合があります)。たとえば、様々な地域や部署に応じて、異なる稼働日数および時間数を設定できます。

ロードされるフォームは、有効化した機能と統合に基づきます。

EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合

次も参照:

- [EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合について](#)
- [EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合の設定\(1 回かぎりの設定\)](#)
- [「プロジェクト管理クラウド統合」の有効化](#)
- [EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合用のカスタム・スマート・リスト・エントリの作成](#)
- [レポート・キューブへの接続の設定](#)
- [ジョブを使用した EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の間のデータのインポートおよびエクスポート](#)
- [既存の実装の移行\(1 回かぎりの設定\)](#)
- [プロジェクト管理との統合のための EPM Planning プロジェクト・ルール](#)

EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合について

EPM Planning プロジェクト・モジュール(プロジェクト)と Oracle Fusion Cloud Project Management (プロジェクト管理)を統合して、組織のプランニングおよび予算作成を行い、プロジェクトを実行できます。EPM Planning プロジェクトを使用して戦略的企業プランおよび予算を開発し、プロジェクト管理を使用して承認済プロジェクトの実行およびコストの収集を行います。実績コストは、EPM Planning プロジェクトを使用して、予算分析、予測および再プランニングに含まれます。

この相互的な統合を利用して、通常は EPM Planning プロジェクトで新規プロジェクトを開発し、プロジェクト予算を作成して、プロジェクト・プランニング全体を実行します。続いて、プロジェクト管理を使用して実績を取得します。実績を EPM Planning プロジェクトに取り込んで、予算の差異分析を行います。

この統合により、同期の頻度に応じて EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の両方に同じ間接および資本プロジェクトが表示されるようになります。次の機能があります：

- EPM Planning プロジェクトで作成したプロジェクトおよび予算をプロジェクト管理に転送します。リソース・クラス・レベルのベースライン予算として、プロジェクト管理で戦略的予算が作成されます。
- 予算承認検証を使用して、プロジェクト・マネージャが作成した詳細予算と、EPM Planning プロジェクトで作成された戦略的予算を比較検証します(オプション)。
- プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトにリソース・クラス・レベルで実績コスト金額を転送します。
- EPM Planning プロジェクトからプロジェクト管理に、再プランニングされた予算をリソース・クラス・レベルで転送します。

データ管理およびデータ統合は、EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の間のデータ統合を推進します。データ管理およびデータ統合で提供される即時利用可能なソリューションによって、EPM Planning プロジェクトのお客様はプロジェクト管理データ・モデルからターゲット・ディメンションへの事前定義されたマッピングを適用できます。また、他のマッピングを必要に応じてビジネス要件に合うように適用するなどして、これらの統合をカスタマイズおよび拡張することもできます。

さらに、EPM Planning プロジェクトは、ワンクリック自動化を提供し、統合を簡素化する次の3つのジョブ・タイプを管理者に提供します：「**プロジェクトと予算のエクスポート**」、「**プロジェクト実績のインポート**」および「**プロジェクトと予算のインポート**」。

このガイドの他に、EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合に必要な設定について説明したホワイト・ペーパーを参照できます。[統合されたプランニングおよび予算作成の実行とプロジェクトの分析のホワイト・ペーパー\(文書 ID 2739200.1\)](#)を参照してください(Oracle サポートへのアクセスが必要です)。

実装シナリオ

一般的な統合の実装シナリオ：

- EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理がどちらも新規です。この統合の設定については、[EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合の設定\(1回かぎりの設定\)](#)を参照してください。

- EPM Planning プロジェクトがすでに実装済で、既存のプロジェクトがあります。そして、プロジェクト管理を実装して2つを統合したいと考えています。この場合、統合をサポートするためにアプリケーションを更新し、データを移行する必要があります。[EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合の設定\(1回かぎりの設定\)](#)および[プロジェクト管理への既存の EPM Planning プロジェクト実装の移行\(1回かぎりの設定\)](#)を参照してください
- プロジェクト管理がすでに実装済で、プロジェクト管理にプロジェクトが存在しています。そして、EPM Planning プロジェクトを実装して2つを統合したいと考えています。この場合、データ移行を実行して、プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトに、リソース・クラス・レベルでプロジェクト、予算および実績コストを移行する必要があります。この移行が完了した後は、このプロセスを継続的に実行しないでください。これ以降は、EPM Planning プロジェクトでプロジェクトのプランニングおよび予算作成を開始し、プロジェクトおよびプロジェクト予算をプロジェクト管理にプッシュします。[EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合の設定\(1回かぎりの設定\)](#)および [EPM Planning プロジェクトへの既存のプロジェクト管理実装の移行\(1回かぎりの設定\)](#)を参照してください。

ノート:

会社ですでに EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の両方を実装済であり、カスタム統合を構築しているか互いに無関係にアプリケーションを操作している場合は、この統合を使用する前に前提条件としてプロジェクトを調整する必要があります。

統合の考慮事項

EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合に関する考慮事項:

- ハイブリッド Essbase が有効である EPM Planning プロジェクト・アプリケーションに対してのみサポートされます。
- 標準の SKU 顧客は、データをインポートおよびエクスポートするために、データ管理の統合ではなくプランニング・ジョブを使用する必要があります。ハイブリッド Essbase が有効である必要があります。
- 12 か月カレンダーのみを使用する EPM Planning プロジェクト・アプリケーションに対してサポートされます。
- EPM Planning プロジェクトでは、間接および資本プロジェクトのみサポートされます。
- EPM Planning プロジェクトで有効になっているプロジェクトのタイプは、プロジェクト管理で使用されているプロジェクトのタイプと一致する必要があります。
- EPM Planning プロジェクト・キューブとのみ統合されます。カスタム・キューブはサポートされません。
- EPM Planning プロジェクトで、統合が正しく機能するためには、日付フォーマットの設定が MM/DD/YY である必要があります。
- プロジェクト管理では、月次、4-4-5、5-4-4 および 4-5-4 を含む 12 期間の会計カレンダーがサポートされます。4-4-4 会計カレンダーはサポートされません。

- プロジェクト管理では、間接、資本および非スポンサード・プロジェクトがサポートされます。契約プロジェクトおよび助成金はプロジェクト管理でサポートされていますが、対象範囲外です。
- 計画済費用(プロジェクト管理の予算)および実績コストは、リソース・クラス・レベル(労務、設備、材料、その他のリソースなど)で共有されます。
- 確定コストではなく、実績コストのみがインタフェースされます。
- 詳細予算は戦略的予算に対して合計金額でのみ検証できます。
- **EPM Planning** プロジェクト・アプリケーションが複数通貨アプリケーションである場合、すべての通貨がプロジェクト管理の財務プラン・タイプにも含まれていることを確認してください。金額は、入力通貨を使用して **EPM Planning** プロジェクトから転送されます。
- 統合する前に、**EPM Planning** プロジェクトのエンティティ階層をプロジェクト管理のプロジェクト所有組織とあわせてください。

統合のワークフロー

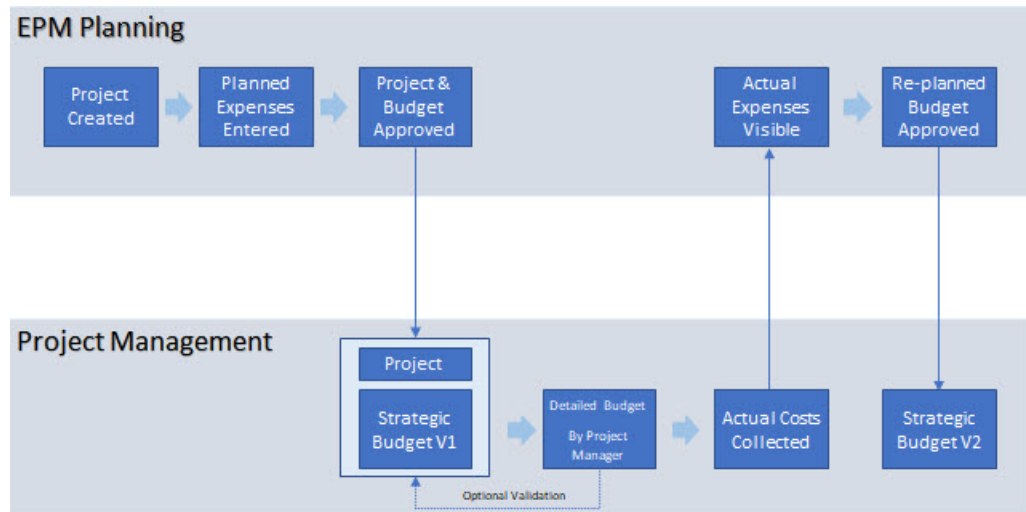
EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合では次のワークフローが使用されます:

1. 統合を設定します(1回かぎりの管理者タスク)。
2. **EPM Planning** プロジェクトでプロジェクトおよびプロジェクト予算を作成およびプランニングします。

プランナは、データ統合の統合を使用してこのタスクを実行できます。または、管理者は **EPM Planning** プロジェクト・ジョブを実行またはスケジュールして、このタスクを実行できます。
4. プロジェクト管理でプロジェクトを処理します。

プロジェクト・マネージャがプロジェクト管理で、オプションで戦略的予算に対して検証される詳細予算を準備します。プロジェクトが実行されると、プロジェクト管理で実績コストが収集されます。
5. プロジェクト管理から **EPM Planning** プロジェクトにプロジェクトの実績をインポートします。

プランナは、データ統合の統合を使用してこのタスクを実行できます。または、管理者は **EPM Planning** プロジェクト・ジョブを実行またはスケジュールして、このタスクを実行できます。
6. **EPM Planning** プロジェクトで、実行されているプロジェクトのモニター、プロジェクト予算の確認と更新および差異分析の実行を行います。
7. 定期的にポートフォリオ・マネージャが組織の予算を再プランニングして、別の予算バージョンをプロジェクト管理に送信します。



EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合の設定(1 回かぎりの設定)

次のタスクを実行して、EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合を有効にします。

EPM Planning プロジェクトまたはプロジェクト管理をすでにスタンドアロンで実装している場合は、移行を使用できます。

EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合を設定するには:

1. EPM Planning プロジェクトおよび統合オプションを有効にします。「[プロジェクト管理クラウド統合](#)」の有効化を参照してください。「[プロジェクト管理クラウド統合](#)」、「[プロジェクト・レポート](#)」,および「[費用](#)」を有効にする必要があります。

既存の EPM Planning プロジェクト・アプリケーションがある場合、追加で[プロジェクト管理クラウド統合](#)を有効にできます。このオプションを追加で有効にする場合は追加ステップが必要で、その内容はこのチェックリストに含まれています。

2. EPM Planning プロジェクトを構成します(まだ構成されていない場合)。[プロジェクトの構成](#)を参照してください。[プロジェクト管理クラウド統合](#)を追加で有効にする場合、必要な新規構成タスクはありません。
3. 提供されているスマート・リストを更新して、プロジェクト管理からプロジェクト・テンプレート名を追加します。[EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合用のカスタム・スマート・リスト・エントリの作成](#)を参照してください。
4. レポート・キューブへの接続を設定します。[レポート・キューブへの接続の設定](#)を参照してください。
このステップは、プランナがデータのインポートおよびエクスポートのためにデータ統合の統合を実行する場合のみ必要です。このステップは、管理者がデータのインポートおよびエクスポートのために EPM Planning プロジェクトのジョブを使用する場合は必要ありません。

5. データ統合で、追加が必要な設定タスクを実行します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の EPM Planning プロジェクトと Oracle Project Management の統合プロセスの説明](#)を参照してください。
6. 必要に応じて、提供されているルールおよび統合へのアクセスをユーザーに付与します。[プロジェクト管理クラウド統合を有効にする際に提供されるルール・リストについては、プロジェクト管理との統合のための EPM Planning プロジェクト・ルール](#)を参照してください。
データ統合で統合を初期化する際に提供される統合リストについては、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の統合プロジェクト・ファイル参照](#)を参照してください。
7. オプションで、ジョブを実行するか、スケジュールしてインポートおよびエクスポート・プロセスを自動化します。[ジョブを使用した EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の間のデータのインポートおよびエクスポート](#)を参照してください。
8. EPM Planning プロジェクトの既存のスタンドアロン実装がある場合は、統合をサポートするために既存のプロジェクトおよび予算を移行します。[プロジェクト管理への既存の EPM Planning プロジェクト実装の移行\(1回かぎりの設定\)](#)を参照してください。
9. プロジェクト管理の既存のスタンドアロン実装がある場合は、統合をサポートするために既存のプロジェクト、予算および実績を移行します。[EPM Planning プロジェクトへの既存のプロジェクト管理実装の移行\(1回かぎりの設定\)](#)を参照してください。

ノート:

データのロードに新規メンバー **OPF_Load** を使用することをお勧めします。詳細は、[プロジェクト・アーティファクトの更新](#)を参照してください。

プロジェクトの準備が完了し、ユーザーがプロジェクトおよびプロジェクト予算を入力できるようになります。プロジェクト、プロジェクト予算およびプロジェクト管理の操作の詳細は、[Planning モジュールの操作の統合された EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の操作タスクの概要](#)を参照してください。

プロジェクト管理での作業の詳細は、[プロジェクト財務管理および助成金管理の実装の Enterprise Performance Management とプロジェクト管理の連携方法](#)を参照してください。

統合後にプロジェクト管理でプロジェクト所有組織を変更する場合は、EPM Planning プロジェクトでデータを新規エンティティに手動で移動した後、古いエンティティからプロジェクトおよび予算データを削除する必要があります。このオプションは、EPM Planning プロジェクトのプロジェクトに対応するエンティティのみが存在する場合に機能します。(プロジェクト管理では、1つのプロジェクトが1つのエンティティのみに対応します。)


チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。


目的

方法の学習

Planning のプロジェクトモジュールを Oracle Fusion Cloud Project Management (プロジェクト管理) と統合する方法について学習します。EPM Planning プロジェクトで、プロジェクトを作成し、サマリー予算データを入力し、プロジェクトを承認してから、プロジェクトおよび予算データをプロジェクト管理にプッシュする統合ジョブを実行します。プロジェクト管理で、プロジェクト・マネージャを割り当て、詳細なプロジェクト予算を作成し、プロジェクトの実績データを収集します。次に、EPM Planning プロジェクトで、プロジェクト管理からプロジェクトの実績をインポートし、実績と計画データ間の差異分析を実行できるようにそれらを計算します。

 EPM Planning のプロジェクトとプロジェクト管理の統合

Oracle Fusion Cloud Project Management (プロジェクト管理) と統合するための EPM Planning プロジェクトの構成方法を確認します。即時利用可能なプロジェクト管理の統合機能の有効化、プロジェクト・テンプレート名でのプロジェクト・スマート・リストの更新、「エンティティ」ディメンションへのプロジェクト組織の追加、プロジェクトのレポート・キューブへの内部接続の設定の方法について学習します。

 プロジェクト管理の統合のための EPM Planning の構成

Planning と統合するための、Oracle Fusion Cloud Project Management (プロジェクト管理) での要件の設定方法を学習します。セキュリティを構成する必要があるルールおよび権限について、および財務プラン・タイプ、プロジェクト・テンプレートおよび予算承認ワークフローの定義方法について学習します。

 EPM Planning の統合のためのプロジェクト管理の構成

Planning と Oracle Fusion Cloud Project Management (プロジェクト管理) の間でデータをコピーするために使用するデータ統合ジョブの構成方法について確認します。統合の定義を初期化した後、実装要件に基づいてそれらを確認および更新する必要があります。各統合定義について、ソースおよびターゲット・ディメンションのマッピング、フィルタ・オプションの設定、およびカレンダー統合オプションの設定の方法について学習します。

 EPM Planning とプロジェクト管理のマッピングおよび統合オプションの構成

Planning と Oracle Fusion Cloud Project Management (プロジェクト管理) の間のデータ統合要件の設定方法について確認します。ソース・システムとしてのプロジェクト管理の登録、ソース接続の構成、アプリケーションの登録、アプリケーション詳細でのディメンションのマッピング、データのプッシュに使用する統合ジョブの初期化、および期間マッピングの定義の方法について学習します。

 EPM Planning とプロジェクト管理のデータ統合の設定

「プロジェクト管理クラウド統合」の有効化

「プロジェクト管理クラウド統合」を選択し、Oracle Project Management Cloud との統合を有効にします。統合をサポートするには、「プロジェクト・レポート」および「費用」も選択する必要があります。

このオプションは、12 か月カレンダーを使用し、ハイブリッド Essbase が有効であるアプリケーションにのみ使用可能です。これは、間接および資本プロジェクトに対してのみサポートされます。

既存の EPM Planning プロジェクト・アプリケーションがあり、追加でプロジェクト管理クラウド統合を有効にする場合は、EPM Planning プロジェクトを有効化および構成して設定タスクを実行した後に、追加のタスクを実行する必要があります。プロジェクト管理クラウド統合を使用するための既存の EPM Planning プロジェクト・アプリケーションの更新を参照してください。

EPM Planning プロジェクトの有効化の詳細は、プロジェクトの機能の有効化を参照してください。

「プロジェクト管理クラウド統合」を有効化した場合に起こる内容

プロジェクト管理クラウド統合およびプロジェクト・レポートを有効にすると、次の変更が発生します:

- **CapitalProjectTemplate** および **IndirectProjectTemplate** の 2 つのスマート・リストがアプリケーションに追加されます。
- ルールがアプリケーションに追加されます。プロジェクト管理との統合のための EPM Planning プロジェクト・ルールを参照してください。
- ジョブ・タイプはアプリケーション「プロジェクトと予算のエクスポート」、「プロジェクト実績のインポート」および「プロジェクトと予算のインポート」に追加されます。
- レポート・キューブ(PFP_REP)がアプリケーションに追加されます。レポート・キューブに対して有効化されるディメンションは、有効にした機能に応じて異なります。
- 一部の勘定科目が「勘定科目」ディメンションに追加されます。
- メンバーが「リソース・クラス」ディメンションに追加されます(OPF_Load および OPF_Adjustment (+/-))。
- 既存のスマート・リストが変更されます。プロジェクト優先度が「優先度なし」を含むように更新されます。「ランク」がランクなしを含むように更新されます。
- 有効な交差ルールであるリソース・クラスが変更されます。
- 一部のルールおよびフォームは統合をサポートするために変更されています。プロジェクト・アーティファクトの更新を参照してください。

データ統合で統合を初期化すると、追加のアーティファクトがアプリケーションに追加されます。

EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合用の カスタム・スマート・リスト・エントリの作成

EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合を有効にすると、**CapitalProjectTemplate** および **IndirectProjectTemplate** の2つのスマート・リストがアプリケーションに追加されます。EPM Planning プロジェクトで、プロジェクトに関連付けるプロジェクト管理テンプレートごとにスマート・リスト・エントリを追加します。

プランナが「**プロジェクト詳細**」フォームでスマート・リストを使用して各 EPM Planning プロジェクトをプロジェクト管理のプロジェクト・テンプレートに関連付けます。

1. ホームページで、「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「スマート・リスト」をクリックします。
3. 作業するプロジェクトのタイプに応じて、「**CapitalProjectTemplate**」または「**IndirectProjectTemplate**」を選択し、「編集」  をクリックします。
4. 「エントリ」タブをクリックします。
5. 「追加」  をクリックします。
6. スマート・リスト・エントリとして表示される名前とラベルを追加します。ラベルはプロジェクト管理のプロジェクト・テンプレート名に対応している必要があります。
プロジェクト管理の**プロジェクト・テンプレートのエクスポート・レポート BIP** レポートで、プロジェクト・タイプごとにプロジェクト・テンプレートのリストを取得できます。
7. 必要な数のエントリを追加して、「保存」をクリックします。

詳細は、スマート・リストの管理を参照してください。

レポート・キューブへの接続の設定

このステップは、プランナがデータのインポートおよびエクスポートのためにデータ統合の統合を実行する場合のみ必要です。このステップは、管理者がデータのインポートおよびエクスポートのために EPM Planning プロジェクトのジョブを使用する場合は必要ありません。

プロジェクト管理クラウド統合で使用するために提供されているレポート・キューブへの接続を設定するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「接続」の順にクリックします。
2. 「作成」、「その他の Web サービス・プロバイダ」の順にクリックします。
3. 「接続名」に「プロジェクト・レポート」と入力します。
4. 「URL」に、接続を設定しているマシンへの URL を次の書式で入力します。
`http://ServerName:Port/HyperionPlanning/rest/v3/applications/
Application Name/jobs`。ここで、**Application Name** は、この統合用に作成した Planning アプリケーションの名前です。

5. 「詳細設定オプション」をクリックし、次のパラメータを設定します:
 - 「タイプ」リストから「ヘッダー」を選択します。
 - 「名前」に「Content-Type」と入力します。
 - 「値」に「application/json」と入力します。
6. ユーザー名とパスワードを入力し、「保存して閉じる」をクリックします。

ノート:

接続が成功しなかった場合は、ユーザー名を入力するときにドメイン名を含めてください。たとえば、`domainName.userName` です。ここで、`domainName` は、管理者から提供された URL の一部です。

たとえば、us1 データ・センター領域のアイデンティティ・ドメイン `exampleDoM` でプロビジョニングされた、`epmid` が `example` の EPM Cloud 環境の場合、URL は次のようになります:

本番環境: <https://example-exampleDoM.epm.us1.oraclecloud.com/epmcloud>

テスト環境: <https://example-test-exampleDoM.epm.us1.oraclecloud.com/epmcloud>

ジョブを使用した EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の間のデータのインポートおよびエクスポート

プロジェクトとプロジェクト管理の統合を有効にすると、ワンクリック自動化を提供し、統合を簡素化するジョブ・タイプを管理者が使用できるようになります:

- **プロジェクトと予算のエクスポート。** このジョブを継続的に使用して、EPM Planning プロジェクトからプロジェクト管理にプロジェクトおよびプロジェクト予算をエクスポートします。[プロジェクトと予算のエクスポート\(進行中のタスク\)](#)を参照してください。
- **プロジェクト実績のインポート。** このジョブを継続的に使用して、プロジェクト実績が使用可能になれば、プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトにプロジェクト実績をインポートします。[プロジェクト実績のインポート\(進行中のタスク\)](#)を参照してください。
- **プロジェクトと予算のインポート。** このジョブを1回のみ使用して、既存のプロジェクト管理実装を EPM Planning プロジェクトに移行します。[ジョブを使用したプロジェクトと予算のインポート\(1回かぎりの設定\)](#)を参照してください。

各ジョブ・タイプには、「**プロジェクト管理クラウド統合**」を有効にした際に設定した統合に対するデータ統合からの情報が事前に移入されます。プロジェクト管理に送信されるデータの量を制限するために、EPM Planning プロジェクトで使用可能なデータに基づいて開始期間と終了期間が移入されます。

ジョブを使用すると統合プロセスが簡素化されます:

- 複数の統合を実行するためにデータ統合を使用する必要はありません。EPM Planning プロジェクト・モジュールでジョブを直接起動できます。
- 「**データベースのリフレッシュ**」や「**インポート済プロジェクトの計算**」などの必要な追加ルールがジョブに含まれているため、ステップ数は少ないです。

- ジョブをスケジュールして都合のよい時間に実行し、プロセスを自動化できます。

管理者のみがジョブを実行およびスケジュールできます。プランナは引き続きデータ統合の統合を使用して、データをインポートおよびエクスポートできます。プランナがこれらの統合タスクを実行するための指示は、*Planning モジュールの操作の EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合*を参照してください。

ジョブの詳細は、*Planning の管理のジョブの管理*を参照してください。

プロジェクトと予算のエクスポート(進行中のタスク)

プロジェクトを作成し、プロジェクト費用を入力し、プロジェクト予算の準備ができて EPM Planning プロジェクトで承認されたら、プロジェクトおよびプロジェクト予算を EPM Planning プロジェクトからプロジェクト管理にエクスポートします。管理者は継続的に「**プロジェクトと予算のエクスポート**」ジョブを使用して、プロジェクトおよびプロジェクト予算をエクスポートでき、ジョブを定期的に行うようにスケジュールできます。

管理者のみがジョブを実行およびスケジュールできます。または、プランナはデータ統合の統合を使用して、プロジェクトおよび予算をエクスポートできます。プランナがプロジェクトおよび予算をエクスポートするための指示は、*Planning モジュールの操作の EPM Planning プロジェクトからプロジェクト管理へのプロジェクト・データおよび予算のエクスポート*を参照してください。

ジョブを使用するとプロセスが簡素化されます。ジョブ「**プロジェクトと予算のエクスポート**」を実行すると、次のタスクがジョブの一部として実行されます:

- データベースのリフレッシュ
- プロジェクトのエクスポート
- プロジェクト予算のエクスポート

EPM Planning プロジェクトからプロジェクト管理にプロジェクトおよびプロジェクト予算をエクスポートするには:

1. ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**ジョブ**」をクリックします。
2. 「**ジョブのスケジュール**」をクリックし、「**プロジェクトと予算のエクスポート**」をクリックします。
3. 「**今すぐ実行**」をクリックするか、ジョブをスケジュールするオプションを指定し、「**次**」をクリックします。
ジョブには、「**プロジェクト管理クラウド統合**」を有効にした際に設定した統合に対するデータ統合からの情報が事前に移入されます。「**統合ジョブ名(プロジェクトのエクスポート)**」および「**統合ジョブ名(予算のエクスポート)**」のリストには、すべてのプロジェクト管理カレンダーに対して定義されたすべての統合が含まれます。「**シナリオ**」、「**バージョン**」および「**エンティティ**」は移入されますが、変更できません。プロジェクト管理に送信されるデータの量を制限するために、EPM Planning プロジェクトで使用可能なデータに基づいて開始期間と終了期間が移入されます。
4. 「**統合ジョブ名(プロジェクトのエクスポート)**」および「**統合ジョブ名(予算のエクスポート)**」の統合ジョブ名を選択します。

 **Note:**

プロジェクト管理に複数のカレンダーがある場合、「**統合ジョブ名(プロジェクトのエクスポート)**」および「**統合ジョブ名(予算のエクスポート)**」に使用可能な統合が複数あります。これらはそれぞれ異なる名前で始まり、それぞれ異なる事業部門に関連付けられます。実装に必要な統合を実行します。

5. 必要に応じて、「シナリオ」、「バージョン」および「エンティティ」の選択と、開始期間と終了期間を変更し、「次」をクリックします。
6. ジョブ詳細を確認し、「終了」をクリックします。

EPM Planning プロジェクトでプロジェクトおよびプロジェクト予算を追加または更新する場合は、必要に応じてこのジョブを実行またはスケジュールします。

プロジェクト実績のインポート(進行中のタスク)

EPM Planning プロジェクトのプロジェクトを作成および承認し、プロジェクトおよび予算をプロジェクト管理にエクスポートすると、プロジェクト・マネージャがプロジェクト管理で、オプションで戦略的予算に対して検証される詳細予算を準備します。プロジェクトが実行されると、プロジェクト管理で実績コストが収集されます。

プロジェクト管理で実績の準備ができれば、EPM Planning プロジェクトに実績データをインポートします。

管理者は継続的に「**プロジェクト実績のインポート**」ジョブを使用して、プロジェクト実績をプロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトにインポートでき、ジョブを定期的に行うようにスケジュールできます。

管理者のみがジョブを実行およびスケジュールできます。または、プランナはデータ統合の統合を使用して、実績をインポートできます。プランナが実績をインポートするための指示は、*Planning モジュールの操作*のプロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトへの実績データのインポートを参照してください。

ジョブを使用するとプロセスが簡素化されます。ジョブ「**プロジェクト実績のインポート**」を実行すると、次のタスクがジョブの一部として実行されます:

- プロジェクト実績のインポート
- インポート済プロジェクトの計算

さらに、日付範囲に代替変数を使用して、このジョブを定期的に行うようにスケジュールすることを簡素化できます。代替変数を使用する場合、実績に最新の日付範囲を使用するように、ジョブ定義を定期的に変更する必要はありません。かわりに、代替変数の値を更新します。

プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトに実績をインポートするには:

1. ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**ジョブ**」をクリックします。
2. 「**ジョブのスケジュール**」をクリックし、「**プロジェクト実績のインポート**」をクリックします。
3. 「**今すぐ実行**」をクリックするか、ジョブをスケジュールするオプションを指定し、「**次**」をクリックします。
ジョブには、「**プロジェクト管理クラウド統合**」を有効にした際に設定した統合に対するデータ統合からの情報が事前に移入されます。「**統合ジョブ名(プロジェクト実績)**」のリストには、すべてのプロジェクト管理カレンダーに対して定義されたすべての統合が含まれ

ます。「シナリオ」、「バージョン」および「エンティティ」は移入されますが、変更できます。

デフォルトでは、開始期間と終了期間は代替変数を使用します。

4. 「統合ジョブ名(プロジェクト実績)」の統合ジョブ名を選択します。

 **Note:**

プロジェクト管理に複数のカレンダーがある場合、「**統合ジョブ名(プロジェクト実績)**」に使用可能な統合が複数あります。これらはそれぞれ異なる名前で始まり、それぞれ異なる事業部門に関連付けられます。実装に必要な統合を実行します。

5. 必要に応じて、「シナリオ」、「バージョン」および「エンティティ」の選択を変更し、「次」をクリックします。
現在ジョブを実行している場合、開始期間と終了期間も変更できます。ジョブをスケジュールする場合、代替変数を使用して、様々な期間に対するこのジョブの実行を簡素化できます。
ここで選択するエンティティ値は、「**インポート済プロジェクトの計算**」ルールの入力として使用されます。(その事業部門に対応する値をフェッチするために、エンティティ値がプロジェクト管理に渡されることはありません。データ統合で、フィルタを設定してプロジェクト管理事業部門のデータを取得します。)
6. ジョブ詳細を確認し、「終了」をクリックします。

既存の実装の移行(1回かぎりの設定)

プロジェクト管理への既存の EPM Planning プロジェクト実装の移行(1回かぎりの設定)

既存の EPM Planning プロジェクト・アプリケーションがあり、プロジェクト管理および統合を実装する場合は、最初に EPM Planning プロジェクト・アプリケーションに対する更新を実行してから、プロジェクトおよび予算をプロジェクト管理にエクスポートする必要があります。

[EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合の設定\(1回かぎりの設定\)](#)に記載された設定ステップを完了した後でこれらのタスクを実行します。

EPM Planning プロジェクトで作成した既存のプロジェクトおよびプロジェクト予算を移行してプロジェクト管理で使用できるようにするには:

1. 統合をサポートするために、既存の EPM Planning プロジェクトアプリケーションに対する更新を実行します。[プロジェクト管理クラウド統合を使用するための既存の EPM Planning プロジェクト・アプリケーションの更新](#)を参照してください。
2. EPM Planning プロジェクトからプロジェクト管理にプロジェクトおよびプロジェクト予算をエクスポートします。
 - ジョブを使用してこのタスクを実行するには、[プロジェクトと予算のエクスポート\(進行中のタスク\)](#)を参照してください。

- データ統合の統合を使用してこのタスクを実行するには、**Planning** モジュールの操作の **EPM Planning** プロジェクトからプロジェクト管理へのプロジェクト・データおよび予算のエクスポートを参照してください。

この初期設定後、**EPM Planning** プロジェクトで新規プロジェクトの作成または予算の更新を行う場合はいつでも、必要に応じて定期的にプロジェクトおよびプロジェクト予算をエクスポートできます。

プロジェクト管理クラウド統合を使用するための既存の EPM Planning プロジェクト・アプリケーションの更新

既存の EPM Planning プロジェクト・アプリケーションがあり、追加で**プロジェクト管理クラウド統合**を有効にする場合、次のステップを実行してアプリケーションを更新します:

- 既存のプロジェクトにプロジェクト名の別名がない場合は、別名を指定します。ディメンション・エディタを使用するか、アウトライン・ロード・ユーティリティを使用できます。プロジェクトの別名は、プロジェクト管理のプロジェクト名に対応します。
- 統合するプロジェクトごとに、「名前」というプロジェクト・プロパティに別名と同じ値を移入します。「名前」は、「勘定科目」ディメンションの **OPF_Required Properties** の下にあります。ディメンション・エディタを使用するか、アウトライン・ロード・ユーティリティを使用できます。
- 25 文字以下になるように既存のプロジェクト・メンバー名を変更します。プロジェクト・メンバー名は、プロジェクト管理のプロジェクト番号に対応します。

プロジェクト管理クラウド統合が有効な場合、作成する新規プロジェクトにプロジェクト番号を入力する必要があります。これは、**EPM Planning** プロジェクトでプロジェクト・メンバー名として保存されます。

- プロジェクト管理のプロジェクト・テンプレートを、**EPM Planning** プロジェクトの既存する各プロジェクトに関連付けます。これは、「プロジェクト詳細」フォームで実行するか、またはアウトライン・ロード・ユーティリティを使用できます。
- EPM Planning** プロジェクトで提供されている**プロジェクトの承認(OPF_Approve Projects)**ルールを使用して、プロジェクトを承認します。承認されているプロジェクトのみプロジェクト管理にエクスポートできます。プロジェクトを承認すると、プロジェクト管理にエクスポートする準備が完了していることを示す統合ステータスが設定されます。

アウトライン・ロード・ユーティリティを使用して、プロジェクト承認ステータスおよび統合ステータスを変更することもできます。

- プロジェクト管理クラウド統合**を追加で有効にしている場合、プロジェクトのレポート・キューブ(PFP_REP)はカスタム・メンバーに対して自動的に有効になりません。必要に応じて、次に対してプロジェクトのレポート・キューブを有効にします:
 - エンティティ、プロジェクトなどのカスタム・メンバー。
 - ジョブや従業員などの要員が有効な場合に使用される、ディメンション内で使用可能なカスタム・メンバー。
- 一部のルールおよびフォームはこの統合をサポートするために変更されます。ルールまたはフォームをカスタマイズしてある場合は、**プロジェクト・アーティファクトの更新**を参照してください。
- データのロードに新規メンバー **OPF_Load** を使用することをお勧めします。詳細は、**プロジェクト・アーティファクトの更新**を参照してください。

次に、EPM Planning プロジェクトからプロジェクト管理にプロジェクトおよびプロジェクト予算をエクスポートします。EPM Planning プロジェクトからプロジェクト管理へのプロジェクト・データおよび予算のエクスポートを参照してください。

EPM Planning プロジェクトへの既存のプロジェクト管理実装の移行(1 回かぎりの設定)

既存のプロジェクト管理実装があり、EPM Planning プロジェクトおよびこの 2 つの間の統合を実装する場合は、プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトに、サマリー・レベルでプロジェクト、予算および実績を移行する必要があります。これは 1 回かぎりのタスクです。

EPM Planning プロジェクトには、この 1 回かぎりのデータ移行を実行するための 2 つの方法が用意されています:

- EPM Planning プロジェクトから実行するジョブ「**プロジェクトと予算のインポート**」。この方法を使用するには、[ジョブを使用したプロジェクトと予算のインポート\(1 回かぎりの設定\)](#)を参照してください。
- データ統合から実行する統合。この方法を使用するには、[データ統合の統合を使用したプロジェクトと予算のインポート](#)を参照してください。

データ移行の完了後に、EPM Planning プロジェクトでプロジェクトのプランニングおよび予算作成を開始し、プロジェクトおよびプロジェクト予算をプロジェクト管理にエクスポートする必要があります。戦略的予算を作成するためのプロジェクト管理でのプロジェクトの操作。プロジェクトが実行されるとプロジェクト管理で実績コストが収集され、これを後で EPM Planning プロジェクトにインポートできます。

[EPM Planning プロジェクトとプロジェクト管理の統合の設定\(1 回かぎりの設定\)](#)に記載された設定ステップを完了した後でこれらのタスクを実行します。

ジョブを使用したプロジェクトと予算のインポート(1 回かぎりの設定)

「**プロジェクトと予算のインポート**」ジョブにより、サマリー・レベルでのプロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトへのプロジェクト、予算および実績の移行の 1 回かぎりのタスクが簡素化されます。

ジョブ「**プロジェクトと予算のインポート**」を実行すると、次のタスクがジョブの一部として実行されます:

- 「**プロジェクトのインポート**」統合を実行します。
- **プロジェクト予算のインポート**統合を実行します。
- ルールセット「**インポート済プロジェクトの計算**」を実行します。

ジョブを使用して、プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトにプロジェクト、予算および実績をインポートするには:

1. ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**ジョブ**」をクリックします。
2. 「**ジョブのスケジュール**」をクリックし、「**プロジェクトと予算のインポート**」をクリックします。
3. 「**今すぐ実行**」をクリックするか、ジョブをスケジュールするオプションを指定し、「**次**」をクリックします。
ジョブには、「**プロジェクト管理クラウド統合**」を有効にした際に設定した統合に対するデータ統合からの情報が事前に移入されます。「**統合ジョブ名(プロジェクト**

のインポート)」および「統合ジョブ名(予算のインポート)」のリストには、すべてのプロジェクト管理カレンダーに対して定義されたすべての統合が含まれます。「シナリオ」、「バージョン」および「エンティティ」は移入されますが、変更できます。データの量を制限するために、EPM Planning プロジェクトのカレンダー設定に基づいて開始期間と終了期間が移入されます。

ここで選択するエンティティ値は、「インポート済プロジェクトの計算」ルールの入力として使用されます。(その事業部門に対応する値をフェッチするために、エンティティ値がプロジェクト管理に渡されることはありません。データ統合で、フィルタを設定してプロジェクト管理事業部門のデータを取得します。)

4. 「統合ジョブ名(プロジェクトのインポート)」および「統合ジョブ名(予算のインポート)」の統合ジョブ名を選択します。

 **Note:**

プロジェクト管理に複数のカレンダーがある場合、「統合ジョブ名(プロジェクトのインポート)」および「統合ジョブ名(予算のインポート)」に使用可能な統合が複数あります。これらはそれぞれ異なる名前で始まり、それぞれ異なる事業部門に関連付けられます。実装に必要な統合を実行します。

5. 必要に応じて、「シナリオ」、「バージョン」および「エンティティ」の選択と、開始期間と終了期間を変更し、「次」をクリックします。
6. ジョブ詳細を確認し、「終了」をクリックします。
7. 実績をインポートします(継続実行するタスク)。プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトに最初にプロジェクトを移行するときにこのタスクを実行し、プランニング・サイクルの必要に応じて繰り返し実行します。
2つの方法のいずれかで、このタスクを実行できます:
 - a. ジョブの使用。プロジェクト実績のインポート(進行中のタスク)を参照してください。
 - b. 統合の実行。Planning モジュールの操作のプロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトへの実績データのインポートを参照してください。

データ統合の統合を使用したプロジェクトと予算のインポート

 **Note:**

プロジェクト管理に複数のカレンダーがある場合、プロジェクトのインポートおよびプロジェクト予算のインポート用に複数の統合ジョブが構成されています。これらはそれぞれ異なる名前で始まり、1つのカレンダーと関連付けられ、それぞれ異なる事業部門に関連付けられます。1つの事業部門に対するプロジェクトのインポートおよびプロジェクト予算のインポートの統合を実行してから、別の事業部門に対するプロジェクトのインポートおよびプロジェクト予算のインポートを続行します。

プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトにプロジェクト、予算および実績をインポートするには:

1. ホームページで、「アプリケーション」、「データ交換」の順にクリックします。

- プロジェクト組織をインポートします(オプション、1回かぎりのタスク)。「**データ統合**」で**プロジェクト組織のインポート**を選択し、「**実行**」▶をクリックします。オプションを指定し、「**実行**」をクリックします。

オプション:

- インポート・モード - 置換
- エクスポート・モード - マージ
- 開始期間 - BegBalance
- 終了期間 - BegBalance

この統合に関連するフィルタは管理者によって設定されています。

デフォルトでは、この統合によって OEP_Total Entity の下の「エンティティ」ディメンションにメンバーがインポートされます。

このオプションのステップでは、プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトのエンティティ階層に組織構造がインポートされます。または、プロジェクト管理からインポートせずに、EPM Planning プロジェクトでエンティティ階層に移入できます。

この統合が完了するまで待ってから次に進みます。

- プロジェクト定義およびプロジェクト・プロパティを含めてプロジェクトをインポートします(1回かぎりのタスク)。「**データ統合**」で「**プロジェクトのインポート**」を選択し、「**実行**」▶をクリックします。オプションを指定し、「**実行**」をクリックします。

 **Note:**

プロジェクト管理に複数のカレンダーがある場合、**プロジェクト予算のインポート**に使用可能な統合が複数あります。これらはそれぞれ異なる名前前で始まり、それぞれ異なる事業部門に関連付けられます。実装に必要な統合を実行します。

オプション:

- インポート・モード - 置換
- エクスポート・モード - マージ
- 開始期間 - BegBalance
- 終了期間 - BegBalance

この統合に関連するフィルタは管理者によって設定されています。

この統合によって、EPM Planning プロジェクトの「プロジェクト」ディメンションにメタデータ・メンバーがインポートされます。プロジェクトのタイプに応じて、メンバーは「プロジェクト合計」→「すべてのプロジェクト」→「内部プロジェクト」→「間接プロジェクト」または「プロジェクト合計」→「すべてのプロジェクト」→「内部プロジェクト」→「資本プロジェクト」のいずれかにインポートされます。統合時にプロジェクト・タイプを識別するためのマッピングが設定されます。

プロジェクトのインポートが完了すると、**プロジェクト・プロパティのインポート**が自動的に実行されます。この統合によって、プロジェクト名、プロジェクトの説

明、プロジェクト開始日などのプロジェクト・プロパティ・データがインポートされます。

この統合が完了するまで待ってから次に進みます。

4. プロジェクト予算をインポートします(1回かぎりのタスク)。「**データ統合**」で**プロジェクト予算のインポート**を選択し、「**実行**」▶をクリックします。オプションを指定し、「**実行**」をクリックします。

 **Note:**

プロジェクト管理に複数のカレンダーがある場合、**プロジェクト予算のインポート**に使用可能な統合が複数あります。これらはそれぞれ異なる名前で始まり、それぞれ異なる事業部門に関連付けられます。実装に必要な統合を実行します。

オプション:

- インポート・モード - 置換
- エクスポート・モード - マージ
- 開始期間 - 開始日を選択します
- 終了期間 - 終了日を選択します

この統合に関連するフィルタは管理者によって設定されています。

この統合によって、OEP_Plan に予算データがインポートされます。

プロジェクト予算のインポートが完了すると、**EPM プロジェクト・ステータスのエクスポート**が自動的に実行されます。この統合によって、EPM Planning プロジェクトでこれらのプロジェクト管理のプロジェクトに統合済のマークが付けられ、同じプロジェクト予算データが再インポートされなくなります。

この統合が完了するまで待ってから次に進みます。

5. **プロジェクトのロール・アップ・ルール**を実行します。
6. 実績をインポートします(継続実行するタスク)。プロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトに最初にプロジェクトを移行するときこのタスクを実行し、プランニング・サイクルの必要に応じて繰り返し実行します。
2つの方法のいずれかで、このタスクを実行できます:
 - a. ジョブの使用。プロジェクト実績のインポート(進行中のタスク)を参照してください。
 - b. 統合の実行。Planning モジュールの操作のプロジェクト管理から EPM Planning プロジェクトへの実績データのインポートを参照してください。

プロジェクト管理との統合のための EPM Planning プロジェクト・ルール

プロジェクト管理クラウド統合を有効にすると、ルールおよびルールセットが追加されます。

ルール

- **プロジェクト統合エラー・ステータスの変更(OPF_Change Project Integration Error Status):** 「プロジェクト詳細」フォームの「アクション」メニューからこのルールを実行して、統合ステータスを「エラー」から「初期」または「準備完了」のいずれかに変更します。
- **四半期ごとおよび年次から月次への分散 - 調整(OPF_Spread Qrtly and Yearly to Months - Adjustments):** このルールは、「プロジェクト費用の調整」フォームで「保存時に実行」に設定されており、四半期ごとおよび年次の費用を月次に分散します。

ルールセット

- **インポート済プロジェクトの計算(OPF_Calculate Imported Projects)**

インポートされたデータをロールアップし、材料費用/収益のキャッシュ・フローを計算します。このルールは統合シナリオの範囲外でも使用できます。

入力: 通貨、エンティティ、シナリオ、バージョン、プロジェクト。すべてのレベル・ゼロのメンバーが計算に含まれる場合は、通貨、エンティティおよびプロジェクトに親メンバーを指定できます。

ルールの構成:

 - **OPF_Calculate Cash Flow for Loaded Projects:** 材料費用/収益のキャッシュ・フローを計算します。
 - **OPF_Rollup Project Cube:** データをロールアップします(既存のルール)。
 - **OPF_Set Missing Properties for Reporting:** インポートされたプロジェクトの欠落した**プロジェクト統合ステータス**、**ランク**および**優先度**を設定します(該当する場合)。
- **承認済プロジェクトのエクスポート(OPF_Export Approved Projects)**

プロジェクト管理との統合のために、「承認済」(プロジェクト・ステータス)および「内部」または「準備完了」(プロジェクト統合ステータス)であるすべてのプロジェクトをエクスポートします。このルールセットはデータ管理によって呼び出されます。

入力: シナリオ、バージョン、エンティティ。親メンバーの下にあるすべてのレベル・ゼロのメンバーが計算に含まれるように、エンティティに親メンバーを指定できます。

ルールの構成:

 - **OPF_Prepare Data For Reporting:** レポート・キューブに移動するためのデータを準備します。
 - **OPF_Set Missing Properties for Reporting:** インポートされたプロジェクトの欠落した**プロジェクト統合ステータス**、**ランク**および**優先度**を設定します(該当する場合)。
 - **OPF_Execute Project Reporting Data Maps:** データ・マップを実行して、OEP_PFP キューブから PFP_REP レポート・キューブにプロジェクト・データを移動します。
 - **OPF_Merge Data Slice:** ゼロをクリアし、PFP_REP レポート・キューブのデータ・スライスをマージします。

- **OPF_Export Project Properties To File:** 統合ステータスが「初期」または「準備完了」である承認済プロジェクトを、プランニング送信ボックスのファイルにエクスポートします。エクスポートはレポート・キューブから実行されます。
- **OPF_Reset Integration Properties:** 統合ステータスの説明をクリアします。
- **統合プロジェクト・リストのエクスポート(OPF_Export Integrated Project List)**
 統合ステータスで統合済ステータスになっているプロジェクトをエクスポートします。このルールはデータ管理によって呼び出されます。
 入力: シナリオ、バージョン、エンティティ。親メンバーの下にあるすべてのレベル・ゼロのメンバーが計算に含まれるように、エンティティに親メンバーを指定できます。
 ルールの構成:
 - **OPF_Set Missing Properties for Reporting:** インポートされたプロジェクトの欠落したプロジェクト統合ステータス、ランクおよび優先度を設定します(該当する場合)。
 - **OPF_Execute Project Reporting Data Maps:** データ・マップを実行して、OEP_PFP キューブから PFP_REP レポート・キューブにプロジェクト・データを移動します。
 - **OPF_Merge Data Slice:** ゼロをクリアし、PFP_REP レポート・キューブのデータ・スライスをマージします。
 - **OPF_Export Integrated Project List To File:** 統合ステータスが統合済であるプロジェクトを、レポート・キューブからプランニング送信ボックスのファイルにエクスポートします。
- **プロジェクト予算のエクスポート(OPF_Export Project Budget)**

プロジェクト予算をプランニング受信ボックスのファイルにエクスポートします。このルールは統合には使用されませんが、ユーザーが費用をファイルにエクスポートできるように用意されています。ただし、ファイルが大きくなりすぎないようにするためにプロジェクトの数が制限されています。

入力: シナリオ、バージョン、エンティティ。親メンバーの下にあるすべてのレベル・ゼロのメンバーが計算に含まれるように、エンティティに親メンバーを指定できます。

ルールの構成:

- **OPF_Prepare Data For Reporting:** レポート・キューブに移動するためのデータを準備します。
- **OPF_Set Missing Properties for Reporting:** インポートされたプロジェクトの欠落したプロジェクト統合ステータス、ランクおよび優先度を設定します(該当する場合)。
- **OPF_Execute Project Reporting Data Maps:** データ・マップを実行して、OEP_PFP キューブから PFP_REP レポート・キューブにプロジェクト・データを移動します。
- **OPF_Merge Data Slice:** ゼロをクリアし、PFP_REP レポート・キューブのデータ・スライスをマージします。
- **OPF_Export Project Budget To File:** すべてのプロジェクトの個々の費用合計レベルの費用をプランニング受信ボックスのファイルにエクスポートします。エクスポートはレポート・キューブから実行されます。

また、**プロジェクト管理クラウド統合**を有効にすると、一部のルールが変更されます。[プロジェクト・アーティファクトの更新](#)を参照してください。


構成後のタスク

プロジェクトとプログラムのマッピング

「プログラム」ディメンションを有効化した場合は、分析のためにプロジェクトを1つのプログラムにまとめることができます。このタスクを実行するには、あらかじめプロジェクトを追加しておく必要があります。

「プログラム」ディメンションを有効化すると、属性ディメンションとして追加されます。ディメンション・エディタでプロジェクトをプログラムにマッピングします。

プロジェクトをプログラムにマッピングするには:

1. ホームページで**ナビゲータ**  をクリックし、「作成および管理」カテゴリから「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンション」ドロップダウン・リストから「プロジェクト」を選択します。
3. 「アクション」メニューで「カスタム属性」を選択します。
4. 「プログラム」をクリックして、「属性値」ペインに移します。
5. 「+」をクリックしてプログラム・メンバーを追加します。
6. プログラムを選択し、そのプログラムに関連付けるプロジェクトを「属性値」で選択します。
7. データベースをリフレッシュします。


チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的

このチュートリアルでは、プログラムをプロジェクトに割り当て、プログラム別にプロジェクトを分析する方法を示します。

方法の学習

 [プログラムへのプロジェクトの割り当て](#)

プロジェクトのルール

ルールを実行して、アプリケーションの値を計算します。ホームページで「ルール」をクリックします。

💡 ヒント:

プロジェクトのルールのみを表示するには、「フィルタ」の横の「すべてのキューブ」をクリックし、「キューブ」リストで「OEP_PFP」を選択します。

プロジェクトのルール:

- **OPF_Add Project** - 新規プロジェクトをオンザフライで追加します。
- **OPF_Add Expense Line Item** - 新規費用ライン・アイテムをプロジェクト内に追加します。
- **OPF_Add Revenue Line Item** - 新規収益ライン・アイテムをプロジェクト内に追加します。
- **OPF_Approve Project** - プロジェクトのステータスを「承認済」に設定します。このプロジェクトは推進される可能性が高いため、計画データを予測シナリオにコピーします。
- **OPF_Calculate Capitalized Expense** - 資本プロジェクトの資産計上可能費用を計算します。
- **OPF_Calculate Direct Expense** - すべてのプロジェクトの直接費を計算します。
- **OPF_Calculate EVM** - プロジェクトの収益値メジャー(設定されたターゲットに基づくスケジュールおよびコスト差異)を計算します。
- **OPF_Calculate Expense CashFlow** - プロジェクトに設定された仮定に基づいて、費用に関連するキャッシュ・フローを計算します。
- **OPF_Calculate Expense** - 設定されたドライバ・ベースの仮定に基づいて、労務、材料および設備に対するドライバ・ベースの費用を計算します。
- **OPF_Calculate Financial Benefits** - 集計された財務ベネフィットを計算します。
- **OPF_Calculate Non Financial Benefits** - 年合計を計上して、非財務ベネフィットを計算します。
- **OPF_Calculate Overhead Expenses** - 指定されたドライバに基づいて、諸経費費用を計算します。
- **OPF_Calculate Payback period** - プロジェクトに計画された費用とベネフィットに基づいて、回収期間を計算します。
- **OPF_Calculate Payback period Revenue** - プロジェクトの費用と収益に基づいて、回収期間を計算します。
- **プロジェクトの計算**
- **OPF_Calculate Project Benefits** - 間接プロジェクトおよび資本プロジェクトのプロジェクト・ベネフィットを計算します。
- **OPF_Calculate Revenue** - プロジェクト・タイプ(実費清算、コスト加算または直接)に基づいて、契約プロジェクトの収益を計算します。
- **OPF_Calculate Revenue cash flows** - 収益実現のためのキャッシュ・フローを計算します。
- **OPF_Calculate Revenues**
- **OPF_Copy Data to Finstmt** - すべてのプロジェクトのデータ集計後、定義されたマッピングに基づいて、プロジェクトから財務にデータを移動します。
- **OPF_Delete Project** - プロジェクトを削除します。
- **OPF_Execute Project to Capital Map Reporting** - プロジェクト費用から資本資産を作成します。
- **OPF_Execute Project to Capital Map Reporting - Capitalized** - リソース・クラスに基づいて、プロジェクト費用から資本資産を作成します。
- **OPF_Execute Project to WFP Map Reporting** - 割り当てられたジョブ・コードと従業員FTE、労務時間および費用を要員に移動します。

- **OPF_Prepare Detailed Forecast Data** - 月と年の予測のデータを編成します。
- **OPF_Prepare High Level Forecast Data** - 月および年の概要レベル予測のデータを編成します。
- **OPF_Push data to capex from Projects** - 配賦された費用に基づいて、プロジェクトから資本に、計画された資本的支出仮勘定にデータを移動します。
- **OPF_Recognize Revenue** - 割り当てられた収益認識ドライバに基づいて、収益認識を計算します。
- **OPF_Refresh Project Dates** - インポートされたプロジェクトの費用または収益を直接入力する前に、またはプロジェクト日付が変更されたときに、このルールを実行します。
- **OPF_Remove Line items** - プロジェクトからライン・アイテムを削除します。
- **OPF_Rollup Project Cube** - 階層全体にわたるプロジェクトの集計を計算します。
- **プロジェクトのロール・アップ** - プロジェクトを集計し、勘定科目マッピングに基づいてデータを財務にプッシュします。

プロジェクト管理クラウド統合を有効にすると、ルールが追加されます。プロジェクト管理との統合のための [EPM Planning プロジェクト・ルール](#) を参照してください。

 **ノート:**

一部のルールはプロジェクト向けにカスタマイズされていて変更できないため、これらのルールは **Calculation Manager** に表示されません。

8

資本の構成

次も参照:

- [資本の機能の有効化](#)
- [資本の構成](#)
資本の機能を有効化した後で次の構成タスクを実行します。
- [構成後のタスク](#)
- [資本のルール](#)
- [カスタム減価償却または償却方法の作成](#)

資本の機能の有効化

資本資産のプランニングを開始する前に、資本の機能を有効化する必要があります。使用する予定がある機能のみを有効化します。選択内容に基づいて、ディメンション、ドライバ、フォームおよび勘定科目が移入されます。後から戻って追加の機能を有効化することができますが、アプリケーションに含めるディメンションは最初に機能を有効化するときにすべてを有効化する必要があります。最初に資本の機能を有効化するときに「名前付き資産」も指定する必要があります。

ノート:

一度有効化した機能を後から無効化することはできません。

ビデオ

目的

資本の有効化および構成について学習します。

視聴するビデオ



[Oracle Enterprise Planning Cloud の資本の構成](#)

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的	方法の学習
この 60 分のチュートリアルでは、資本の機能を構成して有効にする方法を示します。	 資本の構成



1. ホームページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストで「資本」を選択し、「機能を使用可能にする」をクリックします。
3. 有効化する機能を選択します。特記しないかぎり、後から戻って追加の機能を有効化することができます。現在使用する必要がある機能のみを有効化してください。

表 8-1 資本の有効化

有効化	説明
新規設備投資	新規設備投資を選択します。 「新規設備投資」の有効化 を参照してください。
既存資産の管理	既存の資本資産を選択します。 「既存資産の管理」の有効化 を参照してください。
ディメンションのマップ/名前変更	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションで最大 3 個のカスタム・ディメンションを使用できます。 • カスタム・ディメンションを既存のディメンションにマップします。 • 基本ディメンションの名前を変更します。 <p>このステップは、最初に資本を有効化するときに行う必要があります。</p> <p>資本をプロジェクトと統合する場合、「プロジェクト」という名前(プロジェクトでのデフォルト・ディメンション名)のカスタム・ディメンションを追加します。他の名前を付ける場合は、すべてのモジュールで同じディメンション名になるようにしてください。</p> <p>「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化を参照してください</p>

ディメンション、フォーム、勘定科目など、資本のアーティファクトが移入されます。

「新規設備投資」の有効化

固定資産の新規設備投資を行うことができます。オプションで、リース資産(車両など)または無形資産(著作権など)についてプランニングすることもできます。「名前付き資産」を選択して、資産の名前を詳細レベルでプランに追加し、プランニング・サイクルで追加する予定がある名前付き資産の概数を指定します。

「名前付き資産」を使用する場合は、最初に資本を有効化するときを選択する必要があります。後で戻って有効化することはできません。名前付き資産の数を後から増やすことはできません。

リース資産プランニングの IFRS16

リース資産プランニングを実行している場合、「リース資産」の「IFRS16 標準」を選択して、IFRS16 のサポートを付加的に有効化できます。


「IFRS16 標準」を有効化すると、次の変更が発生します:

- リース資産の計算に新しい標準を使用するために、「**リース資産の計算**」ルールが更新されます。(「IFRS16 標準」を有効化しない場合、ルールは更新されません。)
- 「**減価償却および償却の仮定**」 – **短期リース期間(月)**および**少額リース金額**の 2 つの新しいメンバーが使用可能になります。少額/短期資産の場合、貸借対照表で資産価値を処理するのではなく、利益と損失で資産を償却できます。たとえば、12 か月のリース期間または \$5000 の値のリース資産が少額/短期資産と考えられますが、各資産タイプの値を変更できます。入力した少額/短期のしきい値に一致するリース資産は、少額/短期資産の IFRS16 標準を使用して計算され、他の資産のように処理されるのではなく、利益と損失で償却されます。
- リース資産が少額/短期資産であるかどうかを判断する際は、支払頻度が考慮されます。資産価値は $(\text{lease payment} \times \text{payment frequency})$ として計算されます。計算された値が **少額リース金額** より小さい場合、その資産は少額/短期リース資産とみなされます。
たとえば、**少額リース金額** が \$5000 で、リース資産に支払頻度が月次の \$500 の支払がある場合、リース資産価値は $\$500 \times 12 \text{ か月} = \6000 として計算されます。**\$6000 が少額リース金額の \$5000 よりも高い**ため、このリースは少額/短期資産とみなされません。ただし、この同じ資産の支払頻度が半期ごとである場合、リース資産価値は $\$500 \times 2 = \1000 として計算され、これは **少額リース金額の \$5,000 よりも低い**ため、少額/短期資産とみなされます。
- 新しい勘定科目 - **少額/短期のオーバーライド** が作成されます。資産の **少額リース金額** をオーバーライドして、資産を少額/短期リース資産として計算するように強制できます。「**リース資産プランニング**」フォームに **少額/短期のオーバーライド** 列が追加されます。デフォルトでは、各資産の **少額/短期のオーバーライド** の値は「**いいえ**」です。資産のこの値を「**はい**」に変更すると、リース資産の価値に関係なく、資産は少額/短期資産として計算されます。
- 新規資産勘定科目「**インデックス・レート**」が追加されました。新規リース資産の作成時に「**インデックス・レート**」を設定できます。
 - 「**インデックス・レート**」を設定した場合、リース金額は「**インデックス・レート基準**」(選択内容に応じて、年次または支払い頻度に応じた基準)に基づき、インフレーションに応じて増加します。
 - 「**リース資産の計算**」ビジネス・ルールでは、資産の NPV の計算時にインデックス・レートおよびインデックス・レート基準が考慮されます。インデックス・レートを設定しない場合、リース支払額は各期間に対して同じです。
 - 既存の資産の場合、「**投資**」、「**リース資産プランニング**」の「**新規リース資産**」フォームに「**インデックス・レート**」を入力できます。
- 新規勘定科目「**インデックス・レート基準**」が追加されました。
 - 「**年次**」および「**支払頻度**」のエントリを持つ「**インデックス・レート基準**」で、新しいスマート・リストが使用可能です。
 - * **年次**—支払の頻度にかかわらず、インフレーションを年次で適用します。
 - * **支払頻度**—支払頻度に基づいてインフレーションを適用します。
 - **リース資産の追加**で新規リース資産を追加するときに、「**インデックス・レート基準**」で「**年次**」または「**支払頻度**」を選択します。デフォルトでは、新規リース資産の「**インデックス・レート基準**」は「**年次**」です。
 - 「**インデックス・レート基準**」は、「**リース資産プランニング**」フォームでいつでも変更できます。

- 賃貸無料期間(リース・ホリデーとも呼ばれます)が使用可能です。
 - 新しいフォーム「**賃貸無料期間**」が使用可能です。
 - 新規勘定科目 **OCX_LeaseRentFreePeriod** を使用して、期間が賃貸無料かどうかを取得できます。
 - 賃貸無料期間は、日付範囲ではなく、リースの支払頻度(月次、四半期ごと、年次)に応じた期間に基づきます。
 - 各リース資産について、「**賃貸無料期間**」フォームに新規リース資産を追加したら、賃貸無料にするすべての期間について「**はい**」を選択します。
 - 賃貸無料期間のリース支払はゼロに設定され、リースを計算するときには、賃貸無料期間を考慮して現在価値とキャッシュ・フローの値が計算されます。
 - 次の新しいルールが使用可能です:
 - * **OCX_Free Rent Asset BeforeLoad**。「**賃貸無料期間**」フォームに添付され、すべてのセルを読み取り専用にし、支払頻度に従って該当するセルのみが編集可能になります。
 - * **OCX_Free Rent Period Spread**。「**賃貸無料期間**」フォームに添付され、四半期/半年ごと/年次を月次に分散します。
- リース資産減価償却は、リースの所有権に基づいて異なります。所有権が賃貸人にある場合、減価償却はリース期間に対して、または資産の耐用年数が終わるまでのどちらか早い方まで請求されます。所有権が賃借人にある場合、減価償却は資産の耐用年数に対して請求されます。
- リース資産に対して、12 か月または 13 期間のカレンダーを使用して計画できます。
- 勘定科目 **OCX_Operating_Lease_Payments** の別名は、「**オペレーティング・リース支払**」から「**リースの支払**」に変更されます。


「IFRS16 標準」を有効化した後、「減価償却および償却の仮定」の短期リース期間(月)および**少額リース金額**の値を入力します。資本資産仮定の入力を参照してください。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
資本の IFRS16 について学習します。	 概要: IFRS 16 用の資本プランニングのリース資産

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的	方法の学習
このチュートリアルでは、IFRS16 標準のサポートが有効な資本のリース資産の計画と、既存のリース資産のインポートを行う方法について説明します。いくつかの使用例が含まれます。	 IFRS16 を使用するリース資産プランニング

「既存資産の管理」の有効化

資産関連の費用、既存の資産の除・売却、移動および改善のプランニングを行うことができます。必要に応じて、既存の無形資産についてプランニングすることもできます。

標準パーセント仮定を設定してプランニングできる高度なメンテナンスや高価な資産について、資産レベルでの費用をプランニングする場合は、このオプションを使用します。



「ディメンションのマップ/名前変更」の有効化


この構成タスクは、最初に機能を有効化するときに行う必要があります。「**ディメンションのマップ/名前変更**」を次のように使用します：

- カスタム・ディメンションを追加します。
たとえば、チャンネルと市場についてプランニングすることができます。このケースでは、これら2つのディメンションを追加し、チャンネルおよび市場メンバーをインポートします。計算、フォームおよび他のアーティファクトには、指定する追加のディメンションが含まれます。
- 既存のディメンションの名前と有効化するモジュール内のディメンションの名前が同じで、両方のディメンションを保持する場合は、ディメンションの名前を変更します。
- 複数のモジュールで既存のディメンションを使用します。たとえば、財務を設定し、あとからプロジェクトを有効にした場合、両者に共通の既存のディメンションを利用できます。この機能を使用すると、新しいモジュールを有効化するとき共通ディメンションを再構築する必要がありません。
- 変換済の Planning アプリケーションでディメンションを再利用します。

資本の構成

資本の機能を有効化した後で次の構成タスクを実行します。

1. ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。
2. 「**構成**」リストで「**資本**」を選択します。
3. 必須のタスクをすべて実行します。ビジネスに必要なオプションのタスクを実行します。

「**フィルタ**」を使用して、構成アクションのステータスを確認します。「**アクション**」を使用して、タスクのステータスを更新します。

提供されるメンバーから資産クラス(および無形資産が有効な場合は無形資産)を追加するか、ファイルからそれらをインポートする必要があります。これはダッシュボードとフォームをロードするために必要です。

インポート・ファイルのフォーマットの詳細は、[データのインポート](#)を参照してください。

4. 構成した後、および構成の変更やメタデータのインポートを行ったときは常に、データベースをリフレッシュします。「構成」ページで、「アクション」メニューから「データベースのリフレッシュ」を選択します。「作成」をクリックしてから「データベースのリフレッシュ」をクリックします。

表 8-2 資本の構成


構成	説明
エンティティ	<p>エンティティをインポートします。</p> <p>部署、コスト・センター、事業部門など、ビジネス階層を反映する「エンティティ」ディメンション・メンバーをインポートします。</p> <p>メンバーを含むファイルの場所(「ローカル」または「プランニング受信ボックス」)を選択し、「参照」をクリックしてファイルを探し、ファイルの種類を指定して「インポート」をクリックします。</p>
	<div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 10px; background-color: #e1f5fe;"> <p> ノート:</p> <p>エンティティはモジュール間で共通のため、すべてのエンティティをまとめてインポートします。</p> </div>
資産	<p>資産クラスを設定します。</p> <p>有形資産クラス・メンバーを追加またはインポートします。資産クラスの定義済リストから選択するか、独自のカスタム資産クラスを追加できます。資産クラス・ディメンションは、企業が所有する資産のカテゴリを詳述します。</p> <p>勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
無形資産	<p>無形資産を設定します。</p> <p>無形資産クラス・メンバーを追加またはインポートします。資産クラスの定義済リストから選択するか、「スマート・リスト」から追加するか、独自のカスタム資産クラスを追加できます。資産クラス・ディメンションは、企業が所有する資産のカテゴリを詳述します。</p> <p>勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
費用	<p>定義済アーティファクトを選択して、管理する費用勘定科目を構成します。</p> <p>資本の費用勘定科目は削除できますが、追加またはインポートすることはできません。</p> <p>勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>

表 8-2 (続き) 資本の構成

構成	説明
資産の詳細	<p>資産の詳細をインポートします。</p> <p>「資産詳細」ディメンションに資産の詳細をインポートします。これは、要件に応じて個々の資産または資産のグループとして資産詳細の追跡に使用されます。資産は、新規所有、既存所有、新規リースまたは既存リースになります。</p> <p>詳細は、データのインポートを参照してください。</p>
プランニングと予測の準備	<p>プランの時間枠および粒度を設定します。</p> <p>プランニングおよび予測の時間枠、開始期間および粒度のレベルを構成します。年ごとに異なる基準でプランニングおよび予測できます。</p> <p>資本プランニングと予測の準備を参照してください。</p>
費用およびキャッシュ・フローの仮定	<p>有形資産費用、減価償却および償却の仮定、および資金調達仮定を設定します。有形資産の費用計算のドライバとして使用されます。</p> <p>事前定義済費用仮定は削除することしかできません。新たに追加またはインポートすることはできません。</p> <p>勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
無形資産の仮定	<p>減価償却の方法と規則、耐用年数、キャッシュ・フローおよび資金調達の仮定を設定します。無形資産の費用計算のドライバとして使用されます。</p> <p>事前定義済費用仮定は削除することしかできません。新たに追加またはインポートすることはできません。</p> <p>勘定科目とドライバの追加および管理を参照してください。</p>
グローバル仮定	<p>為替レートを設定します。</p> <p>複数通貨アプリケーションの外国為替レートを入力します。グローバル仮定の設定: 為替レートを参照してください。</p>
資本勘定科目の財務へのマップ	<p>資本の資産勘定科目を財務の勘定科目にマップして、資本の詳細資産から財務の勘定科目レベルへのデータの統合および移動を許可します。各資産勘定科目について、対応する財務勘定科目を「スマート・リスト」で選択します。水平タブを選択して、「有形資産」、「無形資産」および「リース資産」の資産をマップします。財務が有効化されている場合のみ使用できません。</p>

表 8-2 (続き) 資本の構成

構成	説明
<customName Dimension>のインポート	<p><customName Dimension>をインポートします。</p> <p><customName Dimension>ディメンションに移入するメンバーをインポートします。有効なカスタム・ディメンションがある場合に使用します。</p>

資本プランニングと予測の準備

各モジュールについてプランの時間枠および粒度を構成できます。モジュールや年ごとに異なる時間枠と粒度を設定できます。

プランの時間枠および粒度を構成するには:

1. 「現在の会計年度」で現在の会計年度を選択します。
2. 「期間」から、現在の実績月を選択します。13 期間アプリケーションの場合は、現在の期間を選択します。この値は毎月更新する必要があります。
3. 「プラン開始年」には、プランナが現在の会計年度と次の計年度のどちらでプランニングを行うかを指定します
4. 「プラン」、「年」列を順にクリックして、構成する年数を選択します。たとえば、10 年のアプリケーションの最初の 5 年間を構成するには、5 年間を選択します。
5. 構成する各年のプランニングの基準を選択します。毎年同じ間隔でプランを準備する場合は、「すべて」をクリックしてから間隔(たとえば「月次」)を選択します。年によって異なる間隔でプランを準備する場合は、各年の行で間隔を選択します。たとえば、FY20 では月ごと、FY21 では四半期ごとにプランニングする場合、FY20 の行では「月次」、FY21 の行では「四半期ごと」を選択します。13 期間アプリケーションの場合は、「月次」のかわりに「13 期間」を選択します。
6. 「予測」をクリックし、これまでの手順を繰り返して予測の基準を指定します。最初の年の「予測」に対するプランニング基準として「四半期ごと」を選択すると、該当期間でのみ予測データの入力許可されるように、指定された有効な交差が設定されます。現在の月より前の四半期予測期間は更新できません。四半期ごとのプランニングを有効にした場合は常に、代替変数 OEP_CurQtr が提供されます。

最初の年の「予測」に対するプランニング基準として「四半期ごと」を選択すると、現在の月が四半期の最後の月の場合に資本で現在の四半期をどのように判別するかを選択できます。

現在の月が四半期の最後の月の場合は、資本で現在の四半期をどのように定義するかについて、「プランニングと予測の準備」でオプションを選択します:

- 「予測で現在の期間をロック」を選択した場合、資本では次の四半期が使用されます。たとえば、現在の月が 3 月で、このオプションを選択した場合、資本では現在の四半期を Q2 として定義します。
- 「予測で現在の期間をロック」をクリアした場合、資本では現在の四半期が使用されます。たとえば、現在の月が 3 月で、このオプションをクリア(選択を解除)した場合、資本では現在の四半期を Q1 として定義します。

ノート:

- 「**予測で現在の期間をロック**」は、最初の年の予測に対するプランニングの基準として四半期を選択している場合にのみ使用可能になります。
- モジュールごとに「**予測で現在の期間をロック**」のオプションを選択できます。

この構成タスクによって、必須代替変数がすべて設定されます。

資本のフォームおよびルールでは、プランおよび予測シナリオに対して異なるプランニング年を使用できます。

資本の「**プランニングと予測の準備**」構成中、計画シナリオと予測シナリオの両方に対して **&OEP_YearRange** 代替変数を設定するかわりに、資本では、シナリオごとに個別に「**プランニングと予測の準備**」構成の開始年と終了年を読み取る方法を使用するようビジネス・ルールが構成されます。シナリオの開始期間と終了期間に基づいてデータを表示するためのフォームが作成されます。

資本のカスタム・ルールを作成するには、**&OEP_YearRange** 代替変数ではなく次の関数を使用します。

- `[[PlanningFunctions.getModuleStartYear("CAPITAL",{Scenario})]]` - 特定のシナリオの開始年を返します
- `[[PlanningFunctions.getModuleENDYear("CAPITAL",{Scenario})]]` - 特定のシナリオの終了年を返します

資本のカスタム・フォームを作成するには、**&OEP_YearRange** のかわりに「**すべての年**」の **ILvl0Descendants** を使用します。

ヒント:

ルールを作成または編集してプランニングおよび予測タスクをカスタマイズする場合、
`[[PlanningFunctions.getModuleStartPeriod("ModuleName","ScenarioName")]]`
および
`[[PlanningFunctions.isPlanStartYearSameAsCurrentFiscalYear("ModuleName")]]` のようにルールで **Planning** 数式を使用して、構成済の時間範囲情報を呼び出すことができます。
モジュール名は大小文字を区別せず、二重引用符で囲む必要があります。

- 資本
- 財務
- プロジェクト
- 要員

Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager での設計のシナリオを参照してください。

アカウントとドライバの追加および変更について

追加または変更する必要があるカスタム・ドライバ・メンバー、勘定科目メンバーおよび他のアーティファクトの数に応じて、次のいずれかのタスクを実行します:

- 少数—構成ページで直接追加または編集を行います
- 多数—次によってインポートします:
 - 既存のセットをエクスポートします。
 - エクスポートされたスプレッドシートを変更して、カスタム・アーティファクトのための行やデータを追加します。
 - スプレッドシートをインポートします。

このエクスポートとインポートのプロセスにより、アプリケーションの設計とメンテナンスにかかる時間が短縮されます。要件が変更されたときは、このプロセスを必要に応じて何回でも繰り返すことができます。たとえば、実行をプランニングしている新しいソーシャル・メディア・キャンペーン用のドライバと似ている、事前定義済マーケティング・ドライバを表示することができます。容易に、ドライバをエクスポートし、マーケティング・ドライバのコピーを作成し、必要に応じてソーシャル・メディア・キャンペーン用に変更してから再インポートできます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
カスタムの勘定科目およびドライバのインポートについて学習します。	 Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud の財務へのカスタムの勘定科目およびドライバのインポート

詳細は、[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

勘定科目とドライバの追加および管理


勘定科目とドライバを追加または変更するには:

1. アカウントまたはドライバを設定する構成タスクを選択します。
2. リストからコンポーネントまたはカテゴリを選択します(ある場合)。
3. 次のタスクを実行します:
 - アーティファクトを追加するには、「**アクション**」メニューから「**追加**」を選択して、新しい行に詳細を入力します。
 - 一連のアーティファクトの変更または多数のアーティファクトの新規追加を行うには、事前定義済アーティファクトのセットをエクスポートして（「**アクション**」メニューの「**エクスポート**」を選択）、エクスポート・ファイルを Microsoft Excel で変更します。事前定義済アーティファクトの編集や、アーティファクトのコピー作成と変更を行って、新しいアーティファクトを作成したり、新しいアーティファクトを追加したりします。その後、変更したファイルをインポートします（「**アクション**」メニューから「**インポート**」を選択します）。可能な場合には、カテゴリやサブカテゴリを使用して、関連する機能のアーティファクトをまとめます。
 - カテゴリまたはグループに関係なく、すべてのドライバをエクスポートまたはインポートするには、「**バッチ・エクスポート**」または「**バッチ・インポート**」を使用します。
 - 特定の種類のドライバのみをエクスポートまたはインポートするには、「**カテゴリ**」または「**コンポーネント**」を指定してから「**インポート**」または「**エクスポート**」を使用します。

ノート:

- カスタム・メンバーについて一意のメンバー名と別名を指定して、提供されているメンバーと競合しないようにします。
- ドライバを削除する必要がある場合は、グループ内の他の勘定科目ドライバの式を調べて、削除しようとするドライバを参照するものがあるかどうか確認します。参照している場合は、削除に対応するようにロジックを更新します。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
要員データを分析するための従業員デモグラフィックスの設定および使用について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud での要員デモグラフィックスの設定

グローバル仮定の設定: 為替レート

複数通貨アプリケーションを作成した後で為替レートを設定します。為替レートはここで説明するように手動で入力することもインポートすることもできます。為替レートのインポートの詳細は、*Planning* の管理の簡易複数通貨アプリケーションの為替レート・タイプのインポートを参照してください。

為替レートを手動で設定するには:

1. 通貨ディメンションに各通貨のためのメンバーを追加します。
2. 「グローバル仮定」をクリックして、**<基本通貨>に対する為替レート**タスクを開きます。ここで、プランナが使用する通貨の為替レートを入力します。
3. 「視点」からメンバーを選択します。
4. 各期間および各通貨について平均為替レートと終了為替レートを入力して、フォームを保存します。

フォームの名前が**<基本通貨>に対する為替レート**に変更されます。**<基本通貨>**は、アプリケーションを作成したときに選択したレポート通貨です。たとえば、アプリケーションの基本通貨が「円」の場合、フォームは**円に対する為替レート**になります。これは、データの変換に使用される為替レートが対応する通貨をプランナに示し、プランナがシナリオ、年およびバージョンに固有のレートを入力できるようにします。

ノート:

新しいバージョン・メンバーを追加した場合は、そのバージョンに為替レートを入力する必要があります。

構成後のタスク

構成タスクを完了したら、次のタスクを実行します。

- 構成の後やメタデータをインポートした後でキューブをリフレッシュします。
- 「投資」および「無形資産」の下、および「エンティティなし」レベルや「エンティティ合計」レベルのメンバーでの「既存資産」で、仮定フォームを確認します。必要であれば

ば、プランナがプランニングのスタート地点として使用できるように「エンティティなし」レベルで仮定を設定します。「エンティティなし」を「読取り専用」に設定すると、プランナのために「エンティティなし」仮定値を編集不可にすることができます。こうした場合、プランナはグローバル仮定を見ることができませんが変更できません。

- 「資産詳細」ディメンションの **OCX_Total New** および **OCX_New Lease** メンバーについて、「動的な子に対して使用可能」プロパティと「使用可能な動的な子の数」プロパティを変更しないでください。これらのプロパティは「読取り専用」にする必要があります。
- ビジネスに必要な場合、カスタム減価償却および償却方法を作成できます。[カスタム減価償却または償却方法の作成](#)を参照してください。

資本のルール

ルールを実行するには、ホーム・ページで「ルール」をクリックします。

ヒント:

資本のルールのみを表示するには、「フィルタ」の横の「すべてのキューブ」をクリックし、「キューブ」リストで「OEP_CPX」を選択します。

資本のルール:

- **資産の追加** - 資産クラス(有形資産)に対して新規資産を追加します。
- **資産の動的な追加** - 実行時プロンプトに表示されているメンバー名を持つ新しい資産を追加します。
- **無形資産の追加** - 資産クラスに対して無形資産を追加します。
- **無形資産の追加** - 「機能を使用可能にする」で「名前付き資産」が選択されていない場合に新しい資産を追加します
- **OCX_Add Intangibles Dynamic** - 実行時プロンプトに表示されているメンバー名で新しい資産を追加します。
- **リース資産の追加** - リース資産をエンティティ・レベルで追加し、それがオペレーティング・リースかキャピタル・リースかを決定します。
- **リース資産の追加** - 名前付きリース資産をエンティティ・レベルで追加し、それがオペレーティング・リースかキャピタル・リースかを決定します。
- **プラン年のドライバの割当て** - ソース年に基づいて、または単純に指定された値に基づいて、ターゲット年のパーセンテージ・ドライバを設定します。
- **OCX_Add LeasedAsset Dynamic** - 実行時プロンプトに表示されているメンバー名でリース資産を追加します。
- **すべての既存の無形資産の計算** - このルールは現在、廃止されています。かわりに「無形資産の計算」ルールを使用してください。
- **すべての既存の有形資産の計算** - このルールは現在、廃止されています。かわりに「有形資産の計算」ルールを使用してください。
- **既存の無形資産の計算** - 指定した既存の無形資産について、償却とその他すべての費用、およびキャッシュ・フローを計算します。

- **無形資産の計算** - 指定した無形資産について、償却とその他すべての費用、およびキャッシュ・フローを計算します。
- **有形資産の計算** - 指定した資産について、減価償却とその他すべての費用、およびキャッシュ・フローを計算します。
- **すべてのリース資産の計算** - エンティティのすべてのリース資産について、リースの PV 値、減価償却、利率およびキャッシュ・フローを計算します。
- **リース資産の計算** - 指定したリース資産について、リースの PV 値、減価償却、利率およびキャッシュ・フローを計算します。
- **無形資産の減損** - 無形資産の減損(資産価値の減少)を計算します。
- **資産の改良** - 資産を分割し、改良の値を作成することにより、既存の資産に対する改良を許可します。
- **資産の照合** - 既存資産に対して新規資産要求を照合します。すべての値は、割り当てられた資産にプッシュされます。
- **リース資産の照合** - 既存リース資産に対して新規リース資産要求を照合します。すべての値は、割り当てられた資産にプッシュされます。
- **名前付き資産の削除** - 関連がなくなった名前付き資産を削除します。
- **OCX_Remove Asset Dynamic** - 関連がなくなった計画済名前付き資産投資を削除します。
- **リース資産の削除** - 関連がなくなった計画済リース資産投資を削除します。
- **OCX_Remove Leased Asset Dynamic** - 関連がなくなった計画済名前付きリース資産投資を削除します。
- **資産の除・売却** - 既存資産を除・売却します。資産は売却または償却でき、対応する会計情報が示されます。
- **無形資産の除・売却** - 既存無形資産を除・売却します。資産は売却または償却でき、対応する会計情報が示されます。
- **資本のロール・アップ** - 勘定科目、資産詳細、資産クラス、エンティティをロール・アップします。
- **FS 勘定科目のマッピングの同期** - 資本と財務の間で財務諸表勘定科目のマッピングを同期します。
- **ドライバの同期** - 資産仮定をレベル 0 の資産に同期します。
- **資産の譲渡** - エンティティ間で既存の有形資産を譲渡し、すべてのコスト/費用が新しいエンティティにプッシュされます。
- **無形資産の譲渡** - エンティティ間で無形資産を譲渡し、すべてのコスト/費用が新しいエンティティにプッシュされます。
- **データの財務へのプッシュ** - データ・マップ「**財務諸表統合**」を実行し、データを資本から財務にプッシュします。
- **OCX_Free Rent Asset BeforeLoad**. IFRS-16 サポートが有効な場合に使用可能です。「**賃貸無料期間**」フォームに添付され、すべてのセルを読み取り専用にし、支払頻度に従って該当するセルのみが編集可能になります。
- **OCX_Free Rent Period Spread**. IFRS-16 サポートが有効な場合に使用可能です。「**賃貸無料期間**」フォームに添付され、四半期/半年ごと/年次を月次に分散します。

カスタム減価償却または償却方法の作成

ビジネスに必要な場合、カスタム減価償却および償却方法を定義できます。資本には、「**カスタム**」と呼ばれるスマート・リスト・エントリが用意されています。ビジネスに必要な減価償却または償却を計算するためのビジネス・ルールを定義し、新しいビジネス・ルールを「**カスタム**」スマート・リスト・エントリに関連付けることができます。「**カスタム**」スマート・リスト・エントリは、**減価償却および償却の仮定**で使用できます。

カスタム減価償却または償却方法を作成するには:

1. **Calculation Manager** を使用して、新しい減価償却または償却ルールを定義します。ビジネス・ルールを定義する場合、**deprMethod = 5** に設定するか、**amortMethod = 3** に設定します。これらは、「**カスタム**」エントリのスマート・リスト・エントリ番号です。
ビジネス・ルールの設計を参照してください。
2. アクション・メニュー・メニュー・オブジェクト(名前付きカスタム減価償却またはカスタム償却など)を作成し、作成したビジネス・ルールをこのメニューに関連付けます。ホームページで、「**ナビゲータ**」をクリックし、「**アクション・メニュー**」をクリックします。
アクション・メニューの管理を参照してください。
3. 新しいメニュー・オプション(「**新規有形資産**」など)に関連付けるフォームを編集し、このフォームにメニュー・オプションを追加します。フォームの管理を参照してください。
4. **減価償却および償却の仮定**フォームで、カスタム方法が必要な資産クラスについて、「**カスタム**」を選択します。

ここで、ユーザーが新しい資産を作成している場合、新しい資産にカスタム方法が必要な場合、「**アクション**」メニューで定義したカスタム・ルールを選択できます。

ノート:

カスタム減価償却または償却スマート・リスト・エントリとともにカスタム・ルールを使用し、提供されている方法に対して提供されているルールを使用する必要があります。

ヒント:

「**カスタム**」方法の名前を変更するには、アーティファクト・ラベルを変更します。ホームページで、「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックし、フィルタを適用して「**スマート・リスト・エントリ**」を表示します。言語を選択し、カスタム **OCX_AmortizationMethod** または **OCX_DeprMethod** エントリのラベルを変更します。

後続の管理タスク

Related Topics

- [データ・マップを使用するデータのプッシュ](#)
Planning モジュールのデータ・マップを使用して、モジュール間、モデル間またはキューブ間でデータをプッシュします。
- [仮定の入力](#)
- [アプリケーションのメンテナンス](#)
- [Planning モジュールの更新](#)
- [事前定義済アーティファクトのカスタマイズ](#)
- [ナビゲーション・フローのカスタマイズ](#)

データ・マップを使用するデータのプッシュ

Planning モジュールのデータ・マップを使用して、モジュール間、モデル間またはキューブ間でデータをプッシュします。

次のシナリオのデータ・マップを使用します:

表 9-1 データ・マップ・シナリオ

データ・マップ・シナリオ	リファレンス
データを財務、要員、プロジェクトおよび資本と統合します。 要員でレポート用のデータをマップします。 次の間でデータをプッシュします: <ul style="list-style-type: none"> • 戦略モデリングと Planning。 • 戦略モデリングと財務。 • 戦略モデリング・モデル。 • 戦略モデリング・シナリオ・ロールアップ。 	ビジネス・プロセスを統合するためのデータのプッシュ 。 要員でのレポート用のデータのマッピング <i>Planning の管理の:</i> <ul style="list-style-type: none"> • データ・マップを使用した戦略モデリングと Planning 間でのデータのプッシュ • 戦略モデリングおよび財務の間のデータの統合 • 1 つの戦略モデリング・モデルから複数の戦略モデリング・モデルへのデータのプッシュ • 戦略モデリング・シナリオ・ロールアップから戦略モデリング・シナリオ・ロールアップへのデータのプッシュ

データ・マップを使用してデータをプッシュするには:

1. ホームページで「**アプリケーション**」、「**データ交換**」、「**データ・マップ**」の順にクリックします。

2. データ・マップを選択し、「アクション」の「データのプッシュ」をクリックします。

ノート:

データ・マップにラベルが変更されたソースがあり、ラベルがターゲットで一致しない場合、データ・マップは一致しない年について警告を表示します。ただし、プッシュはデータをプッシュしていません。データ・マップにラベルが変更されたターゲットがあり、ラベルがターゲットで一致しない場合、データ・マップは成功し、ソースの年は期間 ID を使用して照合されます。

Groovy ルールを使用して、複雑なマッピングを定義することもできます。Groovy ルールは、Groovy スクリプト言語を使用して複雑なデータ・マップを作成するための強力なルールベースのメソッドを提供します。Groovy ルールを使用して、複雑なマッピングを定義します。たとえば、編集したセルからのみなど、現在のフォームに基づいて対象領域に関するデータを Planning からプルする Groovy ルールを定義できます。また、スケーリング係数の適用など、データをプッシュする前にデータに対して計算を実行することもできます。[Groovy ビジネス・ルールについて](#)を参照してください。

要員では、エンティティ、シナリオおよびバージョンの実行時プロンプトを使用して事前定義済データ・マップを実行する Groovy ルールを提供します。[要員の Groovy ルール](#)を参照してください。

Groovy ビジネス・ルールについて

Groovy ビジネス・ルールを使用すると、通常のビジネス・ルールでは解決できないユース・ケースを解決する高度なルールを設計できます。たとえば、フォーム上のデータ値が事前定義済のしきい値を超える場合に、そのデータの保存を禁止するルールを設計できます。

ノート:

Groovy は、EPM Cloud プラットフォームに付属するカスタマイズが可能な先進的ルール・フレームワークで、EPM Enterprise Cloud と、Enterprise PBCS および PBCS Plus One での利用が可能です。Groovy ルールは次で作成および編集できます:

- Planning(次のアプリケーション・タイプを含む: カスタム、モジュール、フリーフォーム、Sales Planning および Strategic Workforce Planning)
- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Tax Reporting

Groovy ルールは、Calculation Manager で作成し、「ルール」ページ、フォームのコンテキスト内、ジョブ・スケジューラ、ダッシュボード、タスク・リストなど、アプリケーションで計算スクリプト・ルールを実行できる任意の場所から実行します。

Groovy ルールはルールセットでもサポートされています。ルールセット内では計算スクリプト・ルールと Groovy ルールを併用できます。

Groovy ルールは複合フォームではサポートされません。

Groovy ルールから、タイプがルール、ルールセットおよびテンプレートのジョブを同期的に実行できます。

Groovy スクリプトを作成し、EPM 自動化クライアントをクライアント・マシンにインストールせずに、Oracle Enterprise Performance Management Cloud 内で直接 EPM 自動化コマンドの選択を実行できます。Groovy を介して実行できる EPM 自動化コマンドおよびスクリプト例は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の EPM 自動化をインストールしないコマンドの実行](#)および[サポートされているコマンド](#)を参照してください。

Oracle では、次の 2 つのタイプの Groovy ルールをサポートしています。

- 実行時プロンプト以外のコンテキストに基づいて実行時に計算スクリプトを動的に生成し、Oracle Essbase に対して実行される計算スクリプトを返すルール。

たとえば、プロジェクトの期間(開始日から終了日まで)のみを対象としたプロジェクト費用を計算するルールを作成できます。

また、フォーム上にある勘定科目のみを対象としたトレンドベースの計算も同様の例の 1 つです。収益、費用、貸借対照表およびキャッシュ・フローの各種フォームで同じ計算を使用できます。これにより、最適化と再利用が可能になります。

- データ検証を実行し、入力されたデータが会社のポリシーに違反する場合に操作を取り消すような純粋な Groovy ルール。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
Oracle Enterprise Performance Management Cloud で Groovy ルールを作成するためのトレーニング・オプションについて学習します。	 Oracle EPM Cloud の Groovy を学ぶ

要員の Groovy ルール

要員では、エンティティ、シナリオおよびバージョンの実行時プロンプトを使用して事前定義済データ・マップを実行する Groovy ルールを提供します。さらに、これらの Groovy ルールは、シナリオごとに「[プランニングと予測の準備](#)」構成タスクで定義された年を使用します。逆に、データ・マップはすべてのエンティティ、すべてのバージョン、すべてのシナリオおよびすべての年に対して実行されます。

表 9-2 要員の Groovy ルール

データ・マップ	Groovy ルール
レポート用の報酬データ	レポート用の報酬データ
レポート用の非報酬データ	レポート用の非報酬データ
レポート用の人数および FTE データ	レポート用の人数データ
財務諸表への報酬データ	財務諸表への報酬データ
財務諸表への非報酬データ	財務諸表への非報酬データ

これらの Groovy ルールを実行できるのはサービス管理者のみです。Groovy ルールを使用すると、プッシュするデータの範囲に焦点を当てて、パフォーマンスを向上させることができます。

ビジネス・プロセスを統合するためのデータのプッシュ

財務、要員、プロジェクトおよび資本間で統合を有効化し構成する場合に、[統合のシナリオおよびワークフロー](#)の説明に従い、このタスクを実行します。ユーザーがプランと予測を準備する際に、データを移動する準備が整うと、管理者は事前定義済データ・マップを使用してデータをプッシュする必要があります。

Table 9-3 統合のためのデータ・マップ

統合シナリオ	説明/プランナのアクション	管理者ルール/実行するデータ・マップ
プロジェクトから財務	プランナが「プロジェクト」キューブをロールアップすると (「OPF_Rollup Projects」 および 「プロジェクト・キューブのロールアップ」 のルールを使用)、データは財務に移されません。	必要ありません。
プロジェクトから資本	プランナがフォーム 「プロジェクト資産計上」 を保存すると、データが資本に移されます。 資本で資産の使用状況を確認するには、プランナがプロジェクトに設備コストを追加し、 「プロジェクトの計算」 ルールを実行して、 「資本のロールアップ」 ルールを実行します。	必要ありません。
プロジェクトから要員	プランナがドライバ・ベース労働を含むプロジェクトで 「費用の計算」 ルールを実行すると、データは要員に移されて稼働率計算で使用されます。 要員では、プランナは 「集約」 ルールを実行する必要があります。	必要ありません。

Table 9-3 (Cont.) 統合のためのデータ・マップ

統合シナリオ	説明/プランナのアクション	管理者ルール/実行するデータ・マップ
要員から財務	報酬データまたは非報酬データが計算され、プランナが「同期」ルールを実行すると、データが移動されます。	<p>「データ・マップ」で「財務諸表への報酬データ」または「財務諸表への非報酬データ」、「データのプッシュ」の順に選択し、「はい」をクリックして、データをクリアするオプションを確認します。</p> <p>非報酬データをプッシュしている場合は、詳細なメンバー・レベルのマッピングとスマート・プッシュによるデータ・マップを使用した要員から財務への非報酬データのプッシュを参照してください。</p> <p>財務で独自の勘定体系を使用している場合、または給与と功績のマッピングにさらに柔軟性が必要な場合、マッピングをカスタマイズできます。要員と財務の統合のマッピングのカスタマイズを参照してください。</p> <p>要員では、これらのデータ・マップを実行する管理者に Groovy ルールが提供されます。要員の Groovy ルールを参照してください。</p>
資本から財務	プランナが資産を追加して「資産の計算」を実行すると、データが移されます。プランナが資産を移動しても、データが移されます。	<ul style="list-style-type: none"> 資本の「構成」ページで「資本勘定科目の財務へのマップ」を選択し、「アクション」メニューから「同期」を選択します。 「データ・マップ」で「財務諸表統合」、「データのプッシュ」の順に選択し、さらに「はい」をクリックして、データをクリアするオプションを確認します。

データを一括してプッシュするようにシステムを構成できます。

詳細なメンバー・レベルのマッピングとスマート・プッシュによるデータ・マップを使用した要員から財務への非報酬データのプッシュ

非報酬データを要員から財務にプッシュするには、詳細なメンバー・レベルのマッピングを提供されたデータ・マップ「[財務諸表への非報酬データ](#)」に定義し、要員の勘定科目名を財務の勘定科目名にマップして、データをプッシュする場所を定義します。変更後のデータ・マップをスマート・プッシュを使用してフォームに添付し、フォームで変更を保存すると必ずデータがプッシュされるようにします。

ステップの概要:

1. データ・マップ「**財務諸表への非報酬データ**」を「**データ・マップ**」で開き、詳細マッピングを変更して要員の勘定科目名を財務の勘定科目名にマッピングします。
ヒント: データ・マップを Excel にエクスポートし、詳細なメンバー・レベルのマッピングを変更しやすくします。次に、データ・マップを「**データ・マップ**」にインポートします。
2. 要員で新しいフォームを作成するか、「**すべての従業員の非報酬費用の管理**」など、既存のフォームを変更します。
 - a. 「**レイアウト**」タブで、財務にプッシュする非報酬勘定科目の行ごとにレベル 0 のメンバーを追加します。
 - b. 「**スマート・プッシュ**」タブで、「**OWP_Non Compensation Data to FinStmnt**」を追加し、「**保存後に実行**」を選択します。

これで、フォーム上のデータを更新した場合は常に、保存後にスマート・プッシュで非報酬データが要員から財務にプッシュされるようになります。

詳細なメンバー・レベルのマッピングをスマート・プッシュと使用することで、メンバー名が一致しなくても、要員と財務間で非報酬データをプッシュできます。

詳細なメンバー・レベルのマッピングは、現在、フォーム上でスマート・プッシュでのみ機能します。

詳細は、次のトピックを参照してください:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*のデータ・マップの管理
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*の詳細なメンバー・レベルのマッピングの使用
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*の Excel へのデータ・マップのエクスポート
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*のデータ・マップのインポート

トラブルシューティング

スマート・プッシュのトラブルシューティングの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*のスマート・プッシュによる問題の解決を参照してください。

要員でのレポート用のデータのマッピング

データの完全なレポートを行うために、要員には、あるキューブからレポート・キューブに統合済データをプッシュするためのデータ・マップが用意されています。たとえば、報酬データをレポート・キューブにプッシュできます。

要員では、これらのデータ・マップを実行する管理者に Groovy ルールも提供されます。Groovy ルールは、エンティティ、シナリオおよびバージョンの実行時プロンプトを使用して事前定義済データ・マップを実行します。

表 9-4 レポート用の要員のデータ・マップおよび Groovy ルール

データ・マップ	Groovy ルール
レポート用の報酬データ	レポート用の報酬データ
レポート用の非報酬データ	レポート用の非報酬データ
レポート用の人数および FTE データ	レポート用の人数データ

必要な場合に既存のデータ・マップを変更するか、アプリケーションに加えるカスタマイズに合わせて新規データ・マップを作成することもできます。必要に応じてデータを同期するかプッシュします。データ・マップの詳細は、*Planning の管理*のデータ・マップの定義を参照してください。

仮定の入力

財務、要員、プロジェクトおよび資本では、プランナは、収益ドライバ、費用ドライバ、レートなど、計算を推進する仮定を定義できます。管理者は、プランナが出発点として使用できるようにこのような仮定を定義できます。プランナは必要に応じてそれらを変更できます。

仮定の設定の詳細は、*Planning モジュールの操作*を参照してください。

アプリケーションのメンテナンス

ビジネスの変化に応じて、ドライバ、勘定科目、ユーザーなどの更新を続けて、アプリケーションを最新状態に保ちます。

構成タスクに戻ると、これらのタスクを容易に実行できます。

毎月、現在のプランニング期間を更新する必要があります：

1. ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして、それからモジュールを選択します。
2. 「**構成**」ページで「**プランニングと予測の準備**」を選択します。
3. 現在のプランニング月を「**期間**」リストから選択して「**保存**」をクリックします。

ディメンションの順序の最適化のベスト・プラクティス

Planning モジュールのディメンションの順序を最適化するには、次のベスト・プラクティスに従います。

時間の経過に伴って、メタデータをロードする際に、ディメンションの順序が最適ではない場合があります。

アプリケーションのパフォーマンスを最適化するベスト・プラクティスに従うように、ディメンションの順序を構成できます。順序は、アプリケーションがハイブリッドに対応しているかどうかに応じて、ベスト・プラクティスに基づいて自動的に構成されます。

機能を有効にしたときに設定されていた順序にディメンションを復元することもできます。

考慮事項:

- ディメンションの順序を最適化する前に、データベースをリフレッシュし、アプリケーションをバックアップしてスナップショットをダウンロードします。**Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド**のメンテナンス・スナップショットを使用した環境のバックアップと復元を参照してくださいこの手順により、ディメンションの順序が変更されます。
- 本番環境でこのタスクを実行する前に、テスト環境で実行します。
- この機能は、財務およびプロジェクトに対してのみ使用可能で、有効化および構成時に作成された指定した BSO キューブに対してのみ使用可能です。
- この新しい順序は、追加機能または他のモジュールを有効化した場合でも維持されます。

ディメンションの順序を最適化するには:

1. ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。
2. 「**構成**」リストから、「**財務**」または「**プロジェクト**」を選択します。
3. 「**アクション**」メニューから、「**ディメンションの順序の最適化**」をクリックします。
4. 既存のディメンションの順序を確認し、推奨された提案の順序と比較します。
5. ディメンションを並べ替えるには、「**適用**」をクリックします。
ディメンションに必要な変更がない場合、「**適用**」は使用できません。
6. データベースをリフレッシュし、アプリケーションをバックアップし、スナップショットをダウンロードしたことを確認してから、「**続行**」をクリックします。
7. データベースをリフレッシュして変更を適用します。

機能を有効にしたときに設定されていた順序にディメンションを復元する場合、「**ディメンションの順序のリストア**」をクリックすることもできます。このアクションにより、適用済のディメンションの順序変更がロール・バックされたり元に戻されることはないことに注意してください。復元されたディメンションの順序は、新規アプリケーション内の順序と同じになります。


別名表の管理

Planning モジュールを有効にすると、サポートされているすべての言語ではなく、デフォルト言語の別名表のみがロードされます。

新規アプリケーションの場合、モジュールを有効にした後、新しいオプションの「**既存の別名表の管理**」を使用して他の言語の別名表をロードできます。

既存のアプリケーションの場合、必要がない言語の別名表を削除できます。

別名表を追加または削除するには:

1. ナビゲータから「**作成および管理**」の「**別名表**」をクリックします。
2. 「**アクション**」メニューから、 「**既存の別名表の管理**」(モジュールを有効にすると使用可能)をクリックします。
3. ロードする言語を選択するか、削除する言語の選択をクリアし、「**OK**」をクリックします。
4. 言語がロードされた後、キューブをリフレッシュします。

別名表の管理に関するノート。

- Planning モジュールに 30 までの別名表をロードできます。
- 機能または新しいモジュールを追加で有効にすると、新規メンバーに対して選択した言語の別名表がロードされます。
- 別名表でラベルをカスタマイズした場合、それらのカスタマイズは、機能を追加で有効にしたときに追加された新規メンバーに適用されます。

Planning モジュールの更新

Planning モジュールを更新した場合、行ったカスタムの変更は維持されます。たとえば、ロック解除済の事前定義済アーティファクト (フォームなど) への変更は、内部的に追跡されます。アップグレード時、これらの変更済アーティファクトは変更されません。

一部の更新で一部の製品の機能拡張では、特定のアーティファクトを変更した場合、これらの更新が必要です。アーティファクトをカスタマイズしている場合、新機能の使用法の重要な詳細は、[アーティファクトの更新](#)を参照してください。

戦略モデリングを使用している場合、カスタム・テンプレートおよびカスタム・レポートは、アプリケーション更新時に影響を受けません。Oracle に付属する任意のテンプレートでは、コンテンツの更新中に変更が適用される可能性があります。

ノート:

ナビゲーション・フローを変更する予定がある場合は、事前定義済ナビゲーション・フローのコピーを作成して、オリジナルではなくコピーを変更することをお勧めします。更新時には、更新は元のナビゲーション・フローに適用され、変更したナビゲーション・フローには適用されません。

戦略モデリングのスナップショットに下位互換性はありません。

更新の前にアプリケーションはメンテナンス・モードとなり、管理者しかアプリケーションを使用できません。

メタデータの変更が検出された場合、コンテンツの更新前にデータベースがリフレッシュされます。検証エラーが検出された場合、コンテンツを更新するには、エラーを解決する必要があります。

ジョブ・コンソールを使用して、エラーを確認します。

トラブルシューティング

コンテンツ更新の問題のトラブルシューティングの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドのコンテンツ・アップグレードの問題の管理を参照してください。

事前定義済アーティファクトのカスタマイズ

財務、要員、プロジェクトおよび資本の場合: 「ディメンションのマップ/名前変更」タスクを使用して最初に有効化および構成する際に、追加のカスタム・**ディメンション**を追加できます。

有効化して構成すると、事前定義済アーティファクトがアプリケーションに追加されます。次のアーティファクトをカスタマイズできます:

- **勘定科目** - 勘定科目を追加できます。事前定義済勘定科目の場合、別名やメンバー式を変更したり、他のキューブについてメンバーを有効にしたりできます。事前定義済メンバーの削除や名前の変更はできません。
- **フォーム** - 新規フォームを追加したり、事前定義済のフォームのレイアウトを変更できます。事前定義済フォームの名前の変更や削除はできません。
- **計算** - メンバー式/ルールの追加や事前定義済メンバー式/ルールの変更を行えます。ルールをカスタマイズした場合は、**Calculation Manager** で再デプロイする必要があります。
- **ダッシュボード** - ダッシュボード・レイアウトの変更やダッシュボードの追加を行えます。事前定義済ダッシュボードの名前の変更や削除はできません。
- **ナビゲーション・フロー** - タスクの名前変更や新規タスクの追加によるナビゲーション・フローの変更。変更したナビゲーション・フローをコンテンツの更新時に保持するための要件の詳細は、[ナビゲーション・フローのカスタマイズ](#)を参照してください。
- (事前定義済ドライバの)**別名** - 変更のみ行えます。削除や名前の変更はできません。
- **マップ・レポート定義**(統合の場合) - 変更のみ行えます。削除や名前の変更はできません。
- **ドライバと KPI 式** - 変更のみ行えます。削除や名前の変更はできません。
- **ラベル** - すべての事前定義済アーティファクトのラベルを変更できます。
- **変数** - 新規変数を追加できます。

アーティファクトのカスタマイズに関するノート:




- アーティファクトをカスタマイズすると、場合によっては、アプリケーションの整合性を保証するために計算や関連するコンテンツを調整する必要があります。
- アーティファクトを変更すると、内部で追跡されます。**Oracle** では、コンテンツの更新時にこれらのカスタマイズが維持されます。
- プランニング・モジュール・ダッシュボードをダッシュボード 2.0 に変換してカスタマイズする際、まだ有効化されていない機能に関連するダッシュボード・コンポーネントがある場合、それらは空として表示されます。ダッシュボードをカスタマイズするには、空のコンポーネントを削除してから、編集するダッシュボードを保存してください。
- 一部のアーティファクトは、内部の計算が正しく実行されるようにロックされているため、変更できません。
- 一部のアーティファクト・プロパティはロックされており、メンバーをエクスポートしても、プロパティはエクスポートされません。

アーティファクトのカスタマイズの詳細は、*Planning* の管理を参照してください。

変更済アーティファクトの確認

フォームやメニューなどのオリジナルのアプリケーション・アーティファクトのうちどれが変更されたかを確認できます。

アプリケーションのアーティファクトを確認するには:

1. 「アプリケーション」  をクリックして「構成」  をクリックし、「財務」、「要員」、「プロジェクト」または「資本」を選択します。
2. 「アクション」メニューで「変更されたアーティファクトの確認」を選択します。
3. 「フィルタ」  をクリックしてアーティファクト・タイプを選択し、「適用」をクリックします。
変更されたアーティファクトがリストされます。

カスタマイズを元に戻す

事前定義済アーティファクトのカスタマイズを元に戻すには:


1. ホームページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックして、それからモジュールを選択します。
2. 「アクション」メニューで「変更されたアーティファクトの確認」を選択します。「フィルタ」  をクリックして、異なるアーティファクト・タイプを選択します。
3. アーティファクトを選択し、「復元」をクリックします。




表 9-5 ビデオ

目的	視聴するビデオ
アーティファクトを事前定義の状態に戻す方法について学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud でのアーティファクトの復元

事前定義済アーティファクトのヘルプのカスタマイズ

ビジネスのニーズに適用するように、事前定義済アーティファクト(メンバー、フォーム、ダッシュボード)に提供されるヘルプをカスタマイズできます。表示されるヘルプの言語を変更することもできます。

事前定義済の内容について説明を編集したり、言語を変更したりするには:

1. 「ツール」  をクリックし、「アーティファクト・ラベル」  をクリックします。
2. 「フィルタ」  をクリックします。
3. 「アーティファクト」から「メンバー」または「フォーム」を選択します。
4. 「メンバー」を選択した場合は、「ディメンション」リストから「勘定科目」を選択します。

5. 「プロパティ」では、メンバー式の場合は「式の説明」を選択するか、フォームの説明の場合は「説明」を選択して、「適用」をクリックします。
6. 言語を「言語の追加」リストから選択します。
7. ヘルプをカスタマイズするには、「アクション」と「エクスポート」を順にクリックしてから、必要に応じて内容を変更し、「インポート」をクリックしてヘルプをアプリケーションに統合します。
8. ヘルプの言語を変更するには、「言語の追加」をクリックして言語を選択します。

他のアーティファクトの説明やプランナへの指示を追加することもできます。

Planning の管理を参照してください。

ナビゲーション・フローのカスタマイズ

Planning モジュールは、プランナが使用しやすいプランニング・プロセスを実装するカスタマイズ・ナビゲーション・フローに対応するように設計されています。ナビゲーション・フローをカスタマイズするか、組織の必要に応じて独自のナビゲーション・フローを追加できます。詳細は、*Planning* の管理を参照してください。

ノート:

ナビゲーション・フローを変更する予定がある場合は、事前定義済ナビゲーション・フローのコピーを作成して、オリジナルではなくコピーを変更することをお勧めします。コンテンツの更新時には、更新は元のナビゲーション・フローに適用され、変更したナビゲーション・フローには適用されません。

追加の機能を段階的に有効化する場合、新しいフォームやその他のアーティファクトはオリジナルのナビゲーション・フローに追加されます。

Planning モジュール・ナビゲーション・フローの複製について

各モジュール(財務、資本、プロジェクト、要員)が有効化されると、そのカード、タブおよびサブタブがデフォルトのナビゲーション・フローに自動的に追加されます。すべてのモジュールが有効化される前にデフォルトのナビゲーション・フローを複製した場合、複製ナビゲーション・フローには、有効化されているモジュールのカードおよびタブのみが含まれます。複製ナビゲーション・フローにすべてのモジュールのカードおよびタブを含める必要がある場合、最初にすべてのモジュールを有効にしてからデフォルトのナビゲーション・フローを複製する必要があります。デフォルトのナビゲーション・フローを複製した後にモジュールを有効にすると、新しく有効になったモジュールのカード、タブおよびサブタブは複製ナビゲーション・フローに伝播されません。

たとえば、財務モジュールを有効にすると、デフォルトのナビゲーション・フローに財務モジュールに関連するカードおよびタブが表示されます。この時点でデフォルトのナビゲーション・フローを複製した場合、複製フローに財務カードおよびタブが表示されます。その後、資本モジュールを有効にした場合、デフォルトのフローは資本のカードおよびタブで更新されますが、複製ナビゲーション・フローには資本モジュールに関連するカードおよびタブは含まれません。

必要なのは、ナビゲーション・フローをコピーする前に、すべてのモジュールを有効にすることです。その後、デフォルトのフローを複製した場合、新しくコピーされた

フローに、デフォルトのフローに表示されるすべてのカード、タブおよびサブタブが表示されます。

ナビゲーション・フローをコピーする前にすべてのモジュールを有効にせず、その後に新しいモジュールを有効にした場合、ナビゲーション・フローのコピーを変更して、新しく有効にしたモジュールのカードおよびクラスタを手動で追加できます。カードおよびクラスタを手動で追加するには、「ナビゲーション・フロー」ページを開いて編集するナビゲーション・フローの名前をクリックし、リストのカードまたはクラスタを右クリックし、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックし、デフォルトのナビゲーション・フローからカードまたはクラスタを選択します。詳細は、*Planning* の管理のカスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

A

ビジネス・シナリオ

財務を使用したヘルスケア・プランニング

Oracle では、財務モジュールを使用して構成されたヘルスケア・プランニングのベスト・プラクティス・ソリューションを提供しています。これは、ヘルスケア・プランニングの財務および運用の両面の課題を管理するのに役立ちます。ヘルスケア・プロバイダ向けに設計された、この柔軟なプランニングおよび予測ツールは、マネージャが重要な決定を下すのに役立つトレーサビリティと可視性を提供します。施設、コスト・センター、サービス明細および支払人レベルで、データ駆動型のプランニングと予測がサポートされます。このソリューションでは、プランの変領域と固定領域にドライバと予測および分散方式を活用しながら、ビジネスのすべての領域に対してトップダウンおよびボトムアップのプランニングの両方がサポートされます。EPM Cloud プラットフォーム上に構築されているため、承認プロセスもサポートされており、組織内のすべてのレベル間でのコラボレーションを実現します。

Note:

ヘルスケア・プランニング・ソリューションは、実装のアクセラレータであり、サポートされる Planning モジュールではありません。「モジュール」と「ソリューション」の両方でベスト・プラクティスを提供します。ただし、「モジュール」は Oracle Enterprise Performance Management Cloud で完全にサポートされる機能です。一方、「ソリューション」は実装のスターター・キット・アクセラレータとなることが意図されており、サポートされていません。ヘルスケア・プランニング・ソリューションの詳細は、[クラウド・カスタマ・コネク](#)トに問い合せてください。

ヘルスケア・プランニング・ソリューションは、次を含む予算、予測および長期的なプランの迅速な開発を可能にする、実績のあるヘルスケア・メソッドを提供します:

- 事前作成された KPI、ダッシュボード、入力テンプレートおよびレポート
- ドライバ・ベースのボリューム、払戻、費用および労務
- エンティティ、部署、支払人およびサービス明細のモデリング

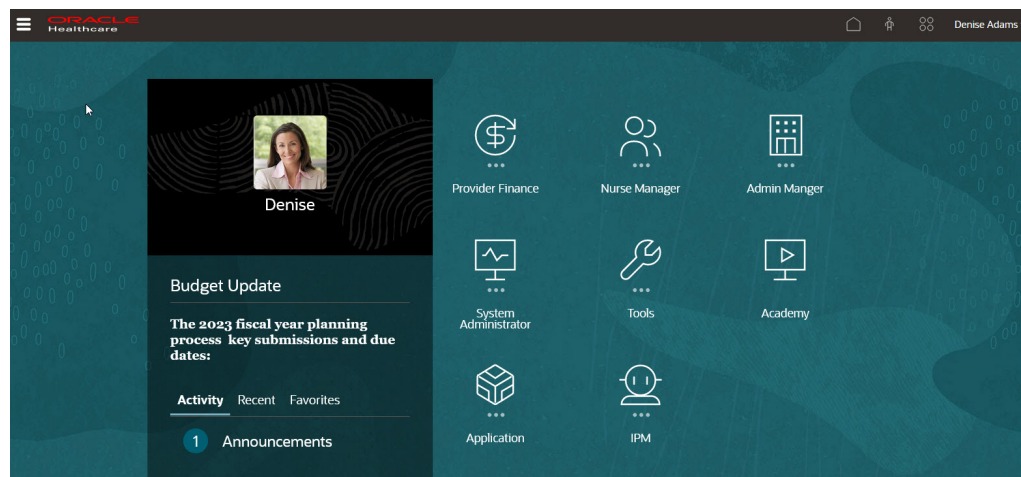
ヘルスケア・プランニング・ソリューションは、EPM Cloud プラットフォームに構築された、次のような革新的な機能を活用します:

- 予測プランニングおよびモンテ・カルロ・シミュレーション
- IPM インサイト
- シナリオ・モデリング
- ダッシュボードおよびインフォレット
- Oracle Smart View for Office(これにより、使い慣れた Microsoft Excel 環境での操作が可能)

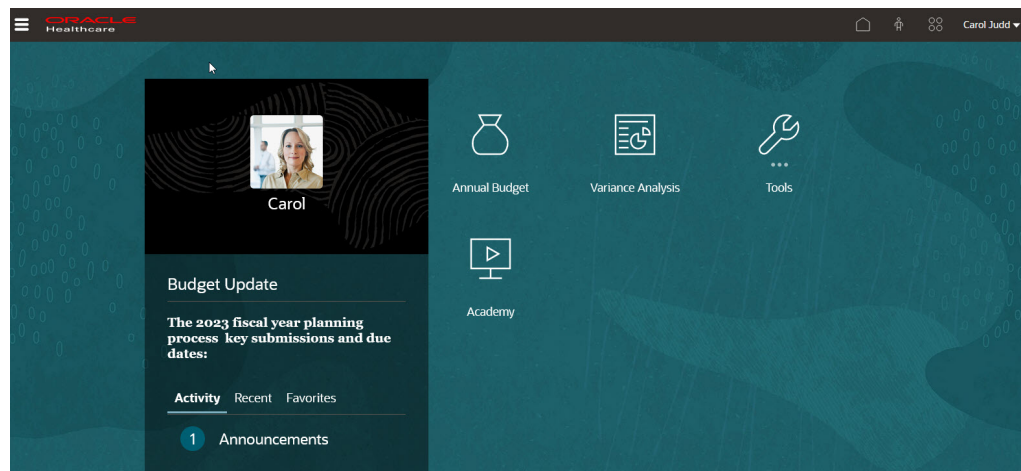
- レポート

ナビゲーションと設計は、業界のベスト・プラクティスを使用して構築されており、標準のヘルスケア・オペレーション・プランニングおよび予測フローに従っています。ロール・ベースのナビゲーション・フローは、システムおよび予算の管理者向けと、プランナ(臨床と非臨床)向けに用意されています。

システム管理者および予算管理者向けのナビゲーション・フロー:



プランナ(臨床と非臨床)向けのナビゲーション・フロー:

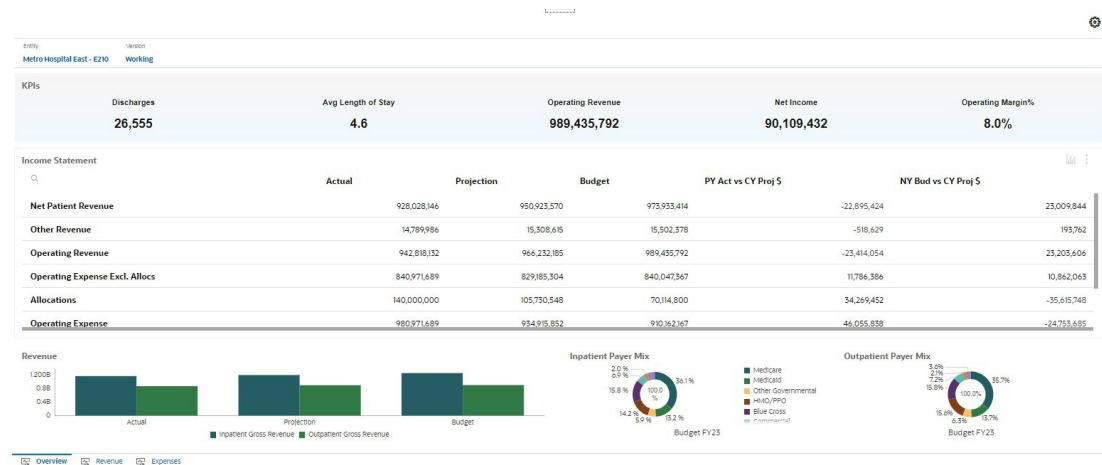


プランナは、提供されるフォームを使用して収益(エンティティ・レベルまたはサービス明細レベル)および費用(給与関連および非給与関連)を計画します。次に、給与以外の費用入力用フォームの例を示します:

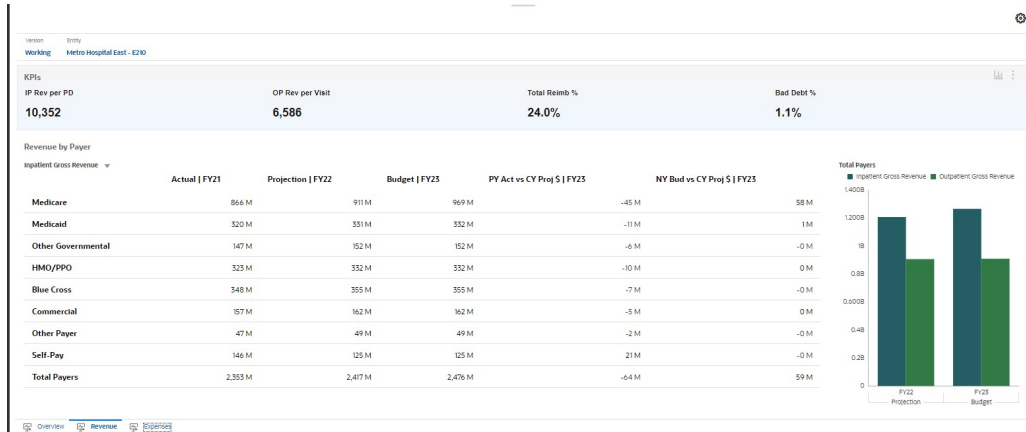
	Actual		Budget		No Scenario	Projection	Projection			
	Approved		Approved		No Version	Working	Working			
	FY21	FY22	FY22	FY22	No Year	FY22	FY22			
	Total Plan	\$/UOS	Total Plan	\$/UOS	Total Plan	\$/UOS	% Variable	Fcst Method	\$/UOS Adj %	\$/UOS
Total Year	Total Year	Total Year	Total Year	Total Year	Total Year	Assumptions	Assumptions	Assumptions	Total Year	To
Expense Driver	9,237.4	4,623.9		9,025.6						
IV Solutions	151,550,849,962,988	16.4	74,746	16.2	152,763	16.9	100.0%	Current Year		16.2
Med Surg Supplies	266,456	28.8	141,367	30.6	266,643	29.5	100.0%	Current Year		29.4
Laboratory Supplies	117,254	12.7	57,664	12.5	117,007	13.0	100.0%	Current Year		12.5
Drugs	3,750	0.4	1,909	0.4	3,880	0.4	100.0%	Current Year		0.4
Laundry & Linen	86,830	9.4	44,258	9.6	89,600	9.9	100.0%	Current Year		9.6
Employee Training & Education	4,284	0.0	2,158	0.0	4,245	0.0	0.0%	Current Year		0.0
Travel Expense	13,300	0.0	6,581	0.0	13,252	0.0	0.0%	Current Year		0.0
Postage	67	0.0	10,333	0.0	68	0.0	0.0%	Current Year		0.0
Marketing	5,013	0.0	2,437	0.0	5,124	0.0	0.0%	Current Year		0.0

プランナは、次に示すダッシュボードのような、提供されるダッシュボードと KPI を使用して分析および意思決定を行います。

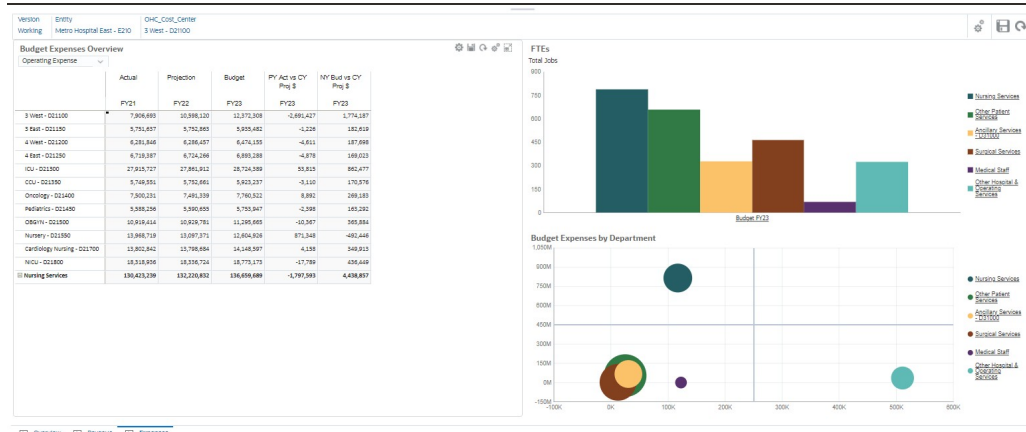
概要ダッシュボード:



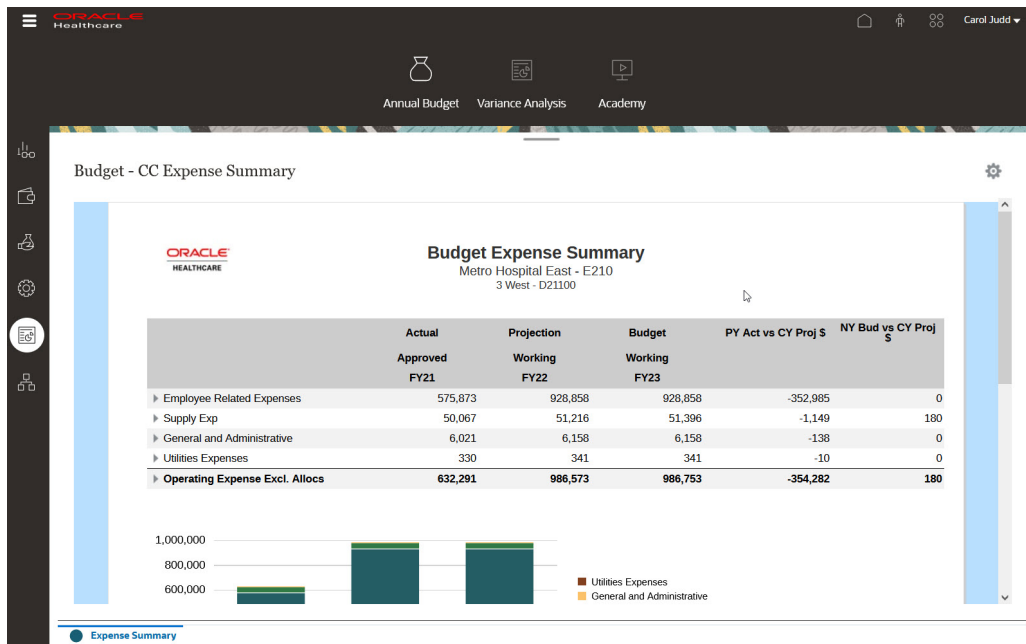
収益ダッシュボード:



費用ダッシュボード:



プランナは、提供される分析レポートを使用して、最適な患者ケア戦略のための分析および計画を行えます:



Oracle Healthcare Planning ソリューションは、業界のベスト・プラクティスに構築されており、固有のビジネス要件を満たすために高度に構成可能です。このソリューションは、エンド・ユーザーを念頭に置いて設計されており、これを利用することで、迅速な価値の実現と実装タイムラインの短縮が可能になります。

ヘルスケア・プランニング・ソリューションの詳細は、[クラウド・カスタマ・コネク](#)トに問い合せてください。

ビデオ

Oracle Healthcare Planning ソリューションは、実装のアクセラレータであり、サポートされるプランニング・モジュールではありません。「モジュール」と「ソリューション」の両方でベスト・プラクティスを提供します。ただし、「モジュール」は Oracle Enterprise Performance Management Cloud で完全にサポートされる機能であり、一方、「ソリューション」は実装のスターター・キット・アクセラレータとなることが意図されています。

目的	視聴するビデオ
この概要では、ヘルスケア・プランニング・ソリューションの機能に焦点を当てています。Oracle Healthcare Planning ソリューションは、プランニング・プロセスの促進に役立つように、Oracle EPM Planning 財務の上に開発された高度に構成可能な実装アクセラレータです。ロール・ベースのナビゲーション・フローはエンド・ユーザーを念頭に置いて設計され、エンド・ユーザーが完了する必要があるタスクに基づいています。	 概要: EPM Financials を使用したヘルスケア
このチュートリアルでは、EPM Financials を使用して、ヘルスケア組織のスタッフ配属および非スタッフ配属費用を計画する方法について学習します。プランナは、提供されるフォームおよびダッシュボードを使用して、給与関連および非給与関連費用を計画します。Oracle Healthcare Planning ソリューションは、プランニング・プロセスの促進に役立つように、Oracle EPM Planning 財務の上に開発された高度に構成可能な実装アクセラレータです。	 EPM Financials を使用したヘルスケアの費用のプランニング
このチュートリアルでは、EPM Financials を使用して、ヘルスケア組織のボリューム、払戻および収益を計画する方法について学習します。プランナは、提供されるフォームおよびダッシュボードを使用して、エンティティ・レベルまたはサービス明細レベルの収益を計画します。Oracle Healthcare Planning ソリューションは、プランニング・プロセスの促進に役立つように、Oracle EPM Planning 財務の上に開発された高度に構成可能な実装アクセラレータです。	 EPM Financials を使用したヘルスケアのボリュームおよび収益のプランニング

EPM Cloud による IT 財務管理

Oracle Enterprise Performance Management Cloud は、今日の組織において 1 人の CIO が担う、ビジネスを運営するための支出面の役割と、ビジネスを成長させ、変革するための投資面の役割の両方をサポートします。

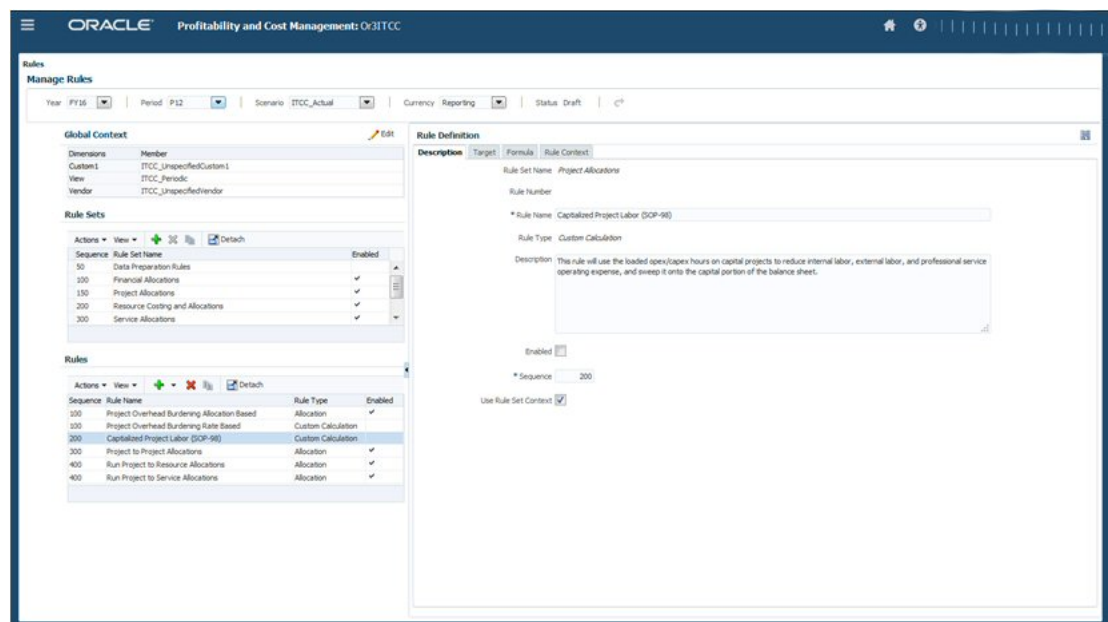
Profitability and Cost Management にはカスタマイズされたソリューションを、Planning モジュールにはプロジェクトと財務を実装し、一般会計のデータを統合することで、IT 財務部門

は、EPM Cloud を使用した IT 財務管理プランニングでビジネスの戦略的なパートナーになることができます。

Profitability and Cost Management と IT コスト計算およびチャージバック・テンプレートを使用すると、ビジネス・サービス・プロバイダとして、財務データをモデリングし、IT を分析できます。(IT サービス・カタログを使用して)組織が提供するサービスや、組織の IT 資産およびリソース(ハードウェアやソフトウェア、従業員など)を定義し、一般会計からデータをインポートしたら、サービスのコスト計算とチャージバックのルールを定義します。これにより、資産をサービスにリンクして、IT 運用のコストを見極めることができます。この方法でモデリングすると、現在のコストを分析して、将来のコストを計画することが可能になります。ビジネスに必要な場合には、プロジェクトまたは部門にサービス・コストや諸経費コストを配賦し、各プロジェクトと部門の IT サービスやリソースのチャージバックを決定することも可能です。

データのフローは、**Profitability and Cost Management** で「**ルールの管理**」を使用してモデル化します(「ルールの管理」では、データの変更やマッピングのルールを定義します)。勘定科目やエンティティ、プロジェクト、リソース、サービス、コンシューマを含むディメンションを使用してデータをモデリングすると、次のことが可能になります。

- プロジェクトへの諸経費の配賦。
- 一般会計データとプロジェクト・データの取得と、リソースまたはサービスへの転送。
- リソース・コストの取得とサービスへの転送(サービスで使用されるサーバーの数など)。
- オプションで、コンシューマへのサービス・コストのチャージ・バック。(モデルでは、チャージバックかショーバックのどちらかを実行できます)



ビジネス・ユーザーは、**ルール・バランシング**を使用して、ルールと、データに対するその影響を確認できます。詳細を表示するには、**Smart View** リンクをクリックします。詳細にアクセスしながら、ルールをステップごとに検証できるため、透過性と監査性があります。これにより、一般会計以外の運用データにアクセスすることができ、

一般会計に影響を与えることなく、あらかじめ組み込まれた分析機能を使用してデータをモデリングできます。

Rules	Rule Number	Input	Adjustment In	Adjustment Out	Allocation In	Allocation Out	Allocation Offset Amount	Net Change	Remainder	Running Remainder	Balance	Running Balance
Financial Allocations		10,790,955	-	-	-	-	-	-	10,790,955	10,790,955	10,790,955	10,790,955
Corporate Overhead Allocation	R0001	-	-	-	2,704,034	-2,704,034	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
IT Overhead Allocation	R0002	-	-	-	350,000	-350,000	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Functional Area Direct Non Labor Unspecified	R0009	-	-	-	146,845	-146,845	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Project Allocations		-	-	-	2,207,192	-2,207,192	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Project Overhead Burdening Allocation Base	R0003	-	-	-	8,054,171	-8,054,171	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Project to Project Allocations	R0010	-	-	-	477,648	-477,648	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Run Project to Resource Allocations	R0011	-	-	-	87,594	-87,594	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Run Project to Service Allocations	R0012	-	-	-	4,400,359	-4,400,359	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Resource Costing and Allocations		-	-	-	3,019,580	-3,019,580	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Resource Database Assets to Service Allocat	R0008	-	-	-	6,903,920	-6,903,920	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Resource Infrastructure Assets to Service All	R0007	-	-	-	46,868	-46,868	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Resource Infrastructure Support to Service #	R0014	-	-	-	736,717	-736,717	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Resource Software Assets to Service Allocat	R0004	-	-	-	5,521,639	-5,521,639	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Resource Software Support to Service Allocat	R0015	-	-	-	343,696	-343,696	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Service Allocations		-	-	-	255,000	-255,000	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Business Continuity Infra Service Apportions	R0006	-	-	-	15,764,308	-15,764,308	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Messaging Services Allocations	R0018	-	-	-	840,807	-840,807	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Personal Computing Services Allocations	R0017	-	-	-	503,535	-503,535	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Application Services Allocations	R0005	-	-	-	884,871	-884,871	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Network Connectivity Services Allocation	R0019	-	-	-	1,808,684	-1,808,684	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Remote Access Services Allocations	R0023	-	-	-	1,595,663	-1,595,663	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Help Desk Services Allocation	R0016	-	-	-	779,784	-779,784	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Conferencing Services Allocations	R0024	-	-	-	286,814	-286,814	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955
Total		10,790,955	-	-	28,426,433	-28,426,433	-	<0.01	<0.01	10,790,955	<0.01	10,790,955

ルールを定義したら、IT コスト計算およびチャージバック・テンプレートを使用して作成される 10 以上のレポートを確認できます。レポートには次のものが含まれます。

- IT サービス関連の請求 - チャージバック、請求レートおよびドライバが表示されます。使用している組織にチャージ・バックするかどうかを選択できます。チャージバックを実行する場合は、そのチャージ・バックを一般会計にプッシュできます。

Service	Service Driver	QTY	Charge
Customer Relationship Management	Svc - User Count	425	3,230.59
Talent Management	Svc - User Count	5	192.17
Financials	Svc - User Count	2	185.99
Supply Planning	Svc - User Count	6	172.34
Planning & Budgeting	Svc - User Count	23	1,428.70
Oracle Business Intelligence Enterprise	Svc - User Count	56	948.65
Oracle Social Cloud	Svc - User Count	401	1,667.78
Help Desk	Svc - Tickets	45	1,506.71
Business Continuity Services	Svc - Consumer Expense	8	-

- サービス・コスト計算 - サポート・ユーザー当たりのコストと、プロジェクトやリソースの使用量が表示されます。

Service Cost Summary
Dec Periodic FY 2016 Act
in Reporting - USD

Service	Service Owner	Cost
Customer Relationship Management	Winthrop Ferriell	322,227
Talent Management	Barton Paquette	120,493
Financials	Ferdinando Ricupero	352,088
Supply Planning	Alexandr Solon	227,718
Planning & Budgeting	Briny Peligrad	153,592
Oracle Business Intelligence Enterprise	Nathaniel Halterman	431,503
Oracle Social Cloud	Winona Puitanen	151,063
Help Desk	Lauritz Geary	286,814
Mobile Device	York Bankston	820,068
Telephone Services	York Bankston	1,378,172
Desktop/Laptop Services	Donnamarie Anthony	750,548

- プロジェクト・コスト計算 - 実行とビルド、資本支出と営業費用の分析が可能です。

Project Cost by Entity
Standard Base Image Development | Ernie Lefort
Dec Periodic FY 2016 Act
in Reporting - USD

Entity	Project Cost
Software Management	449,623
Security Systems	3,578
End User Support	113,140
IT Infra and Ops Function	566,339
Application Development	27,256
Application Support	91,762
IT Application Function	169,518
IT Excl Fin & Mgmt	735,857
IT Entity Total	735,857
All Entities	735,857

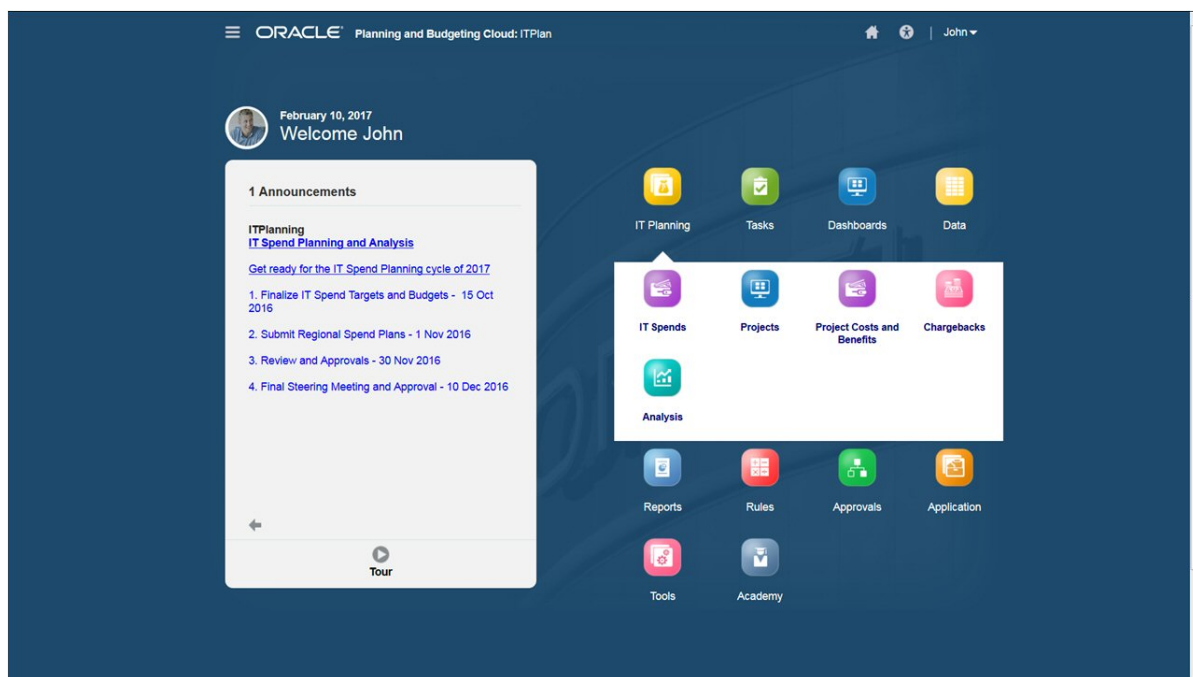
Profitability and Cost Management で IT コストのモデリングとコストの配賦が完了したら、Oracle Enterprise Data Management Cloud またはデータ統合を使用してデータを Planning モジュールに転送し、財務やプロジェクトでさらにプランニングと分析を行います。

財務では、サービスやアプリケーション別に、大まかな IT 支出のプランニングを実行できます。

プロジェクトでは、より詳細なプロジェクト・プランニングを行ってリソース別に計画を立てることが可能で、プロジェクトのコストと利益を確認してからプランを送信して承認を求めることができます。その後、このプランを実際の支出と比較し、IT コスト計算を使用して差異や偏差を確認できます。

カスタム・フォームやダッシュボード、ドライバ、ナビゲーション・フローでは、プロジェクトを IT 用にカスタマイズできます。サービス用にカスタム・ディメンションを追加し、Profitability and Cost Management の IT サービス・カタログのメンバーを共有します。

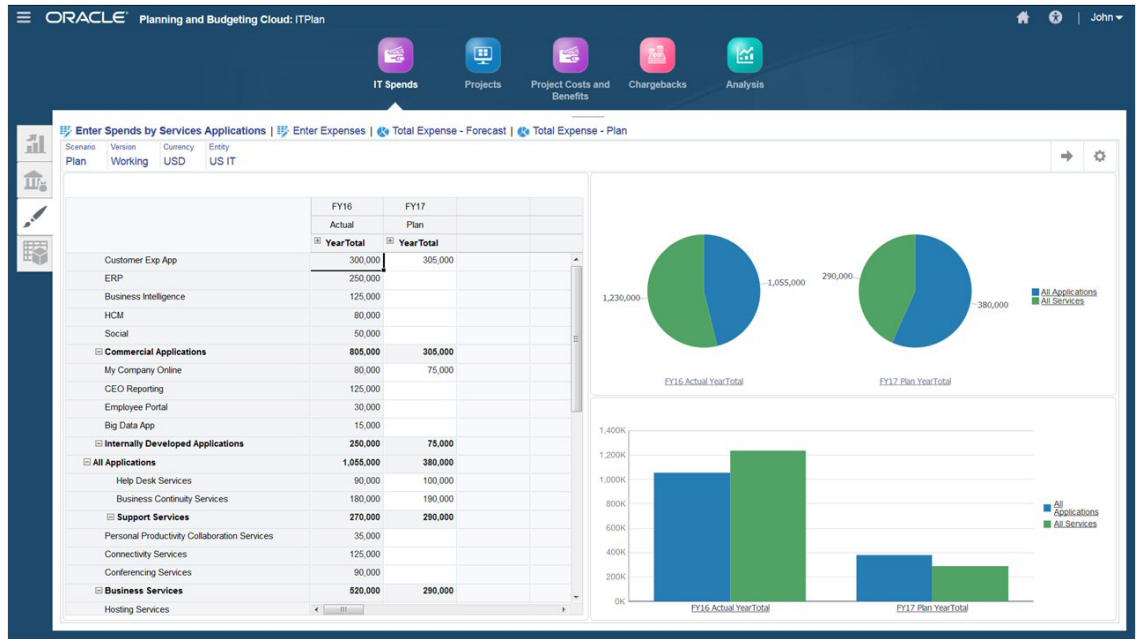
所属している組織の要件に合うよう、ナビゲーション・フローをカスタマイズします。



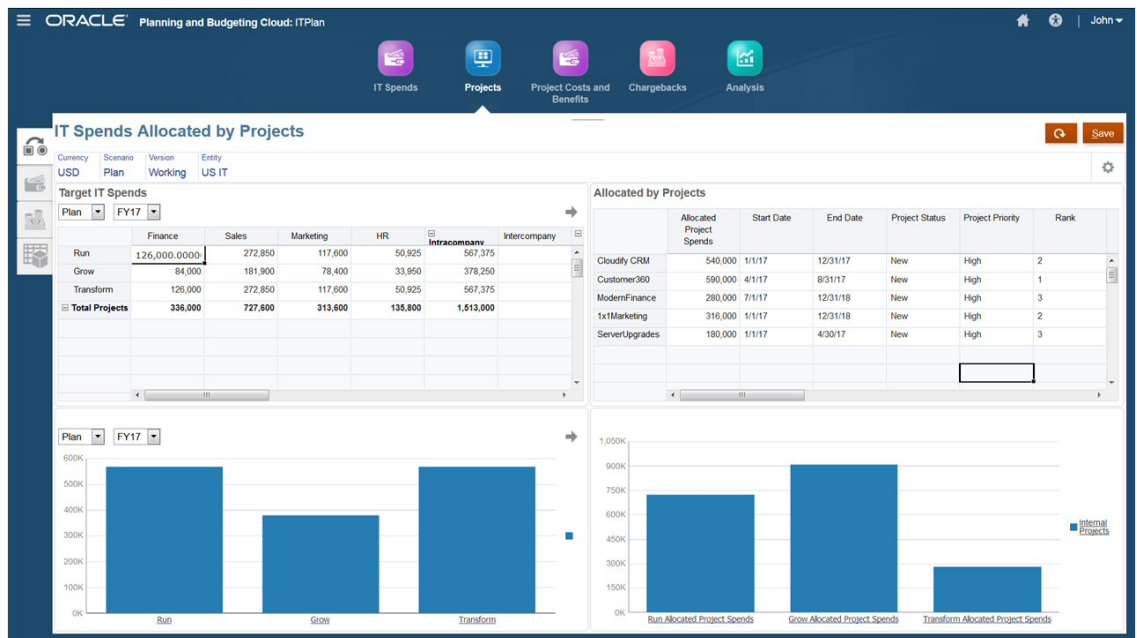
たとえば、プロジェクトのこのカスタム・ナビゲーション・フローには、次のようなワークフローがあります。

- サービス・アプリケーションの IT 支出の入力。
- プロジェクトへの IT 支出の配賦。
- IT プロジェクトのコストと利益の分析。
- チャージバック・プランニングの実行。
- ダッシュボードでの IT 支出の概要確認。

サービス・アプリケーションの IT 支出をデータ入力フォームで入力します。

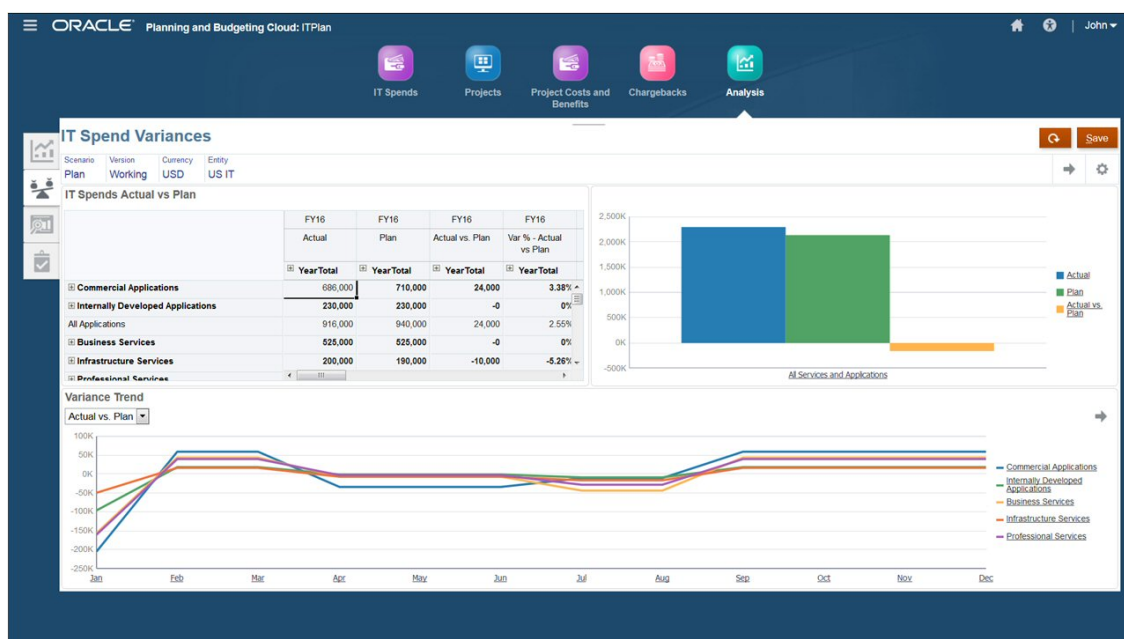
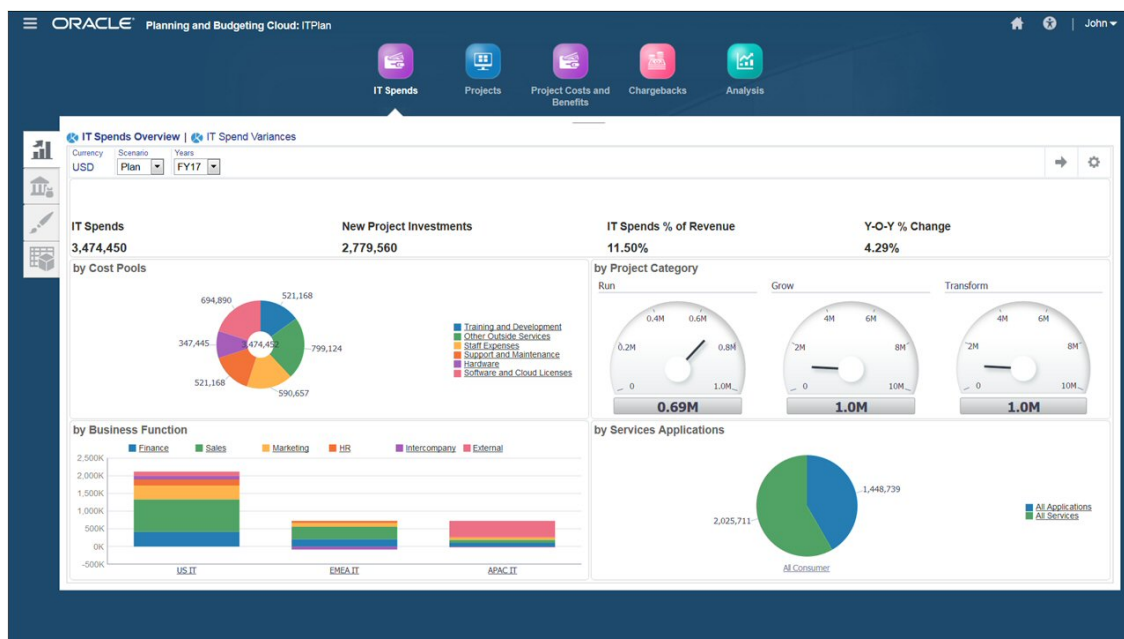


プロジェクトに IT 支出を配賦します。




プロジェクトの利益を定義することもできます。

IT 支出や差異分析を全体的に把握できるカスタム・ダッシュボードを設計します。



一般会計からデータをインポートして、Profitability and Cost Management でモデリングとコストの配賦を行い、Oracle Enterprise Data Management Cloud またはデータ統合を使用してそのデータを Planning モジュールに転送することにより、使いやすい分析機能があらかじめ組み込まれた IT 財務管理システムを作成でき、結果の透過性と監査性を確保して、IT 関連投資の意思決定の最適化と、事業との協調の促進を実現できます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
EPM Cloud の IT 財務管理について学習します。	 概要: EPM Cloud の IT 財務管理


IT プランニングのための Planning モジュールの構成

包括的で堅牢な IT 財務管理プロセスを実装することにより、企業の IT サービス・ポートフォリオ、ベンダーとの関係、リソース割当てが企業のコスト構造全体にどのように影響するかに関するインサイトを得られます。IT プロジェクトを管理するための事前定義済のフォーム、ダッシュボード、勘定科目およびドライバを変更することで、プロジェクトをカスタマイズし、IT 型プロジェクトのプランニングを最適化できます。

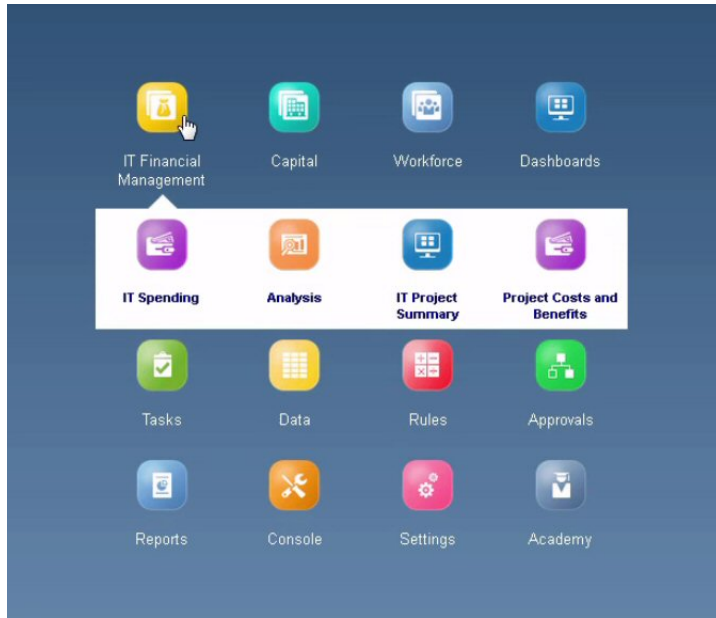
さらに、カスタマイズされたナビゲーション・フローを設計することで、ユーザーが IT プロジェクトのプランニングおよび分析、成果の計測ならびに支出のモニターを実行できる完全なシステムを作成できます。ニーズに合わせて、カスタム・ナビゲーション・フローでカードを作成できます:

- IT、業務および財務部門間で連携し、プロジェクト・プランを構築できるコラボレーションおよびプランニング
- 最大利得を目指した、予算制約内のリソースの評価および最適化
- 測定可能ターゲット、プロジェクトの理由、およびプロジェクトに投資の価値があるかどうかの決定に役立つその他の財務ベネフィットの管理
- プロジェクトの承認後の進行状況およびパフォーマンスのモニター

ビデオ

目的	視聴するビデオ
IT プランニングのための Planning モジュールの構成について学習します。	 Oracle IT Financial Management Cloud を使用した IT プロジェクトのプランニング。

次にカスタマイズされたナビゲーション・フローを示します:

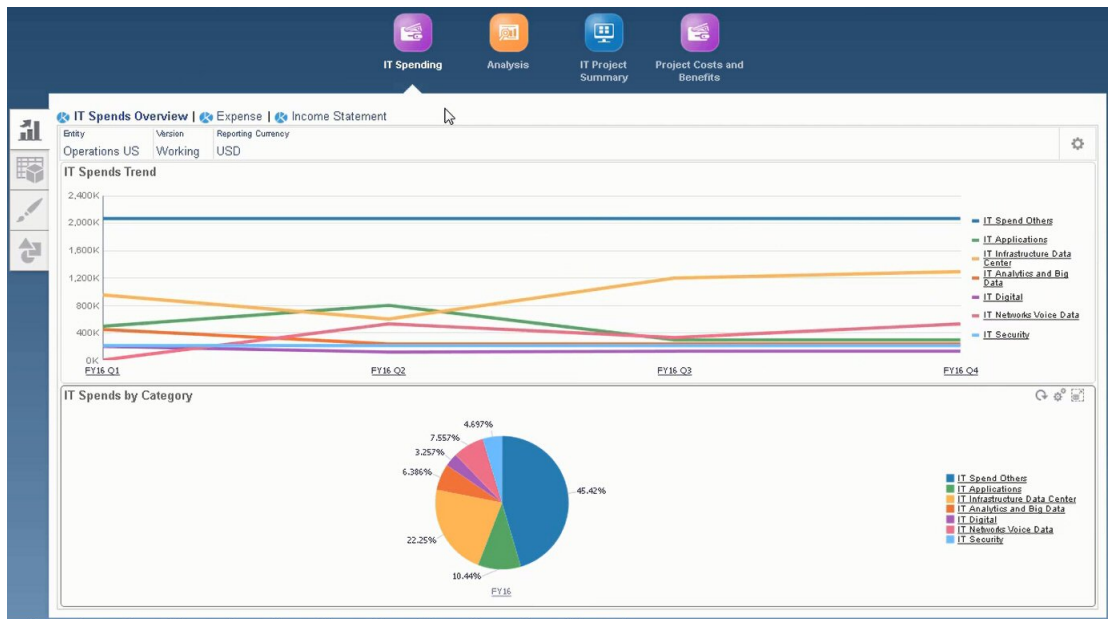


各カードおよびそのカスタム・ダッシュボードおよびフォームを見てみましょう。

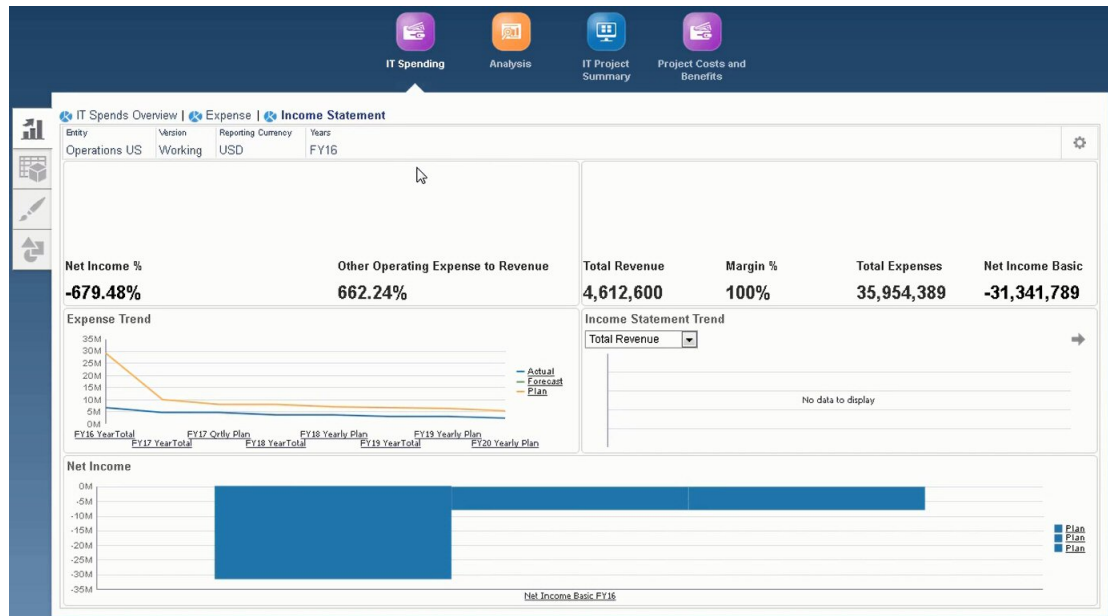
IT 支出


IT 支出タブでは、新規および既存の IT プロジェクトの費用をモニターできます。

IT 支出ダッシュボードでは、カテゴリおよびトレンド別の IT 支出など、概要レベルの費用をモニターできます。トップダウンの IT 支出ターゲットを確認し、信頼できる IT 支出予測を設計できます。

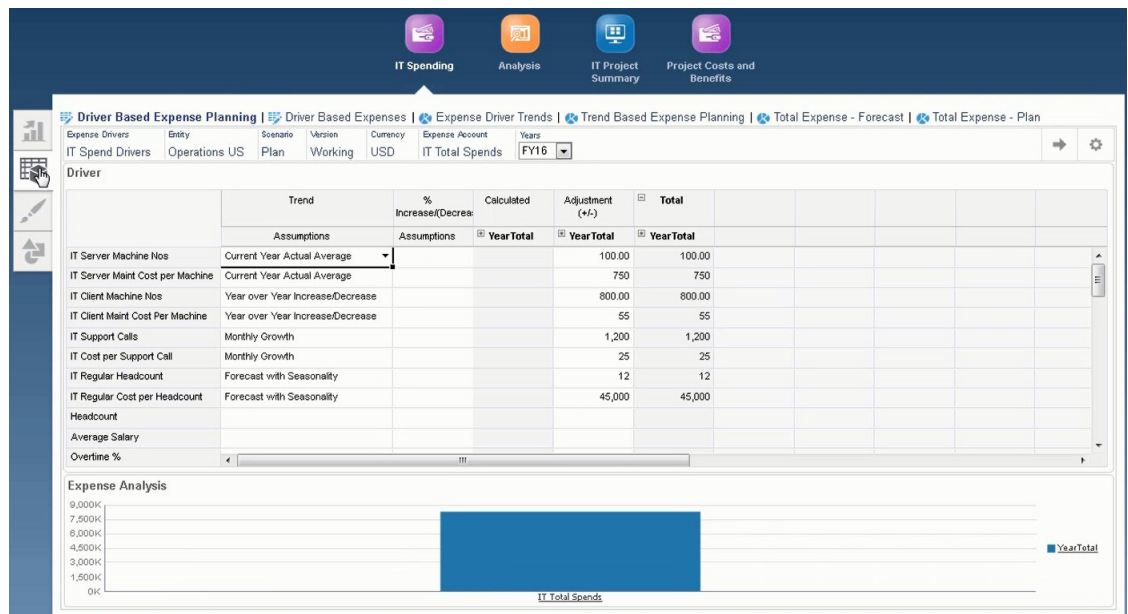


「費用」および「損益計算書」タブで費用および損益計算書に関連する追加詳細をモニターします。



「ドライバおよびトレンド・ベース」タブ  で、費用は、ドライバ・ベースまたはトレンド・ベースの仮定を使用して計算されます。

たとえば、サーバー・マシンの取得は、IT サーバー・マシンの数およびマシン当たりのメンテナンス・コストのドライバが必要です。



ドライバ・トレンドを管理すると、コスト削減の機会を識別できます。

「直接入力」タブ  で、他の支出をプランニングできます。

	Q1	Q2	Q3	Oct	Nov	Dec	Q4	Year Total
IT Server Maintenance	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
IT Client Maintenance								
IT Support								
IT Staff Expenses								
IT Spend Others	450,000	450,000	450,000	150,000	150,000	150,000	450,000	1,800,000
IT Applications	500,000	800,000	300,000	100,000	100,000	100,000	300,000	1,900,000
IT Infrastructure Data Center	950,000	600,000	1,200,000	433,333	433,333	433,333	1,300,000	4,050,000
IT Analytics and Big Data	450,000	237,500	237,500	79,167	79,167	79,167	237,500	1,162,500
IT Digital	200,000	123,000	135,000	45,000	45,000	45,000	135,000	593,000
IT Networks Voice Data	725	525,000	325,000	175,000	175,000	175,000	525,000	1,375,725
IT Security	213,750	213,750	213,750	71,250	71,250	71,250	213,750	855,000
IT Total Spends	2,764,475	2,949,250	2,861,250	1,053,750	1,053,750	1,053,750	3,161,250	11,736,225
Salaries								
Overtime								
Bonus								
Total Salary								
Pension Plan								
Car Allowance								
Other Benefits								

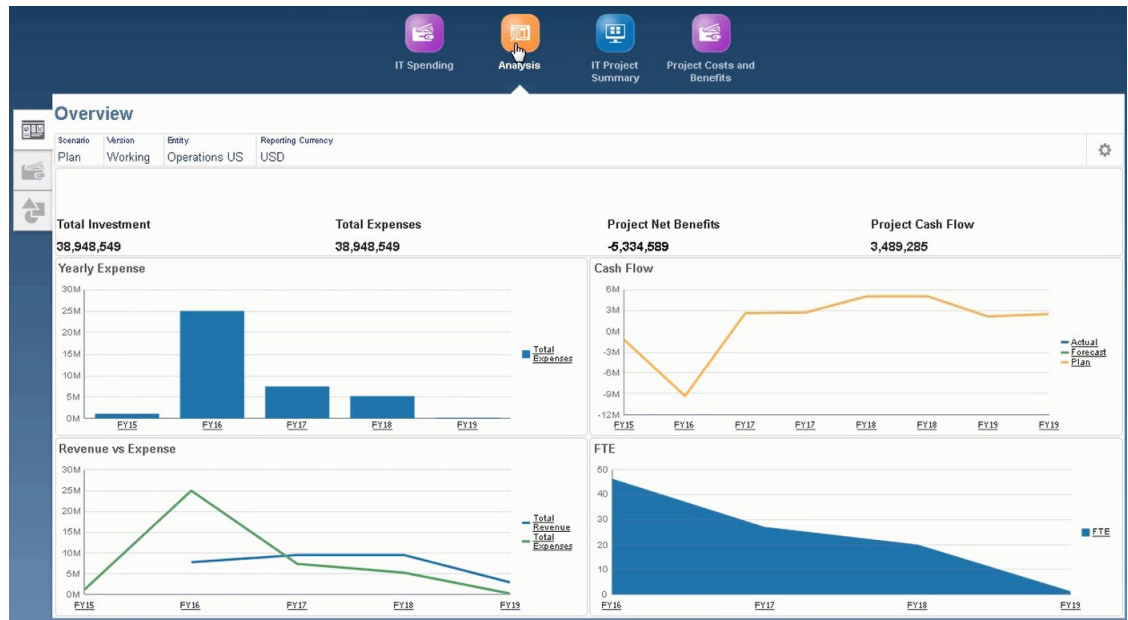
「損益計算書」タブで財務パフォーマンスを確認できます。

	FY16		FY16	FY16
	Plan	Actual vs. Plan	Plan vs. Forecast	Plan
	Y-T-D (Jul)	Y-T-D (Jul)	Year Total	Year Total
Services Revenue	1,133,000	-1,133,000	-2,547,600	2,547,600
Other Revenue	1,204,583	-1,204,583	-2,065,000	2,065,000
Total Revenue	2,337,583	-2,337,583	-4,612,600	4,612,600
IT Server Maintenance	75,000	75,000	75,000	75,000
IT Client Maintenance	44,000	44,000	44,000	44,000
IT Support	210,000	210,000	360,000	360,000
IT Staff Expenses	3,780,000	3,780,000	6,480,000	6,480,000
IT Spend Others	4,823,000	4,823,000	8,268,000	8,268,000
IT Applications	1,400,000	1,400,000	1,900,000	1,900,000
IT Infrastructure Data Center	1,950,000	1,950,000	4,050,000	4,050,000
IT Analytics and Big Data	766,867	766,867	1,162,500	1,162,500
IT Digital	368,000	368,000	593,000	593,000
IT Networks Voice Data	634,058	634,058	1,375,725	1,375,725
IT Security	498,750	498,750	855,000	855,000
IT Total Spends	10,440,475	10,440,475	18,204,225	18,204,225
Salaries	56,000	56,000	96,000	96,000
Total Salary	56,000	56,000	96,000	96,000
Total Compensation	56,000	56,000	96,000	96,000

分析

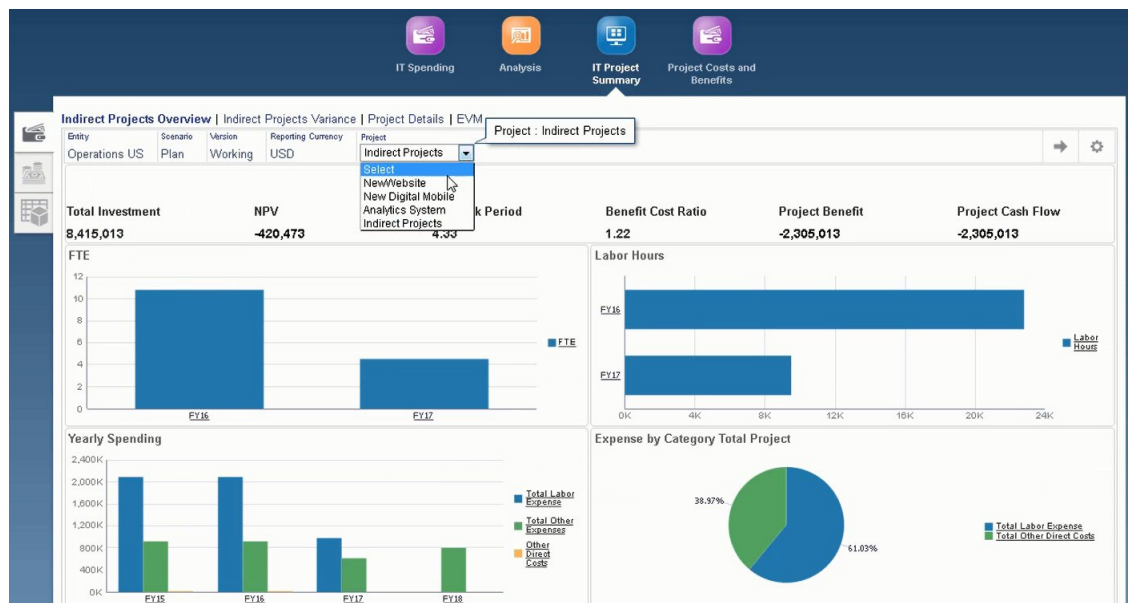
「分析」では、進行状況およびパフォーマンスをモニターし、財務および非財務ベネフィットを確認できるため、特定の IT プロジェクトに対して投資の価値があるかどうかを判断できます。

「分析」ダッシュボードには、プロジェクトのモニターに使用されるチャートのサマリーが含まれます。



IT プロジェクト・サマリー

IT プロジェクト・サマリーでは、IT プロジェクトおよび関連労務費をモニターできます。

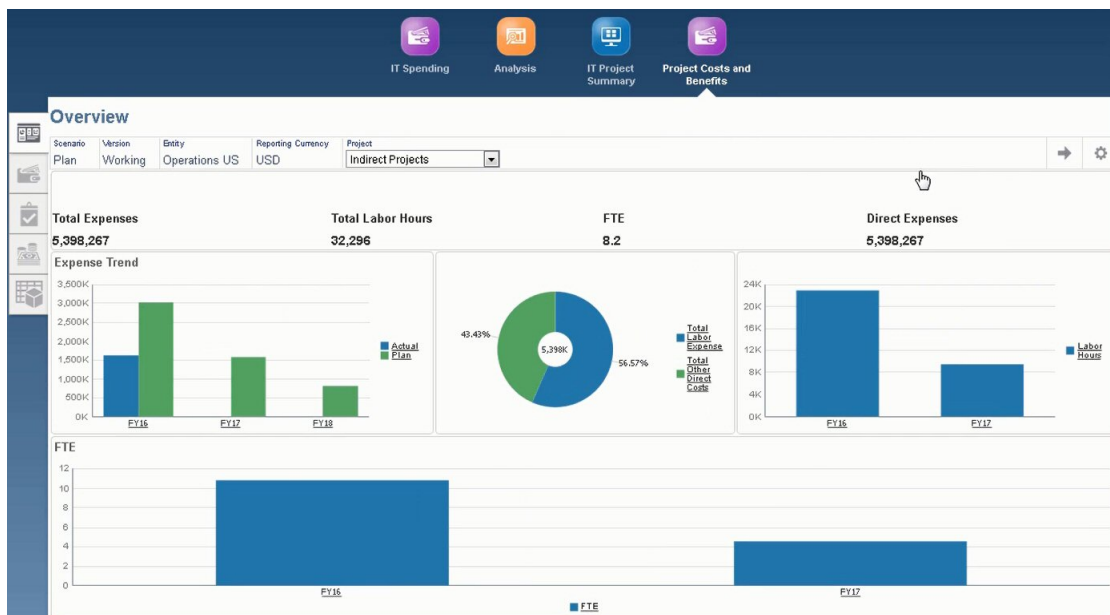


このセクションでは、リソース割当てを管理およびプランニングできます。

Project	Entry	Scenario	Version	Currency	FY15		FY16		FY17		FY18		FY19		FY20		FY21		FY22	
					Labor Standard Hourly Cost	On Site Billing Rate	Off Site Billing Rate	Labor Standard Hourly Cost	On Site Billing Rate	Off Site Billing Rate	Labor Standard Hourly Cost	On Site Billing Rate	Off Site Billing Rate	Labor Standard Hourly Cost	On Site Billing Rate	Off Site Billing Rate	Labor Standard Hourly Cost	On Site Billing Rate	Off Site Billing Rate	Labor Standard Hourly Cost
Unspecified Job																				
Research Analyst							50	60		50	60		50	60						
Designer							150			150			150							
Marketing Analyst							130			130			130							
Accountant																				
Finance Manager																				
Finance Director																				
Systems Analyst							60			60			60							
IT Manager																				
IT Director																				
Sales Manager																				
Sales Director																				
Sales Associate																				
Operations Analyst																				
Operations Manager							125			125			130							
Operations Director																				

プロジェクトのコストおよびベネフィット

プロジェクトのコストおよびベネフィットにより、仮定、直接費、プロジェクト費用合計ならびに請求レートおよびコストをモニターできます。



このセクションでは、プロジェクトに関連する他のコストを識別し、IT プロジェクトへの投資の正当化に役立つ財務および非財務ベネフィットを判断できます。

No Year		FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
Impact Line 1	Other Revenues		320,000	450,000		
Impact Line 2	Other Expenses		30,000	90,000		
Impact Line 3						
Impact Line 4						
Project Impact			350,000	540,000		

No Year		FY15	FY16	FY17	FY18
Impact Line 1	Customer Satisfaction Index		3.4	3.80	
Impact Line 2	User Base		500.00	1,200	
Impact Line 3					
Impact Line 4					

カスタム・ナビゲーション・フローの詳細は、*Planning* の管理のカスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

B

データのインポート

データをインポートする前に、このヘルプ・システムの説明に従ってアプリケーションを構成し、ディメンション・メタデータをインポートします。

アプリケーション内から、データ・インポート・テンプレートをダウンロードできます。テンプレートは、有効化した機能および追加されているカスタム・ディメンションに基づいて生成されます。


データ・インポート・テンプレートをダウンロードするには:

1. ホームページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。
2. 「**構成**」リストから、テンプレートをダウンロードするモジュールを選択し、「**アクション**」メニューから「**データ・ロード・テンプレートのダウンロード**」を選択します。
3. ZIP ファイルをローカルに保存し、次に CSV ファイルを抽出します。

次のタスクを実行して、データをインポートします。

1. 適切なデータ・インポート設定を指定します。データ・ロード設定の管理を参照してください。
2. **オプション**: 必要な場合に元に戻すことができるように、データ・インポート・テンプレートのバックアップ・コピーを作成します。
3. **オプション**: アプリケーションをバックアップします。
4. カスタム・スマート・リストを作成した場合は、関連データの前にそれらをインポートします(一部のモジュールにおいてのみ可能)。

インポートするスマート・リストとそれらのエントリ名を特定するには:

- a. 「**ナビゲータ**」をクリックしてから、「**作成および管理**」の「**スマート・リスト**」をクリックします。
 - b. スマート・リストを選択して「**編集**」をクリックし、「**エントリ**」を選択します。
 - c. 関連付けられている名前を書き留めます。
5. Microsoft Excel でテンプレートを開き、ビジネス・データを指定してカスタマイズします。

ヒント:

13 期間アプリケーションの場合は、13 番目の期間の行が含まれるようにテンプレートをカスタマイズできます。

6. **オプション:** データのインポートと計算を確実に正しく行うためには、まずテスト・アプリケーションにインポートします。
7. データを本番アプリケーションにインポートします。
8. 最初のデータ・インポートでは、データの処理と計算に必要なルールを実行します。


テンプレートをカスタマイズする場合:

- ゼロを入力しないでください。
- データをインポートするには、インポートするファイルのすべてのディメンションに少なくとも1つのメンバーが必要です。
- データがない列は削除します。たとえば、期間設定が月次の場合は、Qtrly 1 - 4の列を削除できます。
- メンバー名がゼロ(0)で始まる場合は、数値の列をテキストに変更してください。

データのインポートについて

アプリケーション内から、データ・インポート・テンプレートをダウンロードできます。テンプレートは、有効化した機能および追加されているカスタム・ディメンションに基づいて生成されます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
データのインポートについて学習します。	 Oracle Enterprise Planning Cloud でのデータのロード

財務データのインポート

財務テンプレートは、アプリケーションのディメンションに基づいて作成され、機能を有効化したときに追加したカスタム・ディメンションが含まれます。

有効化した機能に応じて、次のテンプレートが zip ファイルで使用可能になります:

- FinStmt Expense Data Load Template.csv
- FinStmt Expense Weekly Load Template.csv - 週次レベルでプランニングしている場合、このテンプレートを使用します
- FinStmt Revenue Data Load Template.csv
- FinStmt Revenue Load Weekly Template.csv - 週次レベルでプランニングしている場合、このテンプレートを使用します
- FinStmt Balance Sheet Load Template.csv
- FinStmt Cash Flow Direct Assumptions.csv
- FinStmt Cash Flow Indirect Load Template.csv

テンプレートでは、有効なディメンションすべてに対してプレースホルダーがあり、各ディメンションは *NoMember* メンバーがデフォルト設定されます。ロードしてい

各レコード・データに対して適切なディメンション・メンバーを指定します。ディメンションがデータのレコードに対して適用不可の場合、**NoMember** を使用します。

FinStmt Cash Flow Direct Assumptions.csv 以外のすべてのテンプレートでは、次のガイドラインを使用してデータをインポートします:

- 列 A の行に勘定科目を指定し、縦方向に期間を指定します。
- 勘定科目の名前の変更が反映されるよう列 A の勘定科目ディメンション・メンバーを変更します。
- 期間は列 D-S にあります(費用を週次レベルでプランニングしている場合は行 B - BA、収益を週次レベルでプランニングしている場合は行 C - BB)。使用しない期間の列は削除します。
- 「視点」列のデータを変更して、データのインポート先を指定します:
 - OFS_Load - インポートするデータ値
 - <カスタム・ディメンション> - 機能を有効化したときに追加したカスタム・ディメンション。
 - OEP_No Entity - データのインポート先のビジネス階層内の部署を指定する、「エンティティ」ディメンションのメンバー
 - 年なし - 年番号
 - OEP_Actual - シナリオ・メンバー
 - OEP_Working - バージョン・メンバー
 - USD - 為替レート(複数通貨アプリケーション用)
- データ・ロード・キューブ名は OEP_FS である必要があります。
- FinStmt Balance Sheet Load Template.csv では、「**BegBalance**」を使用して、貸借対照表勘定科目の開始金額を格納します。

FinStmt Cash Flow Direct Assumptions.csv では、次のガイドラインを使用してデータをインポートします:

- 行
 - 列 A の行のキャッシュ・フロー・ソースまたはキャッシュ・フロー使用勘定科目(あるいはその両方)を識別します。
 - 1 列目は「勘定科目」ディメンション用です。「勘定科目」の名前が変更されている場合は、対応するように更新します。
- 列
 - 直説法キャッシュ・フロー仮定メンバーは、列 B - F にあります。
 - 列 B は、特定の勘定科目に設定する現金回収または現金支払い期間を設定します。
 - 列 C-F は、特定の勘定科目の現金回収または現金支払いのタイミングを設定します。入力した値は、4 つの列で 100% である必要があります。
- 視点 - 「BegBalance」、製品なし、サービスなし、チャネルなし、顧客なし、セグメントなし、OEP_No Entity、「年なし」、OEP_Plan、OEP_Working、「USD」をどこにロードするかを識別します
 - BegBalance - 「直接法キャッシュ・フロー」仮定は、「BegBalance」にロードされます。

- 製品なし、サービスなし、チャンネルなし、顧客なし、セグメントなし - 機能を有効化したときに設定した適用可能なカスタム・ディメンションを示します。カスタム・ディメンションを使用しない場合は、そのメンバーはシードされません。
- OEP_NoEntity - データのロード先のビジネス階層内の部署を指定する、「エンティティ」ディメンションのメンバー。
- 年なし - 「年」ディメンション・メンバーを示します。
- OEP_Plan - 「シナリオ」ディメンションのメンバー。
- OEP_Working - 「バージョン」ディメンションのメンバー。
- USD - 為替レート(複数通貨アプリケーション用)
- データ・ロード・キューブ名は OEP_FS である必要があります。
- 最初のデータ・インポートでは、データの処理と計算に必要な次のルールを実行します: 財務: **実績の計算**および**ロールアップ**。

要員データのインポート

アプリケーション内から、要員データ・インポート・テンプレートをダウンロードできます。これらのテンプレートは、有効化した機能と、機能を有効化したときに追加したカスタム・ディメンションに基づいて生成されます。[データのインポート](#)を参照してください。

データ・ロード・テンプレートに含まれる勘定科目にのみデータをロードします。

ノート:

最後のロード以降の変更済および新しい要員データをロードする場合、データ統合を使用してロードのパフォーマンスを改善できます。[増分要員データのロードおよび計算](#)を参照してください。

ノート:

データ統合を使用して、新規採用データを一括ロードできます。詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の要員新規採用データの一括ロード*を参照してください。

 ノート:

2020年2月のリリース時点で、要員は新規の「開始日」プロパティをサポートしています。データ・インポート・テンプレートには、「採用日」などのデータを「OWP_Start Month」ではなく「OWP_Start Date」にロードするためのヘッダーおよび例が含まれています。データは引き続き「開始月」にロードでき、「ロードされたデータの処理」ルールにより、「開始月」勘定科目に指定された月の初日を使用して、データが「開始日」に変換されます。したがって、「開始月」データに基づいた既存のデータ統合は引き続き機能します。ただし、データを「開始日」にロードすると、さらに正確な計算を取得できます。

これらのテンプレートは、「**プランニングと予測の準備**」構成タスクで設定した **CurYr** を反映します。データをインポートしてキューブをリフレッシュした後で、**ロードされたデータの処理**ルールを実行して、プランニングを行う年範囲の必要な期間にデータをコピーします。

各テンプレート名の接頭辞は、アプリケーションの粒度によって決まります:

- **従業員とジョブ**・アプリケーションの場合、テンプレート名の前に **EJ_** が付きます。たとえば、`EJ_EmployeePropertiesDataLoad_Plan.csv` のようになります。
- **従業員**のみのアプリケーションの場合、テンプレート名の前に **EO_** が付きます。たとえば、`EO_EmployeePropertiesDataLoad_Plan.csv` のようになります。
- **ジョブ**のみのアプリケーションの場合、テンプレート名の前に **JO_** が付きます。たとえば、`JO_JobOtherCompensationDataLoad_Plan.csv` のようになります。

従業員プロパティのインポート

次のテンプレートを使用して、既存の従業員のプロパティをインポートします:

- `EmployeePropertiesDataLoad_Plan.csv` - 従業員のプラン・プロパティをインポートします。(人数および部分的な支払係数は、これらの値を明示的に設定しないかぎり、ロードする必要はありません。人数および部分的な支払値をロードしない場合、これらはすべての従業員についてそれぞれ **1** および **100%** に設定されます。)

 ノート:

`EJ_EmployeePropertiesDataLoad_Plan.csv` テンプレートの場合、「**組合コードなし**」や「**OWP_All Union Code**」にロードしないでください。かわりに、「**組合コード合計**」の新しい子メタデータ・メンバーを追加して使用してください。そうしない場合、同期ルールが適切に機能しない可能性があります。

- `EmployeePropertiesDataLoad_Actuals.csv` - 従業員の実績プロパティをインポートします。

 ノート:

EJ_EmployeePropertiesDataLoad_Plan.csv および
EO_EmployeePropertiesDataLoad_Plan.csv を使用して、従業員マスター
FTE データを **OEP_Home Entity** にロードできます。**OEP_Home Entity** に
ロードされたデータは、「**ロードされたデータの処理**」を実行すると、ロード
年の将来の期間(データ・ロード月から開始)および将来の年にコピーされま
す。

「**分割資金調達 FTE**」を有効にした場合、各従業員のマスター FTE 値を入力
またはインポートする必要があります。


従業員報酬のインポート

EmployeeSalaryDataLoad_Plan.csv を使用して、給与の計算に使用するデータを
インポートします。

従業員の実績報酬のインポート

EmployeeCompensationDataLoad_Actuals.csv を使用して、従業員の実績報酬
データをインポートします。

このテンプレートを使用するには、次の「**データ・ロードの設定**」を設定します:

1. ホーム・ページで「**ナビゲータ**」 をクリックし、「**統合**」で、「**データ・ロー
ドの設定**」をクリックします。
2. データをインポートするための次のパラメータを設定します:
 - **データ・ロード・ディメンション:** 勤定科目
 - **ドライバ・ディメンション:** 期間。メンバー: BegBalance、
ILvl0Descendants(YearTotal)
 - **データ・ロード・ディメンションの親:**
 - OWP_Total Earnings。ドライバ・ディメンションの一意的識別子:
BegBalance
 - OWP_Total Benefits。ドライバ・ディメンションの一意的識別子:
BegBalance
 - OWP_Total Taxes。ドライバ・ディメンションの一意的識別子:
BegBalance

従業員その他報酬データのインポート

EmployeeOtherCompensationDataLoad_Plan.csv を使用して、福利厚生、税
金、追加所得など、従業員のその他報酬データをインポートします。

OWP_Value は、オプションのフィールドです。テンプレートにレートの値を含めた場
合、そのレートが、指定した従業員に対するプランニング年範囲にコピーされます。

給与等級のインポート

Salary Grade-Basis.csv および Salary Grade-Value.csv を使用して、給与等級を仮定にインポートします。

追加所得、福利厚生および税金のプロパティおよびレートのインポート

追加所得、福利厚生および税金のプロパティおよびレートを福利厚生と税金ウィザードにインポートする場合、次のテンプレートを例として使用します。

- Earnings, Benefits and Taxes-Properties.csv - 追加所得、福利厚生および税金のプロパティをインポートします。
- Earnings, Benefits and Taxes-Rates.csv - 追加所得、福利厚生および税金のレートをインポートします。

ジョブ・プロパティのインポート

JobPropertiesDataLoad_Plan.csv を使用して、ジョブ・プロパティをインポートします。

ジョブ給与のインポート

JobSalaryDataLoad_Plan.csv を使用して、ジョブの給与をインポートします。

ジョブのその他報酬データのインポート

JobOtherCompensationDataLoad_Plan.csv を使用して、福利厚生、税金、追加所得など、ジョブのその他報酬データをインポートします。

増分の要員データのロードおよび計算

プランニング・サイクルの開始時に、特定のシナリオおよびバージョンのデータ全体をロードできます。ただし、人事の変更の最新情報を維持するために、新しい情報および更新された情報を頻繁にインポートできます。データ管理を使用して更新されたデータを要員にロードすると、処理および計算のパフォーマンスが大幅に向上します。

データ管理機能を使用すると、ソース・データ・ファイルを前のバージョンのソース・データ・ファイルと比較して、新しいレコードおよび最後のロード後に変更されたレコードのみをロードできます。データ管理の増分ファイル・アダプタは、ロードが必要なデータを識別します。また、要員は、データ・ロード・ファイル内の新しいデータおよび変更されたデータに応じて適切な計算スクリプトを動的に生成するルールを備えており、変更された交差のデータのみを計算します。


データ管理ロード・プロセスの後、新しいデータおよび変更されたデータが適切な要員フォームに表示されます。このデータには、ロード・プロセスに適用された計算が反映されます。

ノート:

データ管理からデータをロードする場合は常に、データを将来の期間にコピーするために、要員ルールとして **OWP_Incremental Process Data and Synchronize Defaults** または **OWP_Incremental Process Data and Synchronize Definition** の 1 つを選択する必要があります。追加する要員ルールの決定を参照してください。

増分要員データのロードおよび要員増分ルールの処理(**OWP_INCREMENTAL PROCESS DATA WITH SYNCHRONIZE DEFAULTS** など)は、管理者のみが実行できます。要員増分ルールをデータ管理またはデータ統合から実行するときには、データ管理またはデータ統合の「ターゲット」オプション「**管理ユーザーに対してデータ・セキュリティを使用可能にする**」が「いいえ」に設定されていることを確認してください。このオプションは、管理者のみが設定できます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
データ管理で増分要員データをロードおよび計算する方法について学習します。	 データ管理を使用した増分要員データのロードおよび計算

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的	方法の学習
データ管理で増分要員データをロードおよび計算する方法について学習します。	 増分要員データのロードおよび計算

ソース・データ・ファイルの準備

最初にデータ管理でソース・データ・ファイルを生成し、増分ファイル・アダプタとして登録します。次に、ソース・データ・ファイルを指定するデータ・ルールを設定します。データ・ロードは、データ・ルールに指定されているファイルから実行されます。初期のソース・データ・ファイルが後続のファイルと比較されます。最後に実行されたファイルが、後続のロードの比較基準となります。増分ファイル・アダプタによって差異のみがロードされます。この結果、データ・ロードが高速になります。

ヒント:

事前にソートされたソース・ファイルを提供すると、パフォーマンスがさらに向上します。

ソース・データ・ファイルについて:

- ソース・データ・ファイルは、区切りデータ・ファイルである必要があります。データ・フィールドは、ファイル内の最後の列です。
- サポートされている区切り文字: カンマ、垂直棒、感嘆符、セミコロン、コロン、タブおよびチルダ。
- 使用するデータ・ファイルには、ロード対象のディメンションがリストされた 1 行のヘッダーが含まれている必要があります。例:
Entity, Employee, Job, Project, Version, Account, Property, Data。
- 数値データと数値以外のデータの両方をロードできます。

- 2つのファイル間に削除されたレコードがあれば、すべて無視されます。削除したレコードを手動で処理する必要があります。
- ファイルが存在しない場合(または、最後の ID を存在しない実行に変更した場合)、ロードはエラーで完了します。
- ファイルを事前にソートすると、処理時間が短縮されます。
- 増分ロードでは、単一期間データ・ロードのみがサポートされています。複数期間ロードはサポートされていません。
- 増分ロードでは、増分ファイルは置換モードでロードされ、ステージング表に残るのは最終バージョンのファイル比較のみなので、ドリルダウンはサポートされていません。この対処方法として、完全データ・ロード方法を使用して同じデータ・ファイルを別の場所にロードできます。この場合は、データをターゲット・アプリケーションにエクスポートせずに、データのインポートのみを行う必要があります。
- ソース・データ・ファイルのコピーは、将来比較できるようにアーカイブされます。最後の 5 つのバージョンのみが保持されます。ファイルは最大 60 日間保持されます。増分ロードが実行されずに 60 日が経過した場合は、最後のプロセス ID を 0 に設定して、ロードを実行してください。

増分ファイル・アダプタを複数回使用してデータをロードできます。

データ管理での増分ファイル・アダプタの構成

ノート:

データ管理でデータ・ロード・ルールを定義する際のオプションを使用すると、増分データのみを要員にロードするか、毎回すべてのデータをロードするかを決定できます。

増分データ・ソース・ファイルを設定するには:

1. 増分データ・ソースを追加します。
 - a. ホームページで「ナビゲータ」をクリックし、「統合」で、「データ管理」をクリックします。
 - b. 「設定」タブをクリックし、「登録」で「ターゲット・アプリケーション」をクリックします。
 - c. 「ターゲット・アプリケーションのサマリー」で、「追加」、「データ・ソース」をクリックします。
 - d. 「ソース・システム」から、増分ファイルを選択します。
 - e. 「接頭辞」で、ソース・システム名を一意にする接頭辞を指定できます。

追加するソース・システム名が既存のソース・システム名に基づいているときは、接頭辞を使用してください。その接頭辞が既存の名前に結合されます。たとえば、増分ファイル・ソース・システムに既存の名前と同じ名前を付ける場合は、自分のイニシャルを接頭辞として割り当てることができます。
 - f. 「OK」をクリックします。

- g. 「**選択**」ダイアログ・ボックスで、受信ボックスからソース・データ・ロード・ファイルを選択します。ファイルがない場合、「**アップロード**」をクリックし、受信ボックス(server /u03/inbox/inbox)に追加します。
「**ホーム**」フォルダを展開し、「**受信ボックス**」を選択してソース・ファイル・リストを表示します。ファイルは、サポートされる区切り文字の1つを使用した区切りファイルであり、最初の行に各ディメンションのヘッダー・レコードが含まれている必要があります。データ・フィールドは、ファイル内の最後の列です。**ソース・データ・ファイルの準備**を参照してください。
 - h. 「**OK**」、「**保存**」の順にクリックします。
ディメンションの詳細が自動的に作成されます。
2. ソース・ファイルの構造を表し、ソース・ファイルのインポート時に実行されるインポート・フォーマットを設定します。
- a. 「**設定**」タブの「**統合設定**」で、「**インポート・フォーマット**」をクリックします。
 - b. 「**インポート・フォーマットのサマリー**」で、「**追加**」をクリックします。
 - c. 「**詳細**」で、インポート・フォーマットの名前を入力します。
 - d. 「**ソース**」で、ソースを検索して選択します。
 - e. 「**ファイル・タイプ**」で区切りファイル・タイプを選択します。
テキストおよび数値データのロード用として共通の「**区切り - すべてのデータ型**」を選択することをお勧めします。
 - f. 「**ファイル区切り文字**」ドロップダウン・リストで、ソース・データ・ファイル内の区切りタイプとして「カンマ」、「垂直棒」、「感嘆符」、「セミコロン」、「コロン」、「タブ」および「チルダ」を選択します。
 - g. 「**ターゲット**」で、Planning アプリケーションを検索して選択し、「**保存**」をクリックします。
 - h. 「**マッピング**」で、「**ソース列**」とターゲット・アプリケーションの間でディメンションをマップし、「**保存**」をクリックします。
「**ソース列**」には、ソース・データ・ファイル内のヘッダー行からディメンションが移入されます。

 **ノート:**

単一期間ロードのみがサポートされています。

インポート・フォーマットの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理*内のインポート・フォーマットの操作を参照してください。

3. データ・ロードがデータ管理で実行されるレベルであるロケーションを定義します。ロケーションは、データがロードされる場所を指定するものであり、インポート・フォーマットに関連付けられています。
- a. 「**設定**」タブの「**統合設定**」で、「**ロケーション**」を選択します。
 - b. 「**ロケーション**」で、「**追加**」をクリックします。
 - c. 「**詳細**」の「**ロケーション詳細**」タブで、ロケーションの名前を入力します。
 - d. インポート・フォーマットを検索して選択します。

- e. 「機能通貨」を入力し、「保存」をクリックします。
詳細は、Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理のロケーションの定義を参照してください。
4. メンバー・マッピングを作成します。
 - a. 「ワークフロー」 タブの「データ・ロード」で、「データ・ロード・マッピング」を選択します。
 - b. ページの下部で、ロケーションの POV を確認します。
 - i. 「ロケーション」のリンクをクリックすると、「視点の選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - ii. 「ロケーション」、「期間」および「カテゴリ」(「シナリオ」)を選択します。
 - iii. オプション: 「デフォルトとして設定」を選択し、この POV を保持します。
 - iv. 「OK」をクリックします。
 - c. ロードしているソースのメンバーをターゲット・アプリケーションにマップします。
 - i. ページの上部で、「ディメンション」からソース・ファイル内のディメンションを選択します。
 - ii. 5つのメンバー・マッピング・タブ(「類似」タブなど)の1つをクリックし、「追加」をクリックします。
 - iii. 「ソース値」列および「ターゲット値」列にアスタリスク(*)を入力し、すべての値を表示します。
 - iv. 各ディメンションのメンバーをマップした後、「保存」をクリックします。ソース・データ・ファイル内のディメンションごとにメンバー・マッピングを作成する必要があります。
詳細は、Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理のメンバー・マッピングの作成を参照してください。
5. データ・ロード・ルールを選択します。「ワークフロー」タブの「データ・ロード」で、「データ・ロード・ルール」を選択します。
 - a. ページの下部で、ステップ 4b の場合と同じように、「ロケーション」の POV を確認します。
 - b. 「データ・ルールのサマリー」領域で、「追加」をクリックします。
 - c. 「詳細」で、データ・ロード・ルール名を入力します。
 - d. 「カテゴリ」で、ソース・システムのデータをターゲットのシナリオ・メンバーにマップするためのカテゴリを選択します。
 - e. 「期間マッピング・タイプ」で、「デフォルト」を選択します。
 - f. ロケーションのインポート・フォーマットが使用されているため、「インポート・フォーマット」を指定する必要はありません。インポート・フォーマットを指定するのは、ロケーションのインポート・フォーマットを上書きする場合のみです。
 - g. 「ターゲット・プラン・タイプ」ドロップダウン・リストで、OEP_WFP を選択します。
 - h. 「ソース・フィルタ」タブの「ソース・ファイル」で、ロード対象のデータが含まれるデータ・ファイルを検索して選択します。データ・ソース・アプリケーションの作成元ファイルと同じファイルにすることも、データと適切なヘッダーを含む別のファイルにすることもできます。

元のファイルと同じ名前にすることも、新しい名前を付けることもできます。ロードされた 2 つのファイルの間の差異が、増分ロード・ファイル内に自動的に作成されます。このため、ファイル A.txt に 100 行、ファイル B.txt 内に 300 行があり、その最初の 100 行が同一のときに、**最後のプロセス ID が 0** である場合、初回のロード時にはファイル A.txt が選択されます。2 回目のロードはファイル B.txt に対して行われます。ID は、A に割り当てられた**最後のプロセス ID** を自動的に指します。

- i. **増分処理オプション**で、ソース・ファイル内のデータをソートするかどうかを選択します。
- **ソース・ファイルをソートしない** - ソース・ファイルは提供されたままの状態と比較されます。このオプションでは、ソース・ファイルが毎回同じソート順で生成されることを想定しています。データ管理により、ファイルが比較され、新しいレコードと変更されたレコードが抽出されます。このオプションによって、増分ファイル・ロードの実行が高速になります。
 - **ソース・ファイルのソート** - データ管理により、変更を調べるファイル比較が実行される前に、ソース・ファイルがソートされます。ソートされたファイルは、前にソートされたバージョンのこのファイルと比較されます。大きいファイルをソートすると、多くのシステム・リソースが消費されます。ソース・システムによってソートされたファイルが提供される場合、このオプションは使用しないようにしてください。コンピュータ・リソースが消費され、実行速度が遅くなります。

 **ノート:**

「**ソース・ファイルをソートしない**」オプションを使用するルールがあったが、ソートするオプションに切り替えた場合、ファイルの順序が異なるために、最初のロードの結果が無効になります。それ以降の実行では、データが正常にロードされます。

- **最後のプロセス ID** 値を確認します。
ロードが元のデータ・ファイルに対する最初の実行である場合、**最後のプロセス ID に 0** の値が表示されます。ロードが再度実行されると、**最後のプロセス ID** に元のソース・データ・ファイルの最後のロードの実行番号が表示されます。新しく作成されたファイル比較バージョンおよび元のデータ・ファイルに差異が示されていない場合、またはファイルが見つからない場合、**最後のプロセス ID** の値が、正常に実行された最後のロード ID に割り当てられます。

すべてのデータをリロードするには、**最後のプロセス ID** を **0** に戻し、新しいソース・ファイルを選択してベースラインをリセットします。

 **ノート:**

ソース・データ・ファイルのコピーは最後の 5 バージョンのみがアーカイブされ、最大 60 日間保持されます。60 日が経過した場合は、**最後のプロセス ID** を 0 に設定して、ロードを実行してください。

- j. 「**保存**」をクリックします。

6. ターゲット・アプリケーションのロード方法を選択し、データ・ロード・ルールの実行時に増分ロードのロジックを実行する要員ビジネス・ルールを追加します。
 - a. 「設定」タブをクリックし、「登録」の下で「ターゲット・アプリケーション」をクリックします。
 - b. 「ターゲット・アプリケーションのサマリー」で、「タイプ」列から「Planning」を選択します。
 - c. 「アプリケーション詳細」で、「アプリケーション・オプション」タブをクリックします。
 - d. 「ロード方法」で、「セキュリティ保護されたすべてのデータ型」を選択し、「OK」をクリックします。
 - e. 「ビジネス・ルール」タブをクリックし、「追加」をクリックします。
 - f. 「ビジネス・ルール」で、要員ビジネス・ルール名を入力するか貼り付けます。要員の詳細は、[追加する要員ルールの決定](#)を参照してください。データ管理でのビジネス・ルールの追加の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理*のビジネス・ルールの追加を参照してください。
 - g. 「スコープ」で、「データ・ルール」を選択します。
 - h. 「データ・ロード・ルール」で、作成したデータ・ロード・ルールを選択し、「追加」をクリックします。
7. エクスポートする前に、データをプレビューします。
 - a. 「ワークフロー」タブ、「データ・ロード・ルール」の順にクリックします。
 - b. 「実行」をクリックします。
 - c. 「ルールの実行」ダイアログ・ボックスで、「ソースからインポート」を選択し、「開始期間」および「終了期間」を確認します。増分データをターゲット・アプリケーションに実際に送信するには、「ターゲットにエクスポート」を選択することもできます。
 - d. 「実行」をクリックします。

*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理*のデータ・ロード・ワークベンチの使用を参照してください。
8. これで、増分データ・ロードを実行する準備が整いました。[増分要員データ・ロードの実行](#)を参照してください。

 **ヒント:**

データをロードした後、要員内の複数の既存の従業員、ジョブまたはエンティティのデフォルトを迅速に更新および処理するには、「一括更新」フォームを使用できます。これらのフォームを使用すると、データをロードした後、従業員、ジョブ、およびエンティティのデフォルトを迅速に確認および編集できます。各フォームは、最適な処理効率を実現するために設計されており、変更されたデータのみを処理する Groovy ルールに関連付けられています。*Planning* モジュールの操作の複数の従業員およびジョブの詳細の更新を参照してください。

追加する要員ルール of 決定


最適な要員ルールをデータ管理データ・ルールに関連付けることにより、処理時間を短縮できます。

- OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults
- OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition

ルールは、統合ファイルを定義する際に追加します(データ管理での増分ファイル・アダプタの構成を参照)。

表 B-1 統合ファイルに追加する要員ルール of 決定

目的	追加する要員ルール
<ul style="list-style-type: none"> • 追加の所得、福利厚生および税金にエンティティのデフォルトを適用し、福利厚生と税金ウィザードに設定されているコンポーネント定義およびレートに基づいて報酬を計算します。 • 変更したデータ(従業員/ジョブ・プロパティまたは給与の変更)を年範囲内の将来の期間にコピーします。 	OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults
<ul style="list-style-type: none"> • 追加の所得、福利厚生および税金の報酬割当てをロードし、データ・ロード・ファイル内のレートに基づいて報酬を計算します。 • 変更したデータ(従業員/ジョブ・プロパティまたは給与の変更または報酬割当て)を年範囲内の将来の期間にコピーします。 	OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition

 **ノート:**

福利厚生と税金ウィザードからレートを適用する場合、コンポーネント割当てのみロードします。このデータ・ロード・ファイルにレートは指定しないでください。

詳細は、Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理 of 管理 of ビジネス・ルールの追加を参照してください。

増分の要員データ・ロード of 実行

データ管理でソース・データ・ファイルを準備し、増分ファイル・アダプタを構成した後、増分の要員データをインポートできるようになります。

参照:

- 増分要員データのロードおよび計算
- ソース・データ・ファイルの準備

- データ管理での増分ファイル・アダプタの構成

データ・ロードを実行するには:

1. ホームページで「ナビゲータ」をクリックし、「統合」で、「データ管理」をクリックします。
2. 「ワークフロー」タブで、「データ・ロード・ルール」をクリックします。
3. 作成したデータ・ロード・ルールを選択し、「実行」をクリックします。
4. 「ルールの実行」ダイアログ・ボックスで、「ソースからインポート」および「ターゲットにエクスポート」を選択します。
5. 「開始期間」および「終了期間」については、「期間」を選択します(すでに POV からデフォルト設定されている可能性があります)。
6. 「実行」をクリックします。

詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ管理の管理*のステップ 1: ソース・データのインポートを参照してください。

プロジェクト・データのインポート

プロジェクト・テンプレートは、アプリケーションのディメンションに基づいており、機能を有効化したときに追加したカスタム・ディメンションが含まれます。

分析およびレポートの場合、次のデータをインポートする必要があります。

- プロジェクトの詳細 - 予測のための既存のプロジェクトに関する情報。
- 労務 - 2つのテンプレート(要員との統合を含むものと含まないもの)が使用可能です。
 - 予測と分析で使用するプロジェクトの労務仮定。
 - レポートと分析のための労務費用と労務時間の実績。
- 設備 - 2つのテンプレート(資本との統合を含むものと含まないもの)が使用可能です。
 - 予測と分析で使用するプロジェクトの設備仮定。
 - レポートと分析のための設備費用実績。
- 材料
 - 予測と分析で使用するプロジェクトの材料仮定。
 - レポートと分析のための材料費用と材料ユニットの実績。
- その他 - レポートと分析のためのその他の費用計画、予測または実績。
- 直接費 - レポートと分析のための直接費の計画、予測または実績。
- 収益
 - 予測と分析で使用するプロジェクトの仮定。
 - 分析とレポートのための実績。
- グローバル・レート仮定。
 - 労務標準レート、材料標準レート、設備標準レートなど、プロジェクトの標準レート。
 - 諸経費レート。

- プロジェクト・ベネフィット。
- 資産への費用配賦 – 資本が有効化されているとき、様々な資産への配賦をインポートします。

プロジェクト詳細のインポート

Project Details Load Template.csv または Capital Project Details Load Template.csv を使用して、プロジェクト詳細と関連する情報をインポートします。カスタム・プロジェクト詳細の場合は、インポートするファイルの列に勘定科目を追加します。すべての詳細は同じ交差にインポートされます。

- 「列 1」は「プロジェクト」ディメンションです。
- その他の列は、勘定科目ディメンションのメンバーを表します。リストされるメンバーは、**OPF_Properties** の下にあるメンバーと一致する必要があります(「勘定科目」ディメンションの「フォーム」メンバー上)。プロジェクト詳細は、「年なし」、「BegBalance」のメンバーにインポートされます。
- プロジェクト詳細は、「プロジェクト要素なし」および「リソース・クラスなし」のメンバーにインポートされます。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、プロジェクト詳細は「通貨なし」メンバーにインポートされます。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのもので。
- OEP_Plan は「シナリオ」ディメンションのもので。
- OEP_Working は「エンティティ」ディメンションのもので。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのもので(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのもので(機能を有効化したときに追加した場合)。

プロジェクト労務仮定のインポート

要員を使用しない場合、Labor Assumption Load Template.csv を使用して労務仮定をインポートします。要員を使用する場合、OEP_PFP Labor Assumption Template -WFP Integration.csv を使用します。労務仮定は、「BegBalance」および「年なし」にインポートされます。

- ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。
- 列には、必要な勘定科目メンバーが含まれます。次のメンバーが **OPF_Labor Assumptions** に含まれます。
 - **OPF_Vendor** - ライン・アイテムのベンダー・スマート・リスト・メンバーを設定します。
 - **OPF_Phase** - ライン・アイテムのフェーズ・スマート・リスト・メンバーを設定します。
 - **OPF_Job** - ライン・アイテムのジョブ・スマート・リスト・メンバーを設定します。「ジョブ」リストはリソース要素ディメンションの「詳細ジョブ」の下にあります。
 - **WFP/PFP ジョブ** - 要員統合を含むアプリケーションでは、ジョブはリソース要素ディメンションではなく「要員」ディメンションから取得されます。これ

はファイルのフォーマットには影響しません。異なるのは、スマート・リストに関連付けられた勘定科目は **OPF_Job_WF** であるということのみです。

- 未指定の従業員 - ライン・アイテムについて従業員リソース・スマート・リスト・メンバーを設定します。メンバーを従業員名にすることもできます。これは、「既存の従業員」階層の下にあるプラン要素ディメンションのメンバーです。

WFP/PFP 従業員 - 要員統合を含むアプリケーションでは、従業員はプラン要素ディメンションではなく「要員」ディメンションから取得されます。ただし、これはファイルのフォーマットには影響しません。異なるのは、スマート・リストに関連付けられた勘定科目は **OPF_Employee Resource_WF** であるということのみです。

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのメンバーです。
- **OPF_Labor** は、リソース要素ディメンションの適切なメンバーです。
- **OEP_No Entity** は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 労務費用仮定は、「年」ディメンションの「年なし」メンバーと「期間」ディメンションの「BegBalance」にインポートされます。
- **OEP_Plan** はシナリオ・ディメンションのものです。
- **OEP_Working** は「バージョン」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- 「USD」は「通貨」ディメンションのメンバーです。

労務費用のインポート(要員なし)

要員を使用していない場合、Actual Labor Expense Load Template.csv を使用して、既存のプロジェクトの実績費用または承認済プランをインポートします。詳細リソース・レベルの労務費用のプランニング・データについては、時間、レートおよび労務費用の値をインポートする必要があります。

行

行は勘定科目ディメンションを表します。

「労務時間」と「労務費用」を分析と比較のためにインポートする必要があります。労務レートの実績のインポートは必要ありません。

実績データのインポート先の勘定科目は、プロジェクトのタイプによって異なります。

- 「オンサイト労務時間」、「オフサイト労務時間」、「オンサイト労務費用」、「オフサイト労務費用」は、「契約プロジェクト」の「実費清算」プロジェクトに固有です。
- 「労務時間」および「労務費用」勘定科目は、「契約プロジェクト - 固定価格」または「契約プロジェクト - コスト加算」、「間接プロジェクト」および資本プロジェクトのために使用されます。

列

「月」。一度に 1 つの月をインポートすることも複数の月を同時にインポートすることもできます。

視点

- 詳しい時間や詳しい労務費用については、「プロジェクト要素」ディメンションの特定の従業員メンバー、または「未指定の従業員」を使用します。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのもので。
- **OPF_Detailed Jobs** はリソース要素ディメンションのもの(特に「詳細ジョブ」階層のメンバー)です。
- **OEP_No Entity** は「エンティティ」ディメンションのもので。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのもので(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのもので(機能を有効化したときに追加した場合)。
- 「FY16」は「年」ディメンションのもので。複数の年を同時にインポートできます。
- **OEP_Actual** はシナリオ・ディメンションのもので。履歴のプランまたは予測情報をインポートするには、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- **OEP_Working** は「バージョン」ディメンションのもので。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、**USD** は「通貨」ディメンションのもので。

労務費用のインポート(要員あり)

要員も使用している場合、Actual Labor Expense WFP Load Template.csv を使用して、既存のプロジェクトの実績費用または承認済プランをインポートします。

行

行は勘定科目ディメンションを表します。

「労務費用」を分析と比較のためにインポートする必要があります。労務レートの実績のインポートは必要ありません。従業員またはジョブ別の詳細労務時間分析は要員にあります。プロジェクトに含まれるのはサマリー・レベルのみです。

実績データのインポート先の勘定科目は、プロジェクトのタイプによって異なります。

- 「オンサイト労務時間」、「オフサイト労務時間」、「オンサイト労務費用」、「オフサイト労務費用」は、「契約プロジェクト」の「実費清算」プロジェクトに固有です。
- 「労務時間」および「労務費用」勘定科目は、「契約プロジェクト - 固定価格」または「契約プロジェクト - コスト加算」、「間接プロジェクト」および資本プロジェクトのために使用する必要があります。

列

「月」。一度に 1 つの月をインポートすることも複数の月を同時にインポートすることもできます。

視点

- ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションのメンバーです。各「労務費用」は、プロジェクトごとに一意の「ライン・アイテム」にロードされる必要があります。
- **OPF_Base Resource** は、リソース要素ディメンションのもので。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのもので。

- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「FY16」は「年」ディメンションのものです。複数の年を同時にインポートできます。
- OEP_Actual はシナリオ・ディメンションのものです。履歴のプランまたは予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

設備仮定のインポート

Equipment Assumption Load Template.csv を使用して、設備仮定をインポートします。

- ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。
- 列には、必要な勘定科目メンバーが含まれます。次のメンバーが OPF_Equipment Assumptions に含まれます。
 - OPF_Vendor - ライン・アイテムのベンダー・スマート・リスト・メンバーを設定します。
 - OPF_Phase - ライン・アイテムのフェーズ・スマート・リスト・メンバーを設定します。
 - OPF_Equipment - ライン・アイテムのジョブ・スマート・リスト・メンバーを設定します。「ジョブ」リストはリソース要素ディメンションの「詳細ジョブ」の下にあります。
 - OPF_Equipment Description はテキストです。
 - OPF_Equipment Units – ユニット数。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのメンバーです。
- OPF_Equipments は、リソース要素ディメンションの適切なメンバーです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 設備費用仮定は、「年」ディメンションの「年なし」メンバーと「期間」ディメンションの「BegBalance」にインポートされます。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- 「USD」は「通貨」ディメンションのメンバーです。

設備実績費用のインポート

Actual Equipment Expense Load Template.csv または Actual Equipment Expense CPX Load Template.csv を使用して、実績設備費用をインポートします。プロジェクトを資本と統合している場合は、Actual Equipment Expense CPX Load Template.csv を使用します。

行

行は勘定科目ディメンションを表します。

「設備費用」を分析と比較のためにインポートする必要があります。実績データのインポート先の勘定科目は、プロジェクトのタイプによって異なります。

- 「設備費用」勘定科目は、「契約プロジェクト - 固定価格」または「契約プロジェクト - コスト加算」、「間接プロジェクト」および資本プロジェクトのために使用する必要があります。
- 「設備費用 - 請求可能」は実費精算契約プロジェクトのみで使用する必要があります。

列

「月」。一度に1つの月をインポートすることも複数の月を同時にインポートすることもできます。

視点

- ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションのメンバーです。各「設備費用」は、プロジェクトごとに一意の「ライン・アイテム」にロードされる必要があります。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- OPF_Detailed Equipment は、リソース・クラス・ディメンションからのものです。Actual Equipment Expense Load Template.csv のみに使用します。
- OPF_Base Resource は、リソース要素ディメンションのものです。Actual Equipment Expense CPX Load Template.csv のみに使用します。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- 「FY16」は「年」ディメンションのものです。複数の年を同時にインポートできます。
- OEP_Actual はシナリオ・ディメンションのものです。履歴のプランまたは予測情報をインポートするには、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。

材料仮定のインポート

Material Assumption Load Template.csv を使用して、材料仮定をインポートします。

- ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。
- 列には、必要な勘定科目ディメンション・メンバーが含まれます。次のメンバーが OPF_Material Assumptions に含まれます。
 - OPF_Vendor - ライン・アイテムのベンダー・スマート・リスト・メンバーを設定します。
 - OPF_Phase - ライン・アイテムのフェーズ・スマート・リスト・メンバーを設定します。
 - OPF_Material - ライン・アイテムの材料スマート・リスト・メンバーを設定します。材料スマート・リストは「リソース・クラス」ディメンションの「詳細材料」の下にあります。
 - OPF_Expense Cash Flow Incidence – キャッシュ・フロー計算の値を設定します。
 - OPF_Billable – 実費精算プロジェクトのみに適用されます。費用を請求可能として設定すべきかどうかを示します。
 - OPF_Units - ユニット仮定は月ごとにインポートする必要があります。月ごとに個別のラインを作成するか、月ごとの値を簡単にインポートするために「材料」の実績に似たテンプレートを使用できます。

視点

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのメンバーです。
- OPF_Materials は、「リソース・クラス」ディメンションの適切なメンバーです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのもので。
- 材料仮定は、「年」ディメンションの「年なし」メンバーと「期間」ディメンションの「BegBalance」にインポートされます。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのもので。または、「予測」メンバーを使用できます。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのもので。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのもので(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのもので(機能を有効化したときに追加した場合)。
- 「USD」は「通貨」ディメンションのメンバーです。

材料費用のインポート

Actual Material Expense Load Template.csv を使用して、材料費用をインポートします。

行

行には、「材料費用」に関連する「勘定科目」ディメンションがあります。

「材料ユニット」と「材料費用」を分析と比較のためにインポートする必要があります。材料コスト/ユニットの実績のインポートは必要ありません。

実績データのインポート先の勘定科目は、プロジェクトのタイプによって異なります。

「材料費用 - 請求可能」は、契約プロジェクトの「実費清算」タイプのみで使用する必要があります。他のすべてのプロジェクト・タイプは「材料費用」勘定科目を使用する必要があります。

したがって、プロジェクトで使用される材料ごとに、実績データをインポートするための2つのラインを使用します。

列

「月」。一度に1つの月をインポートすることも複数の月を同時にインポートすることもできます。

視点

- **OPF_Detailed Material** は、「リソース・クラス」ディメンションのもの(特に「詳細材料」階層のメンバー)です。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- ライン1は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。プロジェクトで使用される異なる材料それぞれが、別のライン・メンバーにロードする必要があります。
- **OEP_No Entity** は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「FY16」は「年」ディメンションのものです。複数の年を同時にインポートできます。
- **OEP_Actual** はシナリオ・ディメンションのものです。プランまたは予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- **OEP_Working** は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、**USD** は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

その他費用実績のインポート

Actual Other Expense Load Template.csv を使用して、その他費用の実績をインポートします。

行

行には、「その他費用」に関連する「勘定科目」ディメンションがあります。

実績データのインポート先の勘定科目は、プロジェクトのタイプによって異なります。「その他費用 - 請求可能」は、契約プロジェクトの「実費清算」タイプのみで使用する必要があります。他のすべてのプロジェクト・タイプは「その他費用」勘定科目を使用する必要があります。

列

「月」。一度に 1 つの月をインポートすることも複数の月を同時にインポートすることもできます。

視点

- ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。「その他費用」に複数のラインがある場合は、別のライン・メンバーを使用する必要があります。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- OPF_Base Resource は、「リソース・クラス」ディメンションのものです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「FY16」は「年」ディメンションのものです。複数の年を同時にインポートできます。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのディメンションに対応します(有効化の時点で追加されている場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのディメンションに対応します(有効化の時点で追加されている場合)。
- OEP_Actual はシナリオ・ディメンションのものです。プランまたは予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。

その他費用仮定のインポート

Other Assumption Load Template.csv を使用して、その他費用仮定をインポートします。

行

ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。インポートされる仮定ごとに 1 ラインを使用します。

列

勘定科目メンバーが仮定のインポートに必要です。次のメンバーが OPF_Other Assumptions に含まれます。

- OPF_Resource Name
- OPF_Vendor - ライン・アイテムのベンダー・スマート・リスト・メンバーを設定します。
- OPF_Phase - ライン・アイテムのフェーズ・スマート・リスト・メンバーを設定します。
- OPF_Expense Cash Flow Incidence - キャッシュ・フロー計算の値を設定します。
- OPF_Billable - 実費精算プロジェクトのみに適用されます。費用を請求可能として設定すべきかどうかを示します。
- OPF_Other Expenses - 費用金額仮定は月ごとにインポートする必要があります。月ごとに個別のラインを作成するか、月ごとの値を簡単にインポートするために「その他費用」の実績に似たテンプレートを使用できます。

視点

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。

- OPF_Other は、「リソース・クラス」ディメンションのものです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「年なし」は、「スマート・リスト」および「請求可能」インジケータの適切なメンバーに対応します。また、「FY16」は「費用金額」の「年」ディメンションのものです。複数の年を同時にインポートできます。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。
- 「BegBalance」は、実績の月がインポートされるスマート・リストの割当てに適用できます。
- ベンダー 1 は、「ベンダー」ディメンションのディメンションに対応します(有効化の時点で追加されている場合)。
- 「フェーズ 1」は、「フェーズ」ディメンションのディメンションに対応します(有効化の時点で追加されている場合)。

直接費実績および直接収益実績のインポート

Actual Direct Expense Load Template.csv または Actual Direct Revenue Load Template.csv を使用して、直接費および直接収益の実績をインポートします。

行

行には、「直接費」/「直接収益」に関連する「勘定科目」ディメンションがあります。

このファイル・フォーマットを使用してインポートされる勘定科目は、勘定科目ディメンションの **OPF_Other Direct Costs** にあります。実績データのインポート先の勘定科目は、プロジェクトのタイプによって異なります。名前に「請求可能」を含むすべての費用勘定科目は、契約プロジェクトの「実費清算」タイプのみで使用する必要があります。

列

「月」。一度に 1 つの月をインポートすることも複数の月を同時にインポートすることもできます。

視点

- ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。複数のラインがある場合は、別のライン・メンバーを使用する必要があります。
- プロジェクト 1 は「プロジェクト」ディメンションのメンバーを表します。
- OPF_Direct Resource は、「リソース・クラス」ディメンションのものです。
- エンティティ 1 は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「FY16」は「年」ディメンションのものです。複数の年を同時にインポートできます。
- OEP_Actual はシナリオ・ディメンションのものです。履歴のプランまたは予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。

- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(有効化時に追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(有効化時に追加した場合)。
- <カスタム・ディメンション> - 機能を有効化したときに追加したカスタム・ディメンション。

直接費仮定および直接収益仮定のインポート

Direct Expense Assumption Load Template.csv を使用して直接費仮定をインポートし、Direct Revenue Assumption Load Template.csv を使用して直接収益仮定をインポートします。

行

ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。仮定ごとに 1 つのラインを使用してインポートします。

列

列には、仮定をインポートするために必要な勘定科目メンバーが含まれます。次のメンバーが OPF_Direct Input Expense Assumptions に含まれます。

- OPF_Expense Type または OPF_Revenue Type – 仮定に関連付けられている勘定科目のスマート・リスト
- OPF_Vendor - ライン・アイテムのベンダー・スマート・リスト・メンバー。
- OPF_Phase - ライン・アイテムのフェーズ・スマート・リスト・メンバー。
- OPF_Direct Expense Amount または OPF_Revenue Amount - 月単位でインポートする金額。月ごとにラインを作成するか、月ごとの値をインポートするために OEP_PFP Actual Other Expense.csv に似たテンプレートを使用します。

視点

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- OPF_Direct Entry は、「リソース・クラス」ディメンションのものです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「年なし」は、「スマート・リスト」および「請求可能」インジケータの適切なメンバーに対応します。また、「FY16」は「費用金額」または「収益金額」の「年」ディメンションのものです。複数の年を同時にインポートできます。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものであります。
- 「BegBalance」は、実績の月がインポートされるスマート・リストの割当てに適用できます。

契約実費精算プロジェクトの収益実績のインポート

Actual Revenue Time and Material Load Template.csv または Actual Revenue Time and Material No Emp Load Template.csv を使用して、実費精算プロジェクトの実績をインポートします。

「プロジェクト収益」は、労務時間、設備ユニット、材料ユニット、およびそれらに関連する請求レートに基づきます。[標準請求レートのインポート\(契約プロジェクトのみ\)](#)を参照してください。

行

「フィールド 1」は「リソース・クラス」ディメンションを表します。

「詳細リソース」を行に配置する必要があります。リソースそのものは「リソース・クラス」ディメンションの「詳細リソース」の下にあります。

- 詳細ジョブ
- 詳細材料
- 詳細設備
- OPF_Base Resource は、実費精算プロジェクトの他のすべての収益で使用されます

列

期間。一度に 1 つの月をインポートすることも複数の期間を同時にインポートすることもできます。

視点

- 「未指定の従業員」はプラン要素ディメンションのものであります。従業員がインポートされている場合は、指定した従業員にインポートできます。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものであります。
- OPF_Contract Revenue – Labor、OPF_Contract Revenue – Material、OPF_Contract Revenue – Equipment は、すべて勘定科目ディメンションのものであります。「リソース・クラス」メンバーを勘定科目メンバーに合せます。
 - OPF_Contract Revenue – Labor は、「詳細ジョブ」に適用できます。
 - OPF_Contract Revenue は、「詳細材料」に適用できます。
 - OPF_Contract Revenue – Equipment は、「詳細設備」に適用できます。
 - OPF_Contract Revenue – Others は、「ベース・リソース」に適用できます。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものであります。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものであります(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものであります(機能を有効化したときに追加した場合)。

- OEP_Actual はシナリオ・ディメンションのものです。履歴のプランまたは予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。

コスト加算プロジェクトの収益仮定のインポート

Cost Plus Assumptions Load Template.csv を使用して、何をコスト加算プロジェクトのドライバ(1 つまたは複数)にするかを示す仮定をインポートします。

行

行 1 は「プロジェクト要素」ディメンションのものです。「コスト加算」契約の各レイヤーは 1 つのラインに入力する必要があります。「コスト加算マージン%」が合計に対応している場合は、1 ラインのみになります。

列

OPF_Cost Plus Driver は、契約条件のスマート・リストを設定します。

OPF_Cost Plus Margin %は、契約の全体マージン(%)です。マージン%が年や月によって変わる場合は、コスト加算収益実績と似た方法でデータをインポートする必要があります。

視点

- OPF_Cost Plus は、リソース要素ディメンションのものです。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- 「コスト加算」契約条件は、「BegBalance」および「年なし」に入力されます。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

コスト加算プロジェクトの収益実績のインポート

Actual Revenue Cost Plus Load Template.csv を使用して、収益実績をインポートします。

行

OPF_Contract Revenue は、コスト加算プロジェクトについて収益をインポートする対象の勘定科目です

列

期間。一度に 1 つの月をインポートすることも複数の期間を同時にインポートすることもできます。

視点

- ライン 1 は「プロジェクト要素」ディメンションを表します。複数のラインがある場合は、別のライン・メンバーを使用する必要があります。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- OPF_Base Resource は、リソース要素ディメンションのものです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「FY16」は「年」ディメンションのものです。複数の年を同時にインポートできます。
- OEP_Actual はシナリオ・ディメンションのものです。履歴のプランまたは予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

諸経費のグローバル仮定のインポート

Overhead Assumptions Load Template.csv を使用して、グローバル仮定をインポートします。

グローバル仮定は、フォームから手動で入力することも、プロジェクトにインポートすることもできます。

行

「フィールド 1」は「勘定科目」ディメンションを表します。

列

OPF_Overhead Method - 各諸経費のタイプに諸経費方法のスマート・リストを設定します。このファイル・フォーマットを使用してインポートされる勘定科目は、勘定科目ディメンションの OPF_Indirect Expense にあります。

視点

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- リソース・クラスなしは、「リソース・クラス」ディメンションのものです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「BegBalance」は「期間」ディメンションのものです。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。履歴の実績または予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。

- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、「通貨なし」は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

諸経費レートのインポート

Overhead Rates Load Template.csv を使用して、諸経費レートをインポートします。

行

ライン 1 は「勘定科目」ディメンションを表します。インポートした勘定科目メンバーは、OPF_Indirect Expense にロードされます。

列

諸経費レートの年。

視点

- OPF_Overhead Rate - レートのインポート先の勘定科目。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- リソース・クラスなしは、「リソース・クラス」ディメンションのものです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「BegBalance」は「期間」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。履歴の実績または予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、「通貨なし」は「通貨」ディメンションのものです。

標準レートのインポート

Standard Equipment Rates Load Template.csv、Standard Labor Rates Load Template.csv および Standard Material Rates Load Template.csv を使用して、費用計算の標準レートをインポートします。メンバーは、「リソース・クラス」ディメンションにインポートされます。

労務、設備、材料などの該当するすべての詳細リソース・メンバーの標準レートをインポートします。それぞれには、レートのインポート先となる独自の勘定科目があります。

列には勘定科目メンバーが含まれます

- OPF_Detailed Equipment Standard Cost は「詳細設備」リソースで使用されます。
- OPF_Detailed Jobs Standard Hourly Cost は詳細労務リソースで使用されます。

- OPF_Detailed Material Standard Cost は「詳細材料」リソースで使用されます。

視点

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- OPF_Standard Labor はプラン要素ディメンションのものであり、すべての「労務仮定」で使用する必要があります。
OPF_Standard Equipment と OPF_Standard Material メンバーは、「勘定科目」ディメンションのメンバーと一致する必要があります。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- 「BegBalance」は「期間」ディメンションのものです。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。履歴の実績または予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- OPF_Material Standard Cost、OPF_Equipment Standard Cost、OPF_Labor Standard Hourly Cost。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
レートがベンダーによって異なる場合、ファイルは同じ「リソース・クラス」について複数の行を含む必要があります。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

標準請求レートのインポート(契約プロジェクトのみ)

Standard Equipment Billing Rates Load Template.csv、Standard Labor Billing Rates Load Template.csv および Standard Material Billing Rates Load Template.csv を使用して、収益有効化アプリケーションの標準請求レートをインポートします。

行

「リソース・クラス」ディメンションのメンバーに標準請求レートをインポートします。標準請求レートは、該当するすべての詳細リソース・メンバーについてインポートする必要があります。「詳細リソース」プランニングは、「労務」、「設備」および「材料」に対応できます。それぞれには、レートのインポート先となる独自の勘定科目があります。

列

列には、次の勘定科目が含まれます。

- OPF_Detailed Equipment Standard Billing Rate - 「詳細設備」リソース用
- OPF_Detailed Material Standard Billing Rate - 「詳細設備」リソース用
- OPF_Detailed Jobs - 詳細労務リソース用。

視点

- プロジェクトなし - 「プロジェクト」ディメンションから
- OPF_Standard Labor - プラン要素ディメンションから。これをすべての労務仮定に使用します。
- OPF_Equipment Standard Billing Rate および OPF_Material Standard Billing Rate メンバー - 「勘定科目」メンバーと一致します。
- OPF_Onsite and Offsite Standard Billing Rate - 詳細労務リソース用
- BegBalance - 期間ディメンションから。
- OEP_Plan - 「シナリオ」ディメンションから。履歴の実績または予測をインポートするには、対応するメンバーを指定します。
- OEP_Working - 「バージョン」ディメンションから。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものであります。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものであります(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものであります(機能を有効化したときに追加した場合)。

労働日数および労働時間数のインポート

「要員からの統合」が選択されていない場合、Working Days and Hours Load Template.csv を使用して、標準労働日数および時間数をインポートします。**列**

勘定科目メンバーが含まれます。

- OPF_Working Hours per Day
- OPF_Working Days per Month

視点

- 労働日数および時間数は、「プロジェクト要素なし」および「リソース・クラスなし」のメンバーにインポートされます。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものであります。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものであります。
- 「BegBalance」は「期間」ディメンションのものであります。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものであります(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものであります(機能を有効化したときに追加した場合)。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものであります。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものであります。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、「通貨なし」は「通貨」ディメンションのものであります。

財務プロジェクト・ベネフィット仮定のインポート

Financial Benefit Assumption Load Template.csv を使用して、財務プロジェクト・ベネフィット仮定をインポートします。

行

OPF_PB Line 1 は「プロジェクト要素」ディメンションのものです。各ベネフィットは、ベネフィットの異なるラインにロードされる必要があります。

列

- OPF_Impacted Account は、ベネフィットと標準勘定科目をリンクする「スマート・リスト」を設定します。
- OPF_Financial Benefits はテキスト・フィールドです。
- OPF_Financial Benefit Amount はベネフィットの値です。この仮定は、該当する月(1つまたは複数)に入力する必要があります。

視点

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- OPF_Base Resource はプロジェクト・リソース・ディメンションのメンバーです。
- 「影響を受ける勘定科目」と「財務ベネフィット」のテキスト値は、「BegBalance」および「年なし」に入力されます。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

財務プロジェクト・ベネフィット実績のインポート

Actual Financial Benefit Load Template.csv を使用して、財務プロジェクト・ベネフィット実績をインポートします。

行

「フィールド 1」は、ベネフィットを適用できる「勘定科目」ディメンションを表します。

列

「月」。一度に1つの月をインポートすることも複数の月を同時にインポートすることもできます。

視点

- OPF_PB Line 1 は「プロジェクト要素」ディメンションのメンバーを表します。
- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- OPF_Base Resource は、「リソース・クラス」ディメンションのものです。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- OEP_Actual はシナリオ・ディメンションのものです。複数の期間のプランまたは予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

非財務プロジェクト・ベネフィット仮定のインポート

Non Financial Benefit Assumption Load Template.csv を使用して、非財務プロジェクト・ベネフィット仮定をインポートします。

行

OPF_PB Line 1 は「プロジェクト要素」ディメンションのものです。各ベネフィットは、ベネフィットの異なるラインにロードされる必要があります。

列

- OPF_Non Financial Benefits は、非財務ベネフィット・アイテムの「スマート・リスト」を設定します。非財務ベネフィット・スマート・リストには、受け取るベネフィットのカスタマイズされたリストを移入する必要があります。
- OPF_Benefit Description はテキスト・フィールドです。
- OPF_OPF_Quantative Measure はベネフィットの値です。この仮定は、該当する月(1つまたは複数)に入力する必要があります。

視点

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのものです。
- OPF_Base Resource はプロジェクト・リソース・ディメンションのメンバーです。
- 「影響を受ける勘定科目」と「財務ベネフィット」のテキスト値は、「BegBalance」および「年なし」に入力されます。OPF_Quantative Measure は、月ごとに入力する必要があります。
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのものです。
- OEP_Plan はシナリオ・ディメンションのものです。予測情報をインポートする場合は、このフィールドに対応するメンバーを設定します。
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのものです。
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのものです(機能を有効化したときに追加した場合)。

- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのもので、機能を有効化したときに追加した場合。
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのもので、

費用配賦のインポート

プロジェクトを資本と統合している場合は、Allocate Expense To Assets Load Template.csv を使用して、資本プロジェクト資産の費用配賦をインポートします。

行

行 1 は「プロジェクト要素」ディメンションのもので、各行によって、費用のカテゴリの割合(%)が資本の「CIP 資産」(「建設仮勘定資産」)に配賦されます。

列

- OPF_Project Expenses - 配賦する必要があるプロジェクト費用勘定科目のスマート・リスト値を設定します。
- OPF_Capital Expenses - 「資本費用」勘定科目のスマート・リスト値を設定します。資産に配賦する費用は、資本のこの勘定科目にロードされます。
- OPF_Capitalization - 資産に配賦する費用の割合(%)を指定します。
- OPF_Asset Class - 「資産クラス」勘定科目のスマート・リスト値を設定します。これは、CIP 資産が関連付けられている、資本の「資産クラス」メンバーに対応します。
- OPF_Asset Details - 配賦が行われる CIP 資産のスマート・リスト値を設定します。資産は、資本の「資産の詳細」メンバーに対応します。

視点

- 「プロジェクトなし」は「プロジェクト」ディメンションのもので、
- リソース・クラスなしは、「リソース・クラス」ディメンションのもので、
- OEP_No Entity は「エンティティ」ディメンションのもので、
- 「年なし」は「年」ディメンションのもので、
- OEP_Working は「バージョン」ディメンションのもので、
- アプリケーションで簡易複数通貨を使用する場合、USD は「通貨」ディメンションのもので、
- ベンダーなしは、「ベンダー」ディメンションのもので、機能を有効化したときに追加した場合。
- フェーズなしは、「フェーズ」ディメンションのもので、機能を有効化したときに追加した場合。
- 「BegBalance」は「期間」ディメンションのもので、

 ノート:

最初のデータ・インポートでは、データの処理と計算に必要な次のルールを実行します: **OPF_Rollup Projects** および **プロジェクト・キューブのロールアップ**。実績をインポートした場合は、「**詳細予測データの準備**」および「**概要レベル予測データの準備**」を実行します。

資本データのインポート

有効化した機能に応じて、次のテンプレートが資本の zip ファイルで使用可能になります:

- ExistingIntangibleLoad.csv
- ExistingLeaseLoad.csv
- ExistingTangibleLoad.csv
- PeriodIntangibles.csv
- PeriodLease.csv
- PeriodTangibles.csv

テンプレートは、アプリケーションのディメンションに基づいて作成され、機能を有効化したときに追加したカスタム・ディメンションが含まれます。

次のテンプレートとガイドラインを使用して資本データをインポートします。

資産詳細のプロパティのインポート

次のテンプレートを使用して、資産詳細のプロパティ(ラップトップ名、価格、減価償却タイプなど)をインポートします。

- ExistingTangibleLoad.csv
- ExistingLeaseLoad.csv
- ExistingIntangibleLoad.csv

次のガイドラインを使用します:

- **列**— 「**Column1**」は「資産クラス」ディメンションを意味します。
- **行** - 各資産詳細には必ず 3 行のデータがあります。
 - 行 1 は、NoYear、「USD」、「BegBalance」にデータをインポートします。これらの値を変更して、正しい年、通貨などを指定します。
 - 行 2 は、「FY16」、通貨なし、「BegBalance」にデータをインポートします。必要に応じてこれらの値を変更します。
 - 行 3 は、「年なし」、通貨なし、「BegBalance」にデータをインポートします。必要に応じてこれらの値を変更します。
- **視点**

視点の OEP_No Entity を実績エンティティで置き換えます。

実績のインポート

次のテンプレートを使用して、資産の実績をインポートします。

- PeriodTangibles.csv
- PeriodIntangibles.csv
- PeriodLease.csv

次のガイドラインを使用します:

- **列** - 勘定科目メンバーを参照します。
- **行**
 - 行 5 - 16 (1 月、12 月)は、FY16 についてインポートする 1 年の計算済実績費用を参照します。FY15 のデータをインポートする必要がある場合、FY の行セットを新たに追加する必要があります。
 - 行 17: NoYear -> BegBalance-USD の組合せで基本コストが計算されています。各資産詳細の行は 1 つのみである必要があります。
 - 行 18: NoYear -> 「BegBalance」 -> NoCurrency のデータ。購入日、使用開始日、説明、理由などの資産詳細情報をインポートします。
- **視点**
 - OCX_Total Major Assets には、OCX_Total Major Assets の実際の子を使用します。
 - OCX_Tangible Assets には、OCX_Tangible Assets の実際のメンバーを使用します。
 - OEP_No Entity には、エンティティの実際のメンバーを使用します。

C

アーティファクトの更新

ここで説明されている特定のリリースで使用可能な拡張機能では、アーティファクトをカスタマイズしている場合、一部の付属アーティファクトの更新が必要です。

- これらのアーティファクトを変更していない場合、アーティファクトおよび機能は、このリリースで使用可能になります。
 - 新しいリリース中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、これらのアーティファクトをカスタマイズ済で、新機能を利用する場合は、次のステップを実行します。
1. 更新後に全体バックアップを実行し、それをローカルにダウンロードします。
 2. 変更されたアーティファクトのリストを確認し、そのうちのどれを変更したかを特定します。変更済アーティファクトの確認を参照してください。

ヒント:

次にリストされている変更済アーティファクトについて、変更済アーティファクトのコピーを作成して、それを変更の参照として使用することを検討してください。コピーは、カスタマイズを再実装した後に削除できます。

3. 更新後、識別したアーティファクトに対するカスタマイズを元に戻し、アーティファクトを付属の形式に復元します。カスタマイズを元に戻すを参照してください。
4. 必要に応じてアーティファクトに対するカスタマイズを再実装します。
5. 復元された **Calculation Manager** のルールまたはテンプレートでは、それらが最終になった後、影響を受けるアーティファクトのアプリケーションに、更新したルールまたはテンプレートを必ずデプロイしてください。カスタム・テンプレートの使用状況の表示およびビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのデプロイを参照してください。

すべての Planning モジュールのアーティファクトの更新

2023年9月

23.09 から、Planning モジュールの別名表を管理できるようになりました。この機能拡張の詳細は、[別名表の管理](#)を参照してください。

23.08 より前のリリースから 23.09 (以降)へのスナップショットをインポートしている場合、別名表が作成されますが空であることがあります。この問題を解決するには、「**既存の別名表の管理**」オプションを使用して必要な言語の別名を追加します。

この機能拡張の一環として、特定の言語の一部のメンバーの別名が追加されています。将来モジュールが更新される場合、これらの別名がロードされます。同じ別名のカスタム・メンバーがある場合、キューブ・リフレッシュ・エラーが発生する可能性があります。新規別名のリストを確認し、必要に応じてカスタム・メンバーを変更してください。

23.09 での新規別名

Table C-1 ハイブリッド・キューブをサポートしていない Essbase バージョンの財務、要員、資本およびプロジェクト

ディメンション	メンバー
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> • OFS_Other Cash (3 つの共有メンバー) • OPF_% Complete • OPF_Accrued Revenue • OPF_Capitalizable (3 つの共有メンバー) • OPF_Cost Plus Revenue Assumptions • OPF_Custom Direct Input Assumptions • OPF_Equipment Description • OPF_Financial Performance Measures • OPF_KPIs • OPF_Obligation Details • OPF_Performance Metrics • OPF_Project Detail Information • OPF_Project Read Only Properties • OPF_Required Equipment Assumptions • OPF_Revenue Recognition % • OPF_Total Expenses - Store • OPF_When Period • OPF_When Year • OWP_Cut-off Date • OWP_CYTD Gross Earnings • OWP_CYTD Taxable Compensation • OWP_FTE Variance • OWP_FYTD Gross Earnings • OWP_FYTD Taxable Compensation • OWP_IsEmpty • OWP_Rec.Merit % (2 つの共有メンバー) • OWP_Start Date (2 つの共有メンバー) • OWP_Workforce Planning Accounts for Forms • OWP_Workforce Planning Accounts for VC
ジョブ	OWP_All Jobs
期間	プロジェクト財務マッピング
バージョン	OEP_Target
リソース・クラス	OPF_Load
年齢層	<ul style="list-style-type: none"> • 年齢層なし • OWP_Total Age Band
性別	<ul style="list-style-type: none"> • 性別なし • OWP_Total Gender
最終学歴	<ul style="list-style-type: none"> • 最終学歴なし • OWP_Total Highest Education Degree
スキル・セット	<ul style="list-style-type: none"> • スキル・セットなし • OWP_Total Skill Set

Table C-1 (Cont.) ハイブリッド・キューブをサポートしていない Essbase バージョ
ンの財務、要員、資本およびプロジェクト

ディメンション	メンバー
組合コード	<ul style="list-style-type: none">• 組合コードなし• OWP_All Union Code• OWP_Total Union Code

Table C-2 ハイブリッド・キューブをサポートしている Essbase バージョンの財務、要員、資本およびプロジェクト

ディメンション	メンバー
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> • OCX_Impairment Value Assumptions • OFS_Other Cash (3 つの共有メンバー) • OPF_% Complete • OPF_Accrued Revenue • OPF_Capital Integration Properties • OPF_Capitalizable (3 つの共有メンバー) • OPF_Cost Plus Revenue Assumptions • OPF_Custom Direct Input Assumptions • OPF_Equipment Description • OPF_Financial Performance Measures • OPF_Indirect Integration Properties • OPF_Integration Properties • OPF_Integration Status Description (2 つの共有メンバー) • OPF_KPIs • OPF_Obligation Details • OPF_Performance Metrics • OPF_Project Detail Information • OPF_Project Integration Status (2 つの共有メンバー) • OPF_Project Read Only Properties • OPF_Project Template - Capital (3 つの共有メンバー) • OPF_Project Template - Indirect (3 つの共有メンバー) • OPF_Recognized Revenue • OPF_Reporting Properties • OPF_Revenue Recognition % • OPF_Standard Integration Properties • OPF_Total Expenses - Store • OPF_When Period • OPF_When Year • OWP_Cut-off Date • OWP_CYTD Gross Earnings • OWP_CYTD Taxable Compensation • OWP_FTE Variance • OWP_FYTD Gross Earnings • OWP_FYTD Taxable Compensation • OWP_IsEmpty • OWP_Rec.Merit % (2 つの共有メンバー) • OWP_Start Date (2 つの共有メンバー) • OWP_Workforce Planning Accounts for Forms • OWP_Workforce Planning Accounts for VC • OPF_Project Description
コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Merit Increase • OWP_No Grade

Table C-2 (Cont.) ハイブリッド・キューブをサポートしている Essbase バージョンの財務、要員、資本およびプロジェクト

ディメンション	メンバー
従業員	OWP_New Employees
エンティティ	OEP_Home Entity
期間	プロジェクト財務マッピング
バージョン	OEP_Target
リソース・クラス	<ul style="list-style-type: none"> OPF_Adjustment (+/-) OPF_Load
年齢層	<ul style="list-style-type: none"> 年齢層なし OWP_Total Age Band
性別	<ul style="list-style-type: none"> 性別なし OWP_Total Gender
最終学歴	<ul style="list-style-type: none"> 最終学歴なし OWP_Total Highest Education Degree
スキル・セット	<ul style="list-style-type: none"> スキル・セットなし OWP_Total Skill Set
組合コード	<ul style="list-style-type: none"> 組合コードなし OWP_All Union Code OWP_Total Union Code

Table C-3 ハイブリッド・キューブをサポートしていない Essbase バージョンの Strategic Workforce Planning

ディメンション	メンバー
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Average Compensation Rates OWP_CYTD Gross Earnings OWP_CYTD Taxable Compensation OWP_FYTD Gross Earnings OWP_FYTD Taxable Compensation OWP_IsEmpty OWP_Rec.Merit % (3つの共有メンバー) OWP_Start Date (3つの共有メンバー) OWP_Strategic Headcount Planning Accounts for Forms OWP_Workforce Planning Accounts for Forms OWP_Workforce Planning Accounts for VC
年齢層	年齢層なし
コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Attrition Drivers OWP_Merit Increase OWP_No Grade
従業員	OWP_New Employees
エンティティ	OEP_Home Entity
期間	<ul style="list-style-type: none"> BegBalance 期間なし OEP_Yearly Plan

Table C-3 (Cont.) ハイブリッド・キューブをサポートしていない Essbase バージョンの Strategic Workforce Planning

ディメンション	メンバー
バージョン	OEP_Target

Table C-4 ハイブリッド・キューブをサポートしている Essbase バージョンの Strategic Workforce Planning

ディメンション	メンバー
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Average Compensation Rates • OWP_Cut-off Date • OWP_CYTD Gross Earnings • OWP_CYTD Taxable Compensation • OWP_FYTD Gross Earnings • OWP_FYTD Taxable Compensation • OWP_FTE Variance • OWP_FYTD Gross Earnings • OWP_FYTD Taxable Compensation • OWP_IsEmpty • OWP_Rec.Merit % (3 つの共有メンバー) • OWP_Start Date (3 つの共有メンバー) • OWP_Strategic Headcount Planning Accounts for Forms • OWP_Workforce Planning Accounts for Forms • OWP_Workforce Planning Accounts for VC
年齢層	年齢層なし
コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Attrition Drivers • OWP_Merit Increase • OWP_No Grade
従業員	OWP_New Employees
エンティティ	OEP_Home Entity
期間	<ul style="list-style-type: none"> • BegBalance • 期間なし • OEP_Yearly Plan
バージョン	OEP_Target

Table C-5 ハイブリッド・キューブをサポートしていない Essbase バージョンの Sales Planning の「目標プランニング」モジュール

ディメンション	メンバー
メジャー	OQP_Unit of Measures
期間	<ul style="list-style-type: none"> • 期間なし • OEP_Qrtly Plan • OEP_Weekly Plan
製品	製品なし

Table C-5 (Cont.) ハイブリッド・キューブをサポートしていない Essbase バージョンの Sales Planning の「目標プランニング」モジュール

ディメンション	メンバー
シナリオ	OEP_Rolling Forecast
テリトリ	OEP_Unspecified Territory
バージョン	OEP_Working Bottom Up
年	年なし
プラン要素	<ul style="list-style-type: none"> • OGS_Total Plan • OGS_Total Line Items • OGS_Base Forecast • OGS_Adjustment (+/-) • ライン 2 • ライン 3 • ライン 4
ビュー	<ul style="list-style-type: none"> • 定期 • YTD

Table C-6 ハイブリッド・キューブをサポートしている Essbase バージョンの Sales Planning の「目標プランニング」モジュール

ディメンション	メンバー
メジャー	OQP_Unit of Measures
期間	<ul style="list-style-type: none"> • 期間なし • OEP_W1 から OEP_W52 • OEP_Weekly Plan
製品	製品なし
シナリオ	OEP_Scenarios
テリトリ	OEP_Unspecified Territory
年	年なし

財務アーティファクトの更新

ここで説明されている特定のリリースで使用可能な拡張機能では、アーティファクトをカスタマイズしている場合、一部の付属アーティファクトの更新が必要です。

- これらのアーティファクト(このトピックで説明)を変更していない場合、アーティファクトおよび機能はそのリリースで使用できます。
- 新しいリリース中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、これらのアーティファクトをカスタマイズ済で、新機能を利用する場合は、次のステップを実行します。
 1. 更新後に全体バックアップを実行し、それをローカルにダウンロードします。
 2. 変更されたアーティファクトのリストを確認し、そのうちのどれを変更したかを特定します。 [変更済アーティファクトの確認](#)を参照してください。

 **ヒント:**

次にリストされている変更済アーティファクトについて、変更済アーティファクトのコピーを作成して、それを変更の参照として使用することを検討してください。コピーは、カスタマイズを再実装した後に削除できます。

3. 更新後、識別したアーティファクトに対するカスタマイズを元に戻し、アーティファクトを付属の形式に復元します。カスタマイズを元に戻すを参照してください。
4. 必要に応じてアーティファクトに対するカスタマイズを再実装します。
5. 復元された **Calculation Manager** のルールまたはテンプレートでは、それらが最終になった後、影響を受けるアーティファクトのアプリケーションに、更新したルールまたはテンプレートを必ずデプロイしてください。カスタム・テンプレートの使用状況の表示およびビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのデプロイを参照してください。

2022 年 8 月

新規ルール「**バッチ・トレンド・ベースの計算**」は財務で使用できます。新規ルールでは、特定の年の複数のエンティティにわたる複数の勘定科目のトレンドおよび増加率または減少率を計算できます。

既存のルール「**トレンド・ベースの計算**」は、選択したメンバー(フォームのゼロ・レベル・メンバーのみ)のレベルでのみ実行されます。新規ルール「**バッチ・トレンド・ベースの計算**」では、多くのメンバーのバッチ計算を一度に実行でき、時間が節約されます。

詳細は、[財務のルール](#)を参照してください。

2022 年 6 月

2022 年 6 月のリリースから、「**予測の準備**」ルールが更新され、予測シナリオに実績データをコピーする前に、予測シナリオ作業バージョンでクローズ期間のすべてのプラン要素メンバーのデータがクリアされるようになりました。更新されたルールにより、計算が正しく動作し、予測数(直接入力方法を使用して入力)がクローズ済期間の実績に追加されないようになりました。

新規ルールの動作は、追加機能を有効にし、財務を再度有効にするか、スナップショットをインポートまたはエクスポートした場合のみ表示されます。

2021 年 3 月

2021 年 3 月以降、最初の年の「**予測**」に対するプランニング基準として「**四半期ごと**」を選択すると、該当期間でのみ予測データの入力が許可されるように、指定された有効な交差が設定されます。現在の月より前の四半期予測期間は更新できません。この機能拡張の一環として、一部のルールが変更されています。

これらのアーティファクトにカスタマイズを行っている場合は、このトピックの手順に従ってアーティファクトを復元してからカスタマイズを再適用します。

変更されたルール

- OFS_Trend Based Calculation
- OFS_Prepare Forecast

2021 年 2 月

2021 年 2 月のリリース以降、EPM Planning 財務には、「**予算の改訂**」および予算管理との統合を有効にするオプションが用意されています。このオプションを追加で有効にすると（「**機能を使用可能にする**」で「**予算の改訂**」を選択します）、次に示す統合をサポートするようにルールが変更されます。このアーティファクトをカスタマイズした場合は、このトピックの手順に従ってアーティファクトを復元してから、カスタマイズを再適用します。

変更されたルール: トレンド・ベースの計算

プロジェクト・アーティファクトの更新

ここで説明されている特定のリリースで使用可能な拡張機能では、アーティファクトをカスタマイズしている場合、一部の付属アーティファクトの更新が必要です。

- これらのアーティファクト(このトピックで説明)を変更していない場合、アーティファクトおよび機能はそのリリースで使用できます。
 - 新しいリリース中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、これらのアーティファクトをカスタマイズ済で、新機能を利用する場合は、次のステップを実行します。
1. 更新後に全体バックアップを実行し、それをローカルにダウンロードします。
 2. 変更されたアーティファクトのリストを確認し、そのうちのどれを変更したかを特定します。


ヒント:

次にリストされている変更済アーティファクトについて、変更済アーティファクトのコピーを作成して、それを変更の参照として使用することを検討してください。

3. 更新後、識別したアーティファクトに対するカスタマイズを元に戻し、アーティファクトを付属の形式に復元します。カスタマイズを元に戻すを参照してください。
4. 必要に応じてアーティファクトに対するカスタマイズを再実装します。
5. 復元された **Calculation Manager** のルールまたはテンプレートでは、それらが最終になった後、影響を受けるアーティファクトのアプリケーションに、更新したルールまたはテンプレートを必ずデプロイしてください。カスタム・テンプレートの使用状況の表示およびビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのデプロイを参照してください。

2020 年 11 月更新

2020 年 11 月リリースより、EPM Planning プロジェクトに、Oracle Fusion Cloud Project Management (プロジェクト管理)と統合するオプションが提供されます。この統合オプションを追加で有効にすると（「**機能を使用可能にする**」で「**プロジェクト管理クラウド統合**」を選択します）、下のリストのように統合をサポートするために一部のフォームおよびルールが変更されます。これらのアーティファクトにカスタマイズを行っている場合は、このトピックの手順に従ってアーティファクトを復元してからカスタマイズを再適用します。

 ノート:

このノートは、プロジェクト管理との統合を有効にしたり、プラン/予測を EPM Planning プロジェクトにロードすることを望むお客様に重要です。ロードされたデータと計算されたデータを分けるために、新規メンバー **OPF_Load** が「リソース・クラス」ディメンションに追加されています。EPM Planning プロジェクトへのデータのロードには **OPF_Load** を使用することをお勧めします。このメンバーを使用すると、ロードされたデータは計算実行時に上書きされなくなります。また、新規フォーム **プロジェクト費用の確認および調整** が追加され、これを使用してロードされたデータの確認および調整を行うことができます。データのロードに **OPF_Load** を使用していない場合、ロードされたデータはこのフォームに表示されません。

EPM Planning プロジェクトにプラン/予測をロードしないお客様は、引き続きデータのロードに **OPF_Direct Resource** メンバーを使用できます。

表 C-7 EPM Planning プロジェクトの変更されたルール

ルール名	変更
プロジェクトの追加(OPF_Add Project)	新規プロジェクトの追加時に、既存の入力に加えて RTP 入力として プロジェクト番号 (プロジェクト ID)および テンプレート を含むように変更されました。
プロジェクトの承認(OPF_Approve Project)	プロジェクトの承認時に統合ステータスを設定するように変更されました。
プロジェクトのロール・アップ(OPF_Rollup Project Cube)	ロールアップに OPF_Summary Resources 階層が追加されました。
プロジェクトの削除	プロジェクト管理クラウド統合 が有効な場合は承認済プロジェクトの削除を無効にするように変更されました。

表 C-8 EPM Planning プロジェクトの変更されたフォーム

フォーム名	変更
OPF_Expense Actuals	ロードの交差が OPF_Load に変更されました。
OPF_Project Details	「 プロジェクト統合ステータス 」および「 プロジェクト・テンプレート 」などの統合に関連するプロパティが追加されました。


要員アーティファクトの更新

概要

ここで説明されている特定のリリースで使用可能な機能拡張では、一部の付属アーティファクトの更新が必要です。

- これらのアーティファクト(このトピックで説明)を変更していない場合、アーティファクトおよび機能は、リリースで自動的に使用可能になります。

- 新しいリリース中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、これらのアーティファクトをカスタマイズ済で、新機能を利用する場合は、次のステップを実行します。
1. 更新後に全体バックアップを実行し、それをローカルにダウンロードします。
 2. 変更済アーティファクトのリストを確認して、アーティファクトに行った変更月に月次更新の機能拡張で対応するかどうかを検討します。新機能を利用するために変更済アーティファクトを復元するかどうかと、変更の一部または全部を再適用する必要があるかどうかを評価します。

 ヒント:

次にリストされている変更済アーティファクトについて、変更済アーティファクトのコピーを作成して、それを変更の参照として使用することを検討してください。

 ノート:

廃止されたアーティファクトは、引き続き使用できますが、今後は機能拡張されず、アクティブなフォーム、メニュー、ダッシュボードなどから削除できません。

3. 更新後、識別したアーティファクトに対するカスタマイズを元に戻し、アーティファクトを付属の形式に復元します。カスタマイズを元に戻すを参照してください。
4. 必要に応じてアーティファクトに対するカスタマイズを再実装します。
5. 復元された **Calculation Manager** のルールまたはテンプレートでは、それらが最終になった後、影響を受けるアーティファクトのアプリケーションに、更新したルールまたはテンプレートを必ずデプロイしてください。カスタム・テンプレートの使用状況の表示およびビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのデプロイを参照してください。

2023 年 10 月

次の情報では、2023 年 10 月更新の新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表 C-9 2023 年 10 月

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Add Requisition_T • OWP_Assign Defaults_T • OWP_Assign Target Defaults • OWP_Associate Employee • OWP_Calculate Employee Compensation_Te • OWP_Calculate Job Compensation_T • OWP_Change Existing Details_T • OWP_Change Job • OWP_Enable Job_T • OWP_Plan Departure_T • OWP_Process Loaded Data_T • OWP_Synchronize Defaults_T • OWP_Synchronize Definition_T • OWP_Transfer_T • OWP_Transfer Heacount_T • OWP_Transfer In_T • OWP_Transfer Out_T • OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT • OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT • OWP_Add TBH (新しいアプリケーションで削除される非推奨のルール) • OWP_Change Employee Status (新しいアプリケーションで削除される非推奨のルール) • OWP_ChangeHiringRequisitionStatus (新しいアプリケーションで削除される非推奨のルール) 	
Groovy ルール		OWP_Invalid Smartlist Mapping

表 C-9 (続き) 2023 年 10 月

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
フォーム	<ul style="list-style-type: none"> OWP_New Hire - Request OWP_Manage Existing Employees OWP_Identify Invalid Data OWP_Identify Invalid Data_JO OWP_Process Data and Synchronize Definition OWP_Process Data and Synchronize Definition_JO OWP_Process Data with Synchronize Definition OWP_Process New Hires OWP_Process Data and Synchronize Defaults OWP_Process Data and Synchronize Defaults_JO OWP_Process Data with Synchronize Defaults 	OWP_Identify Invalid Financials Mapping
メンバーの式	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Basic salary OWP_Merit 	
勘定科目ディメンションに追加された新しいメンバー		<ul style="list-style-type: none"> OWP_Earning11 から OWP_Earning30 OWP_Benefit11 から OWP_Benefit30 OWP_Tax11 から OWP_Tax30
プロパティ・ディメンションに追加された新しいメンバー		OWP_Workforce Members For Forms (共有階層)

2023 年 5 月の更新

次の情報では、2023 年 5 月更新の新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表 C-10 2023 年 5 月

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
フォーム	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Process Data and Synchronize Definition OWP_Process Data and Synchronize Defaults 	

表 C-10 (続き) 2023 年 5 月

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Change Job • OWP_Transfer Heacount_T • OWP_Process Data and Synchronize Defaults • OWP_Transfer_T • OWP_Transfer Out_T • OWP_Change Existing Details_T • OWP_Change Requisition_GT • OWP_Process Loaded Data_T • OWP_Plan Departure_T • OWP_Assign Defaults_T • OWP_Assign Target Defaults • OWP_Change Existing Details_T • OWP_Synchronize Defaults_T • OWP_Synchronize Definition_T • OWP_Assign Target Defaults • OWP_Change Existing Details_T • OWP_Synchronize Defaults_T • OWP_Synchronize Definition_T 	OWP_Custom Template

表 C-10 (続き) 2023 年 5 月

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
グローバル RTP		これらのルールのルール・レベルで作成された部門—グローバル RTP: <ul style="list-style-type: none"> OWP_Add Benefit Defaults OWP_Add Earning Defaults OWP_Add Salary Defaults OWP_Add Taxes Defaults OWP_Copy Rates across Years OWP_Copy Rates from Periodicities OWP_Remove Compensation Defaults OWP_Associate Employee OWP_Change Job OWP_Transfer In OWP_Strategic Headcount OWP_Add Job OWP_Calculate Demand OWP_Calculate Demand for All Data OWP_Calculate Supply OWP_Calculate Supply for All Data
グローバル RTP		これらのルールのルール・レベルで作成された DepartmentFrom—グローバル RTP: <ul style="list-style-type: none"> OWP_Remove Hiring Requisition OWP_Transfer Out
勘定科目メンバー	これらのメンバーについて式が更新されました: <ul style="list-style-type: none"> OWP_Contractor Headcount OWP_Temporary Headcount OWP_Other Headcount OWP_Regular FTE OWP_Contractor FTE OWP_Temporary FTE OWP_Other FTE 	

2022 年 11 月更新

次の情報では、2022 年 11 月更新の新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表 C-11 2022 年 11 月更新

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
Groovy テンプレート		OWP_Process Master Data_T

2022 年 10 月更新

次の情報では、2022 年 10 月更新の新規および変更済アーティファクトについて説明します。

要員の **2022 年 10 月** コンテンツを更新した直後に完了する必要がある重要なタスクの詳細は、[更新後のタスク](#)を参照してください。

カスタマイズした可能性があるアーティファクトについて、次の重要な情報を確認してください:

- **OWP_Change Existing Details_T** の「Calculation Manager」テンプレートを変更したが、Groovy テンプレート(**OWP_Change Requisition_GT**)を変更していない場合、「Calculation Manager」テンプレートを復元する必要があります。
- **OWP_Enable Job_T** の「Calculation Manager」テンプレートを変更したが、Groovy テンプレートを変更していない場合、「Calculation Manager」テンプレートを復元する必要があります。

アーティファクトの復元の詳細は、[カスタマイズを元に戻す](#)を参照してください。

表 C-12 2022 年 10 月更新

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
メンバーの式	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Merit Adjustment % • OWP_Merit • OWP_Basic Salary • OWP_Skill Set_Reporting • OWP_Gender_Reporting • OWP_Age Band_Reporting • OWP_Highest Education Degree_Reporting (「プロパティ」ディメンション) 	
Groovy ルール		<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Copy Employee Master Data across Periodicities • OWP_CopyYearlyAndQuarterlyPlanDataToFirstPeriod

表 C-12 (続き) 2022 年 10 月更新

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Add Requisition_GT • OWP_Add Requisition_T • OWP_Assign Defaults_T • OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT • OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT • OWP_Incremental Synchronize Defaults_GT • OWP_Incremental Synchronize Definition_GT • OWP_Process Loaded Data_T • OWP_Synchronize Defaults_T • OWP_Synchronize Definition_T • OWP_Associate Employee • OWP_Calculate Employee Compensation_Te • OWP_Calculate Job Compensation_T • OWP_Change Job • OWP_Enable Job_GT • OWP_Enable Job_T • OWP_Plan Departure_T • OWP_Transfer Heacount_T • OWP_Transfer In_T • OWP_Transfer Out_T • OWP_Transfer_T • OWP_Change Existing Details_T • OWP_Change Requisition_GT • OWP_Assign target Defaults 	

表 C-12 (続き) 2022 年 10 月更新

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
ルール	<ul style="list-style-type: none"> 増分的なデータの処理とデフォルトの同期 増分的なデータの処理と定義の同期 増分的なデフォルトの同期 増分的な定義の同期 	
フォーム	<ul style="list-style-type: none"> 従業員プロパティ 既存の従業員の管理 新規採用 - 要求 データの処理およびデフォルトの同期 データの処理とデフォルトの同期 Process Data and Synchronize Defaults_JO データの処理および定義の同期 データの処理と定義の同期 Process Data and Synchronize Definition_JO デフォルトの同期 定義の同期 従業員情報の確認 ジョブ情報の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用の処理 従業員マスター・データ FTE 割当分析
ユーザー変数		<ul style="list-style-type: none"> 期間 従業員の親
データ・ロード・テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> EJ_EmployeeProperties DataLoad_Actuals EJ_EmployeeProperties DataLoad_Plan EO_EmployeeProperties DataLoad_Actuals EO_EmployeeProperties DataLoad_Plan JO_JobPropertiesDataLoad_Plan 	
レポート・キューブで有効な勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> Descendants of OWP_Total Headcount IDescendants of OWP_Total FTE 	
データ・マップ	レポート用の人数データ	

表 C-12 (続き) 2022 年 10 月更新

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
メンバー		<ul style="list-style-type: none"> OWP_End Date (「勘定科目」ディメンション) OEP_Home Entity (「分割資金調達 FTE」が有効な場合、「エンティティ」ディメンション)

2021 年 12 月更新

次の情報では、2021 年 12 月更新のパフォーマンス強化に関連する新規および変更済アーティファクトについて説明します。

すべての要員ルールおよび一部のメンバー式が、パフォーマンスを向上させるための変更で更新されました。機能的な変更はありませんが、基礎となるテクノロジのパフォーマンス向上を利用するためにロジックが更新されました。未変更のルールまたはメンバーは、これらのパフォーマンス強化を自動的に受け取ります。変更したルールまたはメンバーは、これらのパフォーマンス強化がない現状のままになります。これらのアーティファクトを元の状態に復元して、これらのパフォーマンス強化を取り込み、必要に応じて、更新済のロジックに変更を再適用することをお勧めします。

さらに、新規ルール「すべてのデータに関する従業員報酬の計算」(またはジョブのみのモデルの「すべてのデータに関するジョブ報酬の計算」)により、管理者およびパワー・ユーザーは、スコープ内のすべてのデータの報酬を計算できます。

ノート:

要員では、ハイブリッドが有効な場合、「従業員」および「ジョブ」ディメンションはすべての親が動的に集計されて設定されるため、要員ではこれらのディメンションが集計されません。前のリリースでは「要請の追加」が集計されましたが、21.12からは集計されません。

表 C-13 2021 年 12 月更新

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
Calculation Manager のテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Calculate Employee Compensation_Te • OWP_Calculate Job Compensation_T • OWP_Process Loaded Data_T • OWP_Change Existing Details_T • OWP_Synchronize Defaults_T • OWP_Synchronize Definition_T • OWP_Assign Defaults_T • OWP_Transfer In_T • OWP_Transfer Out_T • OWP_Transfer_T • OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT • OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT • OWP_Incremental Synchronize Defaults_GT • OWP_Incremental Synchronize Definition_GT • OWP_Plan Departure_T • OWP_Change Job • OWP_Assign Defaults AGG_T • OWP_Calculate Demand • OWP_Calculate Supply • OWP_Add Requisition_T • OWP_Change Requisition_T • "OWP_Change Existing Details_T" • "OWP_Plan Departure_T" • OWP_Enable Job_T • OWP_Transfer headcount_T 	

表 C-13 (続き) 2021 年 12 月更新

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
Calculation Manager のルール	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Process Loaded Data OWP_Calculate Existing Employee Compensation OWP_Calculate New Hire Compensation OWP_Calculate Job Compensation OWP_Process Loaded Data OWP_Synchronize Defaults OWP_Synchronize Definition OWP_Transfer In OWP_Transfer Out OWP_Transfer OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition OWP_Incremental Synchronize Defaults OWP_Incremental Synchronize Definition OWP_Change Job 	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Calculate Employee Compensation for All Data OWP_Calculate Job Compensation for All Data
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> OWP_CYTD(Prior) (「プロパティ」ディメンション内) OWP_Tax1... Tax10 (「勘定科目」ディメンション内) 	

 ノート:

ルール・パフォーマンスをさらに向上させるには、「勘定科目」および「プロパティ」の両方ですべての CYTD 式を変更できます。計画シナリオと予測シナリオの両方の年範囲を取得し、その年範囲に対してのみ動作するように式を更新します。たとえば、計画シナリオの年範囲が FY21 から FY24 に設定されており、予測シナリオの年範囲が FY22 から FY24 に設定されている場合、式を FY21 から FY24 の年範囲で適切に更新します。

これらの変更は、1 月が開始月ではないアプリケーションでのみ必要です。

これらの式の "Apr" をアプリケーションの最後の月で置き換えます。

- **"OWP_CYTD Total Salary"式 =**

```
/*プラン年および予測年の範囲を FY21 から FY24 に設定します*/ IF(@ISMBR("OWP_Expense Amount")) IF("Fiscal TP-Index"==1 and "Yr-Index"!=0) IF(@ISMBR("FY22")) "OWP_Total Salary" + "FY21"->"Apr"->"OWP_CYTD Total Salary"; /*会計アプリケーションの前年および最後の月にハードコードされます*/ ELSEIF(@ISMBR("FY23")) "OWP_Total Salary" + "FY22"->"Apr"->"OWP_CYTD Total Salary"; ELSEIF(@ISMBR("FY24")) "OWP_Total Salary" + "FY23"->"Apr"->"OWP_CYTD Total Salary"; ENDIF; ELSEIF("Cal TP-Index"==1) "OWP_Total Salary"; ELSE "OWP_Total Salary" + @PRIOR("OWP_CYTD Total Salary"); ENDIF; ENDIF;
```

- **"OWP_CYTD Gross Earnings"式 =**

```
IF(@ISMBR("OWP_Expense Amount")) IF("Fiscal TP-Index"==1 and "Yr-Index"!=0) IF(@ISMBR("FY22")) "OWP_Total Compensation" + "FY21"->"Apr"->"OWP_CYTD Gross Earnings"; ELSEIF(@ISMBR("FY23")) "OWP_Total Compensation" + "FY22"->"Apr"->"OWP_CYTD Gross Earnings"; ELSEIF(@ISMBR("FY24")) "OWP_Total Compensation" + "FY23"->"Apr"->"OWP_CYTD Gross Earnings"; ENDIF; ELSEIF("Cal TP-Index"==1) "OWP_Total Compensation"; ELSE "OWP_Total Compensation" + @PRIOR("OWP_CYTD Gross Earnings"); ENDIF; ENDIF;
```

- **"OWP_CYTD Taxable Compensation"式 =**

```
IF(@ISMBR("OWP_Expense Amount")) IF("Fiscal TP-Index"==1 and "Yr-Index"!=0) IF(@ISMBR("FY22")) "OWP_Total Compensation" + "FY21"->"Apr"->"OWP_CYTD Taxable Compensation"; ELSEIF(@ISMBR("FY23")) "OWP_Total Compensation" + "FY22"->"Apr"->"OWP_CYTD Taxable Compensation"; ELSEIF(@ISMBR("FY24")) "OWP_Total Compensation" + "FY23"->"Apr"->"OWP_CYTD Taxable Compensation"; ENDIF; ELSEIF("Cal TP-Index"==1) "OWP_Total Compensation"; ELSE "OWP_Total Compensation" + @PRIOR("OWP_CYTD Taxable Compensation"); ENDIF; ENDIF;
```

- **プロパティからの"OWP_CYTD(Prior)"式 =**

```
IF(@ismbr(@relative("OWP_Total Compensation",0))) IF("Fiscal TP-Index"=="Cal TP-Index" OR ("Fiscal TP-Index"!="Cal TP-Index" and ("OWP_Payment Terms"->"BegBalance"==[OWP_PaymentTerms.FiscalMonth] OR "OWP_Payment Terms"->"BegBalance"==[OWP_PaymentTerms.FiscalQuarter] OR "OWP_Payment Terms"->"BegBalance"==[OWP_PaymentTerms.FiscalYear]))) @SUMRANGE("OWP_Expense Amount", @REMOVE(@CURRMBRRANGE("Period", LEV, 0, , -1), @LIST("OEP_Yearly Plan", "Qtrly 1", "Qtrly 2", "Qtrly 3", "Qtrly 4"))); ELSE IF("Fiscal TP-Index"==1 and "Yr-Index"!=0) IF(@ISMBR("FY22")) "FY21"->"Apr"->"OWP_Expense Amount"+"FY21"->"Apr"->"OWP_CYTD(Prior)+"BegBalance"->"OWP_Expense Amount"; ELSEIF(@ISMBR("FY23")) "FY22"->"Apr"->"OWP_Expense Amount"+"FY22"->"Apr"->"OWP_CYTD(Prior)+"BegBalance"->"OWP_Expense Amount"; ELSEIF(@ISMBR("FY24")) "FY23"->"Apr"->"OWP_Expense Amount"+"FY23"->"Apr"->"OWP_CYTD(Prior)+"BegBalance"->"OWP_Expense Amount"; ENDIF; ELSEIF("Cal TP-Index"==1 AND "OWP_Start Date"->"No Property" != #MISSING) #MISSING; ELSE @PRIOR("OWP_Expense Amount",1,@Relative("YearTotal",0)) + @PRIOR("OWP_CYTD(Prior)",1,@Relative("YearTotal",0)); ENDIF; ENDIF; ENDIF;
```

2021年8月更新

次の情報では、2021年8月更新の要員拡張機能に関連する変更済アーティファクト、および新機能を使用するためにアプリケーションに加える必要がある変更について説明します。

レポート・キューブへのカスタム・ディメンションの追加

この更新では、新規アプリケーションの場合、初めて機能を有効にするときにカスタム・ディメンションをレポート・キューブ(OEP_REP)に追加するかどうかを選択できます。

既存のアプリケーションの場合、次回機能を有効にするときにカスタム・ディメンションをレポート・キューブに追加する 1 回かぎりのオプションがあります。機能を有効にする前に、OEP_REP キューブ内のデータをクリアする必要があります。

レポート・キューブ(OEP_REP)にプッシュするディメンションを選択するには、[レポート・キューブへのカスタム・ディメンションの追加](#)を参照してください:

- 新規アプリケーションの場合、初めて機能を有効化するときこのタスクを 1 回のみ実行できます。
- 既存のアプリケーションの場合、次回「**機能を使用可能にする**」で変更を加えるときにこのタスクを実行する 1 回かぎりのオプションがあります。

功績仮定

- 新規ダッシュボード「**要員および功績仮定**」へのアクセス権をユーザーに付与します。
- 「**功績仮定**」を有効にしており、「**グローバル**」レベルでのプランニングを指定する場合、「**要員および功績仮定**」ダッシュボードで**会社仮定**が使用され、エンティティは非表示になります。「**エンティティ当たり**」レベルでのプランニングを指定する場合、「**要員および功績仮定**」ダッシュボードでエンティティが使用され、**会社仮定**は非表示になります。
- 既存の顧客の場合、「**功績仮定**」を有効にして「**エンティティ**」または「**グローバル**」によるプランニングを選択する場合、「**エンティティ**」または「**グローバル**」レベルでの「**功績レート**」、「**功績月**」および「**カットオフ日**」のデータを入力する必要があります。データ管理またはデータ統合を使用して既存の従業員のデータをロードするとき、これらの仮定は**増分的なデータの処理と同期**ルールの一部として従業員にコピーされます。または、「**功績月**」あるいは「**カットオフ日**」を更新するときに必ず「**ロードされたデータの処理**」を実行できます。

更新された「従業員の詳細」フォーム

「**コンポーネント**」ディメンションには新規メンバーの「**功績昇給**」があり、これは功績勘定科目のスマート・リスト値として割り当てられます。既存の顧客の場合、2021 年 8 月のコンテンツを更新すると、「**従業員の詳細**」フォームの「**功績**」の行見出しに、新しいスマート・リスト値ではなく **1** が表示されます。「**従業員の詳細**」フォームを更新して新規メンバーの「**功績昇給**」を表示するには、「**報酬の計算**」または「**同期**」ルールを実行します。

表 C-14 2021 年 8 月更新 - 要員の新規および変更済アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
ダッシュボード		要員および功績仮定 新規ダッシュボード「 要員および功績仮定 」へのアクセス権をユーザーに確実に付与します。
フォーム	<ul style="list-style-type: none"> • 給与等級 • 功績レート • 従業員プロパティ - 「功績月」行が削除されました • データの処理およびデフォルトの同期 - 「功績月」行が削除されました • データの処理および定義の同期 - 「功績月」行が削除されました 	<ul style="list-style-type: none"> • 給与マッピング • 功績マッピング • 功績仮定 • 財務勘定科目マッピング

表 C-14 (続き) 2021 年 8 月更新 - 要員の新規および変更済アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Synchronize Definition_T OWP_Synchronize Defaults_T OWP_Assign Target Defaults OWP_Assign Defaults_T OWP_Remove Compensation Defaults OWP_Add Salary Defaults OWP_Add Tax Defaults OWP_Add Earning Defaults OWP_Add Benefit Defaults OWP_Process Loaded Data_T OWP_Transfer Out OWP_Transfer_T OWP_Change Job OWP_Change Existing Details_T 	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Copy Data across Entities_GT OWP_Copy Data across Entities OWP_Copy Data Across Entities For Grades_GT OWP_Copy Data Across Entities For Grades OWP_Remove Financial Mappings OWP_Add Salary Mapping For Financials OWP_Add Merit Mapping For Financials OWP_Synchronize Mappings For Financial Accounts_T
ルール		<ul style="list-style-type: none"> 財務マッピングの除去 財務の給与マッピングの追加 財務の功績マッピングの追加 財務勘定科目のマッピングの同期
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Merit - HSP_NOLINK、Hsp_ConvertNonCurrency Value UDA を追加しました OWP_Skill Set、OWP_Gender、OWP_Age Band、OWP_Highest Education Degree - Hsp_ConvertNonCurrency Value UDA を追加しました OWP_Merit Adjustment % Cum - 式を更新しました OWP_Basic Salary - メンバー式を更新しました 	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Cut-Off Date - 「勘定科目」ディメンションの新規メンバー OWP_Merit Increase - 「コンポーネント」ディメンションの新規メンバー OWP_No Grade - 「コンポーネント」ディメンションの新規メンバー
データ・マップ	<p>レポート用の人数および FTE データ - レポート用の人数データはレポート用の人数および FTE データに名前を変更され、OWP_FTE 勘定科目を含むように更新されました。(名前変更された既存のデータ・マップ。)</p>	

2020 年 11 月更新

次の情報では、2020 年 11 月更新の、要員の仮定に対する通貨換算計算の拡張機能に関連する変更済アーティファクトについて説明します。

2020 年 11 月のリリースから、要員の仮定に対する通貨換算計算の機能拡張の一環として、次の変更が行われています。

この更新では、Hsp_ConvertNonCurrencyValue という新規 UDA が、勘定科目ディメンションのすべての所得、福利厚生、税金および基本給与と、プロパティ・ディメンションからの**プロパティなし**に追加されました。この通貨換算を使用して、バッチ計算では仮定(所得、福利厚生、税金および基本給与のスマート・リスト値)が要員のレポート通貨にコピーされます。これによって、**レポート用の報酬データ**・データマップの実行後にレポート・キューブ内のコンポーネント全体にデータが移入されます。

ノート:

「作成および管理」の下にある「通貨換算」を使用して、新規通貨換算スクリプトを生成し、新たに更新されたスクリプトを生成します。

表 C-15 2020 年 11 月更新 - 要員の変更済アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Earning1 • OWP_Earning2 • OWP_Earning3 • OWP_Earning4 • OWP_Earning5 • OWP_Earning6 • OWP_Earning7 • OWP_Earning8 • OWP_Earning9 • OWP_Earning10 • OWP_Benefit1 • OWP_Benefit2 • OWP_Benefit3 • OWP_Benefit4 • OWP_Benefit5 • OWP_Benefit6 • OWP_Benefit7 • OWP_Benefit8 • OWP_Benefit9 • OWP_Benefit10 • OWP_Tax1 • OWP_Tax2 • OWP_Tax3 • OWP_Tax4 • OWP_Tax5 • OWP_Tax6 • OWP_Tax7 • OWP_Tax8 • OWP_Tax9 • OWP_Tax10 • OWP_Basic Salary 	
プロパティ	プロパティなし	

2020 年 10 月更新

次の情報では、2020 年 10 月更新の異動拡張機能に関連する変更済アーティファクトについて説明します。

2020 年 10 月のリリースから、要員の異動機能拡張の一環として、次の変更が行われています:

- この更新により、1 ステップまたは 2 ステップの異動で、カスタム・ディメンションおよびエンティティ全体にわたって従業員を異動できるようになりました。以前は、ジョブおよびエンティティの変更のみ異動が許可されていました。従業員を 1 つのエンティティから別のエンティティに異動するときに、カスタム・ソースから同じまたは異なるターゲットを選択することもできます。同じことがジョブのみのモデルの異動人数に適用されます。
- ソースの異動年に、FTE および人数など、従業員プロパティの大部分が異動月以降クリアされます。「適用可能な組合コード」、「従業員タイプ」、「支払タイプ」お

よび「ステータス」はそのまま残りますが、「ステータス」は「転出」として表示されま
す。

- 従業員異動月が異動の年の功績月よりも後の場合、功績レートはソースからコピーされま
す。ターゲット・エンティティの後続の年については、ターゲット・レートに基づいて功
績レートが計算されます。従業員がアクティブでない場合、推奨功績レートは移入されま
せん。従業員異動月が功績月よりも前の場合、功績レートはターゲットからコピーされま
す。
- ジョブのみのモデルでは、ジョブで使用可能な人数に応じて異動または退職可能な人数に
制限があります。これにより、ジョブから人数が離れた後にジョブ報酬の計算ルールを実
行する必要がなくなります。
- 「合計 FTE」および「合計人数」が「新規採用 - 要求」フォーム、「従業員プロパティ」フ
ォームおよび「既存の従業員の管理」フォームに追加されました。「FTE」および「人数」
の別名が「FTE 仮定」および「人数仮定」に変更されました。「FTE 仮定」および「人数
仮定」は、計算を促進する入力仮定に使用されます。「合計 FTE」および「合計人数」は
レポート目的で使用されます。
- 異動年のソースの所得、福利厚生および支払済税金がターゲットしきい値の適用時に考慮
されます。ソースの計算済費用が、異動およびジョブの変更プロセスの一部として異動年
のターゲットにコピーされます。エンティティのデフォルトをターゲットの従業員に適
用した後、ソースおよびターゲットで同じである所得、福利厚生および税金にターゲット
の異動年のしきい値を適用するときに、コピーされた計算済費用額が考慮されます。ジョ
ブのみのモデルの異動人数の一部として、ソースからターゲットの計算済費用は異動する
人数に基づきます。これは、従業員のみモデルおよび従業員とジョブのモデルの従業員
に対する単一ステップおよび 2 ステップの異動およびジョブの変更アクションと、ジョブ
のみのモデルの異動人数アクションに適用されます。

表 C-16 2020 年 10 月更新 - 要員の変更済アーティファクト

アーティファクト・タイ プ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファ クト
Calculation Manager のテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Transfer_T • OWP_Transfer Out_T • OWP_Transfer In_T • OWP_Change Job • OWP_Assign Target Defaults • OWP_Transfer Headcount_T • OWP_Synchronize Definition_T • OWP_Synchronize Defaults_T • OWP_Calculate Employee Compensation_Te • OWP_Plan Departure • OWP_Change Existing Details_T 		

表 C-16 (続き) 2020 年 10 月更新 - 要員の変更済アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のルール	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Transfer OWP_Transfer Out OWP_Transfer In OWP_Change Job OWP_Transfer Headcount 		
フォーム	<ul style="list-style-type: none"> 既存の従業員の管理 新規採用 - 要求 従業員プロパティ 		
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> OWP_FTE OWP_Headcount <p>別名が「FTE」から「FTE 仮定」に、「人数」から「人数仮定」に変更されました。</p>		
メンバー式	<p>「勘定科目」ディメンション・メンバー:</p> <ul style="list-style-type: none"> OWP_Earning1:OWP_Earning10 OWP_Benefit1:OWP_Benefit10 OWP_Tax1:OWP_Tax10 <p>「プロパティ」ディメンション・メンバー: OWP_CYTD(Prior)</p>		

2020 年 6 月更新

次の情報では、20.06 更新の計画および予測シナリオに対する異なるプランニング年に関連する新規および変更済アーティファクトについて説明します。

2020 年 6 月のリリースから、要員フォームおよびルールが更新され、計画および予測シナリオに対して異なるプランニング年を使用できるようになりました。以前は、要員の「**プランニングと予測の準備**」構成タスクで、計画シナリオに対して設定された年範囲および保存済の最終モジュールに基づいて、両方のモジュールの計画および予測の両方のシナリオに対して、**&OEP_YearRange** 代替変数が設定されました。この代替変数への参照は停止中です。

2020 年 6 月のリリースにより、要員ではすべてのビジネス・ルールおよびテンプレートが更新され、シナリオごとに個別に「**プランニングと予測の準備**」構成タスクから開始年と終了年を読み取る方法を使用できるようになりました。有効な交差を使用し、シナリオの開始期間と終了期間に基づいてデータが表示されるようフォームが変更されます。更新が適用されたときに、これらのフォームとビジネス・ルールを変更していない場合、次のようになります。

- 事前定義済ビジネス・ルールおよびテンプレートが更新されます。
- 事前定義済フォームが更新されます。

新しいリリース中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、フォームまたはビジネス・ルールをカスタマイズした場合、次に点に注意してください。

- **&OEP_YearRange** 代替変数に依存するルールを変更した場合、次の関数(ビジネス・ルールまたは Groovy ルール内)を使用するようルールを更新してください。
 - `[[PlanningFunctions.getModuleStartYear("Workforce","ScenarioName")]]`: 特定のシナリオの開始年を返します
 - `[[PlanningFunctions.getModuleEndYear("Workforce","ScenarioName")]]`: 特定のシナリオの終了年を返します

 **ノート:**

モジュール名およびシナリオ名は二重引用符で囲む必要があります。

- **OWP_Process Loaded Data_T** テンプレートを変更していないが、**OWP_Process Loaded Data_T** に依存する **OWP_Process Loaded Data** ルール、**OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT** テンプレート、または **OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT** テンプレートを変更した場合、計画および予測シナリオに対して異なるプランニング年をサポートするために設計時プロンプト (DTP) 値が含まれるようになったため、これらのアーティファクトを次のように更新してください:
 - ルール・レベルで新たに必要になった DTP 値を設定するために、**OWP_Process Loaded Data** ルールを更新する必要があります。これを行うには、**Calculation Manager** でこのルールを開き、ルール内で"**OWP_Process Loaded_T**"テンプレート・オブジェクトをハイライト表示し(テンプレート自体を開かないでください)、鉛筆アイコンを選択して **DTP** を編集し、次の情報を更新/入力し、ルールを保存して再デプロイします。
 - * `Set DTP Year Range =`
`[[PlanningFunctions.getModuleStartYear("WORKFORCE",{Scenario})]]:`
`[[PlanningFunctions.getModuleEndYear("WORKFORCE",{Scenario})]]`
 - * `Set DTP MODULENAME = "Workforce"` (二重引用符を含む)
 - **OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT** および **OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT** テンプレートは、ローカルにコピーまたはダウンロードする必要があります。これらのアーティファクトをリストアし、変更を再適用して保存し、これらのテンプレートを再デプロイします。
- 要員のカスタム・フォームを更新し、**&OEP_YearRange** のかわりに「**すべての年**」の **ILvl0Descendants** を使用するようにしてください。

 **ノート:**

行の無効なデータの抑制および**列の無効なデータの抑制**を行うフォーム・プロパティが選択されていることを確認します。

表 C-17 2020 年 6 月更新 - 要員の変更済および新規アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のルール	<p>計画および予測シナリオに対して異なるプランニング年を許可するために、ルール、テンプレートおよびフォームが更新されました:</p> <ul style="list-style-type: none"> OWP_Associate Employee OWP_Change Job OWP_Transfer In OWP_Transfer Out OWP_Transfer OWP_Synchronize Defaults OWP_Synchronize Definition OWP_Process Loaded Data OWP_Transfer Headcount OWP_Calculate Existing Employee Compensation OWP_Calculate New Hire Compensation 	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Compensation Data for Reporting OWP_Non Compensation Data for Reporting OWP_Headcount Data for Reporting OWP_Compensation Data to FinStmt OWP_Non Compensation Data to FinStmt OWP_Copy Working to Prior FCST <p>「プランニングと予測の準備」 構成タスクで現在の期間が変更される前に、OWP_Copy Working to Prior FCST ルールを実行します。このルールにより、すべての期間の現在の予測シナリオのバックアップが作成され、"OEP_Working"バージョンから"OEP_Prior FCST"バージョンに、およびシナリオ開始年から終了年にデータがコピーされます。</p>	NA

表 C-17 (続き) 2020 年 6 月更新 - 要員の変更済および新規アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のテンプレート	<p>開始年および終了年を読み取る方法を使用するために、すべてのテンプレートが更新されました:</p> <ul style="list-style-type: none"> OWP_Add Requisition_GT OWP_Change Requisition_GT OWP_Change Existing Details_GT OWP_Enable Job_GT OWP_Change Salary_GT OWP_Add Requisition_T OWP_Change Existing Details_T OWP_Associate Employee_T OWP_Transfer OWP_Plan Departure_T OWP_Process Loaded Data_T OWP_Transfer Headcount_T OWP_Calculate Employee Compensation_Te OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT OWP_Incremental Synchronize Defaults_GT OWP_Incremental Synchronize Definition_GT 	<p>OWP_Set Valid Years for Scenario_T</p> <p>OWP_Synchronize Defaults_T</p> <p>OWP_Synchronize Definition_T</p> <p>OWP_AGG_T</p> <p>OWP_Assign Defaults_T</p> <p>OWP_Assign Defaults AGG_T</p> <p>OWP_Copy Working to Prior FCST_T</p> <p>ノート: 現在の期間が変更される前に OWP_Copy Working to Prior FCST_T ルールを実行してください。このルールにより、すべての期間の現在の予測シナリオのバックアップが作成されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Synchronize Defaults OWP_Synchronize Definition OWP_Assign Compensation_T

表 C-17 (続き) 2020 年 6 月更新 - 要員の変更済および新規アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
フォーム	要員分析 <ul style="list-style-type: none"> • 報酬分析 • 詳細報酬分析 • 従業員の割当 • プロジェクト別 FTE 要件 • 功績昇給分析 • プロジェクトのスタッフ配属要求 - FTE • 常勤 FTE vs 契約社員 • 従業員稼働率の確認 • プロジェクト全体における FTE 要件の確認 • 人数および FTE の確認 • 合計人数および FTE 	NA	NA
フォーム	要員ダッシュボード報酬 <ul style="list-style-type: none"> • 報酬カテゴリ別予算 • FTE トレンド • 人数トレンド • 新規従業員費用トレンド • 新規採用トレンド • 従業員報酬合計 • 既存費用合計トレンド • ジョブ別非報酬費用合計 • 非報酬費用合計 	NA	NA

表 C-17 (続き) 2020 年 6 月更新 - 要員の変更済および新規アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
フォーム	要員 - プラン・シート - 報酬 <ul style="list-style-type: none"> 従業員を追加所得 従業員の福利厚生 従業員プロパティ 従業員の給与 従業員の税金 人数トレンド Identify Invalid Data_JO 無効なデータの識別 ジョブ・プロパティ 既存の従業員の管理 既存のジョブの管理 新規採用要求 Process Data and Synchronize Defaults_JO データの処理およびデフォルトの同期 Process Data and Synchronize Definition_JO データの処理および定義の同期 従業員異動の照合 ジョブ別の既存の従業員の確認 保留中の異動の確認 デフォルトの同期 定義の同期 	NA	NA
フォーム	要員ダッシュボード・デモグラフィクス <ul style="list-style-type: none"> 年齢層別要員費用 性別別要員費用 最終学歴別要員費用 スキル・セット別要員費用 	NA	NA
フォーム	要員プラン・シート管理 <ul style="list-style-type: none"> Set Workforce Assumptions_JO 要員仮定の設定 標準レート仮定 	NA	NA

表 C-17 (続き) 2020 年 6 月更新 - 要員の変更済および新規アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
フォーム	要員仮定 <ul style="list-style-type: none"> • 功績レート • レート表 • レート表 - 簡易 • レート表 - しきい値 • 給与等級 	NA	NA
ディメンション	勘定科目	NA	NA
メンバー式	OWP_Basic Salary	NA	NA

2020 年 2 月更新

次の情報では、20.02 更新での新規の「開始日」プロパティのサポートに関連する新規および変更済のアーティファクトについて説明します。

表 C-18 2020 年 2 月更新 - 要員の変更済および新規アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager および Groovy テンプレートおよびルール	<p>要員の OEP_WFP キュープのすべての Calculation Manager および Groovy テンプレートおよびルールは、「開始日」を受け入れるように更新されました。</p> <p>ヒント: まだ利用している廃止されたルールを変更して、開始日を利用できます。</p>	<p>1 回限り - 新規プロパティを移入 更新するお客様へのノート: 2020 年 2 月コンテンツの更新直後に、新規ルール「1 回限り - 新規プロパティを移入」を実行して、既存の「開始月」のデータを「開始日」勘定科目に変換する必要があります。このルールは、コンテンツを更新した直後に、データのあるシナリオおよびバージョンの各組合せに対して 1 度のみ実行してください。データを再計算するシナリオおよびバージョンの組合せのみを指定してください。たとえば、履歴データの再計算は必要ない場合があります。</p> <p>ノート: このルールを更新直後に実行しないと、どのルールを実行しても、結果として一部のデータが失われる可能性があります。「1 回限り - 新規プロパティを移入」の実行前に誤ってルールを実行した場合は、「1 回限り - 新規プロパティを移入」を実行した後で、以前に実行したルールを再実行してください。</p> <p>最適なパフォーマンスのために、「1 回限り - 新規プロパティを移入」の実行前に、ディメンションを FIX 文から FIX Parallel に移動し、FIX Parallel 文に移動するディメンションのかわりにエンティティ・メンバー選択を FIX 文に移動することにより、プロセスの並列処理に適したディメンションを使用するように FIX Parallel ディメンションを変更します。この変更は、Calculation Manager</p>	NA

表 C-18 (続き) 2020 年 2 月更新 - 要員の変更済および新規アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
		<p>の OWP_Populate New Properties_T テンプレートで実行する必要があります。変更内容を保存した後、OWP_Populate New Properties ルールをデプロイします。</p>	
勘定科目メンバー	NA	<ul style="list-style-type: none"> • OWP_Start Date • TP-EndDate • TP-Days 	NA
メンバーの式	<p>給与を計算するすべてのメンバー式が更新されました:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 勘定科目: <ul style="list-style-type: none"> - 基本給与 - 所得 1 から所得 10 - 福利厚生 1 から福利厚生 10 - 税金 1 から税金 10 • CYTD (前期) 	NA	NA
フォーム	<p>「開始日」列を含めるために更新されました:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 従業員プロパティ • 既存の従業員の管理 • 新規採用 - 要求 • データの処理およびデフォルトの同期 • データの処理および定義の同期 • ジョブ・プロパティ • 既存のジョブの管理 • Process Data and Synchronize Defaults_JO • Process Data and Synchronize Definition_JO 	NA	NA

表 C-18 (続き) 2020 年 2 月更新 - 要員の変更済および新規アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
データ・ロード・テンプレート	「開始月」列を「開始日」と置換するために更新されました: <ul style="list-style-type: none"> EJ_EmployeePropertiesDataLoad_Plan EO_EmployeePropertiesDataLoad_Plan JO_JobPropertiesDataLoad_Plan 	NA	NA

2019 年 6 月更新

次の情報では、19.06 更新での不都合の修正に起因する変更済アーティファクトについて説明します。

表 C-19 2019 年 6 月更新 - 要員の変更済アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
テンプレート	OWP_Assign Compensation Defaults	NA	NA
Groovy テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Add Requisition_GT OWP_Change Requisition_GT OWP_Change Existing Details_GT 	NA	NA

2019 年 5 月の更新

次の情報では、2019 年 5 月更新の拡張に関連する新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表 C-20 2019 年 5 月の更新 - 要員の拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のルール	<ul style="list-style-type: none"> デフォルトの同期定義の同期 ロードされたデータの処理 ジョブの変更 転入 転出 異動 従業員の関連付け 既存の従業員報酬の計算 新規採用の報酬の計算 	<p>BegBalance から期間への報酬の詳細のコピー</p> <p>更新するお客様へのノート: 2019 年 5 月のコンテンツを更新した直後にルール「1X BegBalance から期間への報酬の詳細のコピー」を 1 回実行し、BegBalance からすべての期間に報酬の詳細をコピーします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 従業員ステータスの変更 ジョブの追加
Calculation Manager のテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> デフォルトの同期定義の同期 Process Loaded Data_T ジョブの変更 Assign Compensation_T ターゲットのデフォルトの割当て Calculate Employee Compensation_T Transfer Out_T 従業員の関連付け 	<ul style="list-style-type: none"> Enable Job_T Change Existing Details_T 	<ul style="list-style-type: none"> Change Requisition_T Add Job_T Change Employee Status_T 報酬のデフォルトの割当て
Groovy ルール	<ul style="list-style-type: none"> 増分的なデフォルトの同期 増分的な定義の同期 増分的なデータの処理と定義の同期 増分的なデータの処理とデフォルトの同期 	NA	NA

表 C-20 (続き) 2019 年 5 月の更新 - 要員の拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Groovy テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> Add Requisition_GT Change Requisition_GT Incremental Synchronize Defaults_GT Incremental Synchronize Definition_GT Incremental Process Data and Synchronize Definition_GT Incremental Process Data and Synchronize Defaults_GT 	<ul style="list-style-type: none"> Enable Job_GT Change Salary_GT Change Existing Details_GT 	NA
フォーム	<ul style="list-style-type: none"> 従業員プロパティ ジョブ・プロパティ 無効なデータの識別 データの処理および定義の同期 	NA	NA
メニュー	既存のアクション	<ul style="list-style-type: none"> 従業員のアクション ジョブのアクション 	NA
メンバーの式	OWP_Basic Salary	NA	NA
スマート・リスト	NA	従業員のオプション	NA

2019 年 2 月更新

次の情報では、2019 年 2 月更新の増分データ・ロード機能に関連する新しいアーティファクトおよび変更されたアーティファクトについて説明しています。

表 C-21 2019 年 2 月更新 - 増分データ・ロードに関連する機能拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のルール	NA	NA	NA

表 C-21 (続き) 2019 年 2 月更新 - 増分データ・ロードに関連する機能拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Process Loaded Data_T OWP_Synchronize Definition OWP_Synchronize Defaults OWP_Fix Parallel_T 	NA	NA
Groovy ルール	NA	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition OWP_Incremental Synchronize Defaults OWP_Incremental Synchronize Definition 	NA
Groovy テンプレート	NA	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Incremental Process Data with Synchronize Defaults_GT OWP_Incremental Process Data with Synchronize Definition_GT OWP_Incremental Synchronize Defaults_GT OWP_Incremental Synchronize Definition_GT 	NA
フォーム	NA	<ul style="list-style-type: none"> データの処理およびデフォルトの同期 データの処理および定義の同期 デフォルトの同期 定義の同期 	NA
垂直タブ	NA	一括更新	NA
水平タブ	NA	<ul style="list-style-type: none"> データの処理およびデフォルトの同期 更新されたデータの処理 デフォルトの同期 定義の同期 	NA

表 C-21 (続き) 2019 年 2 月更新 - 増分データ・ロードに関連する機能拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
データ・インポート・テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> EJ_EmployeePropertiesDataLoad_Plan EO_EmployeePropertiesDataLoad_Plan 	NA	NA

2018 年 11 月更新

次の情報では、2018 年 11 月更新の採用要請の追加ルールでのパフォーマンス強化に関連する新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表 C-22 2018 年 11 月更新 - 採用要請の追加ルールに関連するパフォーマンス強化

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のルール	Add Requisition_GT	NA	NA
Calculation Manager のテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Add Requisition_T OWP_Assign Compensation_T 	NA	NA

2018 年 9 月更新

次の情報では、2018 年 9 月更新のパフォーマンス強化に関連する新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表 C-23 2018 年 9 月更新 - パフォーマンス向上に関連する機能拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のルール	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Process Loaded Data OWP_Synchronize Defaults OWP_Synchronize Definition OWP_Plan Departure 	NA	NA

表 C-23 (続き) 2018 年 9 月更新 - パフォーマンス向上に関連する機能拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Process Loaded Data_T OWP_Synchronize Definition OWP_Synchronize Defaults OWP_Add Requisition_T OWP_Assign Compensation_T OWP_Plan Departure_T 	OWP_Fix Parallel_T	NA
メンバー	OWP_Utilization	NA	NA

2018 年 7 月更新

次の情報では、2018 年 7 月更新の新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表 C-24 2018 年 7 月 - 要請の追加に関連する機能拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のルール	NA	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Add Requisition_GT OWP_Change Requisition_GT 	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Add TBH OWP_ChangeHiringRequisitionStatus
Calculation Manager のテンプレート	NA	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Add Requisition_T OWP_Assign Compensation_T OWP_Change Requisition_T 	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Add TBH_T OWP_ChangeHiringRequisitionStatus_T
スマート・リスト	OWP_Status	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Salary Options OWP_Requisition Options 	NA
メニュー	<ul style="list-style-type: none"> 「新規採用アクション」メニュー・アイテム - 採用要請の追加 要請ステータスの変更 	NA	NA

2018 年 7 月更新 - 福利厚生と税金ウィザードの計算に関連する機能拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Manager のルール	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Synchronize Defaults OWP_Synchronize Definition OWP_Process Loaded Data OWP_Transfer OWP_Transfer In OWP_Change Job OWP_Associate Employee 	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Copy Rates Across Entities OWP_Copy Rates to Months OWP_Copy Rates from Periodicities OWP_Copy Rates Across Years 	NA
Calculation Manager のテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Synchronize Defaults OWP_Synchronize Definition OWP_Assign Compensation Defaults OWP_Assign Target Defaults 	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Copy Rates Across Entities OWP_Copy Rates to Months OWP_Copy Rates from Periodicities OWP_Copy Rates Across Years OWP_Check Rates Availability at Months_T 	NA
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> 各親の下位にある 10 個すべての基本勘定科目: OWP_Total Earnings、OWP_Total Benefits、および OWP_Total Taxes OEP_WFSC キューブの OWP_Tiers および OWP_Options の提供されている子は、「残高」の「タイム・バランス」プロパティに設定されています。親メンバーの OWP_Options および OWP_tiers の下位に追加されたカスタム・メンバーの「タイム・バランス」プロパティも、「残高」に変更する必要があります。 	<p>「プロパティ」ディメンション内:</p> <ul style="list-style-type: none"> OWP_Custom Expense OWP_One Time Pay 	NA
スマート・リスト	OWP_Payment Frequency	<ul style="list-style-type: none"> OWP_Component Type OWP_One Time Pay 	NA

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
フォーム	<ul style="list-style-type: none"> レート表 レート表 - 簡易 レート表 - しきい値 	NA	NA
メニュー	NA	OWP_Copy Rates	NA
データ・ロード・テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> EJ_Earnings,Benefits and Taxes-Properties EO_Earnings,Benefits and Taxes-Properties JO_Earnings,Benefits and Taxes-Properties EJ_Earnings,Benefits and Taxes - Rates EO_Earnings,Benefits and Taxes - Rates JO_Earnings,Benefits and Taxes - Rates 	NA	NA

資本アーティファクトの更新

概要

資本を使用している場合、一部の更新での製品の機能拡張では、特定のアーティファクトを変更した場合、これらの更新が必要です。資本アーティファクトをカスタマイズした場合、このセクションをレビューしてください。

- これらのアーティファクト(このトピックで説明)を変更していない場合、アーティファクトおよび機能はそのリリースで使用できます。
- 新しいリリース中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、これらのアーティファクトをカスタマイズ済で、新機能を利用する場合は、次のステップを実行します。
 - 更新後に全体バックアップを実行し、それをローカルにダウンロードします。
 - 変更されたアーティファクトのリストを確認し、そのうちのどれを変更したかを特定します。[変更済アーティファクトの確認](#)を参照してください。

ヒント:

次にリストされている変更済アーティファクトについて、変更済アーティファクトのコピーを作成して、それを変更の参照として使用することを検討してください。コピーは、カスタマイズを再実装した後に削除できます。

- 更新後、識別したアーティファクトに対するカスタマイズを元に戻し、アーティファクトを付属の形式に復元します。カスタマイズを元に戻すを参照してください。
- 必要に応じてアーティファクトに対するカスタマイズを再実装します。
- 復元された **Calculation Manager** のルールまたはテンプレートでは、それらが最終になった後、影響を受けるアーティファクトのアプリケーションに、更新したルールまたはテンプレートを必ずデプロイしてください。カスタム・テンプレートの使用状況の表示およびビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのデプロイを参照してください。

2021 年 5 月

2021 年 5 月の更新で、資本のルールが更新され、**IFRS-16 標準**が有効な場合に、賃貸無料期間と可変インデックス・レート基準がサポートされるようになりました。

表 C-25 2021 年 5 月資本の変更済アーティファクト

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト
ルール	<ul style="list-style-type: none"> OCX_CalculateLeasedAsset—賃貸無料期間をサポートするように変更されました。 OCX_AddLeasedAsset—「年次」または「支払頻度」のいずれかを選択するオプションのある、新規勘定科目 OCX_Index Rate Basis を追加するために変更されました。 	Groovy ルール: <ul style="list-style-type: none"> OCX_Free Rent Asset BeforeLoad。「賃貸無料期間」フォームに添付され、すべてのセルを読み取り専用にし、支払頻度に従って該当するセルのみが編集可能になります。 OCX_Free Rent Period Spread。「賃貸無料期間」フォームに添付され、四半期/半年ごと/年次を月次に分散します。
フォーム		賃貸無料期間。IFRS-16 が有効な場合にのみ使用可能です。
勘定科目		<ul style="list-style-type: none"> OCX_Index Rate Basis OCX_LeaseRentFreePeriod

2019 年 4 月

2019 年 4 月のリリースから、資本フォームおよびルールが更新され、プランおよび予測シナリオに対して異なるプランニング年を使用できるようになりました。以前は、資本の「**プランニングと予測の準備**」構成タスクでは、プランシナリオと予測シナリオの両方に対して **&OEP_YearRange** 代替変数が設定されていました。この代替変数への参照は停止中です。

2019 年 4 月の更新により、資本ではすべてのビジネス・ルールが更新され、シナリオごとに個別にプランニングおよび予測構成の開始年と終了年を読み取る方法を使用できるようになりました。シナリオの開始期間と終了期間に基づいてデータが表示されるようフォームが変更されます。更新が適用されたときに、これらのフォームとビジネス・ルールを変更していない場合、次のようになります。

- 事前定義済フォームが更新されます。
- 事前定義済ビジネス・ルールが更新されます。

新しいリリース中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、フォームまたはビジネス・ルールをカスタマイズした場合、次に点に注意してください。

- **&OEP_YearRange** 代替変数に依存するルールを変更した場合、次の関数(ビジネス・ルールまたは Groovy ルール内)を使用するようルールを更新してください。
 - `[[PlanningFunctions.getModuleStartYear("CAPITAL",{Scenario})]]` - 特定のシナリオの開始年を返します
 - `[[PlanningFunctions.getModuleENDYear("CAPITAL",{Scenario})]]` - 特定のシナリオの終了年を返します
- 資本のカスタム・フォームを更新し、**&OEP_YearRange** のかわりに「**すべての年**」の **ILvl0Descendants** を使用するようにしてください。

D

Planning モジュールのベスト・プラクティス

これらの Planning モジュールのベスト・プラクティスを使用します。

次の表には、このガイドで説明したベスト・プラクティスへのリンクが用意されています。

Table D-1 Planning モジュールのベスト・プラクティス

ベスト・プラクティスの対象	この項を参照
EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行	EPM センター・オブ・エクセレンスの設置と運営
財務での独自の勘定体系の使用	独自の勘定体系を使用する財務でのベスト・プラクティス・プランニングの利用
ディメンションの順序の最適化	ディメンションの順序の最適化のベスト・プラクティス
要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項	要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項

さらに、*Planning の管理*の Planning のベスト・プラクティスで Planning のベスト・プラクティスを確認してください。

E

EPM Cloud に関するよくある質問(FAQ)

この FAQ には、Oracle Enterprise Performance Management Cloud の管理タスクに関するよくある質問のリソースへのリンクが用意されています。

よくある質問

- EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するためのフィードバックの提供機能をどのように使用しますか。
- EPM Cloud ビジネス・プロセスに関する一般的なトランザクションのヒントは、どこで確認できますか。
- EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。
- EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。
- ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。
- EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。
- 自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。
- OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。
- REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法
- オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するためのフィードバックの提供機能をどのように使用しますか。

画面の右上に表示されるユーザー名をクリックして「**フィードバックの提供**」を選択します。

Tip:

サービス管理者の場合、メンテナンス・スナップショットを含めて、テクニカル・サポートがサービスをトラブルシューティングすることを支援できます。「フィードバックの提供」ユーティリティで、「**アプリケーション・スナップショットの送信の確認**」を展開し、「**アプリケーション・スナップショットの送信**」オプションを有効化します。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのフィードバックの提供ユーティリティを使用したフィードバックの送信を参照してください

EPM Cloud ビジネス・プロセスに関する一般的なトランザクションのヒントは、どこで確認できますか。

顧客からの報告が多い一般的な問題に関するトラブルシューティングのヒント、詳細および問題の解決手順は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド](#)を参照してください。

EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。

アプリケーションの「**アクション**」メニューをクリックし、「ドキュメント」タブを選択することで、「個人用サービス」でこれらのレポートにアクセスできます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのコンプライアンス・レポートへのアクセス](#)を参照してください

EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。

- EPM 自動化で **resetService** コマンドを使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作で resetService](#) を参照してください。
- **サービス・インスタンスの再起動** REST API を使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。[Enterprise Performance Management Cloud の REST API のサービス・インスタンスの再起動\(v2\)](#)を参照してください。

ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。

OCI (Gen 2)環境の場合、Oracle Identity Cloud Service を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。[Oracle Cloud の管理とモニタリングのパスワードのリセット](#)に関する項を参照してください。

クラシック環境の場合、「個人用サービス」を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。[Oracle Cloud の管理とモニタリングのユーザーのパスワードのリセット](#)に関する項を参照してください。

EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。

「**クローン**」機能を使用して、本番からテストにデータを移行します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理の EPM Cloud 環境のクローニング](#)を参照してください

または、EPM 自動化で **cloneEnvironment** コマンドを使用できます。環境のクローニング REST API も使用できます。

自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。

更新のスキップの設定は、**skipUpdate** EPM 自動化コマンドを使用して実行するセルフサービス操作です。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの環境の自動更新のスキップのリクエスト](#)を参照してください

skipUpdate REST API を使用して、毎月の更新を延期できます。[Enterprise Performance Management Cloud の REST API の更新のスキップ\(v2\)](#)を参照してください。

OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。

EPM 自動化の場合、OAuth 2.0 承認プロトコルを使用して、コマンドを実行するため、特にコマンドの実行を自動化するために OCI (GEN 2) Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境にアクセスできます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作で OCI での OAuth 2.0 承認プロトコルの使用を参照してください。

REST API の場合、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Gen 2 アーキテクチャ上の EPM Cloud 環境では、環境でのパスワードの使用を回避するという要件を満たすために、EPM Cloud で OAuth 2 アクセス・トークンを使用して REST API を発行できます。Enterprise Performance Management Cloud の REST API の OAuth 2 での認証 - OCI のみを参照してください。

REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法

- グループを追加するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の createGroups または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループの追加を参照してください。
- グループを削除するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の deleteGroups または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループの削除を参照してください。
- グループにユーザーを追加するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の addUsersToGroup または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループへのユーザーの追加を参照してください。
- グループからユーザーを削除するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の removeUsersFromGroup または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループからのユーザーの削除を参照してください。

オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

OCI (Gen 2)環境の場合、オラクル社によって本番環境のスナップショットが 60 日間保持され、テスト環境のスナップショットは 30 日間保持されます。listBackups および restoreBackup EPM 自動化コマンドを使用して、使用可能なバックアップ・スナップショットをチェックし、自分の環境にコピーします。バックアップのリストおよびバックアップのリストア REST API も使用できます。

クラシック環境の場合、(本番およびテスト環境の)過去 3 日間の日次スナップショットと、(本番環境のみの)過去 60 日間の週次バックアップ・スナップショットがオラクル社によってアーカイブされます。オラクル社に、過去 3 日間のテスト・バックアップおよび過去 60 日間の本番バックアップをコピーするようリクエストできます。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドの日次スナップショットのアーカイブ、保持および取得を参照してください

EPM Cloud 環境のバックアップとリストアはどのように行いますか。

メンテナンス・スナップショット(アーティファクト・スナップショット)を使用して、前日のアーティファクトおよびデータを回復できます。また、必要に応じてアーティファクト・スナップショットを使用して、環境を最後の操作メンテナンス時の状態にリストアできます。参照:

- Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドのメンテナンス・スナップショットを使用した環境のバックアップと復元

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の restoreBackup および importSnapshot コマンド。*

EPM Cloud では、どのような障害回復オプションを使用できますか。

EPM Cloud には、環境を稼働状態にリストアし、それによってほぼ即時の目標復旧時間を達成するセルフサービス・オプションが用意されています。参照:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドの障害回復サポート*
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の EPM Cloud 環境のレプリケート*

自動リグレッション・テストのリクエストはどのように行いますか。

自動リグレッション・テスト・プロセスを促進するため、オラクルでは自動ベースの EPM スクリプトの作成を支援しています。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの自動リグレッション・テストのリクエストを参照してください*